



昭和会誌

2016



ロゴマークは昭和会の「S」と今給黎の「I」をモチーフに、「S」を表す円と繋がり、働く人・総合力・コミュニケーションを意味し、患者様に見立てた「I」という1人に対して、積極的に立ち向かう姿勢を表現したものです。また黄緑は優しさ・温かさ、水色は誠実さ・清潔感をイメージしたものです。

ごあいさつ

公益財団法人昭和会 今給黎総合病院
院長 昇 卓夫



70年以上前、イギリスの首相であったウィンストン・チャーチルが沢山の名言を残しています。その中の一つに「目前に迫った困難や大問題にまともにぶつかること。そうすればその困難や問題は、思っていたよりずっと小さいことが判る。しかし、そこで逃げると、困難は2倍の大きさになって後で襲ってくる。」というのがあります。まさに現在の我々の病院の有り様を言っているように思います。

私どもの病院は2020年、交通局跡地に移転します。丸山副院長を中心に建築準備委員会が協議を重ね、目前に迫った困難に対処しようとしています。全職員が立派な病院が建つことを期待していると思います。交通の利便性は高く、立地条件は素晴らしい場所に建つ病院ですから、その機能を十分発揮して欲しいわけですが、院内のシステム、チームワーク等が良くなければ、まさに仏作って魂入れずになりかねません。移転先の新病院は急性期機能とし、現在の別館に回復期機能の分院を設置する予定です。十分に検討を重ね、ムダは省き、将来を見据えて、力を入れておきたい所には十分に力を注いで、後顧の憂いの無いよう、将来当院で働く後輩たちに2倍になった困難を残さないよう、知恵を絞っていきたいと思っています。

今後3年間に私どもの病院としては、移転前後の経費に当てる為にも十分に貯えを残しておく必要もあると思われま。全職員の協力なくしては、到底成しえない大きな事業であることも明らかです。心を一つにして取り組んでいきたいと思っています。

目次

■ 基本理念・基本方針・運営方針	02
■ I. 病院概要	03
■ II. 病院統計	13
■ III. 部門報告	
各診療科報告	25
各部署報告	73
■ IV. 会議・委員会活動報告	127
■ V. 研究実績	173
■ VI. 昭和会クリニックの現況	187
■ 巻末資料 公益財団昭和会事業実施概要書	

昭和会の理念

「協力・貢献・向上」

1. 全職員の協力体制
2. 地域社会への貢献
3. 自己研鑽と向上心

昭和会の基本方針

1. 質の高い医療の提供を目指し、全職員一致協力して努力します。
2. 生命の尊さを認識し、地域社会に貢献します。
3. 常に向上心を持って、自己研鑽に励みます。

昭和会の運営方針

1. 地域のセンター病院として、最新・最高の医療を提供すべく、高度の医療機器を充実し、全職員の医学研修を推進する。そのために、各分野関連の大学各教室・各研究機関との交流に努め、また夫々の学会参加を助成する。
2. 高度医療機器の公開利用に努め、最新で効率的且つ倫理的医療の充実を図る。
3. 救急医療24時間受け入れ体制の充実。
当病院全職員(全科オンコール体制)の協力のもとに24時間体制で全県下・離島の救急患者を積極的に受け入れ救急医療の使命を達成する。
4. 21世紀の少子高齢化社会の医療に対応すべく、地域の保健・医療・福祉施設と密な連携に努め、有効的な医療の提供を図る。
5. 地域に開かれた病院を目指し、健康増進活動に積極的に取り組み、活動の充実・発展を図る。

地域がん診療連携拠点病院

地域医療支援病院

県へき地医療拠点病院（遠隔医療支援） 洋上救急業務支援協力医療機関

県指定地域周産期母子医療センター 基幹型医師臨床研修病院

●●● 病院概要

I

- 病院概要
- 昭和会の沿革
- 昭和会の組織図
- 今給黎総合病院の現況
- 病院施設概要
- 医師研修施設指定の現況
- 諸制度の指定状況
- 会議・委員会組織図
- 医療設備概要

病院概要

(平成28年3月現在)

名称	公益財団法人昭和会 今給黎総合病院(いまきいれそうごうびょういん) Imakiire General Hospital
創設者	今給黎 満幸 (いまきいれ みつゆき)
開設者	代表理事 今給黎 尚典 (いまきいれ たかのり)
管理者	院長 昇 卓夫 (のぼり たくお)
所在地	〒892-8502 鹿児島市下竜尾町4番16号(かごしまししもたつおちょう)
代表電話	099-226-2211
代表FAX	099-222-7906
URL	http://imakiire.jp
病院開設日	1938年(昭和13年)7月 1964年(昭和39年)5月「医療法人昭和会」設立 1965年(昭和40年)7月「財団法人昭和会」設立 2009年(平成21年)12月「公益財団法人昭和会」法人名変更
病床数	450床 (うちICU8床 GCU10床、NICU9床 回復期リハビリテーション病棟33床)
看護基準	7:1
認定施設	厚生労働省地域がん診療連携拠点病院 地域医療支援病院 県へき地医療拠点病院(遠隔医療支援) 県指定地域周産期母子医療センター 基幹型医師臨床研修病院 洋上救急業務支援協力医療機関 厚生労働省 医薬品・医療器具安全性情報協力施設 厚生労働省 DPC 対象病院 県脳卒中情報システム推進事業の情報提供協力医療機関 県町村会指定離島緊急医療対策支援協力医療機関 県エイズ治療拠点病院 県地域周産期医療支援病院 県重症難病医療協力病院(短期入所施設) 痛風治療協力医療機関 鹿児島市高規格救急車指示病院 県救急・災害医療情報システム参加登録病院 県消防・防災ヘリコプター急患搬送(医師搭乗)システム輪番病院 県指定 かごしま子育て応援企業 産科医療補償制度加入医療機関 県女性医師復職研修事業指定病院 各種健診(検診)・予防接種等受託医療機関
関連施設	昭和会クリニック

職員数	1,014名（非常勤117名）		
有資格者		常 勤 非常勤	
	医師	95名	20名
	薬剤師	18名	
	診療放射線技師	22名	
	臨床検査技士	30名	
	臨床工学技士	8名	
	理学療法士	44名	
	作業療法士	20名	
	言語聴覚士	9名	
	管理栄養士	13名	
	視能訓練士	4名	
	社会福祉士	3名	
	看護師	439名	7名
	助産師	21名	
	保健師	5名	
	准看護師	14名	1名
診療情報管理士	12名		

標榜科目	27 診療科 内科、糖尿病内科、血液内科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科(肝臓・消化器・乳腺・内分泌・小児・肛門)、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、新生児内科、眼科、気管食道・耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、歯科、歯科口腔外科、麻酔科、救急科、病理診断科
診療受付時間	平日 午前：午前8時00分～午前11時30分 午後：午後1時30分～午後5時00分 土曜（午前のみ） 午前8時00分～午前11時30分
休診日	土曜午後・日曜・祝日・年末年始（12月31日～1月3日）

昭和会の沿革

- 昭和13年 7月 現在地に今給黎医院開設
- 昭和22年 11月 今給黎病院開設(24床)
- 昭和30年 2月 鉄筋コンクリート2階建 病棟増築(41床)
- 昭和32年 6月 65床認可
- 昭和35年 2月 看護婦寮新築
- 昭和35年 5月 80床認可
- 昭和32年 7月 医師住宅新築
- 昭和39年 5月 「医療法人昭和会」設立(120床)
- 昭和39年 7月 救急告示病院指定
- 昭和40年 7月 民法第34条による「財団法人昭和会」設立
- 昭和42年 1月 160床認可
- 昭和44年 4月 鉄筋コンクリート3階建病院新築
- 昭和44年 8月 鉄筋5階建第1看護婦寮・4階建医師住宅2棟新築
- 昭和45年 10月 220床認可
- 昭和47年 10月 鉄筋5階建職員住宅(20世帯)新築
- 昭和50年 12月 鉄筋コンクリート2階建第3女子寮・院内託児所新築
- 昭和53年 10月 鉄筋コンクリート7階建本館新築(300床)
- 昭和54年 3月 325床認可
- 昭和54年 8月 鉄筋コンクリート4階建第2女子寮新築
- 昭和58年 2月 医師住宅4階建新築
- 昭和62年 1月 第4看護婦寮3階建新築
- 昭和62年 9月 別館4階建新築
本館・別館の連絡路として地下道(巾3m)完成
- 昭和63年 1月 450床認可、本館全面改装、総合医療各診療科整備
- 昭和63年 8月 第5看護婦寮4階建新築、男子独身寮2階建新築
- 平成元年 1月 医師研修等3階建新築
- 平成9年 9月 外来患者専用自動管理式駐車場完成
- 平成10年 3月 医局棟3階建新築
- 平成13年 3月 (財)日本医療機能評価機構「認定証」(一般病院種別B)取得
- 平成14年 1月 民間ビル(3階建)、研修棟として購入
- 平成15年 10月 「基幹型臨床研修病院」指定
- 平成17年 5月 昭和会クリニック開院(診療録の電子化開始)
- 平成17年 12月 今給黎総合病院(外来診療録の電子化開始)
- 平成18年 8月 歯科・歯科口腔外科開設
- 平成19年 10月 リニアック棟造築(稼働開始)
- 平成21年 12月 「公益財団法人昭和会」へ法人名称変更
- 平成22年 2月 今給黎総合病院(入院診療録の電子化開始)
- 平成24年 4月 厚労省「地域がん診療連携拠点病院」指定
- 平成25年 3月 地域医療支援病院認定

今給黎総合病院の現況

(1) 標榜科目(27 診療科)

内科, 糖尿病内科, 血液内科, 神経内科, 呼吸器内科, 消化器内科, 循環器内科, 小児科, 外科 (肝臓・消化器・乳腺・内分泌・小児・肛門), 整形外科, 形成外科, 脳神経外科, 呼吸器外科, 皮膚科, 泌尿器科, 産婦人科, 新生児内科, 眼科, 気管食道・耳鼻いんこう科, リハビリテーション科, 放射線診断科, 放射線治療科, 歯科, 歯科口腔外科, 麻酔科, 救急科, 病理診断科

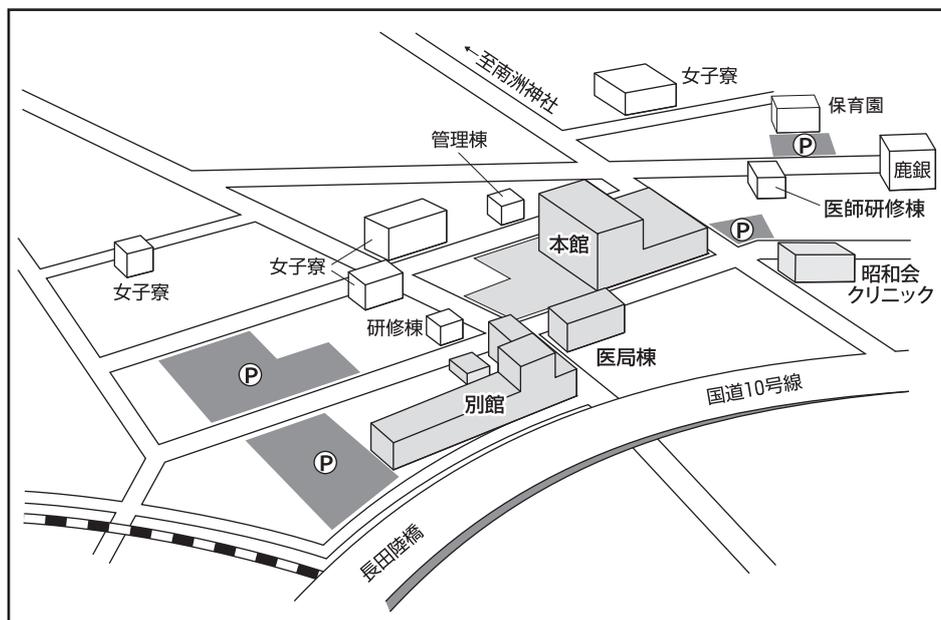
(2) 許可病床数 一般病床 450床

病棟	病室数	病床数	主な診療科	
本館	2 F 西	12	19	産婦人科
	NICU-GCU	2	19	新生児内科
	2 F 東	18	61	外科, 消内, 形成
	3 F 西	19	43	呼内, 呼外, 緩医
	3 F 中	7	37	循内, 糖内, 整形
	3 F 東	12	37	脳外, 泌尿
	4 F 西	10	31	眼科, 形成
別館	I C U	1	8	外科, 麻酔科
	2 F 北	13	45	放射線科, 総内
	2 F 南	10	43	神経内科, 皮膚科
	3 F 北	11	33	整形外科
	3 F 南	10	50	整形外科
合計	134	450		

(3) 施設の概要

		敷地	建物
病院	本館	3,407.3 m ²	10,542.6 m ²
	別館	3,656.2	5,531.5
	医局棟	290.1	546.8
福利厚生施設	研修棟	156.6	280.1
	医師研修等	224.2	523.9
	第1女子寮	616.8	1,329.7
	第2 "	987.8	2,243.0
	第3 "	1,000.2	521.2
	第4 "	286.6	535.8
	第5 " 保育園 (第3寮と同敷地)	200.6	409.9
管理棟	179.0	411.8	
患者専用駐車場	2,632.5	—	
医療関連施設建設予定地	81,642.0	—	
患者用駐車場	170台収容可		

(4) 病院及び関連施設配置図



H29.3.31 現在

医師研修施設指定の現状

S58.	4.	11	日本整形外科学会・専門医研修施設
S63.	1.	1	日本泌尿器科学会・専門医教育施設
S63.	9.	1	日本眼科学会・専門医研修施設
H2.	5.	18	日本麻酔科学会・麻酔科標榜研修施設
H2.	12.	19	日本内科学会・認定医教育関連病院
H3.	4.	1	日本医学放射線学会・専門医修練機関
H3.	4.	1	日本耳鼻咽喉科学会・専門医研修施設
H4.	7.	13	日本脳神経外科学会・専門医指定訓練場所
H7.	3.	22	日本形成外科学会・認定医研修施設
H7.	5.	10	日本呼吸器外科学会・専門医認定制度施設
H7.	11.	21	日本外科学会・専門医制度修練施設
H8.	4.	1	日本病理学会・認定病理制度登録施設
H13.	7.	30	日本胸部外科学会・認定医認定制度関連施設
H14.	4.	1	日本皮膚科学会・専門医研修施設
H15.	4.	1	日本神経学会・専門医制度教育関連施設
H15.	4.	1	日本臨床細胞学会・認定施設
H16.	4.	1	日本周産期新生児医学会・周産期(新生児)専門医暫定研修施設
H17.	2.	11	日本脳卒中学会 専門医研修教育施設
H17.	12.	1	日本消化器内視鏡学会・専門医指導施設
H18.	4.	1	日本周産期・新生児医学会 周産期(母胎・胎児)専門医暫定研修施設
H19.	10.	24	日本放射線腫瘍学会 認定施設
H19.	11.	1	日本がん治療認定医機構 認定研修施設
H20.	4.	1	呼吸器外科専門医合同委員会・基幹施設
H20.	4.	1	日本泌尿器科学会・基幹教育施設
H20.	12.	20	日本呼吸器学会・専門医制度関連施設
H21.	4.	1	日本血液学会・認定研修施設
H21.	10.	1	日本産婦人科学会・専門医制度卒後臨床研修指導施設
H21.	10.	1	日本口腔外科学会・専門医制度研修施設
H22.	1.	1	日本救急医学会・専門医指定施設
H23.	1.	1	日本消化器外科学会・専門医研修施設
H23.	7.	1	日本胆道学会・指導医制度指導施設
H24.	1.	1	日本消化器病学会・専門医制度認定施設
H25.	1.	13	日本手外科学会研修施設
H26.	1.	1	日本IVR学会専門医修練施設
H27.	11.	1	日本消化器学会 胃腸科指導施設
H28.	1.	1	日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡関連認定施設
H29.	4.	1	日本脊髄病学会脊髄外科専門医基幹研修施設

その他の施設認定

H16.	8.	1	マンモグラフィ検診精度管理中央委員会 認定施設
H17.	4.	1	日本栄養療法推進協議会NST稼動施設
H17.	11.	1	日本静脈経腸栄養学会NST稼動施設
H23.	2.	17	日本静脈経腸栄養学会NST専門療法士取得 実施修練施設
H23.	4.	1	日本臨床衛生検査技師会・精度管理保証施設

H28. 3現在

諸制度の指定状況

● 各種法による当院の取扱指定状況

1. 保険医療機関
2. 国民健康保険医療取扱機関
3. 労災保険指定病院
4. 労災保険二次健診等給付病院
5. 生活保護法指定病院
6. 介護保険法「居宅介護支援事業所」指定病院
7. 生活保護法「居宅介護支援事業所」指定病院
8. 障害者自立支援法「更生医療」「育成医療」指定病院（整形外科・形成外科・耳鼻咽喉科・腎臓・免疫・口腔に関する医療）
9. 障害者自立支援法「精神通院医療」指定病院（神経内科に関する医療）
10. 感染症法（第37条の2）指定病院
11. 原子爆弾被爆者医療法一般疾病医療取扱病院
12. 母体保護法指定病院「不妊手術」
13. 特定疾患治療研究事業に係る医療指定病院
14. 小児慢性特定疾患治療研究事業に係る医療指定病院
15. 先天性血液凝固因子障害等治療研究事業に係る医療指定病院
16. 母子保健法指定病院「養育医療」
17. 出入国管理及び難民認定法指定病院
18. 救急告示病院

● 九州厚生局による当院の許認可事項

○ 基本診療料の施設基準等

- 一般病棟入院基本料(7対1)
- 総合入院体制加算
- 臨床研修病院入院診療加算（基幹型）
- 超急性期脳卒中加算
- 診療録管理体制加算
- 医師事務作業補助体制加算20:1
- 急性期看護補助体制加算25:1
- 急性期看護補助体制加算の注3に掲げる看護職員夜間配置加算
- 重症者等療養環境特別加算
- 緩和ケア診療加算
- 医療安全対策加算
- 感染防止対策加算1
- 感染防止対策地域連携加算
- 褥瘡ハイリスク患者ケア加算
- ハイリスク分娩管理加算
- ハイリスク妊娠管理加算
- 退院支援加算1:3
- 精神疾患診療体制加算
- 呼吸ケアチーム加算
- データ提出加算2
- 特定集中治療室管理料4
- 新生児特定集中治療室管理料1
- 新生児治療回復室入院医療管理料
- 小児入院医療管理料5
- 患者サポート体制充実加算
- 栄養サポートチーム加算
- 回復期リハビリテーション入院料2

○特掲診療料の施設基準等

がん性疼痛緩和指導管理料
 がん患者指導管理料1, 2, 3
 外来緩和ケア管理料
 院内トリアージ実施料
 外来放射線照射診療料
 ニコチン依存管理料
 開放型病院共同指導料
 がん治療連携計画策定料
 薬剤管理指導料
 医療機器安全管理料1, 2
 在宅訪問看護・指導料
 持続血糖測定器加算
 H P V核酸固定検査
 検体検査管理加算 (IV)
 時間内歩行試験
 神経学的検査
 C T透視下気管支鏡検査加算
 画像診断管理加算1
 画像診断管理加算2
 CT撮影及びMRI撮影
 冠動脈CT撮影加算
 心臓MRI撮影加算
 放射線治療専任加算
 高エネルギー放射線治療
 1回線量増加加算
 病理診断管理加算1
 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
 外来化学療法加算1
 無菌製剤処理料
 脳血管疾患等リハビリテーション料 (I)
 運動器リハビリテーション料 (I)
 呼吸器リハビリテーション料 (I)
 がん患者リハビリテーション料
 透析液水質確保加算1
 悪性黒色腫センチネルリンパ節加算
 組織拡張器による再建手術
 乳がんセンチネルリンパ節加算1
 緑内障手術
 網膜再建術
 ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術
 腹腔鏡下肝切除術
 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
 医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
 胃瘻造設時嚥下機能評価加算
 輸血管管理料 I
 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
 麻酔管理料 (I)
 外来放射線治療加算
 定位放射線治療

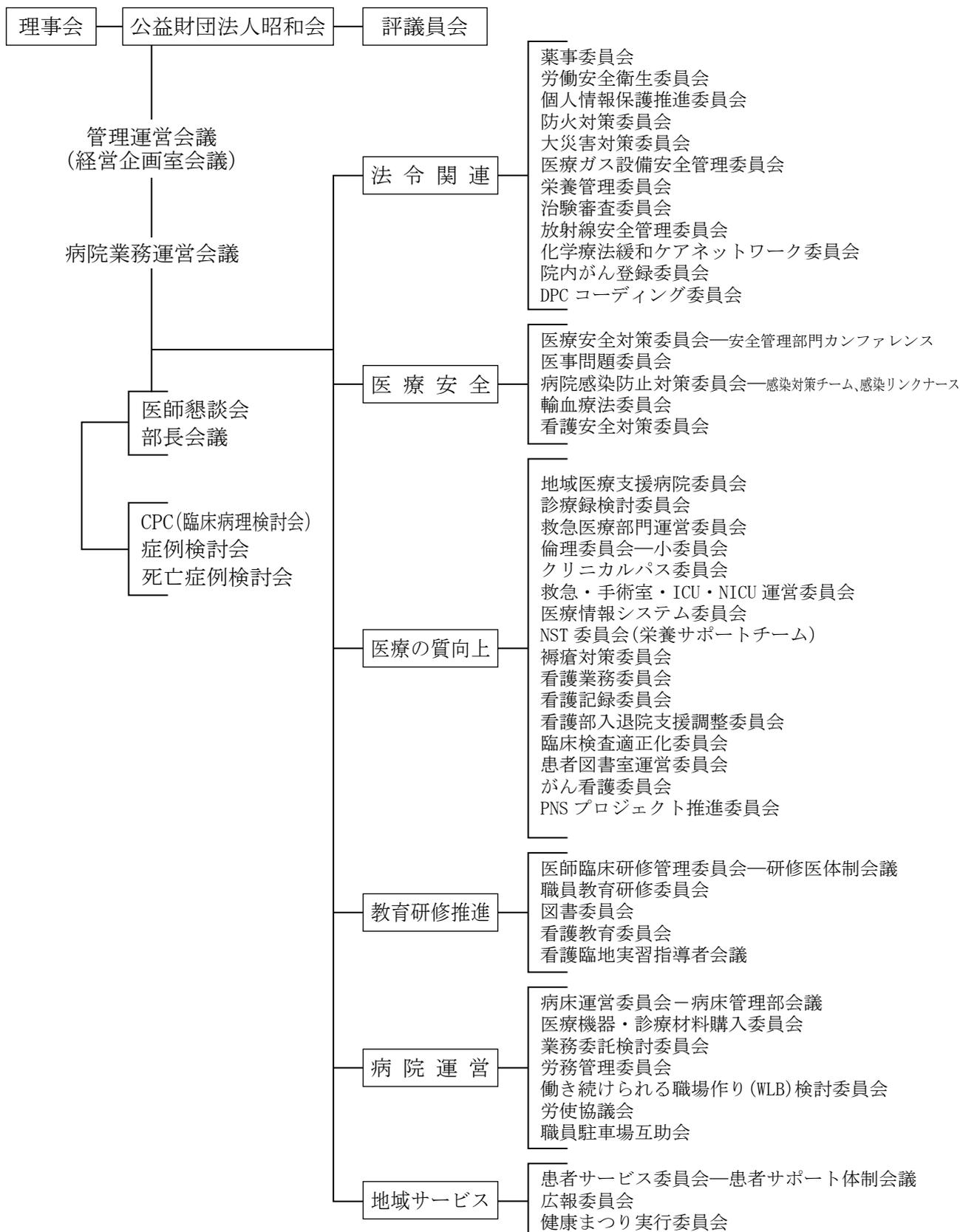
●その他の取扱指定状況

H14. 7. 1 県へき地医療拠点病院 (遠隔医療支援)
 H15. 10 基幹型臨床研修病院
 H20. 4. 1 厚生労働省 D P C対象病院
 H20. 9. 1 県指定 かがしま子育て応援企業
 H20. 10. 1 産科医療補償制度加入医療機関
 H20. 11. 26 県女性医師復職研修事業指定病院
 H21. 3. 27 県指定 地域周産期母子医療センター
 H21. 10. 1 県消防・防災ヘリコプター救急搬送医師搭乗システム輪番病院
 H24. 4. 1 厚生労働省指定 地域がん診療連携拠点病院
 H24. 4. 11 歯科医師臨床研修病院 (協力型)
 H24. 6. 7 県エイズ治療拠点病院
 H25. 3. 22 県指定 地域医療支援病院

- ・ 洋上救急業務支援協力医療機関
- ・ 厚生労働省 医薬品・医療器具安全性情報協力施設
- ・ 脳卒中情報システム推進事業の
 情報提供協力医療機関
- ・ 県町村会指定離島緊急医療対策支援協力医療機関
- ・ 県重症難病医療協力病院 (短期入所施設)
- ・ 痛風治療協力医療機関
- ・ 鹿児島市高規格救急車指示病院
- ・ 県救急・災害医療情報システム登録病院
- ・ 県広域災害医療情報システム (EMIS) 登録病院
- ・ 市指定 ここにこ子育て応援隊認定企業
- ・ 県地域周産期医療支援病院
- ・ 各種健診 (検診) ・予防接種等受託医療機関

H29. 3現在

会議・委員会組織図



平成28年3月31日 現在

医療設備概要

【放射線部門】

検査室名等		メーカー	機種名	台数
1	一般撮影室(I)	島津 キャノン	(1)UD-150L-30 (2)CM-100(超音波骨密度測定)	1 1
2	一般撮影室(II)	島津	UD-150L-30	1
第1 操作通路	DR (CXDIシステム)	キャノン	立・臥位X線デジタルラジオグラフィ	2
5	FPD式X線テレビ室(Cアーム)	日立	SF-VA2000FP(Versi Flex)	1
6	FPD式X線テレビ室	日立	EXAVISTA	1
7	X線CT室(II)	日立	SCENARIA(64列MDCT)	1
8	アンギオ・DSA室	フィリップス	Allura Xper FD20	1
A9	X線C T室(I)	フィリップス	Brilliance64 (64列MDCT)	1
10	MR I 室	日立	ECHOLON Vega(1.5テスラ)	1
11	R I 室	フィリップス	BRIGHTVIEW(特)	1
13	乳房専用室	ローラッド	(1)M-IV (2)マルチケア・マンモトーム(組織生検)	1 1
14	前立腺シード室	バリアン 東芝	(1)バリシード (2)クリアスコープ9000	1 1
第2 操作通路	レーザーイメージャー	ケアストリーム	ドライビュー8900	1 1
受付・画像処理		テクマトリックス 富士	画像ネットワークシステム(PACSクラウド化・検像システム) VINCENT(3Dワークステーション)	1式 1式
手術室 ・外科用イメージ ・ポータブル		東芝 GE ケアストリーム	(1)SXT-1000A (2)Brivo OEC 850 (3)DRX-レボリビューション	1 1 1
本館病棟(ポータブル)		シーメンス	モバイルト プラス	1
別館病棟(ポータブル)		シーメンス	モバイルトXP Hibrid	1
リニアックセンター		エレクタ フィリップス	(1)プリサイズ トリートメント システム (2)ピナクル	1 1

【その他医療機器】

高気圧酸素治療装置	超音波凝固切開装置
個人用人工透析装置	超音波検査装置
急性血液浄化装置	睡眠時無呼吸症候群検査装置
人工呼吸器	精密肺機能検査装置
手術中誘発電位測定装置	ホルター心電計／解析装置
体温維持装置	磁気刺激装置
内視鏡ビデオスコープ	心電計
3D内視鏡装置	脳波計
分娩監視装置	誘発電位・筋電図測定装置
定置・閉鎖型保育器	聴力検査装置
搬送用保育器	多項目自動血球装置
光線治療器	生化学自動分析装置
眼底カメラ検査装置	全自動血液凝固測定装置
眼球運動検査装置	自動免疫組織化学染色装置
無反射視力検査装置	除細動装置
マイクロ波治療装置	オートパルス人工蘇生システム
高周波手術装置	新生児専用救急搬送車

病院統計

- (1) 科別外来患者数
- (2) 科別在院患者延べ数
- (3) 年度別手術症例数
- (4) 科別手術症例数
- (5) 年度別入院患者死亡数及び病理解剖数
- (6) 外来患者市町村別分類図
- (7) 退院患者市町村別分布図
- (8) 市町村別紹介施設数・患者数
- (9) 市町村別逆紹介施設数・患者数
- (10) 紹介率
- (11) 逆紹介率
- (12) 外来患者初再診
- (13) 外来患者時間外・深夜・休日患者数
- (14) 入院患者に関する実績比較
- (15) 年度別救急車受入台数(患者数)
- (16) 救急患者受入時間帯・年齢別分類
- (17) 市町村別救急患者数
- (18) 退院患者ICD大分類(主傷病名大分類)
- (19) ICD大分類(科別、性別退院患者数)

・○印:時間内診療はクリニックで実施 ・在宅医療含む
 ・1日平均:患者数÷平日・土曜日数(祝日除く)

(1) H28年度 科別外来患者数(複数診療科受診を各々1とした場合)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計	1月平均	1日平均
○(一部) 内科 (糖・神内・呼・潜血)	1,407	1,443	1,536	1,522	1,497	1,382	1,450	1,455	1,583	1,444	1,480	1,567	17,766	1,481	65.8
○ 外科 (肝・潜乳・甲・小肛)	353	347	395	351	382	392	326	349	351	365	327	345	4,283	357	15.9
○ 呼吸器外科	187	182	202	187	164	191	186	212	192	165	176	219	2,263	189	8.4
○ 整形外科	310	346	260	229	204	211	204	219	266	282	227	275	3,033	253	11.2
○ 形成外科	66	77	97	76	73	72	113	99	106	86	100	97	1,062	89	3.9
○ 脳神経外科	33	40	33	26	18	29	25	35	24	24	20	21	328	27	1.2
○ 産婦人科	278	275	289	326	354	328	349	334	340	292	306	331	3,802	317	14.1
○ 小児科	5	6	4	3	5	3	10	5	5	2	5	2	55	5	0.2
○ 泌尿器科	657	672	697	681	718	647	725	637	716	660	695	713	8,218	685	30.4
○ 眼科	877	777	859	856	748	822	825	839	852	778	819	880	9,932	828	36.8
○ 気管食道・耳鼻いんこう科	3	8	4	8	8	5	7	20	12	15	9	8	107	9	0.4
○ 皮膚科	7	4	11	9	96	16	57	1	6	22	35	8	272	23	1.0
○ 麻酔科	17	18	17	22	23	20	12	19	23	20	19	25	235	20	0.9
○(一部) 放射線科 (診断・治療)	224	171	195	205	218	179	249	182	161	95	141	190	2,210	184	8.2
○ 緩和医療科	31	22	24	32	24	32	27	22	22	15	25	30	306	26	1.1
○ 病理診断科	8	9	3	5	5	8	9	6	11	2	4	5	75	6	0.3
○ 歯科口腔外科	0	0	3	0	0	1	1	0	1	0	0	0	6	1	0.0
○ 合計	4,463	4,397	4,629	4,538	4,537	4,338	4,575	4,434	4,671	4,267	4,388	4,716	53,953	4,496	-
○ 1日平均	198	209	193	202	189	197	203	202	203	203	204	197	-	-	199.8



(2) H28年度 科別在院患者延数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間 合計	1月 平均	1日 平均
内科 (脳・神・呼・循・滑・肝・血)	3,055	3,120	3,190	3,042	3,069	3,050	3,193	3,003	3,330	3,356	3,054	3,638	38,100	3,175	104
外科 (肝・滑・乳・甲・小・肛)	609	595	505	645	727	615	623	447	617	716	830	791	7,720	643	21
呼吸器外科	254	300	285	367	293	358	385	469	444	416	291	381	4,243	354	12
整形外科	3,593	3,527	3,433	3,528	3,518	3,274	3,435	3,385	3,567	3,708	3,551	3,898	42,417	3,535	116
形成外科	938	711	615	626	729	820	989	1,168	1,149	860	841	939	10,385	865	28
脳神経外科	565	591	688	726	665	696	576	579	741	659	524	523	7,533	628	21
産婦人科	378	373	293	446	446	467	534	437	408	452	511	315	5,060	422	14
新生児内科	412	453	433	494	445	424	518	529	532	440	512	498	5,690	474	16
小児科	113	151	143	270	189	101	111	128	109	92	126	93	1,626	136	4
泌尿器科	505	433	519	539	573	448	564	474	424	516	445	486	5,926	494	16
眼科	306	260	314	274	163	210	285	285	280	208	225	183	2,993	249	8
気管食道・ 耳鼻いんこう科	211	165	251	243	238	247	205	217	229	166	207	254	2,633	219	7
皮膚科	64	145	98	83	109	132	47	79	127	111	99	104	1,198	100	3
麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	23	30	58	5	0
放射線科 (診断・治療)	98	156	139	148	203	118	161	159	155	115	93	116	1,661	138	5
緩和医療科	136	67	35	29	87	47	40	12	0	5	3	32	493	41	1
歯科口腔外科	49	57	63	73	113	66	48	47	105	35	41	92	789	66	2
合計	11,286	11,104	11,004	11,533	11,567	11,073	11,714	11,418	12,221	11,856	11,376	12,373	138,525	11,544	-
1日平均	376	358	367	372	373	369	378	381	394	382	406	399	-	-	380

(3) 年度別手術症例数 (病院手術室実施手術)

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
4 月	293	391	375	388	343
5 月	356	352	344	319	301
6 月	326	325	373	415	394
7 月	335	415	399	385	335
8 月	370	394	406	298	347
9 月	338	353	341	312	330
10月	372	397	400	373	364
11月	333	379	340	364	388
12月	278	353	369	315	378
1 月	320	361	344	304	339
2 月	337	371	382	341	355
3 月	355	387	399	383	383
合計	4,013	4,478	4,472	4,197	4,257
月平均	334	373	373	350	355

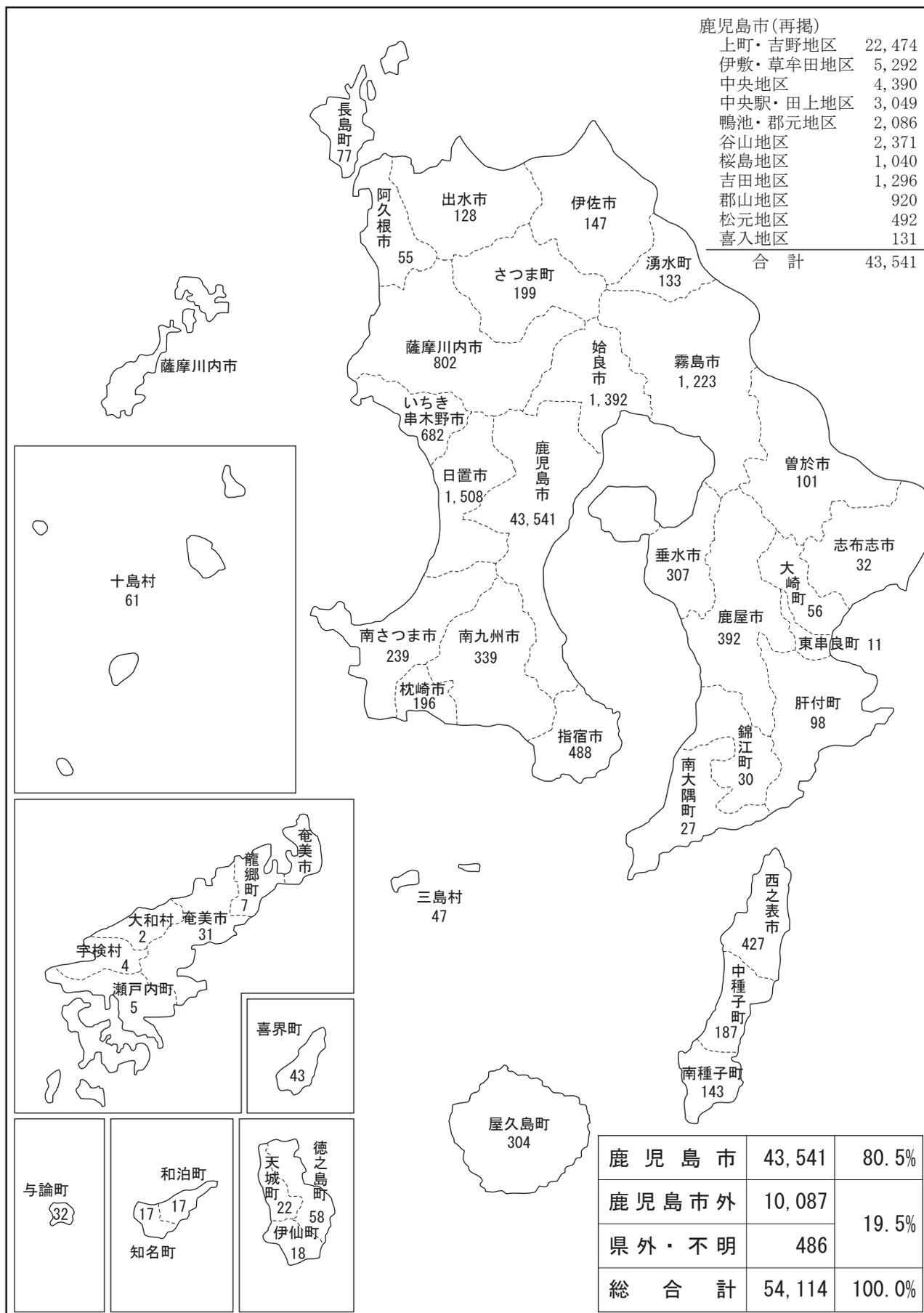
(4) 科別手術症例数 (病院手術室実施手術)

	眼 科	整形外科	形成外科	泌尿器科	外 科	耳鼻咽喉科	歯科口腔外科	産婦人科	呼吸器外科	脳神経外科	総 計
4 月	111	80	32	30	17	24	11	14	14	10	343
5 月	94	76	36	26	13	12	12	11	10	11	301
6 月	139	84	48	33	27	24	15	5	12	7	394
7 月	93	75	33	25	25	24	20	14	17	9	335
8 月	63	89	55	21	25	28	27	19	12	8	347
9 月	98	59	45	27	30	27	15	12	13	4	330
10月	129	69	52	23	19	21	12	16	19	4	364
11月	116	85	53	28	20	24	16	21	21	4	388
12月	102	103	54	22	26	22	15	13	11	10	378
1 月	101	73	44	26	22	22	11	14	16	10	339
2 月	104	82	36	31	29	23	15	17	8	10	355
3 月	90	104	58	23	28	25	16	14	17	8	383
総 計	1,241	979	546	315	281	276	185	170	170	95	4,257

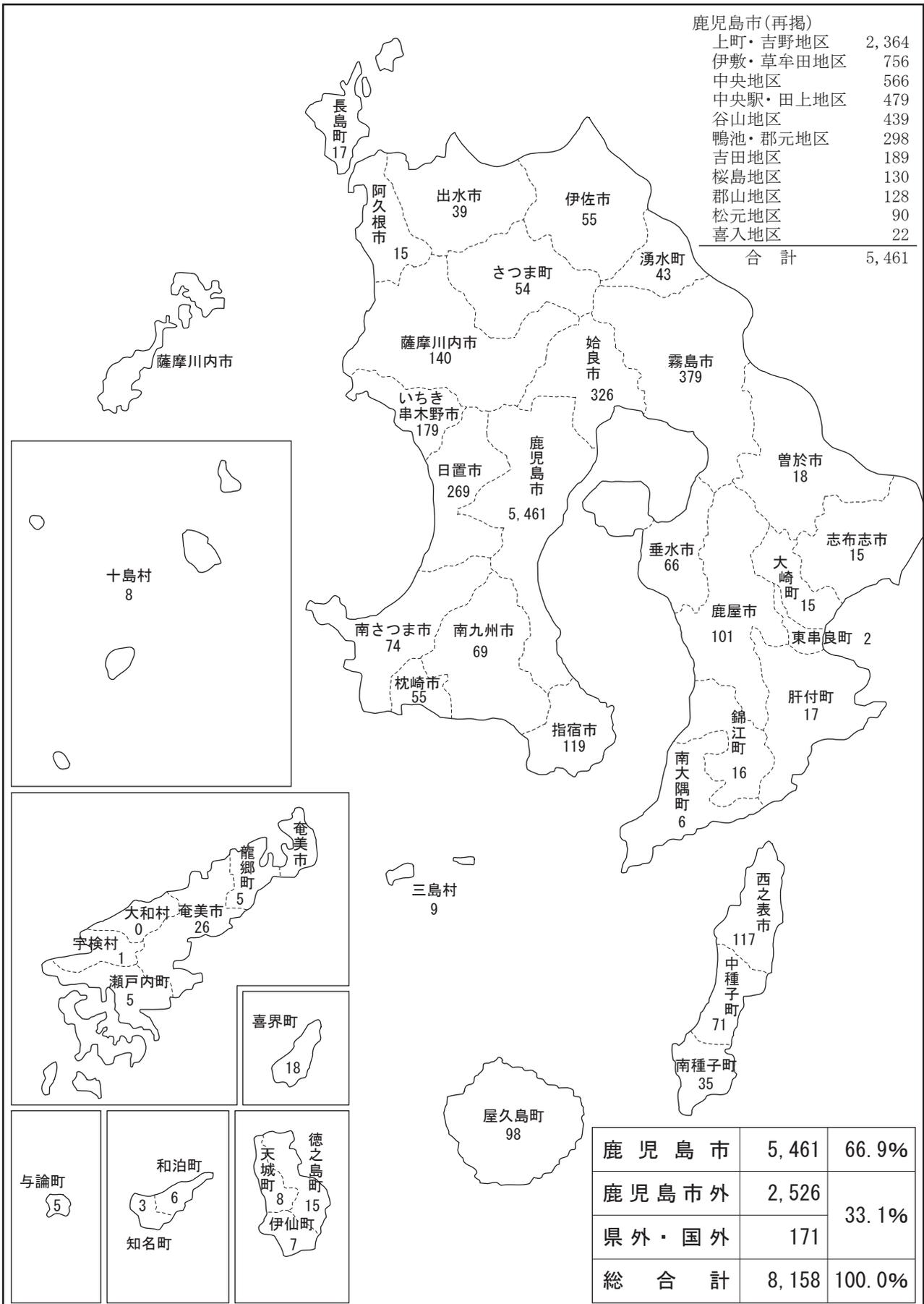
(5) 年度別入院患者死亡数及び病理解剖数

	平成24年		平成25年		平成26年		平成27年		平成28年	
	死亡数	解剖数								
4 月	18	0	17	0	18	0	21	0	18	0
5 月	17	1	19	0	18	0	23	0	9	0
6 月	13	0	13	0	10	0	10	0	11	0
7 月	12	0	16	0	13	0	13	0	12	0
8 月	18	0	11	0	17	0	17	0	18	0
9 月	21	0	13	0	16	0	13	0	14	0
10月	14	0	20	0	4	0	12	0	19	0
11月	19	0	21	0	19	0	12	1	10	0
12月	9	0	19	0	20	0	15	0	11	0
1 月	14	0	19	0	19	0	16	0	18	0
2 月	18	0	12	0	12	1	8	0	14	0
3 月	18	0	13	0	20	0	16	0	15	0
合計	191	1	193	0	186	1	176	1	169	0
剖検率	-		0.5%		-		0.5%		-	

(6) 平成28年度 外来患者市町村別分布図(複数診療科受診を各々1とした場合)



(7) 平成28年度 退院患者市町村別分布図



(8) 平成28年度 市町村別紹介施設数・患者数(他院より当院への紹介)

市 町 村 名			施設件数	患者数	市 町 村 名			施設件数	患者数
鹿児島	鹿児島郡	鹿児島市	508	7,205	肝属	肝属郡	大崎町	1	1
		三島村	4	13			南大隅町	1	1
		十島村	5	28	曾於	曾於市		3	7
始良	始良郡	霧島市	55	378		志布志市	4	5	
		始良市	55	363	伊佐	伊佐市		11	54
日置	日置市	湧水町	2	10	熊毛郡	熊毛郡	西之表市	8	276
		日置市	32	217			中種子町	1	2
川薩	薩摩郡	薩摩川内市	35	337			南種子町	2	14
		いちき串木野市	22	162	屋久島町	6	97		
川辺	薩摩郡	さつま町	9	32	奄美市	奄美市		9	37
		南さつま市	15	46		伊仙町	1	1	
		枕崎市	7	31	大島郡	喜界町	1	17	
指宿	指宿市	南九州市	8	39		徳之島町	5	21	
		指宿市	21	128		知名町	2	8	
出水	出水郡	出水市	12	43	与論町	与論町		2	3
		阿久根市	4	20		県内	886	9,736	
肝属	肝属郡	鹿屋市	23	95	県外	160	214		
		垂水市	8	38	総合計	1,046	9,950		
		肝付町	2	2					
		錦江町	1	1					

※病院・クリニック合算の数です

(9) 平成28年度 市町村別逆紹介施設数・患者数(当院より他院への紹介)

市 町 村 名			施設件数	患者数	市 町 村 名			施設件数	患者数
鹿児島	鹿児島郡	鹿児島市	427	4,358	肝属	肝属郡	南大隅町	1	1
		三島村	1	1			曾於	曾於市	
		十島村	4	6	志布志市	5		9	
始良	始良郡	霧島市	52	308	伊佐	伊佐市		11	53
		始良市	40	267	熊毛郡	熊毛郡	西之表市	8	136
日置	日置市	湧水町	1	1			中種子町	2	2
		日置市	25	171			南種子町	1	10
川薩	薩摩郡	薩摩川内市	34	109	屋久島町	6	45		
		いちき串木野市	20	122	奄美市	奄美市		4	43
川辺	薩摩郡	さつま町	4	14		大島郡	喜界町	1	8
		南さつま市	15	54	徳之島町		3	18	
		枕崎市	8	48	瀬戸内町		1	1	
指宿	指宿市	南九州市	7	31	伊仙町	1	1		
		指宿市	18	109	知名町	1	4		
出水	出水郡	出水市	10	46	与論町	3	5		
		阿久根市	3	10	県内	756	6,175		
肝属	肝属郡	鹿屋市	25	140	県外	-	190		
		垂水市	5	29	宛先無し	-	267		
		肝付町	2	2	総合計	756	6,632		
		錦江町	2	4					

※病院・クリニック合算の数です

(10) 今給黎総合病院 紹介率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
紹介患者数	261	286	316	305	314	314	321	299	302	279	248	289
紹介率 (%)	69.6	72.2	65.6	61.9	69.0	78.1	64.8	72.9	77.8	67.2	63.9	64.5

(算定方法は地域支援病院に準ずる)

(11) 今給黎総合病院 逆紹介率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
逆紹介患者数	461	433	511	510	537	478	464	498	533	418	439	574
逆紹介率 (%)	122.9	109.3	106.0	103.4	118.0	118.9	93.7	121.5	137.4	100.7	113.1	128.1

(算定方法は地域支援病院に準ずる)

(12) 平成28年度 外来患者初再診数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計	月平均	1日平均
初診	589	696	711	835	779	702	769	684	779	786	658	737	8,725	727.1	32.3
再診	3,874	3,701	3,918	3,703	3,758	3,636	3,806	3,750	3,892	3,481	3,730	3,979	45,228	3,769.0	167.5
合計	4,463	4,397	4,629	4,538	4,537	4,338	4,575	4,434	4,671	4,267	4,388	4,716	53,953	4,496.1	199.8
初診率 (%)	13.2	15.8	15.4	18.4	17.2	16.2	16.8	15.4	16.7	18.4	15.0	15.6	-	-	-

(13) 平成28年度 外来患者時間外・深夜・休日患者数 (診療報酬加算をもとに集計)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計	月平均	1日平均
時間外	126	84	100	134	131	105	111	117	163	141	122	121	1,455	121.3	4.0
深夜	49	42	39	44	45	42	39	50	48	67	52	39	556	46.3	1.5
休日	70	191	49	161	160	135	144	97	234	184	125	154	1,704	142.0	24.3
合計	245	317	188	339	336	282	294	264	445	392	299	314	3,715	309.6	10.2

休日：休日在宅医（当番日）含む

(14) 入院患者に関する実績比較

1. 年度別

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
定 床	450	450	450	450	450
新 入 院 数	7,631	8,136	8,060	8,179	8,167
退 院 数	7,652	8,112	8,038	8,180	8,158
在院患者延数	132,825	136,860	136,106	134,367	138,525
1日平均 在院患者数	363.9	375.0	372.9	367.1	379.5
平 在 院 日 数	15.4	15.3	17.2	16.0	16.4
病 利 用 率	80.9%	83.3%	82.9%	81.6%	84.3%

2. 平成28年度 月別

* 平均在院日数は3ヶ月平均の値

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年 計	月平均
定 床	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450	-	450
新 入 院 患 者 数	661	632	697	694	705	660	685	701	677	701	640	714	8,167	681
退 院 患 者 数	691	624	692	697	688	663	662	683	767	585	682	724	8,158	680
在院患者延数	11,286	11,104	11,004	11,533	11,567	11,073	11,714	11,418	12,221	11,856	11,376	12,373	138,525	11,544
1日平均 在院患者数	376.2	358.2	366.8	372.0	373.1	369.1	377.9	380.6	394.2	382.5	406.3	399.1	-	379.5
平 均 在 院 日 数	16.4	16.2	16.3	16.1	15.8	15.9	16.3	16.4	16.4	16.6	17.0	17.2	-	16.4
病 利 用 率 (%)	83.6	79.6	81.5	82.7	82.9	82.0	84.0	84.6	87.6	85.0	90.3	88.7	-	84.3

3. 平成28年度 科別

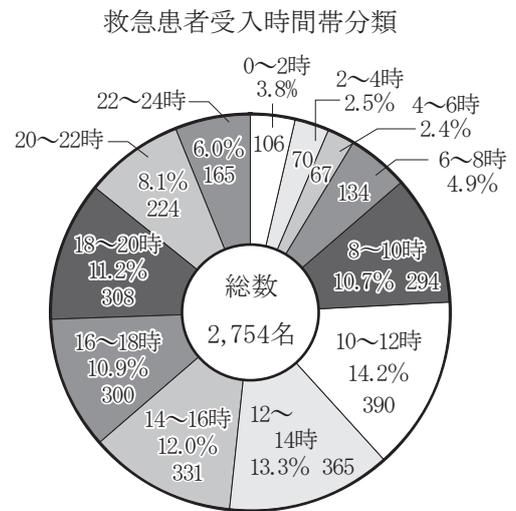
	総 内	血 内	糖 内	消 内	循 内	呼 内	神 内	外	呼 外	整 形	形 成	脳 外
新 入 院 患 者 数	324	8	32	603	115	425	491	470	396	1,184	488	293
退 院 患 者 数	345	4	23	588	121	434	480	477	358	1,224	481	296
在院患者延数	9,063	47	477	7,033	3,225	6,490	11,765	7,720	4,243	42,417	10,385	7,533
1日平均 在院患者数	24.8	0.1	1.3	19.3	8.8	17.8	32.2	21.2	11.6	116.2	28.5	20.6
	産 婦	新 生 児	小 児	泌	眼	耳 鼻	皮	麻	放	緩 和	歯 口 外	総 計
新 入 院 患 者 数	436	194	274	606	1,035	422	74	5	72	22	198	8,167
退 院 患 者 数	446	187	270	595	1,040	420	74	4	66	30	195	8,158
在院患者延数	5,060	5,690	1,626	5,926	2,993	2,633	1,198	58	1,661	493	789	138,525
1日平均 在院患者数	13.9	15.6	4.5	16.2	8.2	7.2	3.3	0.2	4.6	1.4	2.2	

(15) 年度別救急車受入台数(患者数)

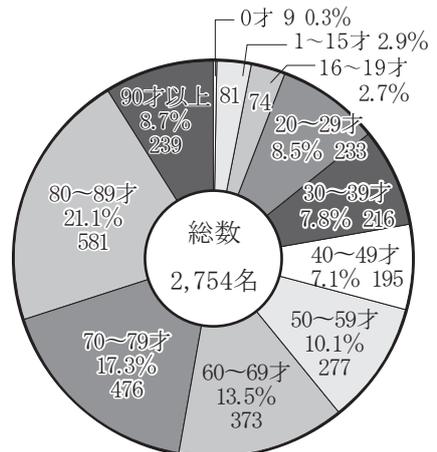
	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
4 月	220 (221)	214 (220)	199 (202)	221 (224)	219 (223)
5 月	219 (221)	228 (235)	213 (217)	219 (226)	205 (211)
6 月	194 (195)	208 (213)	206 (209)	210 (215)	206 (206)
7 月	218 (223)	247 (251)	225 (229)	209 (215)	208 (212)
8 月	251 (256)	249 (253)	212 (216)	259 (264)	251 (253)
9 月	217 (222)	197 (201)	224 (226)	205 (213)	224 (226)
10 月	238 (242)	230 (233)	202 (205)	248 (252)	211 (211)
11 月	245 (249)	224 (226)	222 (224)	213 (215)	235 (237)
12 月	224 (225)	218 (223)	227 (232)	249 (253)	291 (293)
1 月	214 (219)	201 (208)	244 (243)	243 (248)	259 (259)
2 月	209 (210)	212 (221)	204 (209)	228 (232)	208 (209)
3 月	214 (215)	209 (217)	227 (230)	251 (257)	214 (214)
合 計	2,663 (2,698)	2,637 (2,701)	2,605 (2,642)	2,755 (2,814)	2,731 (2,754)
月平均	221.9 (224.8)	219.8 (225.1)	217.1 (220.2)	229.6 (234.5)	227.7 (229.5)
日平均	7.3 (7.4)	7.2 (7.4)	7.1 (7.2)	7.5 (7.7)	7.5 (7.5)
高規格救急車 指示(再掲)	17	18	21	14	28

(16) 平成 28 年度

救急患者受入時間帯・年令別分類



救急患者年齢別分類



(17) 平成28年度 市町村別救急患者数

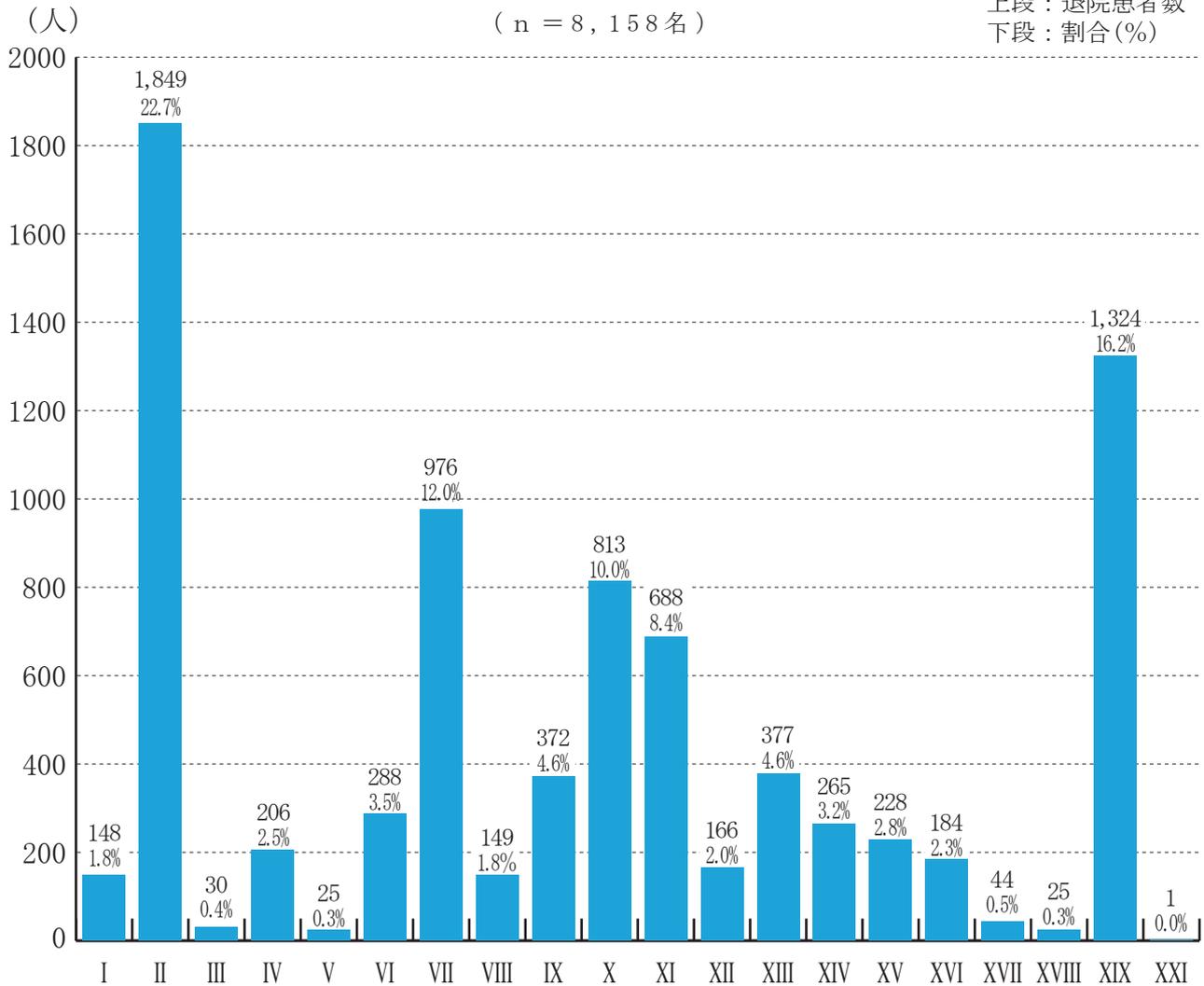
		市町村名	救急患者数			市町村名	救急患者数			市町村名	救急患者数		
鹿	鹿	上 町・吉 野	979	日置	日 置 市	65	伊佐	伊 佐 市	5	熊	西 之 表 市	4	
		伊 敷・草 牟 田	518		薩 摩 川 内 市	17		中 種 子 町	0				
		中 央 駅・田 上	275		い ち き 串 木 野 市	11		南 種 子 町	1				
	児	島	鴨 池・郡 元	104	川 辺	南 さ つ ま 市	4	大 島	屋 久 島 町	4	鹿	奄 美 市	4
			谷 山	77		枕 崎 市	4		喜 界 町	1			
			桜 島	62		南 九 州 市	6		徳 之 島 町	3			
			吉 田	113		指 宿 市	7		県 内	2,767			
		島	松 元	33	出 水 市	5	阿 久 根 市	1	県 外	6			
			喜 入	5	鹿 屋 市	12	鹿 屋 市	12	洋上救急(再掲)	0			
			郡 山	60	出 水 市	5	垂 水 市	13	総 合 計	2,773			
始	良	十 島 村・三 島 村	1	肝 属	南 大 隅 町	1	曾 於	曾 於 市	2	曾 於	志 布 志 市	4	
		霧 島 市	39		南 大 隅 町	1		志 布 志 市	4				
		始 良 市	115		曾 於 市	2							
		湧 水 町	1		志 布 志 市	4							

(18) 平成28年度 退院患者 ICD大分類

主 傷 病 名 大 分 類

(n = 8, 158 名)

上段：退院患者数
下段：割合(%)



- | | |
|--------------------------|---------------------------------------|
| I 感染症及び寄生虫症 | XII 皮膚及び皮下組織の疾患 |
| II 新生物 | XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患 |
| III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害 | XIV 腎尿路生殖器系の疾患 |
| IV 内分泌、栄養及び代謝疾患 | XV 妊娠、分娩及び産褥 |
| V 精神及び行動の障害 | XVI 周産期に発生した病態 |
| VI 神経系の疾患 | XVII 先天奇形、変形及び染色体異常 |
| VII 眼及び付属器の疾患 | XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの |
| VIII 耳及び乳様突起の疾患 | XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響 |
| IX 循環器系の疾患 | XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用 |
| X 呼吸器系の疾患 | |
| XI 消化器系の疾患 | |

(19) 平成28年度 ICD大分類・診療科別・性別・退院患者数

ICD大分類	男女計	総数	総内	神内	呼内	消内	循内	糖	小	外科	呼外	皮	整形	脳	泌	産	新生児	婦	眼	耳	放	麻	口腔	緩和	
総数	8,158	男 4,327 女 3,831	165	240	277	365	58	12	147	289	230	41	582	273	157	492	0	102	0	517	251	44	4	59	22
I 感染症及び寄生虫症	148	男 82 女 66	9	10	19	15	1	-	8	7	1	8	-	-	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	
II 新生物	1,849	男 1,137 女 712	27	4	174	160	-	-	1	131	142	5	10	48	4	363	-	-	-	3	43	-	-	22	
III 血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	30	男 14 女 16	6	3	2	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	206	男 125 女 81	7	15	1	1	2	10	18	1	3	-	2	2	1	-	-	-	62	-	-	-	-	-	
V 精神及び行動の障害	25	男 13 女 12	4	3	-	2	1	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
VI 神経系の疾患	288	男 162 女 126	15	112	-	1	2	1	-	1	2	-	8	4	10	1	-	1	-	4	-	-	-	-	
VII 眼及び付属器の疾患	976	男 457 女 519	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	451	-	-	-	-	-	
VIII 耳及び乳様突起の疾患	149	男 62 女 87	1	5	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	3	-	-	-	-	50	-	-	-	-	
IX 循環器系の疾患	372	男 194 女 178	6	55	2	6	37	-	1	2	2	-	3	2	75	-	-	1	-	-	1	1	-	-	
X 呼吸器系の疾患	813	男 485 女 328	57	13	68	7	7	1	105	1	45	-	3	-	-	-	-	-	177	-	-	-	1	-	
XI 消化器系の疾患	688	男 362 女 326	6	-	-	163	-	-	2	131	-	-	1	1	1	1	-	-	-	3	-	-	53	-	
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	166	男 84 女 82	6	2	1	-	-	-	-	1	-	27	5	39	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	377	男 195 女 182	9	6	3	2	-	-	1	-	-	-	158	13	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	
XIV 腎尿路生殖系系の疾患	265	男 135 女 130	7	4	2	-	2	-	6	4	-	-	-	1	1	108	-	-	-	-	-	-	-	-	
XV 妊娠、分娩及び産褥	228	男 - 女 228	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	216	-	12	-	-	-	-	-	-	
XVI 周産期に発生した病態	184	男 100 女 84	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100	-	-	-	-	-	-	
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	44	男 24 女 20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	19	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	25	男 16 女 9	1	3	1	-	1	-	2	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	1,324	男 680 女 644	4	5	4	6	4	-	3	9	32	1	388	135	61	14	-	-	4	2	-	3	5	-	
XX 健康状態に影響を及ぼす要因および保健サービスの利用	1	男 - 女 1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

部門報告

Ⅲ-1

各診療科報告

- 内科(総合内科)
- 血液内科
- 糖尿病内科
- 消化器内科
- 循環器内科
- 呼吸器内科
- 神経内科
- 外科(消化器・乳腺・甲状腺・小児・肛門)
- 呼吸器外科
- 整形外科・リハビリテーション科
- 形成外科
- 脳神経外科
- 産婦人科
- 新生児内科
- 小児科
- 泌尿器科
- 眼科
- 気管食道・耳鼻いんこう科
- 皮膚科
- 麻酔科
- 放射線診断科
- 放射線治療科
- 緩和医療科
- 病理診断科
- 在宅診療科
- 歯科
- 歯科口腔外科
- 救急科



総合内科

部長 生野 博久

総合内科の業務は、感染症の診断治療、健康診断、ワクチン接種、などです。

当科は当初生野、二木医師の二人で担当していましたが、色々な科の研修を続けて消化器疾患、内科全般に詳しい大磯先生に加えて外科出身の三宅先生にも参加していただき更に総合的な治療を行う体制となってきています。

ワクチン接種に関しては昨年はインフルエンザを含めて764件行いました。日本はワクチンに関しては後進国と言われていましたが、ここ数年で方針が変わり種類、接種などが増加しています。

肺炎球菌ワクチンが平成26（2014）年7月に予防接種法政省令の改正により、同年10月1日から定期接種に導入されました。各年度に65歳、70歳、75歳、80歳、85歳、90歳、95歳または100歳となる者および平成26年10月1日～平成27（2015）年3月31日までの間においては100歳以上の者も接種対象とすることとなっています。高齢者のインフルエンザに合併する肺炎は肺炎球菌が原因が多いと言われていたので両方のワクチンを接種するのが効果的です。

2009年から2010年はメキシコより感染が広がったブタ由来A型インフルエンザ(H1N1)の流行が日本にもおしよせ、当科へも多く患者様が来院されました。当院は発熱外来を設けて患者様に受診していただきましたが、集団発生する感染症への対応の困難さを痛感しました。この感染症により世界中で1万4千人以上(WHOの報告より)が亡くなっています。日本でも200人程度(厚生労働省報告より)が亡くなりました。世界的に見て早期の診断、タミフル、リレンザの投与は効果的であったと思われれます。

2008年4月より特定健診が開始されました。これは話題となった代謝症候群を診断し治療、指導するのを目的としています。脳出血、脳梗塞、心筋梗塞の原因となる動脈硬化には以前より高血圧、高脂血症、肥満、糖尿病などの危険因子があると言われていました。代謝症候群とは腹部に内臓脂肪の蓄積がある場合は程度の軽い危険因子の組み合わせによっても動脈硬化が非常に進行しやすいという概念です。自覚症状のある前に早期に動脈硬化の危険因子を発見し治療するためには、健康診断は重要と思われれます。

当科は高齢者の患者様が特に多く、病気の治療は当然ですが、治癒した後の退院先でのfollow upが大変重要と思われれます。専門性が利用できる場所は生かし、MSW(ソーシャルワーカー)、在宅医療部との連携を保ち、より良いquality of lifeを目指した治療を考えて行きたいと思われれます。

2005年よりNST(nutrition support team)の活動も行っています。これは患者様の栄養状態を把握して、栄養補給を補助する多種職種を含めた委員会活動です。主治医が希望する低栄養状態の患者様を栄養士、PT、ST、薬剤師、看護師などの多職種と共に回診を行い、主治医への助言、補助を行っています。また栄養補給の一環として超音波検査を利用した安全な中心静脈カテーテルの留置にも力を入れています。当科としては三宅先生を中心に、この活動にも力を入れていく方針です。

微力ではありますが、これからも地道に診療、委員会活動を継続していきます。

【スタッフ】

部長 生野 博久

NST認定医

医師臨床研修指導医養成講習修了医

医学博士（鹿児島大学）

二木 真琴

日本血液学会 専門医

医学博士（日本医科大学）

三宅 健治

日本外科学会認定医

日本医師会認定産業医

日本体育協会スポーツドクター

【診療実績】

クリニック外来患者数 (2016年1月1日～12月31日)

初診	再診	患者延べ数	1日平均 (稼働日数269.0日)			初診率
			合計	初診	再診	
3,868	5,856	9,724	35.9	14.3	21.6	39.8%

今給黎総合病院外来患者数 (2016年1月1日～12月31日)

初診	再診	患者延べ数	1日平均 (稼働日数269.0日)			初診率
			合計	初診	再診	
712	503	1,215	4.5	2.6	1.9	58.6%

【予防接種件数】 (2016年1月1日～12月31日)

	肺炎球菌	麻疹	インフルエンザ	おたふく	麻疹風疹	B型肝炎	水痘	A型肝炎	風疹	狂犬病	合計
1月	3	1	14	2	1	3	1	0	0	0	25
2月	8	1	10	2	0	2	0	0	0	0	23
3月	18	0	1	0	0	4	0	0	1	0	24
4月	18	0	0	1	0	4	0	0	0	0	23
5月	6	1	0	1	0	3	0	1	1	0	13
6月	6	0	0	0	0	3	0	0	0	0	9
7月	8	1	0	0	0	2	0	1	1	0	13
8月	8	0	0	0	0	3	0	1	1	0	13
9月	1	1	0	0	0	1	0	1	0	1	5
10月	14	0	33	0	1	1	0	0	0	0	49
11月	17	0	386	0	0	5	0	0	0	0	408
12月	14	0	144	0	0	1	0	0	0	0	159
総合計	121	5	588	6	2	32	1	4	4	1	764



血液内科

部長 小 濱 浩 介

【診療内容、特色】

当院血液内科は現在常勤医師1名（総合内科兼任）で運用されており、白血病、悪性リンパ腫、成人T細胞白血病、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群などの血液の悪性疾患から、各種貧血、出血傾向をきたす疾患（紫斑病等）の診療を行っています。当院は血液学会認定研修施設となっており、県内最大級の総合病院として放射線治療をはじめとしたスムーズな多科連携を伴う集学的治療が可能であることが特徴です。

外来は原則的には月曜、火曜、金曜ですが、詳細は随時外来までお問い合わせください。

【スタッフ】

小濱 浩介 血液内科部長、医学博士

略歴 鹿児島大学病院、九州がんセンター、東京大学医科学研究所附属病院、鹿児島市立病院、今村病院分院などで血液内科医として勤務。

資格 血液学会専門医、同指導医、内科学会認定医、がん治療認定医

【診療実績】

平成28年度に入院となったのべ患者数は74名（悪性リンパ腫/成人T細胞白血病25例、多発性骨髄腫13例、慢性白血病3例等）であり、総合内科との連携で診療を行っています。

※学会関連は[研究実績]に掲載



糖尿病内科

部長 盛満 慎吾

【診療内容、特色】

鹿児島県内最大の民間の総合病院であることの人的および設備的なメリットを生かして、あらゆる病期の糖尿病患者様につきまして、血糖コントロールおよび慢性透析を除く全ての糖尿病に伴う合併症の管理ができます。ただ、平成28年度も担当医師が常勤医1名のみのため、既に管理できる患者数の限界に達しており、十分な診療を提供できなくなっております。また、当院が地域連携支援病院に指定されたこともあり、入院患者様を積極的に受け入れるようにとの当院の経営方針もあり、入院患者様につきましては受け入れ可能ですが、現状では外来患者様につきましては受け入れが基本的に困難となっております。そのため、初診で来られた糖尿病患者様につきましては、かかりつけ医があるようならば、引き続き、かかりつけ医での治療の継続をお願いし、もし、かかりつけ医より入院の必要があると言われ、紹介状をお持ち頂いた患者様につきましては、当科で入院治療をさせて頂き、退院後は、再び、かかりつけ医での治療を継続して頂くこととしております。また、全くの無治療でかかりつけ医をお持ちでない糖尿病患者様につきましては、当科外来もしくは入院で治療をさせて頂き、血糖コントロールが改善傾向となり、安定してきたところ、概ね、治療開始後3～6カ月を目処として、お住まいや職場の近くの医療機関にご紹介させて頂くことと致しております。そのため、継続的な外来治療を希望される患者様の受け入れは、現在のところ、困難となっております。

【スタッフ紹介】

部長 盛満 慎吾

所属学会：日本内科学会、日本糖尿病学会、日本内分泌学会

資格：日本内科学会総合内科専門医、日本糖尿病学会専門医

【外来診察担当】

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
AM	盛満*	盛満	盛満	盛満	盛満*	休診
PM	休診	休診	休診	休診	休診	

* 予約再診のみ

【平成29年度の計画】

前述のように平成28年度も常勤医1名での診療体制に対し、患者様の増加、特に無治療や合併症をお持ちの重症な患者様の増加は著しく、現在の当科の診療体制では質および量の面において、すでに限界に達しております。また、当院が地域連携支援病院に指定されたこともあり、積極的に入院患者様を受け入れるようにとの当院の経営方針もあり、入院患者様につきましては受け入れ可能ですが、外来患者様につきましては受け入れが困難となっております。そのため、外来での治療のご依頼はお受けすることはできませんが、もし、入院治療を必要とされる患者様がおられましたら、ご紹介頂ければ積極的に入院の上で治療をさせて頂きたいと考えております。また、その際の入院スケジュールおよび入院目標を明らかにするため、29年度中にクリニカルパスの運用を開始したいと考えております。クリニカルパスが完成しましたら、改めて、ご連絡を差し上げたいと思いますので、その際は、治療でお困りの患者様をご紹介頂ければと思います。この場をお借りしてお願いする次第です。

また、糖尿病性細小血管障害の評価につきましては、現在も入院下で十分に行なっておりますが、以前は、入院下で行っておりました動脈硬化性疾患の評価や悪性腫瘍のチェックが、DPC（診断群分類包括評価）といわれる包括医療制度上、入院下では十分に行い難くなってきております。そのために、末梢血管の動脈硬化性疾患の評価や悪性腫瘍のチェックは外来で行えるようにシステムを構築し、通院中の全患者様に検査を受けて頂くようにしているところであります。他方、生命予後に係わる心血管疾患および脳血管疾患等の動脈硬化性疾患の評価は、まだ不十分かと思っておりますので、今年度は、上記疾患に対する動脈硬化性疾患の評価システムを、順次、構築してまいりたいと考えております。また、糖尿病の新たな合併症としての認知症につきましても、定期的にチェックできる体制を構築したいと考えております。

最後に、糖尿病患者様方に対して一病息災という理念の下に、QOLを維持しつつ健康な方々とかかわらない寿命を可能な限り保障できるように、努力してまいりたいと思っております。今後ともかわらぬご支援の程をお願い申し上げます。



消化器内科

部長 吉永英希

消化器内科は、月曜日から土曜日まで外来患者様の検査・治療、入院患者様の診療・加療を行っております。消化器外科や放射線科との共同で集学的な治療をご提供しております。

検査に関しましては腹部超音波検査、上・下部内視鏡検査、超音波内視鏡検査、超音波内視鏡下生検～穿刺吸引細胞診、ERCP：内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査、IDUS、食道胃透視撮影検査、注腸透視撮影検査、肝生検、肝炎ウイルス検査等を行っております。

治療に関しましてはほぼ全ての消化器疾患の内科的治療をはじめとし、上部・下部内視鏡的止血術、イレウスチューブ留置術、内視鏡的異物除去術、内視鏡的消化管拡張術、消化管ステント留置術、内視鏡的静脈瘤結紮術・硬化療法、EMR：内視鏡的粘膜切除術、ESD：内視鏡的粘膜下層剥離術、内視鏡的ポリープ切除術、超音波ガイド下穿刺～ドレナージ術、内視鏡的胆道ドレナージ術、内視鏡下乳頭切開術～拡張術、内視鏡下胆道拡張術、内視鏡下胆管結石砕石～採石術内視鏡下胆管～膵管ステント留置術、内視鏡下胃瘻造設術、消化器癌に対する化学療法など多岐にわたっております。

当科の特徴としましては消化器内視鏡に関するほとんど全ての検査～治療をまんべんなく取り扱っていること、当院が総合病院である特色からの他科疾患合併症を有するリスクの高い患者様の多いこと、救急病院である特色からの緊急処置を必要とする患者様の救急搬送が多いこと等です。外来は離島を含め県内各地の多数の医療機関と病診連携をとっております。

当院は日本消化器病学会、消化器内視鏡学会、日本消化管学会認定指導施設で有り、内視鏡室には5名の専属スタッフ（日本消化器内視鏡学会認定内視鏡技師：3名）が常勤し、当科の安全性と質の高い医療を提供する要となっております。

【スタッフ紹介】

常勤医師

吉永 英希

日本消化器内視鏡学会認定専門医・指導医
日本消化管学会胃腸科暫定専門医

今給黎 和幸

日本内科学会認定医
日本消化器病学会消化器病専門医・指導医
日本消化器内視鏡学会認定専門医・指導医
日本人間ドック学会認定医
日本胆道学会認定専門医・指導医

水流 弘文

日本外科学会専門医
日本消化管学会胃腸科専門医・指導医
医学博士（福岡大学）

奈良 博文

日本内科学会認定医
日本消化器病学会消化器病専門医
日本消化器内視鏡学会認定専門医

非常勤医師

松元 淳 税所篤郎 大磯陽子 瀬戸山 仁
松本美由紀 川本研一郎、丸尾周三、
上門千哲

内視鏡室 看護師

梅北裕司 山元真貴子 江口万美 有蘭佳那
小橋口直美

【外来診療日】

月曜～土曜日 午前（完全予約制）

月	火	水	木	金	土
今給黎 税所	吉永 奈良	今給黎 水流	吉永 大磯	水流 川本	交代制

診療、検査、投薬などは全て完全予約制です。
午後からは検査のみとなっております。

【診療状況】（2016年1月～12月）

外来患者数 初診 881名、再診 5,653名

入院患者数 576名

【検査件数】(2016年1月～12月)

検査名	件数
胃・十二指腸内視鏡検査	1,780
食道内視鏡検査	3
下部消化管内視鏡検査	785
小腸内視鏡検査	9
内視鏡的逆行性胆管膵管造影(ERCP)	91
超音波内視鏡検査(EUS)	101
超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診(FNA)	4
IDUS	4

【内視鏡治療・処置件数】(2016年1月～12月)

治療・処置名	件数
上部消化管内視鏡的止血術	39
下部消化管内視鏡的止血術	9
経口イレウス管留置術	29
経肛門的イレウス管留置術	2
内視鏡的消化管異物除去(上部・下部)	13
内視鏡的静脈瘤硬化療法・結紮術(EIS・EVL)	2
内視鏡的胃・十二指腸ポリープ粘膜切除術(EMR)	2
内視鏡的早期食道癌粘膜下層剥離術(ESD)	6
内視鏡的早期胃癌粘膜下層剥離術(ESD)	17
内視鏡的大腸ポリープ粘膜切除術(EMR)	147
内視鏡的早期大腸癌粘膜下層剥離術	9
内視鏡下食道狭窄拡張術	5
食道ステント留置術	3
内視鏡下胃・十二指腸狭窄拡張術	1
胃・十二指腸ステント留置術	5
内視鏡的乳頭切開術(EST)	19
内視鏡的乳頭拡張術(EPBD)	2
内視鏡的胆道結石砕石術(EML)	19
内視鏡的胆道結石採石術	19
内視鏡的胆道ドレナージ(ENBD・ERBD)	56
内視鏡的胆道ステント留置術	15
内視鏡的膵管ステント留置術	2
内視鏡下胃瘻造設術(PEG)	39
胃瘻交換	30
内視鏡下軸捻転整復術	3
胃瘻閉鎖術	2
内視鏡的小腸結腸狭窄部拡張術	3
内視鏡下大腸ステント留置術	6

【活動】

- ・久木田学園看護専門学校
非常勤講師として講義開講 吉永 英希

【多施設共同研究】

- ・Bilio-Pancreatic Stenting 研究会より
「非切除肝門部悪性胆道閉塞に対するメタリックステントの留置方法を比較検討する多施設共同無作為比較試験(片葉ドレナージ VS 両葉ドレナージ)」
「切除不能悪性腫瘍による胃通過障害に対する消化管ステント留置の有用性をカバーの有無により比較検討する多施設共同無作為比較試験」
「ERCP 後膵炎に関する多施設共同前向き観察研究」
- ・大阪大学との共同
「青少年における「疼痛又は運動障害を中心とする多様な症状」の受療状況に関する全国疫学調査」

※学会関連は[研究実績]に掲載



循環器内科

部長 大場 一郎

【特色】

当科は鹿児島大学大学院医師学総合研究所心臓血管・高血圧内科学教室（大石充教授）から循環器内科スタッフとして派遣された三名の常勤医で構成されています。循環器疾患の外来・入院診療、他科から依頼の術前および心疾患精査、救急患者の対応を経胸壁・経食道心エコー、頸動脈エコー、下肢動静脈エコーなど超音波検査、運動・薬物負荷検査、冠動脈造影 MDCT を駆使し生理検査室、放射線科と連携のもと多様に診療をこなしています。

【人事・スタッフ】

平成29年度の循環器内科の診療実績について御紹介申し上げます。現在は部長大場一郎と、鹿児島大学医学部心臓血管・高血圧内科から派遣の志岐健三郎と下舞浩二が常勤医として勤務しています。その他に毎年院内または鹿児島大学研修ローテーションによる研修医を加えて外来・病棟の診療を行っています。超音波検査は主に生理検査技師の富吉裕児、森田修康他が行います。院内や外来、他院からの問い合わせを外来受付・看護師が対応し、患者様への治療が円滑に行えるよう皆が心を一つに協力しています。

【診療状況】

1) 外来診療

外来診察は三人の医師で新患、再来、術前他科依頼などを曜日変わりで担当しています。外来患者数は再来・新患併せて一日あたり30-50名程度で、再来患者については待ち時間の解消のための予約制をとっています。鹿児島県下の病院やクリニックから心疾患の精査依頼や鹿児島医療センターなどから診療の依頼などで紹介され受診される患者様が最近では増加している印象です。一方で病状が安定している患者様については自宅近くの施設への逆紹介を増やし病診連携を図っています。

高血圧、高脂血症、糖尿病などの生活習慣病、狭心症・心筋梗塞など虚血性心疾患、陳旧性心筋梗塞後や拡張型心筋症など心筋疾患による慢性心不全、心房細動、上室性頻拍、症候性徐脈などの不整脈および弁膜疾患、下肢閉塞性動脈硬化症（PAD）や深部静脈血栓症（DVT）など下肢血管疾患、大動脈解離などの救急対応と循環器疾患全般の診察や治療を行っています。

当院における当科の特徴としては術前心機能評価および入院中の胸部症状出現などによる診察依頼などでの院内他科からの紹介の多さです。

冠動脈疾患の精査については冠動脈造影MDCT診断が放射線部のレベルアップによる解析の迅速化

で従来より大量かつ詳細な画像診断が可能になりました。併せて心筋シンチなど核医学検査による画像診断を放射線科医師と行うことで診断の精度向上を常に心がけています。当院では心臓カテーテル検査およびカテーテル治療は行いませんので、鹿児島大学病院・鹿児島医療センター・鹿児島市立病院・天陽会中央病院といった心臓カテーテル施設との緊密な連携によりスピーディな診断・加療を実現しています。また、上記の鹿児島市における循環器基幹病院と合同でカンファレンスや研究発表を行う機会も多く、先進医療の動向にも充分対応出来ます。

2) 入院診療

最も多い症例は高齢者の慢性心不全の増悪により救急搬送されるケースです。循環・呼吸状態を改善させ内科病棟へ転棟し全身状態の改善をみて退院となります。ペースメーカー植え込み術はほぼ毎月1-2件のペースで行っています。整形外科など長期臥床化する症例が多いことから下肢静脈血栓症例は増加がみられ、放射線科と留置型下大静脈フィルターによる肺塞栓予防を積極的に行っています。

【平成 29 年度に向けて】

現在の診療内容をさらに充実させながら、鹿児島市立病院や大学病院、鹿児島医療センターといった最新機器や情報の豊富な施設との人的・物的交流をいっそう深めていきます。総合病院である当院の特色から循環器科に限らず幅広い疾患を経験する機会が多く、研修医の対応にも力を入れています。

【手術症例数】（H27 年—H28 年）

ペースメーカー移植術 新規 : 3 件

【超音波検査件数】（平成 28 年度）

- ・心エコー : 約 3,000 件
- ・頸動脈エコー
経胸壁心エコー時にルーティンに行っています。
- ・下肢血管エコー 約 300 件

【冠動脈MDCT】

約 300 件



呼吸器内科

部長 川 島 寿 史

平成28年4月より川島、新村、砂永、岡元で診療にあたってきました。産休中であった里村(旧姓松山)は本年2月より完全復帰となりました。そして次年度の本年4月からは、川島にかわり、岩川純先生が部長として戻ってこられる予定です。

【当科の主な診療疾患】

- ・ 肺癌、胸部悪性疾患
- ・ 肺炎、呼吸器感染症
- ・ 気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患 (COPD)
- ・ 間質性肺炎、びまん性肺疾患

呼吸器診療は主に上記の疾患の治療を行います。肺癌の予後は依然として満足いくものではありませんが、近年の治療進歩は著しく、何とんでもトピックは免疫チェックポイント阻害薬であります。二次治療だけでなく一次治療にも有効性が報告され、今後使用機会は確実に増えていくと思われまます。また非常に高額なため、医療費の問題として取り上げられることも多い注目の薬剤です。決して肺癌が治る夢の薬ではなく、PD-L1の陽性率を含め、より効果が高く望める患者様に適正に使用することが重要です。また抗癌剤とは異なる免疫関連の特殊な有害事象への対応も重要で、各科との密な連携が必要となってきます。そして肺炎は周知の通り、日本人の死因第3位であります。高齢化に伴い、肺炎に罹患する患者数は当面増加の一途をたどると思われまます。しかし繰り返す嚥下性肺炎等、人生の終末期における治らない肺炎があるという認識は必要ではないかと思ひまます。他にも難治性の間質性肺炎等、呼吸器内科医は死と向き合う機会が多く、より全人的医療が必要とされる科ではないかと思ひまます。

【外来・入院診療】

外来患者数および入院患者疾患内訳は、表に示す通りです。特に肺癌患者数が年々増加傾向で、生存期間が延長し、同一患者様の繰り返しの入院機会が増えてきているという要因も考えられまます。当院の呼吸器診療の強みは、呼吸器内科、外科、放射線科、病理診断科そして緩和医療科との連携がしっかりしており、始めから終わりまで、確実に丁寧に完結できるところではないかと思ひまます。そして勿論、多くの優秀な心優しいスタッフに日々支えられていることは言うまでもありません。

個人的な話となり恐縮ですが、昨年夏、私の母が亡くなり、当院で私が看取りました。抗MDA5抗体陽性の急速進行性間質性肺炎という非常に予後不良な疾患で、入院して約2週間で亡くなりまし

た。本当に辛い経験でしたが、その時は様々なスタッフの方の些細な優しさが染みまました。私自身も6年間という長い期間でしたが、当院には大変お世話になりました。どうもありがとうございました。

表1) 外来患者数

	延べ患者数	新患者数
平成26年	6,398	522
平成27年	5,548	553
平成28年	6,049	618

表2) 入院患者疾患内訳

	26年	27年	28年
肺癌・胸部悪性疾患	356	337	369
肺炎	43	51	44
びまん性肺疾患	25	28	24
気管支喘息	9	5	4
慢性閉塞性肺疾患	12	9	11
肺結核	5	13	4
その他	65	49	71
合計	515	492	527

※学会関連は[研究実績]に掲載



神経内科

部長 長堂 竜 維

当院神経内科は鹿児島大学神経内科・老年病学講座を母体とした医局で、丸山・長堂・林・臼元は同科の出身または同科在籍中の医師です。この4人と鳥取大学脳神経内科出身の甲斐を含めた5人が当科の常勤医で、この5人のうち臼元を除く4人が日本神経学会神経内科専門医で、臼元も取得予定です。加えて鹿児島大学から6人の非常勤医師にも応援をいただき、頭痛・めまい・しびれ等の症状や脳卒中・パーキンソン病・アルツハイマー型認知症等の一般神経内科外来から急性期神経疾患の救命救急医療・急性期リハビリテーションまでの神経内科診療をこなしています。鹿児島大学の神経内科・老年病学講座が日本においても最も規模が大きく且つ歴史のある神経内科教室のひとつであることもあり、鹿児島県は他の県に比べ神経内科医の非常に多い県です。しかし、神経内科専門医5人を常勤として抱え神経救急を行っている私立病院は全国的にもそう多くはなく、鹿児島県における神経内科診療に多少なりとも貢献できているものと私どもは自負しております。

次に今年度の診療実績について書かせていただきます。まず入院患者様ですが、520名（H28年1月1日～12月31日）が一年間で入院されました。その中では脳血管障害・感染症・パーキンソン病の3疾患が大きな割合を占めています。神経内科という科の性格上、予定入院に比べ圧倒的に緊急入院が多い事を考えると、ほぼ毎日1.5人の入院患者を平均的に受け入れてくれる病棟スタッフには頭の下がる思いがします。外来患者様は、一年間の初診患者は約1,300人、外来患者総数が約1万人で、一日平均外来患者数は約35人でした。病棟は別館2階南病棟42床で神経内科と皮膚科の混合病棟となっており、皮膚科の畠中先生には時間を問わず的確なご指導をいただき、神経内科一同感謝の気持ちでいっぱいです。

病棟スタッフは稲森師長以下26名の看護師が激務をこなしながらも、笑顔を絶やさず日夜仕事に励んでいます。神経内科は他科に比べ高齢の患者様やADLの低下した患者様も多い中でクオリティの高い看護・介護を実践してもらい、医師にとって本当に働きやすい病棟です。

外来は有能で気配りのできる医療クラークの郡山と片山が、5人の常勤医師と5人の非常勤医師を上手くおだてながら、神経内科外来のすべてを取り仕切っています。

日常診療以外の業務としては、丸山は副院長としての多くの院内・院外激務に加え、各種研究会の世話人、血液凝固・神経関連の講演を行い、長堂は鹿児島大学医学部非常勤講師として学生講義と久木田学園看護専門学校の授業、臨床研修医対応、各種講演会などを行っています。また林・甲斐・臼元の3名は訪問診療も行っています。このように全員が医療以外にも多くの雑多な用事を両手いっぱい抱えながらコマネズミのように毎日走り回っています。

以上、簡単ではありますが今給黎総合病院神経内科の日常をご紹介します。ありがとうございました。

【スタッフ】

丸山 芳一 副院長

医学博士、日本神経学会専門医、
日本内科学会認定医、日本神経学会評議員
鹿児島大学臨床教授、久木田学園非常勤講師
愛媛大学医学部卒

長堂 竜 維 神経内科部長

医学博士、日本神経学会専門医
日本内科学会認定医、鹿児島大学臨床教授
鹿児島大学医学部非常勤講師
日本神経学会評議員・代理人
日本神経学会九州地方会世話人
久木田学園非常勤講師、鹿児島大学医学部卒

林 茂 昭 在宅医療部部長

日本神経学会専門医、日本内科学会認定医、
日本内科学会総合内科専門医
鹿児島大学医学部卒

甲斐 太 在宅医療部科長

医学博士、日本神経学会専門医、
日本内科学会認定医、鳥取大学医学部卒

臼元 亜可理

鹿児島大学医学部卒

非常勤医師

丸山征郎医師（血管病） 有村由美子医師（電気生理検査） 橋口照人医師（神経内科、糖尿病）
 荒田仁医師（神経内科） 橋口良也医師（頸部血管超音波検査） 吉村道由医師（電気生理検査）

【診療状況】（2016年1月1日～12月31日）

【外来患者】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
初診	108	155	133	124	148	122	143	138	112	122	121	107	1,533
再診	755	808	916	799	809	809	810	858	811	848	804	826	9,853
合計	863	963	1,049	923	957	931	953	996	923	970	925	933	11,386
1日平均初診患者数	5.0	7.0	5.5	5.5	7.0	5.1	6.4	5.8	5.1	5.4	5.5	4.7	-
1日平均再診患者数	35.1	36.7	38.2	35.5	38.5	33.7	36.0	35.8	36.9	37.7	36.5	35.9	-
1日平均患者数	40.1	43.8	43.7	41.0	45.6	38.8	42.4	41.5	42.0	43.1	42.0	40.6	-
診療実日数	21.5	22.0	24.0	22.5	21.0	24.0	22.5	24.0	22.0	22.5	22.0	23.0	271.0

（昭和会クリニック含）

【入院患者】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
入院	42	35	41	40	44	34	44	40	49	43	39	36	40.6
退院	36	39	46	41	38	38	45	42	36	46	37	44	40.7
在院	989	963	963	1,004	911	954	831	861	964	1,157	892	1,003	958
平均病床数	31.9	33.2	31.1	33.5	29.4	31.8	26.8	27.8	32.1	37.3	29.7	32.4	31.4
平均在院日数	25.4	26.0	22.1	24.8	22.2	26.5	18.7	21.0	22.7	26.0	23.5	25.1	23.7

【入院患者内訳】（2016年1月1日～12月31日）

脳血管障害	116	ミトコンドリア脳筋症	4	頸髄損傷	2
パーキンソン病	55	脊髄炎	4	周期性四肢麻痺	2
感染症	38	脊髄小脳変性症	4	小脳失調症	2
てんかん	19	糖尿病	4	脊髄症	2
めまい	15	腰部脊柱管狭窄症	3	低血圧発作	2
慢性炎症性脱髄性多発神経炎	15	視神経脊髄炎	3	低血糖発作	2
多系統萎縮症	14	多発脳神経炎	3	低髄液圧症候群	2
自己免疫性脳症	12	熱中症	3	頭痛	2
良性発作性頭位変換性めまい	10	脳梗塞	3	認知症	2
筋無力症	9	脳腫瘍	3	脳炎	2
多発性硬化症	9	不明熱	3	反回神経麻痺	2
ギラン・バレー症候群	7	けいれん	2	膝関節症	2
脱水症	7	シェーグレン症候群	2	貧血	2
低カリウム性ミオパチー	7	パーキンソン症候群	2	不安神経症	2
ベーチェット病	6	悪性リンパ腫	2	副腎白質ジストロフィー	2
リウマチ性多発筋痛症	6	意識消失	2	片頭痛	2
意識消失発作	6	運動神経疾患	2	その他	81
筋萎縮性側索硬化症	5	橋本脳症	2	総計	520

感染症の内訳

呼吸器感染症	18
中枢神経感染症	14
尿路感染症	2
その他感染症	2

脳血管障害の内訳

脳梗塞	90
TIA	12
脳出血	7
慢性硬膜下血腫	3
脳塞栓症	2
外傷性くも膜下出血	1
急性硬膜下血腫	1

【対外活動】

丸山芳一

鹿児島県エイズ対策委員
鹿児島市医師会勤務医会役員

長堂竜維

鹿児島大学医学部臨床教授・非常勤講師
久木田学園非常勤講師
日本神経学会評議員・代議員
日本神経学会九州地方会世話人

【業績報告】

※学会関連は[研究実績]に掲載

【教育関連講義】

2016年1月6日～1月7日

鹿児島大学医学部3年生
「内分泌系構造と機能」合計4回
長堂竜維

2016年4月12日～5月31日

久木田学園看護専門学校
系統看護学講義 脳・神経系 講義 合計7回
長堂竜維



外科 (肝臓・消化器・乳線・内分泌・小児・肛門)

部長 瀨之上雅博

今年度、外科の人員構成は、益満 幸一郎先生が6月で転出され高取 寛之先生が着任されました。

また吉満 工平先生のと1月～6月まで福久 はるひ先生が赴任され7月～12月まで一年ぶりに帰ってきた下之園 将喜先生が頑張ってくれました。野口 智弘先生は変わらず外科の切り込み隊長を務めてくれています。

当科の守備範囲として救急も含めた一般外科と専門性が求められる腫瘍外科があります。また、消化器・甲状腺・乳腺外科という広い範囲の臓器を受け持っています。特に病院が“がん拠点病院”を標榜する限りは、診断から手術さらに術後の補助療法がシームレスに行われる必要があります。このため週一回の消化器カンファを中心にした消化器内科・放射線科・麻酔科・病理との垣根のない症例検討を行っています。看護師・paramedical staffの参加もあり、情報共有に寄与しています。

また2か月に一回 cancer boardも行っており治療方針が複雑となった現在に多方面の考え方より治療を考える偏りのない治療を目指しています。

さらに牟禮 洋先生を中心に研修医の増員と研修の充実が図られており、このためにもカンファレンスは症例発表など研修のためにも重要なものとなっています。当科は、大学よりの病院実習生（ポリクリ）も週2～4名受け入れており、実際の患者様に接してもらいまた手術への参加もあり病院スタッフおよび患者様にお世話になっています。また最近、県外・県内の医学生の見学者が増加しており、当院に対する関心も増しているものと感じています。また新病院移転については、病院関係者・患者様はもとより研修医・今後始まる新専門医制度参加者からも関心が高まるものと思います。

近年、がんの治療法として今までの手術・放射線治療・化学療法という3つの柱に加え免疫療法とくに免疫チェックポイント阻害剤が大きなインパクトを示し4本目の柱となりつつあります。免疫療法の特徴は臓器特異性なくすべての癌腫に効果を示す可能性があること、作用機序より根治に近い効果が得られる可能性があることと考えます。現在、皮膚科領域・呼吸器科領域・泌尿器科領域の癌に保険適応とされ導入されていますが、近々、消化器領域に保険適応が広がる予定です。免疫療法の副作用は、化学療法の副作用と違い自己免疫疾患を誘導する特殊な副作用を発症します。このため当院でも免疫療法を行う領域の科と自己免疫疾患を担当する科で免疫療法関連会議を立ち上げ今後、多数導入されるであろう免疫療法を安全に行うため関連する科・コメディカルを含め横断的に対策を行っているところです。消化器癌化学療

法は手術との関連も強く外科で対応させてもらっています。今後、免疫療法に関してはさらに各科・各部署と連携し行ってゆきたいと思います。消化器癌に関する免疫療法についての問い合わせがありましたら当科にいただければと思います。

近年、鏡視下手術は多くの手術において標準術式となってきています。しかし腹腔鏡手術による合併症が種々報告され一歩立ち止まって考える時期にきていると感じています。当科でも、より安全に腹腔鏡下手術を行う環境と技術の確立を目指したいと思います。全国手術症例登録システム（NCD）は、今後導入される新専門医制度において必須となり当院の症例もすべて登録されています。

最近、化学療法の多様化に伴い様々な全国規模の臨床治験が行われています。当科も院内の倫理委員会の承認をえながら参加できるものへは手を挙げていこうと考えています。臨床治験は、その参加することによる病院評価の上昇もありますが、患者様への治療説明の徹底、経過観察の精度の向上など診療の質の向上も期待できます。当院が地域がん拠点病院である要件として患者様に十分な情報提供と患者様の意思の尊重が重要視されています。手術という治療を行う外科は、患者様の意思の尊重が難しいと感じることが多くあります。そのときコメディカルスタッフが患者様の思いを丁寧に拾ってくれていることに感謝しています。

また、高齢者の手術が増加し家族関係の問題・術後に行き先が決まらないなど社会的な問題に対応が求められることも多くなりました。連携室・事務の方々の協力なくしては手術をすることさえ難しいのが現実です。この場を借りて御礼申し上げます。

【人事】

勤務者

<医師>

継続・今給黎 和典、牟禮 洋、濱之上 雅博、野口 智弘、
益満 幸一郎(1月～6月)

(転入)

高取 寛之 :平成28年7月～
福久 はるひ:平成28年1月～6月
下之園 将貴:平成28年7月～12月

<診療アシスタント>

手塚 あゆみ、上鶴 智美、藤原 梢

<看護師>

中村 唯子、村崎 まこと

【診療状況】

<外来患者状況>

平成28年の外来受診者総数(延べ)は4,320名であった。
その内訳は
初診患者:483名、再診患者:3,837名

<入院患者>482名/年

【手術症例内訳】

全身麻酔症例 238例
脊椎麻酔症例 5例

全麻症例 疾患部位	例数	悪性	良性	鏡視下
甲状腺	1	1	0	0
乳	3	3	0	0
食道	1	1	0	0
胃	14	12	2	9
十二指腸・小腸	22	1	21	2
結腸	30	28	2	16
直腸	14	12	2	7
肝	16	16	0	0
胆	30	2	28	24
膵	5	4	1	0
ソケイヘルニア	64			48
大腿ヘルニア	6			0
腹壁ヘルニア	8			2
虫垂炎	14	1		13

※学会関連は[研究実績]に掲載



呼吸器外科

部長 米田 敏

日本外科学会認定医・専門医・指導医

日本呼吸器外科学会専門医・指導医

日本呼吸器外科専門医認定機構専門医

日本胸部外科学会認定医・正会員

日本呼吸器外科学会評議員

九州外科学会評議員

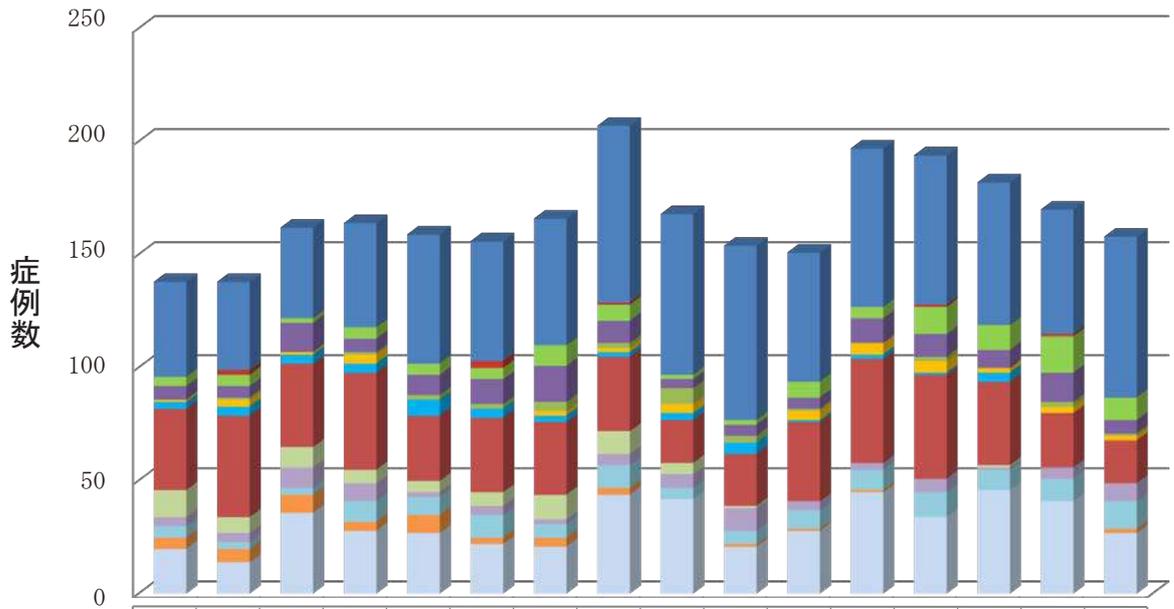
日本胸部外科学会九州地方会評議員

日本肺癌学会九州支部会評議員

2016年度は、山本耕三先生2年目の年で、今給黎尚幸先生と3人体制でした。

今年度の手術症例は158例ではありますが、肺癌症例は71例と増加、転移性肺腫瘍10例、縦隔腫瘍6例、胸膜中皮腫1例、気胸19例、胸壁腫瘍2例、膿胸8例、良性肺腫瘍12例、気道狭窄3例などでした。鹿児島県内では、移転で新しくなった病院が多く、当院でも4年後の移転がやっと決まりました。症例の伸びは苦戦しておりますが、善戦していると思います。今後ともよろしく願いいたします。

【手術症例】



	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	年度
■ 原発性肺癌	42	39	40	46	57	53	56	78	71	77	57	70	66	63	55	71	
■ 気管・気管支腫瘍	0	2	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	
■ 転移性肺腫瘍	4	5	2	5	5	5	9	7	2	2	7	5	12	11	16	10	
■ 縦隔腫瘍	6	5	13	6	9	11	16	10	4	5	5	11	10	8	13	6	
■ 胸膜中皮腫	0	1	0	1	2	2	4	2	7	3	1	0	2	0	2	1	
■ 胸壁腫瘍	1	3	1	4	0	0	2	2	4	0	4	5	5	2	3	2	
■ 肺気腫	3	4	4	4	7	4	3	2	3	5	1	2	1	4	0	0	
■ 自然気胸・血気胸	36	45	37	43	29	33	32	33	19	23	35	46	46	37	24	19	
■ 局所性多汗症	12	7	9	6	5	6	11	10	5	1	0	0	0	1	0	0	
■ 膿胸	4	4	9	8	2	4	2	5	6	10	4	3	6	1	5	8	
■ 良性肺腫瘍	5	3	3	9	8	10	6	10	5	6	8	9	11	9	10	12	
■ 気道狭窄	5	6	8	4	8	3	4	3	0	1	1	1	0	0	0	2	
■ その他	20	14	36	28	27	22	21	44	42	21	28	45	34	46	41	27	
■ 総計	138	134	162	164	159	155	164	207	168	154	151	197	194	183	170	158	

※学会関連は[研究実績]に掲載



整形外科・リハビリテーション科

部長 松永俊二

整形外科の平成28年度の活動状況を報告します。平成28年度の整形外科の手術総数は1,056件と前年より150名以上大幅に増加しました。特に脊椎手術や骨盤骨折の手術が増加しています。高齢化に伴い骨粗鬆症関連の椎体骨折、大腿骨近位部骨折、前腕骨骨折の手術も年々増加しています。堀川医師が上肢疾患の専門として活躍し難治性の上肢外傷症例も増加してきています。クリニックの患者数は平均約105名/日であり昨年度とほぼ同数でしたが入院患者数は増加しておりました。救急外来の対応件数は整形外科が圧倒的に多く、救急病院としての救急車受け入れに貢献しています。入院患者総数は1,189名で平均稼働率は98.5%で常に満床状態でした。感染性脊椎炎や脊損患者の入院が増えて平均在院日数が36.0日と先年度より10日以上延長してしまいました。学術活動は日本の主要学会はもちろん海外の学会でも発表を行い今給黎総合病院の学術的評価を高めることができました。日本整形外科学会及び日本脊椎脊髄病学会認定の臨床専門研修施設として今後益々臨床実地教育にも力を注いでいきたいと考えています。今後研修医の新専門医制度が開始されるに当たり整形外科としての準備は整っております。また公的業務として厚生労働省難治性疾患脊柱靭帯骨化症調査研究班の班員活動も行っており、厚生労働省からも高く評価され公益法人病院としての活動にも貢献しております。

【スタッフ紹介】

〈常勤医〉9名

今給黎尚典 (理事長)
松永俊二 (整形外科部長・クリニック副院長)
宮口文宏 (整形外科主任部長)
石田育男 (整形外科部長)
山口聡 (整形外科部長)
川畑直也 (整形外科科長)
堀川良治 (整形外科医長)
岡田拓巳 (整形外科医師)

【人事異動】

入職 1名
岡田拓巳 平成28年4月1日入職
退職 1名
江守永 平成28年3月31日退職

【整形外科初期研修医】

黒島知樹 平成28年2月1日～28年3月31日
黒島知樹 平成28年8月1日～28年9月30日
松岡大介 平成28年2月1日～28年3月31日
白石一光 平成28年4月1日～28年5月31日
西村 怜 平成28年4月1日～28年5月31日
森 威慈 平成28年6月1日～28年7月31日

【他病院、他大学からの研修】

中原大輔 福岡大学医学部
平成28年8月9日～10日
吉留寿人 久留米大学医学部
平成28年12月27日～27日
前野孝明 産業医科大学
平成29年3月22日～22日

鬼丸 悠 金沢医科大学
平成29年3月29日～29日
緒方亮介 長崎大学医学部
平成29年3月30日～30日

【主催セミナー】

鹿児島外傷セミナー
平成28年10月17日 今給黎総合病院講義室

【症例検討会】

レ線カンファレンス 毎日
鹿児島脊椎症例検討会 1回/月

【診療実績】

昭和会クリニック
外来総数 28,563名 新患4,166名 1日平均105.4名

今給黎総合病院

外来総数 3,253名 新患977名 1日平均8.9名
入院総数 1,189名
平均稼働率 98.5% 平均在院日数36.0日
手術総数 1,056件

【平成29年度の計画】

平成29年度は手術件数を本年度同様1000の台数を維持したいと考えています。また病床稼働率や平均在院期間など当病院の目標達成に整形外科としての貢献できるよう努めます。学術活動も積極的に国内外の研究発表を行い病院評価向上に努めたいと思います。医学生や研修医の臨床研修にも積極的に貢献したいと考えています。

※学会関連は[研究実績]に掲載

【手術内訳】(2016年4月1日～2017年3月31日)

<u>脊椎 (296件)</u>		<u>関節手術 (125件)</u>	
後頭頸椎固定術	3	肩鎖関節固定術	1
頸椎椎弓形成術	10	肩関節観血的整復術	1
頸椎後方固定術	35	MP関節脱臼骨折整復術	2
頸椎前方固定術	5	肘関節形成術	1
軸椎骨折骨接合術	1	手指関節固定術	2
胸椎後方固定術	25	人工股関節置換術	19
胸椎椎弓切除術	1	人工橈骨頭置換術	1
胸椎前方固定術	6	人工肘関節再置換術	1
胸椎黄色靭帯骨化症手術	2	人工股関節再置換術	4
腰椎後方固定術	105	人工肩関節置換術	1
腰椎前方固定術	11	人工指関節置換術	1
内視鏡的脊椎固定術	4	股関節脱臼観血的整復術	3
化膿性脊椎炎手術	9	人工骨頭置換術	50
椎体骨搔爬術	1	骨盤骨切り術	2
腰椎拡大開窓術	6	膝関節視鏡下滑膜切除術	4
腰椎椎間板ヘルニア摘出術	44	膝関節視鏡下半月板切除術	4
腰椎椎間板骨腫摘出術	1	膝関節鏡下軟骨摘出術	1
経皮的髓核摘出術	10	膝蓋骨脱臼整復固定術	1
椎間板搔爬術	1	脛骨高位骨切り術	1
椎体形成術(BKP)	13	人工膝関節置換術	19
体外式脊椎固定術(ハローベスト装着術)	2	膝前十字靭帯再建術	2
転移性脊椎腫瘍手術	1	膝外側側副靭帯再建術	2
<u>骨折 (403件)</u>		膝関節制動術	1
鎖骨骨折手術	18	関節鼠摘出術	1
上腕骨近位部骨折手術	28	<u>腱・神経手術 (67件)</u>	
上腕骨偽関節手術	1	複合組織移植術	1
上腕骨外顆骨折手術	5	アキレス腱縫合術	7
上腕骨内顆骨折手術	2	デュイピイトレン手術	1
上腕骨顆上骨折(含経皮的ピンニング)	7	腱縫合術(手)	10
上腕骨骨幹部骨折手術	3	腱鞘切開術	17
上腕骨骨幹部骨折偽関節手術	2	腱剥離術	7
上腕骨通顆骨折手術	3	腱移行術	6
肩甲骨骨折骨接合術	1	神経移行術	2
肘関節内骨折手術	2	手根管開放術	13
肘頭骨折手術	3	足関節靭帯再建術	1
橈骨遠位端骨折手術	57	四肢再接合術	2
前腕骨骨折手術	15	<u>腫瘍手術 (6件)</u>	
手舟状骨骨折手術	1	骨軟部腫瘍手術	5
手指骨折手術	27	ガングリオン手術	1
手指骨開放性脱臼整復術	4	<u>抜釘術 (134件)</u>	
骨盤骨折手術	7	<u>その他 (16件)</u>	
大腿骨頸部骨折手術	113	開放創デブリードマン・創傷処理	12
大腿骨骨幹部骨折手術	9	複合組織移植術	1
大腿骨顆部骨折	7	筋皮弁形成術	1
大腿骨骨幹部開放骨折	1	外反母趾手術	2
膝蓋骨骨折手術	3	<u>感染症手術 (3件)</u>	
脛骨近位部骨折手術	13	膿瘍搔爬廓清術	1
膝関節内骨折骨接合術	1	骨髓炎手術	2
下腿骨骨折手術	14	<u>切断術 (6件)</u>	
下腿開放骨折手術	6	下肢	
足関節脱臼骨折手術	32	6	
踵骨骨折手術	11		
踵骨骨折偽関節後骨移植術	1		
足趾骨折手術	6		



形成外科

部長 高木 信介

【当科の歴史】

1983年(昭和58年)、当院に鹿児島県で初めて形成外科が設立され、初代部長に宇田川晃一先生が赴任されました。以来、昭和大学形成外科の関連施設として、鹿児島県の医療に携わってまいりました。

【診療内容】

形成外科とは

先天性および後天性の身体外表の醜状(形、色の異常)を対象とし、これを外科手技により機能はもとより形態(美容)解剖学的に正常(美形)にすることを手技とし、その目的は個人を社会に適応させるものである(鬼塚、1964)と定義されています。

形成外科は、体表を治す外科であり、他の外科には無い特徴があります。そして、日常生活に復帰(整容的、機能的)できることを最大の目的としております。

当科の主な仕事内容は、

1. Hand and Microsurgery
(手とマイクロサージャリー)
2. Oculoplastic Surgery(眼形成)
3. Breast Surgery(乳房再建)
4. Vascular anomalies(血管腫・血管奇形)
5. Cleft Lip and Palate(口唇口蓋裂)
6. Maxillofacial Surgery(顎顔面外科)
7. Oncoplastic Skin Surgery(皮膚腫瘍外科)

特に、1は日本手外科学会認定基幹病院で、整形外科の手外科医とともに専門外来を行っています。

3は、乳癌術後のインプラントによる乳房再建が保険適応となり今後症例が増加する分野です。当院では自家組織、インプラントによる乳房再建をニーズに合わせて行っています。

Aesthetic and Functional Surgery(整容機能外科)をモットーに日々治療を行っております。

【スタッフ紹介】

高木 信介(たかぎ しんすけ)

- 2002年 昭和大学医学部卒業
- 2002年 昭和大学形成外科学教室入局
昭和大学病院、毛山病院(高知)、
荏原病院(東京)、藤枝市立総合病院(静岡)、
埼玉県立小児医療センター、
昭和大学横浜市北部病院勤務
- 2008年～ 今給黎総合病院形成外科勤務
- 2010年4月～現職

形成外科学会専門医 手外科学会専門医
創傷外科学会専門医 皮膚腫瘍外科指導専門医
褥瘡学会認定師 医学博士

日本形成外科学会評議員
日本マイクロサージャリー学会評議員
日本血管腫血管奇形学会評議員
九州マイクロサージャリー研究会世話人
鹿児島手外科研究会世話人

所属学会

日本形成外科学会、国際形成外科学会、
日本手外科学会、日本マイクロサージャリー学会、
日本血管腫血管奇形学会、日本口蓋裂学会、
日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会、
日本頭蓋顎顔面外科学会、日本褥瘡学会、
日本皮膚悪性腫瘍学会、日本臨床皮膚外科学会、
日本創傷外科学会、日本美容外科学会、
日本美容医療協会

春山 勝紀(はるやま かつのり)

- 2005年 福岡大学医学部卒業
- 2007年4月 福岡大学形成外科学教室入局
- 2015年4月～2017年3月 今給黎総合病院勤務

日本形成外科学会専門医

所属学会

日本形成外科学会、国際形成外科学会、
日本創傷外科学会、
日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会

小坂 健太郎(こさか けんたろう)

- 2010年 千葉大学医学部卒業
- 2012年4月 千葉大学形成外科学教室入局
- 2017年10月～今給黎総合病院勤務

所属学会

日本形成外科学会

増田 えりか (ますだ えりか)
 2013年 日本大学医学部卒業
 2015年4月 昭和大学形成外科教室入局
 2016年10月～今給黎総合病院勤務

所属学会
 日本形成外科学会

非常勤医師
 門松 香一(かどまつ こういち)
 昭和大学江東豊洲病院形成外科 講師

有村 和子(ありむら かずこ)
 日高病院形成外科

泉 朝望(いずみ あさみ)
 歯ならびの歯医者さん 院長

※学会関連は[研究実績]に掲載

【講義】 原田学園言語聴覚療法科 形成外科

【診療状況 (2016年1月～12月)】

外来診療 外来初診患者数 1,738名
 入院診療 入院患者数 504名
 手術件数
 入院手術件数 495件
 外来手術件数 442件

手術内容区分	入院手術件数			外来手術件数			計
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	
I. 外傷	111	30	20			9	170
熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷で全身管理を要する非手術例							
熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷の手術例	7		1				8
顔面軟部組織損傷			1			1	2
顔面骨折	61					4	65
頭部・頸部・体幹の外傷						1	1
上肢の外傷	25	25	8			3	61
下肢の外傷	12	3	6				21
外傷後の組織欠損(2次再建)	6	2	4				12
II. 先天異常	26		2			2	30
唇裂・口蓋裂	8						8
頭蓋・顎・顔面の先天異常	9		2			2	13
頸部の先天異常							0
四肢の先天異常	2						2
体幹(その他)の先天異常	7						7
III. 腫瘍	80	20	51	1		348	500
良性腫瘍(レーザー治療を除く)	57	18	48	1		340	464
悪性腫瘍	8	1	2			6	17
腫瘍の続発症						1	1
腫瘍切除後の組織欠損(一次再建)	15	1				1	17
腫瘍切除後の組織欠損(二次再建)			1				1
IV. 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	21	2	16			34	73
V. 難治性潰瘍	28	6	16			2	52
褥瘡	8		3			1	12
その他の潰瘍	20	6	13			1	40
VI. 炎症・変性疾患	14		37			32	83
VII. 美容(手術)	8					5	13
VIII. その他	4	1	2			5	12
Extra. レーザー治療						4	4
良性腫瘍でのレーザー治療例						4	4
美容処置でのレーザー治療例							0
大分類計	292	59	144	1	0	441	937



脳神経外科

部長 西澤輝彦

【特色】

脳神経外科は当院の総合病院化に伴って平成元年に開設されました。平成の時代と共に30年近い歴史を刻み、微力ながら脳血管障害の外科的治療や頭部外傷治療を中心に地域医療に貢献してきました。特に鹿児島で最も早くからカテーテルを用いた脳神経血管内治療を手がけ、脳動脈瘤の瘤内塞栓術や頸動脈狭窄症に対するステント留置術、頭蓋内脳血管の拡張術と虚血性脳疾患に対する血行再建術などを鹿児島の主導的施設として積極的に取り組んで来ました。

この数年は開業医の先生との連携が進み、未破裂脳動脈瘤や診断が難しい脳血管障害症例の確定診断や根治術の適応判定に関して、脳血管造影や脳血流検査などによる精査、治療の紹介が増えています。

当院は年間2700台の救急車を受け入れる救急病院でありその中で外傷系疾患、特に複数の領域に亘る高エネルギー外傷や多発外傷などの重症の患者様が多いのも特徴です。多発外傷は複数科による迅速なチーム医療が必要で整形外科、形成外科、胸部外科、麻酔科などと良好な関係のもと治療に当たっています。

【人事・スタッフ】

平成28年度は9月末で科長松邨医師が異動となりました。10月からは鹿児島大学から貞村裕子医師が医長として赴任しました。貞村先生は鹿児島の女性脳神経外科医の先駆けで開頭手術からカテーテルを用いた血管内治療まで手広く経験を積んでおられます。前職は鹿児島大学救急部であったこともあり救急医療全般にも精通し脳神経外科のみならず当院の救急医療への貢献も期待できる先生です。

今年度は途中で体制の変化はありましたが、積極的な救急患者の受け入れに加えて、開業医の先生からの紹介の増加により手術件数も100件以上を維持しています。また脳血管内治療に関しては鹿児島大学の脳血管内治療グループからの応援を受けて血管内手術の症例も再び増加傾向にあります。

病院規模や救急車の搬入台数、手術件数から言って3～4名体制は必要な状況でありますので、今後も大学からの増員を要請して行きたいと思っています。

また医学教育の面からは初期研修医の受け入れや鹿児島大学の医学生の実習受け入れも行っています。大学からは有田教授に月一回来院いただき神経内科、放射線科との脳神経カンファレンスを行い、脳神経外科のみならず脳神経全般の画像診断を中心にレベルアップを図る努力を行っています。

【スタッフ紹介】

〈常勤医〉

【部長（副院長、医療情報システム管理者兼任）】

西澤 輝彦（平成2年10月～）

1979年 鹿児島大学医学部卒業
1983年 鹿児島大学大学院単位取得退学
2013年 鹿児島大学医学部臨床教授

〈取得資格〉

鹿児島大学医学部臨床教授、医学博士

日本脳神経外科学会指導医

日本脳神経血管内治療専門医

日本脳卒中学会治療専門医

鹿児島市立病院非常勤医師

PNSL インストラクター

(Primary Neurosurgical Life Support)

〈所属学会〉

日本脳神経外科学会、日本脳卒中学会、

脳卒中の外科学会、

日本脳神経血管内治療学会、

日本小児脳神経外科学会、

日本脳神経外科コンgress、脳ドック学会他

【脳神経外科 医長】

貞村 裕子（平成28年10月～）

2004年 鹿児島大学卒業

〈取得資格〉

日本脳神経外科学会指導医

〈所属学会〉

日本脳神経外科学会、

日本脳神経外科コンgress、日本脳卒中学会、

日本脳神経血管内治療学会、日本薬理学会

【脳神経外科 科長】

松邨 宏之（平成24年1月～平成28年9月）

1997年 東京医科大学卒業

〈取得資格〉

医学博士、日本脳神経外科学会専門医

〈所属学会〉

日本脳神経外科学会、脳神経外科コンgress、

脳卒中の外科学会

〈非常勤医師〉

有田 和徳 鹿児島大学脳神経外科教授

寺田 耕作 串木野脳神経外科センター

【診療実績】入院患者疾患別分類（2016年1～12月）

脳腫瘍	グリオーマ	2
	髄膜腫	4
	悪性リンパ腫	2
	転移性脳腫瘍	2
	合計	10
血管病変	クモ膜下出血（破裂脳動脈瘤）	12
	未破裂脳動脈瘤	48
	AVM / AVF	8
	高血圧性脳出血	26
	脳梗塞	21
	血管腫	1
	動脈狭窄（閉塞）	25
	モヤモヤ病	2
	その他	5
	合計	148
慢性硬膜下血腫	合計	34
頭部外傷	頭蓋骨骨折	7
	急性硬膜外血腫	3
	急性硬膜下血腫	12
	脳挫傷	30
	その他	28
合計	80	

小児神経外科	水頭症	6
脊椎・脊髄疾患	脊椎症・ヘルニア	-
	その他	1
	合計	1
機能的脳神経外科	三叉神経痛	1
	てんかん	7
	その他	12
合計	20	
頭痛	合計	1
感染症	脳膿瘍	-
	その他	2
	合計	2
その他	合計	26

合計 330人

【手術症例】（2016年1～12月）

開頭術	腫瘍 摘出術	4	
	動脈瘤	クリッピング(破裂)	1
		クリッピング(未破裂)	6
		合計	7
	動静脈奇形 / 血管腫	全摘出術	1
		その他	1
		合計	2
	血管吻合術	直接的血管吻合術	1
	開頭血腫除去術	脳内血腫	1
		硬膜外血腫	1
硬膜下血腫		6	
合計		7	
減圧開頭手術		1	
その他		1	
合計		22	
穿頭術	硬膜下血(水)腫洗浄術	44	
	脳室ドレナージ	1	
	合計	45	

短絡術	L-P シヤント	7
	その他	1
	合計	8
脊髄手術	定位的血腫吸引術	2
血管内手術	動脈瘤 coiling	12
	血管形成術 (PTA)	3
	血管形成術 (STENT)	5
	その他	8
	合計	28
その他		6

合計 110件



産婦人科

部長 加藤 明彦

【診療内容・特色】

当院の産婦人科は、産科・婦人科一般診療を行っています。

産科領域では、当院には新生児内科があることから地域周産期母子医療センターとしてリスクのある妊婦さんの妊娠・分娩管理や一次施設からの母体搬送の受け入れを行っています。

婦人科領域では、子宮癌検診や月経困難症・更年期障害などの一般外来診療から、良悪性の婦人科腫瘍の治療ならびに下腹部痛などの婦人科救急疾患の対応も行ってまいります。

【人事・スタッフ紹介】

今年度は鹿児島市立病院産婦人科より中川映理子医師に6月30日まで、小齊平千世佳医師に4月1日から9月30日まで、戸田薫医師に10月1日から3月31日まで勤務して頂きました。

また、4月1日より兒島信子医師を非常勤医師として迎えております。

【診療状況】

産科

入院総数	223件
分娩件数	168件
(うち帝王切開)	78件、その他産科手術 7件)
母体搬送	101件

婦人科

入院総数	242件
手術件数	78件
卵巣腫瘍摘出術	11件
付属器切除術	27件
円錐切除術	9件
筋腫核手術	6件
腔式子宮全摘術	6件
腹式子宮全摘術	18件
腹腔鏡下子宮全摘術	3件
拡大子宮全摘術(開腹)	1件
その他	7件

腹腔鏡下手術	23件
(上記子宮全摘術、卵巣・付属器手術を含む)	

【院外教育活動】

加藤 明彦

- 久木田学園看護専門学校 看護科
母性看護学・女性生殖器 40時間

【資格取得】

ALSO(プロバイダーコース)

胡摩窪 さやか、附田 加織、福元 美保

プラクティカルCTG判読スペシャリスト

1st認定者：胡摩窪 さやか、松本 千恵美

2nd認定者：末増 枝里子

NCPRインストラクター

梅木 真澄

【平成29年度の計画】

昨年4月から非常勤医師として兒島信子医師を迎え、ここ半年で腹腔鏡手術の件数が倍増してきました。平成29年4月からは兒島医師に常勤として勤務いただき、さらに婦人科手術に力を入れていきたいと思っております。

産科は、今後も地域周産期母子医療センターとして、院外は鹿児島市立病院・鹿児島大学病院ならびに一般開業の先生方と連携し、また院内では新生児内科はもちろん、他科とも協力しつつ、合併症妊娠などのハイリスク妊娠の管理を行っていただければと思います。



新生児内科

部長 丸山 有子

【診療内容】

当院のNICU・GCUは、NICU：9床、GCU：10床の合計19床の、県内では鹿児島市立病院NICUに次ぐ規模の新生児医療施設であり、当院出生の低出生体重児に対して急性期管理から Growing Care および Family Care を行いつつ、鹿児島市立病院などの三次施設で急性期管理を受けた超低出生体重児に対しても、Growing Care や Family Care を提供しています。

新生児フォローアップ外来は、当院などのNICUを退院したBaby達の発育発達をフォローしてゆく外来です。キーエイジでの発達・知能テストも行い、発達支援の要否について家族と話し合う場となっています。

【診療の担当】

医師3名、看護師32名（認定看護師1名）、助産師3名、保健師3名、作業療法士1名、理学療法士1名、メディカルクラーク1名、ナースアシスタント1名で日々の業務を行なっています。

NICU・GCU及びフォローアップ外来業務は、新生児内科部長の丸山と緒方知佳医師の2人体制で行なっていましたが、新病院への移転決定を受け、NICUとしてさらに充実するために、鹿児島市立病院より徳久琢也医師を新生児科部長として招聘し、4月以降は3人体制となりました。

フォローアップ外来には、鹿屋医療センターの井之上寿美先生も来てくださり、4人で月、水、木、金曜日の週4日を担当しています。

また、夜間当直業務は、当院と鹿児島市立病院新生児科、鹿児島大学小児科、小児外科の医師で担当しています。

ハイリスク児の発達知能検査（新版K式発達検査・WISC-IV）は、吉永明美臨床心理士により行なわれています。

月1回の療育指導外来には、埼玉医科大学総合医療センター カルガモの家から奈須康子先生に来ていただいています。

毎月1回、鹿児島大学小児科河野嘉文先生にNICU、GCUの回診をお願いしています。

【入院状況】（グラフと表を参照）

総入院数児数と体重別入院児数の経年推移をグラフ・表1に、入院経路別入院児数を表2に、人工呼吸管理患者数を表3に示しました。

【外来状況】

* フォローアップ外来・シナジス外来

平成19年より開始した新生児内科の外来業務ですが、フォローアップ外来とシナジス外来の総受診者数は増え続けてきましたが、平成24年からはほぼ安定してきました。（表4）。

* 発達検査

平成28年は188名が受けました。

* 療育相談外来

月1から2人ずつ行い、平成28年は16名が受けました。

* PIPC（早産児の両親学級）

今年は24回開催し、177人（131組）の方が聴講していただきました。

【ハイリスク新生児が退院する家庭へのNICUからの退院前訪問】 7件

【活動・業績など】

● アウトリーチ活動

➢出張もじょかくらぶ：開催回数 2回

1) 川薩 2月7日 参加者：児7名 家族11名
関係者23名 計41名

2) 日置 11月23日参加者：児17名 家族32名
関係者17名 計66名

● 退院支援

➢地域保健師と家族の面談をsetting

NICU入院中から保健師と家族の面談を企画し、その後の良好な関係作りを図っています。平成28年は58件（児70名）のご家族と地域保健師との面談が当センターで行なわれました。

➢ハイリスク児の家庭生活を支援するためのケース会議

複雑な事情をもつ家庭が増えています。そのような家庭へハイリスク新生児が退院する際には、福祉課や保健所、保健センター、児童相談所、訪問看護師を始め、民生委員や子育て支援NPOの方などとの会議を主催し相互の情報交換をはかっています。今年は3件（5回）行なわれました。

● 教育活動

➢看護学生の実習

久木田学園看護専門学校 3年23期生25名

神村学園専修学校看護学科 3年10期生30名

タラ看護専門学校 3年25名

>スタッフのための勉強会 朝週レクチャー：12回開催
 茨 聡先生のレクチャー：12回、新生児医療に関するレクチャーを行っていただきました。
 Ns、OT、PTによるレクチャー：11回

※学会関連は[研究実績]に掲載

【入院児総数】

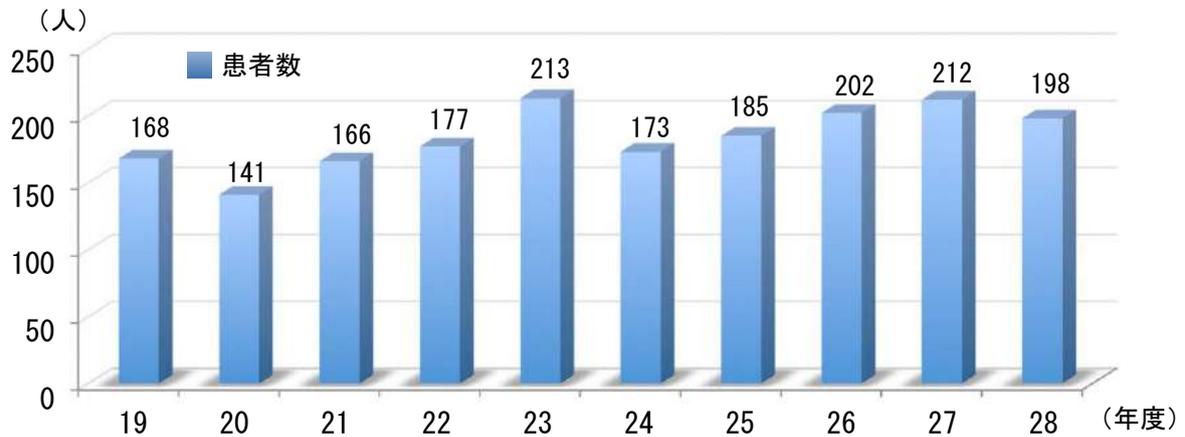


表 1：【出生体重別患者数内訳】

年度（平成）	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
～999g	1	3	3	2	8	19	20	13	9	6
1000g～1499g	32	35	26	40	34	43	35	42	41	35
1500g～1999g	61	43	46	49	68	53	64	72	85	76
2000g～2499g	31	35	52	46	59	42	35	47	47	51
2500g～	43	25	37	40	44	15	31	28	30	29

表 2：【入院経路別患者数および院内出生率】

年度（平成）	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
当院外来管理後の院内出生	26	9	29	28	36	17	22	32	42	41
母体搬送後の院内出生	51	42	39	47	43	20	48	49	38	51
市立病院より新生児搬送	75	66	66	80	105	118	100	109	123	91
大学よりgrowing care入院	3	3	6	1	9	9	10	0	0	6
他院よりの新生児搬送	13	23	24	21	20	9	5	12	9	8
院内出生率（%）	45.8	36.2	41.4	42.3	37	10	37	40	38	47

表 3：【人工呼吸管理施行患者数】

年度（平成）	19	20	21	22	23	24	25	26	26	27	28
人工呼吸管理施行数(nasal CPAP)	15	19	12	44	33	49	46	55	55	66	51
人工呼吸管理施行数(挿管症例)	21	19	13	13	11	4	16	15	15	11	19
人工呼吸管理施行数	36	38	25	57	44	53	62	70	70	77	70

表 4：【フォローアップ外来＋シナジス外来のべ受診者数】

年度（平成）	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
のべ人数(人)	307	684	770	890	1219	1641	1365	1651	1316	1613



小児科

部長 玉田 泉

【診療内容・特徴】

銚之原昌医師、堀之内兼一医師、堀之内泉医師、玉田泉に加え、鹿児島大学小児科の上野さやか先生が週に一回外来復帰され、5人で診療いたしました。

一般外来のほか、堀之内兼一医師は小児腎疾患患者のfollow、また玉田は小児内分泌疾患の専門外来を実施しています。市県からの委託による乳幼児健診、予防接種業務を行っており、又新生児マスキリーニング、学校健診・学校検尿や生活習慣病予防健診での精密受診者の受け入れや精密検査後のfollowも行っています。内分泌疾患の負荷試験も外来で年間20～30件ほど実施しています。在宅自己注射管理に対する療養指導を看護師さんが担ってくれるようになり、成長ホルモンや1型糖尿病治療もチーム医療として取り組めるようになってきました。より良い医療環境を提供できるように、小児科チームで頑張っていきたいと思えます。

入院実数については、昨年に比し若干の増加。例年とあまり大きな変化はありませんでした。糖尿病初発やコントロール目的、ほか内分泌疾患の精査での入院、急性糸球体腎炎や紫斑病性腎炎など腎疾患での専門性を求められる入院等があります。当院の特長を生かし、役割を果たしていけると考えます。

職員の子供さん対象の病児保育室も設置後8年が経過し、年間のべ約700名の子どもさんを受け入れています。子育て世代の職員のバックアップのため、今後も貢献できたらと思います。

【スタッフ紹介・講義 / 院外活動】

銚之原昌：小児科専門医、小児リウマチ専門医
鹿児島県小児科医会監査
日本小児科学会鹿児島地方会監事
鹿児島子どもの虐待問題研究会 会長
鹿児島県膠原病研究会 代表世話人
鹿児島小児保健学会役員、
日本小児リウマチ学会役員
鹿児島文化サロン 委員、
鹿児島小児膠原病父母の会ひまわりの会 委員
鹿児島市すこやか子ども元気プラン地域協議会 委員
鹿児島県保育所乳児保育研修会講師
NPO法人子ども医療ネットワーク 役員

堀之内兼一：小児科専門医

日本補完代替医療学会学識医 学会理事
鹿児島市医師会学校腎臓病健診 委員
久木田看護専門学校 非常勤講師
European Univ. Vandrina 非常勤講師(漢方の講義)

玉田 泉：小児科専門医

日本糖尿病協会療養指導医
鹿児島大学小児科 非常勤講師

【診療状況】

外来診療 外来患者数延べ 11,879 人
入院診療 入院患者数延べ 1,592 人
(平均在院日数 6.0 日)

【診療実績】

入院疾患 (実数) 計 270 人
急性気管支炎・肺炎 (喘息増悪含む) 181 人
内分泌疾患
(成長ホルモン検査・糖尿病を含む) 32 人
急性胃腸炎 (ロタ腸炎他) 8 人
腎疾患 (AGN・紫斑病含む) 4 人
その他 (リンパ節炎・無菌性髄膜炎他) 27 人

【院外活動など】

※学会、公園関連は[研究実績]に掲載

銚之原 昌

健康相談会

- ・2016年9月8日
南日本子ども健康セミナー
(鹿児島県小児保健協会・山形屋主催)
市民の育児支援のために、育児相談

そのほか

- ・鹿児島子どもの虐待問題研究会
会長として年4回開催
- ・鹿児島県膠原病研究会 顧問として年2回開催
- ・鹿児島県小児科医会 監査として監査
- ・鹿児島文化サロン 委員として年3回開催 参加
- ・鹿児島市子ども子育て会議 委員として参加
- ・小児膠原病親子の会「ひまわりの会」参加

表彰 2016年6月18日 鹿児島県医師会表彰

【予防接種件数】（平成28年1月1日～平成28年12月31日）

	ロ タ ウ イ ル ス	B C G	ヒ ブ	イ ン フ ル エ ン ザ	お た ふ く	麻 し ん 風 し ん	B 型 肝 炎	日 本 脳 炎	四 種 混 合	水 痘	二 種 混 合	肺 炎 球 菌	ポ リ オ	合 計
1月	14	4	30	39	8	7	12	12	22	8	3	29	1	189
2月	10	4	20	6	3	9	4	11	19	6	5	20	1	118
3月	11	6	26	0	3	5	4	15	23	8	4	26	0	131
4月	14	0	23	0	3	4	7	13	19	8	0	23	0	114
5月	9	6	18	0	2	4	7	7	19	9	1	18	1	101
6月	9	5	27	0	9	5	6	14	34	19	4	27	1	160
7月	8	7	19	0	7	8	2	12	16	5	2	19	0	105
8月	13	5	27	0	6	8	6	24	25	4	17	27	0	162
9月	5	6	18	0	7	19	6	15	24	11	3	18	1	133
10月	7	7	17	39	2	10	17	10	20	9	2	17	1	158
11月	6	3	16	206	0	3	19	19	14	7	0	16	3	312
12月	10	4	13	205	5	3	13	28	16	9	3	13	2	324
総合計	116	57	254	495	55	85	103	180	251	103	44	253	11	2,007

堀之内 兼一

- ・ 鹿児島市医師会学校腎臓病検診 3次検診の受け入れ
- ・ 鹿児島市医師会学校腎臓病検診 委員、年一回委員会出席

【平成29年度計画】

銚之原昌医師、堀之内兼一医師、堀之内泉医師、上野さやか医師、玉田泉で引き続き診療にあたります。

玉田 泉

- ・ 鹿児島市医師会学校糖尿病検診 精査症例受け入れ
- ・ 鹿児島市小児生活習慣病予防検診 精査症例受け入れ
- ・ 新生児マススクリーニング（鹿児島県）クレチン症・副腎皮質過形成症疑い精査症例受け入れ
- ・ 1型糖尿病家族会「さくらんぼの会昭和会支部」指導医、年に2回定例会
- ・ 1型糖尿病サマーキャンプ指導医として参加
- ・ ターナー症候群家族会「MIRAIの会」、年に2回定例会参加
- ・ 鹿児島県小児慢性特定疾患対策協議会委員、年12回審査会、年一回委員会
- ・ 鹿児島県先天性代謝異常等検査連絡協議会委員、年1回協議会

・ その他

3月、8月には医師会主催のこども予防接種週間に参加して予防接種業務を行いました。



泌尿器科

部長 立和田得志

平成 28 年は、中目康彦、立和田得志、米澤智一、黒島和樹の常勤医 4 名、及び非常勤医 西山賢龍（前鹿児島大学泌尿器科准教授）で診療を行いました。

診療する領域は、副腎、尿路（腎、尿管、膀胱、尿道）及び男性生殖器（前立腺、陰茎、精巣）の悪性腫瘍を中心に、良性疾患である前立腺肥大症や尿路感染症、尿路結石、女性の骨盤臓器脱（膀胱脱、子宮脱など）まで、内科的治療、外科的治療、放射線治療などを単独もしくは組み合わせて治療しています。

（急性腎不全、慢性腎不全に対する血液透析は入院患者さんのみに行っており、外来維持透析は行っていません。）

当院ではCT検査まですぐに行える体制ですので、可能な限りその日のうちに診断、治療をたてるようにしています。

手術は腹腔鏡手術に力をいれており、腹腔鏡技術認定医が3名在籍し、平成29年4月からは鹿児島県内では最多となる4名体制となります。3D内視鏡システムを導入しており、精度の高い手術が可能となり、早期腎癌に対する腎部分切除や筋層浸潤性膀胱癌に対する膀胱全摘術もほぼすべて腹腔鏡下に行っています。

前立腺癌に対しては、腹腔鏡手術から密封小線源治療（ブラキセラピー）を含む放射線治療まで行っており、個々の患者様にあった治療の選択が可能です。

【スタッフ紹介】

部長 中目 康彦

日本泌尿器科学会専門医・指導医
日本透析医学会 認定医

部長 立和田 得志

日本泌尿器科学会専門医・指導医
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
日本泌尿器内視鏡学会
泌尿器腹腔鏡技術認定医
医学博士（鹿児島大学）

科長 米澤 智一

日本泌尿器科学会専門医・指導医

黒島 和樹

【2016 年主な主要手術】

分類	手術	例数
前立腺	腹腔鏡下前立腺全摘術	77
	経尿道的前立腺切除術	47
	密封小線源治療	12
腎 副腎 尿管	腹腔鏡下副腎摘出術	2
	腹腔鏡下腎摘出術	5
	腹腔鏡下腎部分切除術	16
	腹腔鏡下尿管全摘術	11

分類	手術	例数
膀胱	腹腔鏡下膀胱全摘術+代用膀胱造設術	2
	腹腔鏡下膀胱全摘術+回腸導管造設術	2
	腹腔鏡下膀胱全摘術+尿管皮膚瘻造設術	1
	開腹全尿路全摘術	1
	経尿道的膀胱腫瘍切除術	77
骨盤臓器脱	TVM手術	4

（平成29年1月より腹腔鏡下仙骨腫固定術を開始しました。）



眼科

部長 高橋 範雅

当科では白内障、網膜硝子体疾患、緑内障、加齢黄斑変性症など眼にかかわる様々な疾患の患者様へ、最新の医療機器やシステムを用いた高度かつ安全な治療を提供することを使命としております。

当院が総合病院である特色を生かし、糖尿病や心疾患など全身状態に不安のある患者様や高度な技術を要する難症例手術、また緊急を要する眼疾患にも入院での治療が可能です。

このため、県内全域の医療機関様からのご紹介患者様や離島地域からの患者様も多数来院されています。

当科年間手術数1500件の9割が、これら地域からのご紹介患者様です。

そのため術後は御自宅近くの紹介元の医療機関様へ速やかにお戻り頂く方針をとっており、患者様やその家族の皆様の通院に伴う負担を軽くするように努めております。

なお当院では毎日手術を実施しているため、白内障手術の順番待ち期間はほとんどありませんので、お急ぎの方はご相談下さい。また遠隔地からの患者様は術前検査のために何度も通院することが難しいため、初診日当日に手術をお受けになることも可能です。

また、紹介状をお持ちでない初診患者様でも診察が可能ですので、気になる症状がある場合はお気軽に受診して下さい。

【スタッフ紹介】

高橋 範雅 (たかはし のりまさ)
2005年昭和大学医学部卒業
(取得資格)
日本眼科学会認定眼科専門医
(所属学会)
日本眼科学会

吉田 健也 (よしだ けんや)
2011年東邦大学医学部卒業
(所属学会)
日本眼科学会
日本眼科手術学会
日本白内障屈折矯正手術学会

[看護]

看護師：川崎・有村・中村・中原・窪田・稲森

[検査]

視能訓練士：丸山・川畑(真)・川畑(直)・今吉・並松
眼科検査員：木之下・鳥原

[事務]

受付：赤塚・泊
秘書：日高・久富・岩元

【診療状況】

外来新患者数	889名
外来再診数	8,675名
入院患者数	1,052名

【手術件数】

白内障手術	931件
眼内レンズ縫着術	38件
硝子体手術	122件
増殖硝子体網膜症手術	17件
緑内障手術	24件
硝子体内注射	197件
その他手術	211件
合計	1540件

【講義】

久木田学園看護専門学校
病態学Ⅳ 眼科系 2016年9月 毎週金曜日
吉田 健也



気管食道・耳鼻いんこう科

部長 昇 卓 夫

【スタッフ】

福田勝則 部長

医学博士、日本耳鼻咽喉科学会専門医
鹿児島大学医学部卒

昇 卓夫 院長

医学博士、日本耳鼻咽喉科学会専門医
日本気管食道科学会専門医、補聴器相談医
鹿児島大学臨床教授、久木田学園非常勤講師
鹿児島大学医学部卒

鎌田知子 医師

信州大学医学部卒

非常勤医師：

宮崎康弘医師 今村洋子医師

【入院患者内訳(非手術例)】

(2016年1月1日～12月31日)

突発性難聴 (治療効果判定) 治癒：13例18.6%、著明回復13例18.6%、 回復11例15.7%、不変33例47.1% ；1984年厚生省特定疾患突発性難聴研究班に よる判定	70例
顔面神経麻痺 (ベル麻痺、ラムゼイ・ハット症候群)	11例
めまい (メニエル等)	10例
その他耳疾患	5例
扁桃周囲膿瘍 (炎)	19例
急性咽喉頭炎、扁桃炎等	16例
急性喉頭蓋炎	19例
鼻出血	6例
その他鼻疾患	5例
頸部膿瘍他膿瘍	3例
非手術例の入院総症例数	164例

【手術実績】 (2016年1月1日～12月31日)

手術総件数 636件

a) 耳科領域 107件

鼓膜チューブ留置術	22件
先天性耳瘻孔手術	5件
鼓膜形成術	7件
鼓室形成術	5件
鼓膜切開術	62件
その他	6件

b) 鼻科領域 378件

鼻内副鼻腔手術 (内ナビゲーション手術134件)	143件
下鼻甲介切除術	140件
鼻中隔矯正術	69件
鼻粘膜電気焼灼術	22件
その他	4件

c) 口腔・上中咽頭領域 103件

口蓋扁桃摘出術	73件
扁桃周囲膿瘍切開	11件
アデノイド切除術	10件
口蓋扁桃切除術	2件
その他	7件

d) 喉頭・気管(支)・下咽頭・食道領域 27件

(内悪性腫瘍2件)	
声帯ポリープ・結節切除術	19件
その他	8件

e) 顔面・頸部等領域 21件

唾液腺腫瘍	4件
がま腫	1件
唾石 (含顎下腺) 摘出術	8件
その他	8件



皮膚科

医長 畠中 美帆

平成28年4月から畠中 美帆が担当しました。

【診療内容・特徴】

県内でも有数の入院施設を有する皮膚科として、湿疹、アレルギー疾患、細菌・真菌・ウイルス感染症などのcommon diseaseから、膠原病や自己免疫性疾患、腫瘍性疾患まで、皮膚疾患全般を診療しております。

総合病院の皮膚科であるメリットを生かして必要に応じて他科や周囲の医療機関と連携をとり、多くの患者様へより良い医療のご提供ができるよう努めて参ります。

【スタッフ紹介】

医長 畠中 美帆

〈所属学会〉

日本皮膚科学会

日本研究皮膚科学会

日本皮膚悪性腫瘍学会

日本フットケア学会

非常勤医師 児浦 純生

医学博士 日本皮膚科学会専門医

鹿児島大学医学部臨床教授

〈所属学会〉

日本皮膚科学会

日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会

非常勤医師 矢後 紗葵子

〈所属学会〉

日本皮膚科学会

【昭和会クリニック 外来診療体制】（2016年4月～2017年3月）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
AM	畠中・児浦	畠中・矢後	畠中・児浦	畠中・矢後	畠中・児浦	非常勤医
PM	休診	休診	休診	休診	休診	

【外来患者・紹介患者数：最近5年間の動態】（病院・クリニック）

	平成24年度			平成25年度			平成26年度			平成27年度			平成28年度		
	初診	再診	計												
4月	199	677	876	241	755	996	234	733	967	180	676	856	174	559	733
5月	269	762	1031	235	736	971	219	727	946	285	647	932	195	639	834
6月	254	766	1020	287	717	1004	230	721	951	214	718	932	221	694	915
7月	418	784	1202	336	878	1214	256	819	1075	259	725	984	230	721	951
8月	368	825	1193	371	775	1146	286	835	1121	258	741	999	319	715	1,034
9月	226	696	922	242	696	938	272	809	1081	172	641	813	198	677	875
10月	230	817	1047	226	764	990	203	797	1000	237	703	940	226	635	861
11月	196	728	924	225	675	900	172	685	857	153	545	698	152	630	782
12月	183	641	824	239	728	967	158	689	847	160	628	788	173	650	823
1月	275	623	898	196	619	815	143	621	764	129	543	672	154	557	711
2月	197	651	848	178	635	813	173	607	780	176	566	742	157	555	712
3月	258	728	986	209	666	875	180	682	862	179	642	821	157	646	803
計	3,073	8,698	11,771	2,985	8,644	11,629	2,526	8,725	11,251	2,402	7,775	10,177	2,356	7,678	10,034
紹介患者数	236			227			262			285			297		

【入院患者数：最近5年間の動態】

	平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度	
	新入院	延入院	新入院	延入院	新入院	延入院	新入院	延入院	新入院	延入院
4月	3	31	5	187	6	56	7	92	3	64
5月	8	74	1	62	5	32	5	51	9	145
6月	10	47	10	110	10	97	3	57	6	98
7月	10	107	13	134	7	84	10	113	11	83
8月	8	107	10	211	6	147	4	76	5	109
9月	6	23	7	134	7	143	8	111	9	132
10月	12	127	8	94	7	111	8	143	2	47
11月	13	103	4	106	8	200	7	148	9	79
12月	3	80	10	98	3	74	9	157	4	127
1月	6	64	5	92	3	43	6	139	7	111
2月	6	84	1	89	9	93	3	171	2	99
3月	4	116	5	84	5	89	5	86	7	104
計	89	963	79	1,401	76	1,169	75	1,344	74	1,198

【手術件数】（2016年）

76件

【講義】

久木田学園看護専門学校（皮膚科学総論・各論）



麻酔科

部長 池田 耕 自

当院における麻酔科の診療内容は手術麻酔、集中治療室等における重症患者管理等です。

今年度における麻酔科の陣容は、4～5名の麻酔科常勤医と非常勤医4～6名（週4回1名、週3回1名、週1回2～4名）体制でした。さらに卒後研修医7名の研修を行いました。

平成28年度の今給黎総合病院における麻酔科管理症例数は2,440件でした。（患者様の平均年齢は55.6歳 最高齢は98歳）この内、緊急手術は187件（時間外118件）であり全体の7.7%（4.8%）程度を占めます。手術室は6室有り、最大で7件の同時並行手術が可能です。

各科別の麻酔件数は、整形外科 866 件（35.6%）、形成外科 271 件（11.1%）、泌尿器科 269 件（11.0%）、耳鼻咽喉科 268 件（11.0%）、外科 248 件（10.1%）、産科婦人科 170 件（7.0%）、歯科口腔外科 169 件（6.9%）、呼吸器外科 142 件（5.8%）、脳神経外科 35 件（1.4%）、眼科 2 件（0.1%）といった現状でした。

麻酔症例内訳	
総症例数（緊急）	2,440（187）
全身麻酔	1,743
全麻＋硬麻等	220
脊麻・硬麻等	467
伝達麻酔	0
その他	10

【各科別麻酔依頼件数】

	件数 (%)	緊急
整形外科	866 (35.6)	57
形成外科	271 (11.1)	11
泌尿器科	269 (11.0)	3
耳鼻咽喉科	268 (11.0)	5
外科	248 (10.1)	38
産科婦人科	170 (7.0)	67
歯科口腔外科	169 (6.9)	0
呼吸器外科	142 (5.8)	2
脳神経外科	35 (1.4)	4
眼科	2 (0.1)	0
その他	0	0

【ICU】

平成28年のICU入室件数は623件です。各科の内訳は以下の通りです。

【各科別 ICU 入室者数】

科名	入室者数
外科	125
呼吸器外科	120
整形外科	125
泌尿器科	122
脳神経外科	68
神経内科	8
産婦人科	10
麻酔科	4
循環器内科	6
呼吸器内科	6
形成外科	23
消化器内科	5
総合内科	1
耳鼻科	0
小児科	0
合計	623

麻酔科管理患者は 4 名で内訳は心肺停止蘇生後 1 名、急性薬物中毒 1 名、アナフィラキシー 1 名、意識障害 1 名でした。

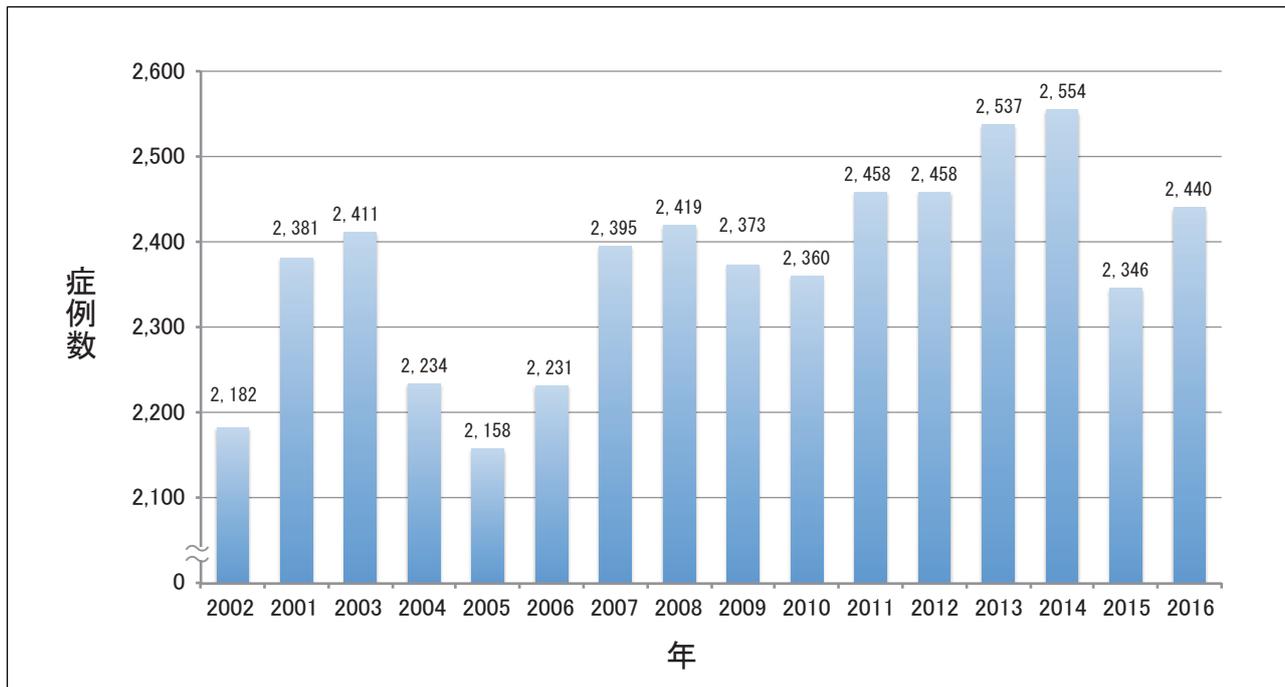
【麻酔科医名】

池田 耕自
 西山 淳 (平成17年10月～)
 山下 順正 (平成23年7月～)
 村山 裕美 (平成23年7月～平成28年8月)
 鬼塚 一聡 (平成27年10月～平成28年6月)
 針持 想 (平成28年7月～)

研修医

今村 研介 (平成28年3月～平成28年4月)
 寫寄 創平 (平成28年5月)
 横山 浩子 (平成28年7月～8月)
 黒島 知樹 (平成28年9月)
 辻 紘明 (平成28年10月)
 中村 毅 (平成28年12月～平成29年1月)
 白石 一光 (平成29年3月)

【麻醉科管理症例数年次推移】





放射線診断科

部長 鉾立博文

【診療内容・特色】

当院では画像診断機器として CT (64 列：2機、16 列：1 機械)・MRI (1.5T：2 機)、RI・血管造影装置 (Cone-beam CT)・透視装置 2 機・乳房 X 線装置・マンモトームなどを備えています。平成 23 年度に CT・MRI・RI 装置を更新し、PACS・フィルムレス運用にて画像診断を実施しています。救急患者に対する緊急 CT などの読影も on call 対応しています。また、院内で定期的に行われる整形外科・呼吸器・消化器・循環器・脳神経・泌尿器科系のカンファレンスに積極的に参加して画像診断・日常診療の質の向上に務めています。

画像診断情報を元にして低侵襲的な治療法を行う IVR (Interventional radiology: 画像下治療) の手技を必要に応じて実施しています。主に原発性肝癌や転移性肝癌に対する肝動注化学 (塞栓) 療法 TA(C)E や膀胱癌などへの動注化学療法、外傷に伴う肝臓・脾臓・腎臓などの臓器損傷や咯血・血胸・腫瘍性病変からの出血に対するカテーテルを用いた動脈塞栓術、US/CT ガイド下生検・膿瘍ドレナージなどに取り組んでいます。その他、各診療科と協力して IVC フィルター留置・消化管ステント・四肢などの血管奇形に対する血管内治療なども行なっています。

【人事・スタッフ紹介】

部長 鉾立博文

〈資格〉 日本医学放射線学会 放射線診断専門医
日本 IVR 学会 専門医・代議員
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
検診マンモグラフィ読影認定医
緩和ケア研修会修了医
医師臨床研修指導医養成講習修了医
医学博士(鹿児島大学)

医師 篠原哲也 (平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月)

高江洲 伸 (平成 28 年 10 月～平成 29 年 3 月)

クリニック院長 大久保幸一

〈資格〉 日本医学放射線学会 放射線診断専門医
検診マンモグラフィ読影認定医
医学博士(鹿児島大学)

非常勤医師

中條正典(鹿児島大学)

瀬之口輝寿(鹿児島大学)

【検査件数】(2016 年 1 月～12 月)

	件数
一般撮影	40,528
X線CT	13,901
MRI	5,784
RI	472
DSA/AG	255
骨塩定量	440
透視・造影撮影	1,178

【主病名別入院患者数】

肝細胞癌	18
食道癌	9
転移性骨腫瘍	8
肺癌	5
転移性脳腫瘍	5
膵臓癌	4
直腸癌	3
乳癌	2
胃癌	1
結腸癌	1
肛門直腸癌	1
子宮癌	1
末梢性T細胞リンパ腫	1
腹部大動脈リンパ節転移	1
転移性肺腫瘍	1
転移性肝腫瘍	1
円蓋部髄膜腫	1
うっ血性心不全	1
後頭骨骨折	1
肺動静脈瘻	1
IgG4関連疾患	1
総計	67

【悪性新生物原発巣別患者数】

肝癌	19
肺癌	13
食道癌	10
直腸癌	6
膵臓癌	4
乳癌	3
胃癌	2
結腸癌	1
肛門直腸癌	1
肝内胆管癌	1
子宮癌	1
末梢性T細胞リンパ腫	1
総計	62

【IVR 症例内訳】

胆道（PTCD, PTGBD, ステントなど）	24
CT/USガイドドレナージ	15
CT/USガイド生検	6
動注化学療法	17
消化管（ステント, PTEG）	9
IVCフィルター留置・抜去	3
CVポート留置・CV挿入	13
その他	34
総計	121

【平成 29 年度の計画】

平成28年度は、それまでの二人減員の状況から大学派遣が一人復活し10月からは更に一人復活したこともあり縮小していた業務内容を従来通りの入院病棟管理をやりながらの画像診断・IVRを徐々に復活させ体制整備をしてきました。最近では初期研修医の増加で当科へのローテート希望者も多く基本症例のテーチングファイルなどの体制整備を引き続き進めていく予定です。ただ、画像診断に関する業務においてはあいかわらず非常勤医師の応援を頂きながらの報告書作成となっており、特に平成29年度は再び常勤医師の減員となる予定であり新病院への移転も踏まえ常勤医師数復活を待ちたいところです。

平成29年度は日本専門医機構の新たなる施設認定も始まり読影体制の整備・IVR症例の増加が必須となります。また、本年も初期研修医のローテーターが当科を選択しており引き続き放射線診断学・IVRの魅力を発信していきたいと思っております。

※学会関連は[研究実績]に掲載



放射線治療科

部長 中禮久彦

当院での本格的な放射線治療のための「リニアックセンター」が平成19年10月に開設されて早いもので10年を過ぎようとしております。

近隣施設での放射線治療装置の新規設置や更新が相次ぐ中で、平成28年の当院でのリニアック外部照射及び前立腺シード患者総数はいずれも前年平成27年よりやや増加しておりました。当院院内からは原発巣は呼吸器系で肺癌、泌尿器系で前立腺癌が多数を占めております。加えて鹿児島市内の照射装置を有さない有力がん診療病院からの紹介も常日頃いただいております。全身化学療法の進歩による処でしょうか、以前よりオリゴメタスタシスの状態と思われる癌患者様に対する準根治照射の割合が漸増しているように感じます。

鹿児島大学放射線科医局の吉浦教授のご厚意で、仮屋先生の交代で平成28年4月から池田先生と篠原先生へ増員、池田先生の交代で9月から高江洲先生が常勤医として当科を支えていております。彼ら皆、新進気鋭の優秀な若手放射線科医で将来を嘱望されます。また診断科部長の銚立先生には膨大なCT・MRI読影やIVR業務で多忙を極める中にあっても、赴任以来変わらず快く治療業務のご協力をいただいております。大学医局の先生方にはこの場をお借りして深く感謝を申し上げます次第です。

老朽化した当院の移転新築先が高麗町の交通局跡に昨年決定いたしました。近年他院に比べて遅れをとっていた当院放射線治療関連機器が平成32年の新病院開設時には時流に合わせて最新のものに更新されるものと期待しております。移転先が病院を含む複合施設であることの煩雑さや予算確保の困難さの中にあって、大久保院長先生には計画立案及び実行に日々大変なご尽力をいただいております。関係皆様方におかれましても新病院への新たな照射装置設置にご理解及びご高配を心からお願いを申し上げます次第です。

周囲の熟練した経験豊かなスタッフに支えられながら、充実した日常診療及び教育に従事させていただいております。微力ながら鹿児島のがん患者様のお役に立てるべく、今後も謙虚に日々精進して参りたいと考えております。

【スタッフ紹介】

放射線治療科 部長 中禮久彦

〈経歴・資格〉

- 平成元年 宮崎医科大学卒業
鹿児島大学医学部放射線科入局 研修医
- 同 3年 国立がんセンター中央病院
放射線治療部レジデント（国内留学）
- 同 6年 一誠会 三宅病院
- 同 7年 今給黎総合病院放射線科
- 同 8年 鹿児島大学医学部放射線科 医員
- 同 9年 同上 助手
- 同 17年 同上 講師
- 同 18年 同上退局
今給黎総合病院放射線科 治療部長
- 平成 9年 日本医学放射線学会 専門医(第 2999 号)
- 同 12年 博士学位(鹿児島大学 医論第 1267 号)
- 同 13年 日本放射線腫瘍学会 認定医(第 336 号)
- 同 25年 研修指導者認定
(日本医学放射線学会 第 R07590R0 号)

【平成28年 診療状況】

○主な原発巣別

リニアック照射新患者数(全：196名) 内訳

呼吸器系(肺・気管・縦隔)	56名 (内 肺：50名、上大静脈症候群：3名)
泌尿器系	40名(内 前立腺：23名)
消化管系(食道・胃・腸)	35名(内 食道：13名)
肝・胆・膵系	16名
乳腺計	14名(内 乳房温存術後：6名)
骨	46名(内 脊髄圧迫症候群：3名)
脳	13名

○リニアック照射新患及び再患者数 主な転移 内訳

骨	46名(内 脊髄圧迫症候群：3名)
脳	13名

○定位集光照射(SRT)新患者数 内訳

肺：5名	脳：1名	肝：2名
------	------	------

○前立腺シード【全12名】

※学会関連は[研究実績]に掲載



緩和医療科

部長 松添大助、小玉哲史

【身体症状担当；松添大助】

《緩和ケアチームメンバー》

身体症状担当医師：松添大助

精神腫瘍担当医師：小玉哲史

専従看護師：早崎玲子、岩山友紀

保健師：植屋明代

MSW：吉國久子

薬剤部：尾上博隆、財間富士子、中目貴子、前島一友

リハビリテーション部：木原智美、重水智子、高田奨、古市寿子、宮之原俊一

栄養管理部：田中美帆

平成28年3月5-6日 鹿児島大学病院
コミュニケーション担当

平成28年5月28-29日 県立薩南病院
気持ちのつらさ・せん妄担当

平成28年7月10日 国立病院機構 南九州病院
コミュニケーション担当

平成28年8月21日 済生会川内病院
コミュニケーション・不眠担当

平成28年9月17-18日 県民健康プラザ
鹿屋医療センター
コミュニケーション担当

平成28年10月22-23日 今給黎総合病院
コミュニケーション担当

《講義》

鳳凰高等学校看護学科専門課程

2016年5月～6月

呼吸器疾患：10時間、緩和ケア概論：2時間

鹿児島医療センター緩和ケア研修会

2016年1月10日 緩和ケア概論、呼吸困難

鹿児島大学緩和ケア研修会

2016年3月5日 呼吸困難

南九州病院緩和ケア研修会

2016年7月3日 緩和ケア概論

南風病院緩和ケア研修会

2016年11月19日 呼吸困難

【精神腫瘍担当；小玉哲史】

2016年の精神科診察のコンサルトは129件であり、依頼内容としては例年と同じくせん妄が最多であった。社会全体が高齢化している時代背景からはこの傾向は今後も変わらないものと推測され、認知機能低下を含めた高齢化への対応を病院全体としても取り組む必要があると考えられる。

精神科もしくは心療内科の受診歴が確認できた患者のコンサルトは48件で、精神疾患診療体制加算2の算定件数は4月から12月までの間で18件だった（年度末には20件以上を達成）。加算対象でも精神症状が安定していると3日以内のコンサルトにつながっていない例が散見されており、加算内容の周知を徹底していきたい。

《講義》

がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会

平成28年1月11日 鹿児島医療センター

コミュニケーション担当

【緩和ケア依頼のべ件数（2016年1月～12月）】

	外来	入院
呼吸器内科	10	40
外科	10	23
呼吸器外科	10	32
整形外科		6
泌尿器科	4	18
婦人科	1	49
血液内科		7
消化器内科	1	31
放射線科		10
神経内科		2
麻酔科	1	
形成外科		1
循環器内科		1
他院	1	
計	38	220

【依頼内容】（複数重複あり）

	外来	入院
疼痛コントロール	29 76.3%	91 41.4%
疼痛以外の身体症状	14 36.8%	41 18.6%
メンタルケア	7 18.4%	150 68.2%
家族ケア	2 5.3%	46 20.9%
退院・転院支援	2 5.3%	28 12.7%

※学会関連は[研究実績]に掲載



病理診断科

部長 白 濱 浩

2016年は田代の退職に伴い、常勤病理医1名となり数名の非常勤医の応援を頂いての運営となりました。それに伴い診断のダブルチェックが出来ない症例があり、細心の注意が必要となっています。

業務内容としましては、組織診断、細胞診断、病理解剖の3分野と遺伝子検査も行っております。特に肺癌での遺伝子検査がより細分化されてきており、本年度はロシュ社製Cobas EGFR変異検出キットを導入し、より詳細な遺伝子変異を検出できるようになりました。今後もより迅速で正確な診断を行うため努力していく所存です。

細胞診ではこれまでシュアパス法にて手作業で液状化検体標本を作成していましたが、液状化検体細胞診システム「Cellprep」を導入いたしました。標本作成法の変更に伴い診断の「慣れ」も必要となり、安定には時間を要しました。また技師の有村が細胞検査士の資格を取得しました。今後の活躍が期待されます。

【病理部スタッフ】

医師

白 濱 浩

日本病理学会病理専門医

日本臨床細胞学会細胞診専門医

日本病理学会病理専門医研修指導医

臨床検査管理医

鹿児島大学医学部臨床教授

技師

徳永 敬之（臨床病理技術士）

肥後 真（臨床検査技師、国際細胞検査士）

新村 泰子（臨床検査技師）

田辺 尚子（臨床検査技師、国際細胞検査士、鹿児島県臨床細胞学会理事）

有村 郷司（臨床検査技師）

【院外活動】

- 1) 子宮の日キャンペーン活動（実行委員長：田邊、実行委員：有村） H28. 4. 10
- 2) 細胞検査士養成研修会（総論）スタッフ（田邊） H28. 06. 12
- 3) 細胞検査士養成研修会（消化器）スタッフ（田邊） H28. 09. 11
- 4) 細胞検査士養成研修会（総合1）スタッフ（田邊） H28. 10. 02
- 5) 平成28年度 全国検査と健康展（田邊） H28. 11. 03
- 6) 細胞検査士養成研修会（総合2）スタッフ（田邊） H28. 11. 13

※学会関連は[研究実績]に掲載

組織診および細胞診検体数

	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
組織件数	4,065	4,039	3,727	3,042	2,787
細胞診件数	2,689	2,689	2,453	2,461	2,521

組織診断統計(2016年1月1日～12月31日)

	生検		内視鏡切除など		切除		合計
	全件	悪性	全件	悪性	全件	悪性	
心血管	0	0	0	0	0	0	0
血液・骨髄・脾	7	4	3	0	2	0	12
リンパ節	11	9	8	4	153	33	172
鼻・咽頭・喉頭	68	3	47	1	8	0	123
肺	85	40	1	0	107	75	193
胸膜・縦隔・腹膜	8	2	0	0	21	11	29
口腔・唾液腺	5	0	9	0	57	1	71
食道	34	10	4	4	2	2	40
胃・十二指腸	220	26	20	12	12	9	252
小腸	7	1	0	0	14	3	21
大腸・肛門	170	37	202	22	65	34	437
肝・胆・膵	7	0	0	0	66	18	73
腎・尿路男性	130	76	127	75	211	119	468
女性器	82	8	21	3	108	11	211
乳腺	9	7	0	0	9	7	18
内分泌	2	0	0	0	6	2	8
中枢末梢神経	3	3	0	0	1	0	4
耳・眼	4	2	0	0	4	0	8
皮膚	174	20	2	1	623	35	799
骨・関節	31	9	2	0	13	1	46
軟部	7	3	0	0	111	2	118
その他	23	10	31	1	73	0	127
合計	1,087	270	477	123	1,666	363	3,230

細胞診断統計(2016年1月1日～12月31日)

	陰性	擬陽性	陽性	材料不適	合計
婦人科(内膜)	113	8	5	0	126
呼吸器	223	40	179	13	455
消化器	43	6	2	1	52
泌尿器	410	76	58	0	544
乳腺	14	13	18	9	54
甲状腺	20	9	1	19	49
体腔液	186	19	56	0	261
リンパ節	5	1	7	1	14
その他	30	5	9	0	44
総件数	1,044	177	335	43	1,599

婦人科(腔頸部)

NILM	ASC-US	ASC-H	LSIL	HSIL	AGC
747	67	22	47	25	6
SCC	Adeno. Ca.	AIS	Other Malig	検体不適	合計
2	2	0	3	1	922

総件数 2,521

・術中迅速診断：139件

(H24年度:255件、H25年度:218件、H26年度:193件、H27年度:164件)

・院外からの免疫染色依頼(パラフィン切片による)：1,587件

(H24年度:1,405件、H25年度:1,639件、H26年度:1,787件、H27年度:1,942件)



在宅診療科

部長 林 茂 昭

【診療科紹介】

平成28年12月現在、在宅診療科は医師2名が在籍しており、通院が困難で自宅療養を希望されている方を対象に訪問診察を行っています。訪問診察には当科2名の医師が中心となり、他科医師の協力も頂き、また理学・作業療法士及び在宅医療部の保健師・看護師と連携を図りつつ訪問診察を行っています。基本的に、臨時往診は行わず、2回/月の定期訪問診察を行っています。

当科以外に、神経内科1名、総合内科3人の先生に御協力を頂き、日々の診療を行っています。

【スタッフ紹介】

常勤医

林 茂昭 日本内科学会認定内科医、日本内科学会総合内科専門医、日本神経学会専門医
甲斐 太 日本内科学会認定内科医、日本神経学会専門医

訪問診察医師

甲斐医師、林医師、生野医師(総合内科)、二木医師(総合内科)、三宅医師(総合内科)、
白元医師(神経内科)

【診療状況】

平成28年12月31日において当院在宅医療部の訪問診療を受けられた方は26名となっています。

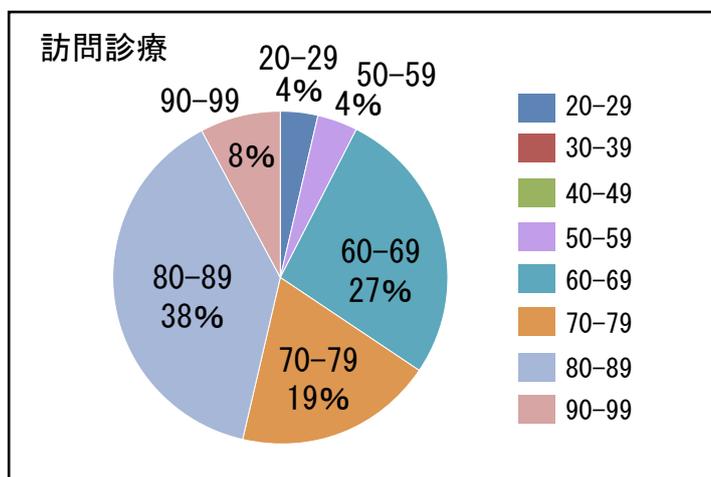
全身状態が悪化した場合は、在宅で対応する場合もあれば、入院での治療も行っております。高齢の方が多く、入院回数が多くなるとともにご本人の介護度が高くなり、介護者の負担が増大し自宅での介護が困難となり、療養型病院に入院または入院施設入所となる方、あるいは亡くなられた方もおられます。H28年の診療実績は下記のような状況であります。

【年間訪問診察患者数】

年間訪問診察患者総数 49名 (男性 22名 女性27名) (訪問診察 : 26名 男性 11名 女性 15名)

【患者年齢】

年代	人数	(訪問診察)
20-29	1	1
30-39	0	0
40-49	0	0
50-59	4	1
60-69	10	7
70-79	15	5
80-89	14	10
90-99	5	2
合計	49	26



【平成 28 年 月別訪問診察人数（緩和医療科分は含めず）】（平成28年1月1日～平成28年12月31日）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
人数	18	18	17	17	16	17	18	19	21	21	22	23
入院数	3	1	4	3	3	1	1	2	3	3	1	1
終了：死亡	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
終了：その他	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0

【平成 27 年 月別訪問診察人数（緩和医療科分は含めず）】（平成27年1月1日～平成27年12月31日）

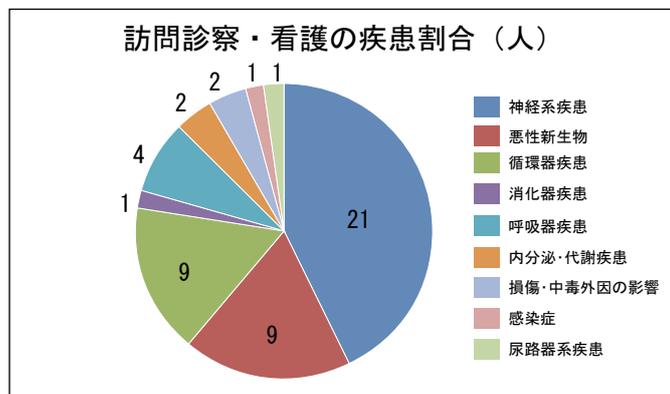
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
人数	13	14	14	13	14	15	16	16	16	15	15	16
入院数	2	0	3	4	3	0	0	1	4	2	6	5
終了：死亡	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
終了：その他	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0

【平成 26 年 月別訪問診察人数（緩和医療科分は含めず）】（平成26年1月1日～平成26年12月31日）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
人数	19	18	18	18	19	20	18	16	16	15	13	13
入院数	3	1	2	1	4	5	3	5	3	3	3	3
終了：死亡	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
終了：その他	1	0	1	0	0	2	1	0	1	2	0	0

【平成 28 年度 主疾患名（訪問診察、訪問看護）】

疾患名	(人)
神経系疾患	21
悪性新生物	9
循環器疾患	8
消化器疾患	1
呼吸器疾患	4
内分泌・代謝疾患	2
損傷・中毒外因の影響	2
感染症	1
尿路器系疾患	1



【平成 28 年 月別訪問看護件数】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計（件）
訪問診察 （緩和診察）	33 (0)	33 (0)	29 (0)	32 (1)	30 (1)	30 (0)	31 (0)	34 (2)	37 (3)	35 (1)	42 (2)	43 (0)	409 10
訪問看護	77	108	109	101	91	115	116	126	103	95	97	97	1,235
訪問リハビリ	2	5	3	3	4	4	3	4	3	3	4	4	42
合計（件）	112	146	141	136	125	149	150	164	143	133	143	144	1,686

【平成 27 年 月別訪問看護件数】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計 (件)
訪問診察 (緩和診察)	27 (4)	27 (0)	23 (0)	19 (0)	28 (3)	29 (0)	32 (1)	31 (0)	26 (0)	28 (0)	28 (0)	30 (0)	328 (8)
訪問看護	113	106	101	103	88	124	119	100	86	95	89	107	1,231
訪問リハビリ	3	4	5	4	3	5	3	5	3	3	4	3	45
合計 (件)	143	137	129	126	119	158	154	136	115	126	121	140	1,604

【平成 26 年 月別訪問看護件数】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計 (件)
訪問診察 (緩和診察)	31 (0)	34 (3)	37 (3)	38 (4)	33 (0)	33 (0)	35 (4)	35 (8)	38 (8)	31 (5)	25 (1)	24 (3)	394 (39)
訪問看護	81	83	96	103	101	96	103	97	104	126	109	109	1,208
訪問リハビリ	4	5	7	7	3	5	3	4	4	3	2	4	51
合計 (件)	116	122	140	148	137	134	141	136	146	160	136	137	1,653



歯科

部長 鎌田 ユミ子

【診療内容・特色】

平成18年8月に歯科口腔外科が開設し、当初は歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士、受付各1名のスタッフと非常勤歯科医師でスタートしました。その後、一般の歯科治療や口腔ケアを必要とする患者様の増加に伴い、平成24年4月に新たに歯科を開設しました。

診療は、主に今給黎総合病院入院中の患者様や他科からの紹介患者様、本院職員の歯科治療や口腔ケアを昭和会クリニック歯科外来にて行っています。また、入院患者様で外来受診できない方には、随時、病室へ往診して診療しています。

診療内容は、う蝕・根管治療、歯周治療、冠やブリッジ、義歯などの補綴治療です。

一般の歯科診療に加え、病院歯科でもあることから、入院患者様の口腔ケアにも積極的に取り組んでいます。高齢者や寝たきりの患者様は、ご自身で口腔ケアをできないことが多く、口腔内汚染が進んだり、飲み込む力が低下したりするなど誤嚥性肺炎を発症するリスクが高くなります。この予防には、口腔ケアが有効であると言われており、平成22年6月に院内の多職種が集まり、口腔ケアチームを立ち上げ、定期的に勉強会や研修会を開催したり、口腔ケアの病棟ラウンドを行ったりして、入院患者様の口腔ケアの質の向上を図り、誤嚥性肺炎予防に寄与できるように努めています。また、口腔ケアチームメンバーは、多職種の集まりであるため、口腔ケア学会参加や学会認定資格を取得するなどして口腔ケアに関する知識やスキルの向上に努めています。

また、院内のNST（栄養サポートチーム）にも参加しており、NST対象患者様の口腔アセスメントを行い、栄養状態がよくない患者様の口腔内や入れ歯の問題の早期発見に努めています。NST対象の患者様はご高齢の方も多く、入れ歯の調子や口腔衛生状態がよくない方も多く見られます。そういう患者様に速やかに歯科医師や歯科衛生士が、義歯調整や口腔ケアなどを行い、口腔衛生状態の改善を図り、食べるためのお口作りの準備をサポートしています。

本院はがん拠点病院であり、がん治療を受ける患者様も多くいらっしゃいます。がん治療の中で

も抗がん剤治療や放射線治療では、その副作用でひどい痛みを伴う口腔粘膜炎になる場合があります。この口腔粘膜炎は、がん治療前から、歯科で専門的な口腔ケアを行い、口腔内を清潔に保つことで、軽症化を図ることができると言われていています。この専門的な口腔ケアを行う主体となる歯科衛生士は現在3名おり、がん治療を受ける患者様が口腔トラブルに悩まされることなく、がん治療を遂行できるようサポートしています。

【スタッフ紹介】

部長 鎌田 ユミ子（歯科医師）

資格：日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士

所属学会：日本補綴歯科学会、日本老年歯科医学会、日本摂食嚥下リハビリテーション学会、日本口腔ケア学会

【病院指定】

平成25年～

鹿児島大学病院 歯科医師臨床研修プログラム
研修協力施設

鹿児島大学病院 歯科医師臨床研修 研修歯科
医受け入れ

【講義】

専門学校講師：鹿児島歯科学院専門学校
歯科技工士科 非常勤講師

外来患者数・手術件数は歯科口腔外科に掲載



歯科口腔外科

部長 吉田 雅 司

【診療内容】

歯科口腔外科は、平成 18 年 8 月 1 日に開設されました。現在、歯科と歯科口腔外科を標榜して日常診療を行っています。歯科は一般歯科を常勤歯科医師 1 名が担当し、歯科口腔外科外来診療は、常勤歯科医師 2 名が主に担当しています。歯科衛生士 3 名、歯科技工士 1 名、および受付 1 名の常勤スタッフが歯科と歯科口腔外科を兼務し、当院の入院患者やスタッフ、さらにご紹介いただいた患者様の治療を主に行っています。

診療は、主に昭和会クリニックで外来診療を、今給黎総合病院で入院診療を行っています。

1. 外来診療

- 1) 埋伏智歯抜歯を中心とした抜歯、歯の破折や歯槽骨骨折、歯根のう胞や粘液のう胞などの摘出術、顎関節症、および外傷治療
- 2) スポーツ選手に対するマウスガード（マウスピース）の作成や咬み合わせのチェックなどを行うスポーツ歯科：特に、2020 年東京オリンピックパラリンピックや鹿児島国体に向けて準備活動を行っている
- 3) 顎矯正手術患者の術前・術後管理

2. 入院診療

- 1) 顎矯正手術：さまざまな顎変形症に対応した手術が行われています。最近の傾向としては、小下顎による睡眠時無呼吸症候群患者の顎骨形成術が増加しています。
- 2) 有病者の抜歯や外科治療
- 3) さまざまな口腔外科的疾患の手術や治療に対応しております。

本院は、他科との連携が非常にスムーズで、有病者の患者様はもちろんのこと、常に安心できる歯科医療を提供できる環境が整っております。その一環として、歯科と歯科口腔外科との役割分担化を図り、歯科部長の鎌田先生が院内の核として口腔ケアチームを立ち上げ、総合的に入院患者や外科手術前患者の口腔清掃に努め、嚥下性肺炎の防止、外科手術後の創感染可能性の減少に努めています。

看護師やその他のスタッフの方々の献身的な支えがあって、充実した診療が行えていると思います。さらに、努力し、今給黎総合病院・昭和会クリニックから情報発信が出来るよう、頑張っていきたいと思います。

【スタッフ紹介】

吉田雅司（歯科医師）昭和会今給黎総合病院常勤、専門分野：歯科口腔外科、スポーツ歯科

古賀喬充（歯科医師）昭和会今給黎総合病院常勤、専門分野：歯科口腔外科、一般歯科

瀬戸山智香（歯科衛生士）

吉田千代子（歯科衛生士）

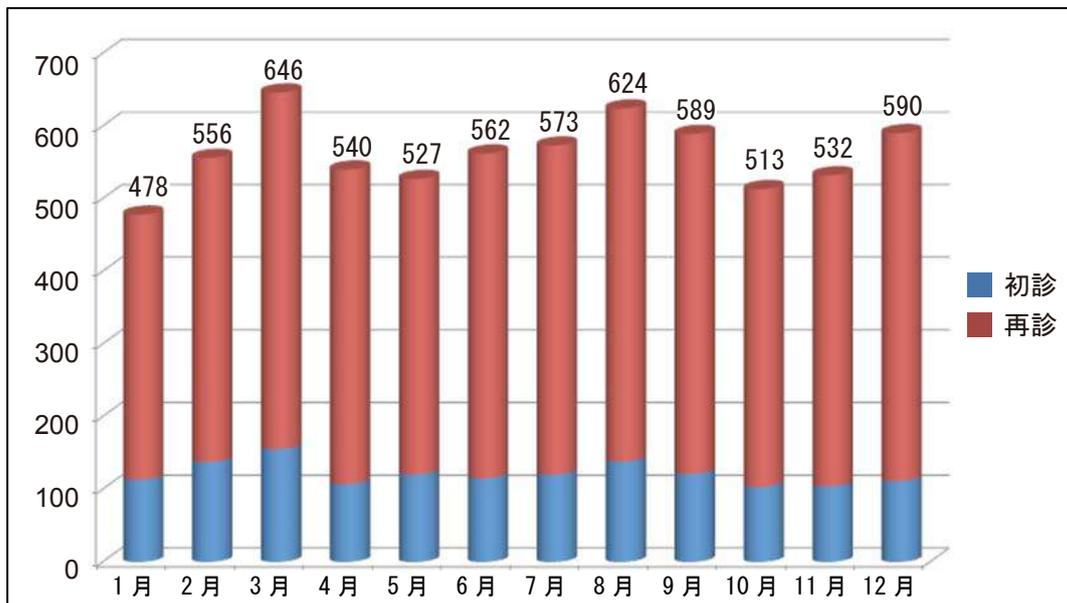
満尾裕子（歯科衛生士）

前田まどか（歯科技工士）

【2016年統計】(2016年1月1日～2016年12月31日)

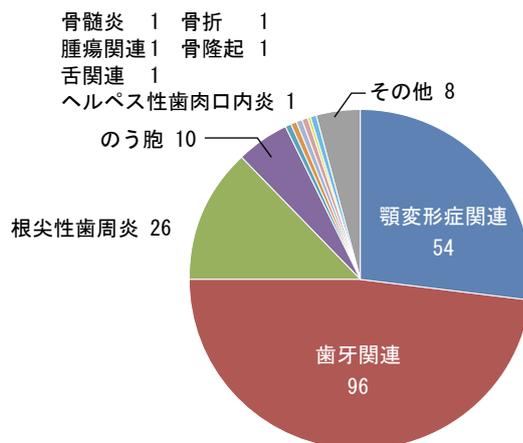
- ・ 外来患者数 6,730人 (新患1,444人) (病院・クリニックの合計)
- ・ 入院患者 200名

【月別外来患者数】



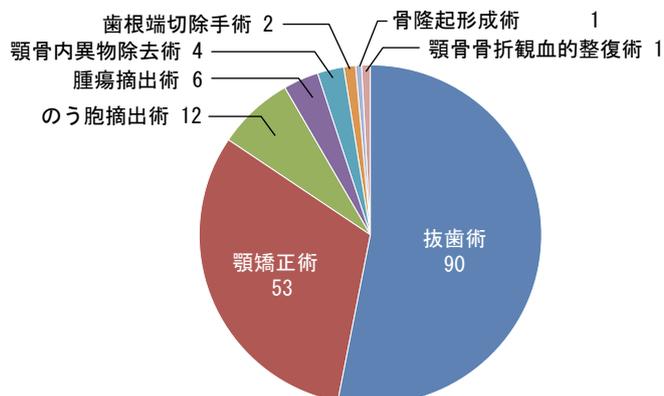
【症例別 入院患者 200件】

病名	症例数
顎変形症関連	54
歯牙関連	96
根尖性歯周炎	26
のう胞	10
骨髄炎	1
骨折	1
腫瘍関連	1
骨隆起	1
舌関連	1
ヘルペス性歯肉口内炎	1
その他	8
計	200



【手術症例(全身麻酔)169件】

手術名	症例数
抜歯術	90
顎矯正術	53
のう胞摘出術	12
腫瘍摘出術	6
顎骨内異物除去術	4
歯根端切除手術	2
骨隆起形成術	1
顎骨骨折観血的整復術	1
計	169



□ 歯科口腔外科・スポーツ歯科外来は格闘家菊野克紀さんをサポートしています。

世界で活躍する鹿児島市の出身で格闘家菊野克紀さんは、当科で作製したマウスピースで戦っています。

<http://kikunokatsunori.com/>

□ 歯科口腔外科・スポーツ歯科外来は鹿児島レブナイズをサポートしています。

平成 20 年 12 月 1 日付けで、鹿児島レブナイズのチームデンティストになり、選手の歯や口の問題に対する相談や口腔ケアを担当します。また、試合や練習時に口のケガを防止するために、マウスガードを提供しています。さらに、マウスガードの体のバランスに対する効果なども検討しています。

また、試合会場で歯科の無料相談も行っています。

注) 国際バスケットボール協会の規約により、現在は無色透明のマウスガードが使用可能となった。

※学会関連は[研究実績]に掲載



急救科

部長 西山 淳

【スタッフ】

急救科部長 西山 淳

【資格・活動】

日本救急医学会 救急科専門医	ICLSディレクター
日本麻酔科学会 麻酔科専門医	エマルゴトレインシステムシニアインストラクター
日本救急医学会九州地方会評議員	AMAT隊員登録医
鹿児島集中治療研究会世話人	医師臨床研修指導医養成講習修了医
薩摩地域救急業務高度化協議会作業部会指導医	医学博士（鹿児島大学大学院）
鹿児島県ドクターヘリ医療作業部会検証医	

【活動】

1月22日、2月1日	鹿児島県消防学校救急科	講義	西山
3月18日	平成27年度第4回薩摩地域救急業務高度化協議会作業部会	座長	西山
3月19日	エマルゴベシックインストラクターコース	シニアインストラクター	西山
4月23～25日	JMAT活動	災害医療支援	西山、橋口、鬼塚、御供田、越間
5月20日・30日	鹿児島県消防学校救急科	講義	西山
6月10日・13日	平成28年度第1回 鹿児島市消防局三署合同症例検討会	アドバイザー	西山
6月10日	第36回今給黎総合病院BLSコース	ディレクター	西山
6月18日	第37・38回今給黎総合病院BLSコース	ディレクター	西山
7月1日	平成28年度第1回 薩摩地域救急業務高度化協議会作業部会	座長	西山
8月18日	第39回今給黎総合病院BLSコース	ディレクター	西山
9月2日	救急隊合同カンファレンス		
9月6日・7日	平成28年度 第2回鹿児島市消防局三署合同症例検討会	アドバイザー	西山
9月9日	鹿児島市消防局多数傷病者事故対応訓練	災害医療チーム	西山、橋口、熊迫
9月27日	平成28年度第2回薩摩地域救急業務高度化協議会作業部会	座長	西山
10月13日	薩摩地域MC協議会・北薩地域MC協議会 合同作業部会	指導医	西山
11月11日	第40回今給黎総合病院BLSコース	ディレクター	西山
11月28日、12月5日	平成28年度 第3回鹿児島市消防局三署合同症例検討会	アドバイザー	西山
12月16日	平成28年度 第3回薩摩地域救急業務高度化協議会作業部会	座長	西山

【研修・実習受け入れ】

12月1日～7日	救急救命士養成所	4名	臨床実習
2月12日	鹿児島市消防局	1名	救急救命士再教育
2月29日～3月7日	鹿児島市消防局	2名	救急救命士再教育
6月9日	鹿児島県消防学校	1名	病院実習
6月10日	鹿児島県消防学校	1名	病院実習
9月5日～10月7日	公務員ビジネス専門学校救急救命科（162時間）	4名	
10月17～24日	鹿児島市消防局	1名	救急救命士再教育
12月12～19日	鹿児島市消防	1名	救急救命士再教育

救急の診療状況に関しては病院統計を参照して下さい。

部門報告

Ⅲ-2

各部署報告

- 看護部
- 薬剤部
- 中央放射線部
- 中央臨床検査部
- リハビリテーション部
- 臨床工学部
- 在宅医療部
- 相談支援センター 医療相談室
- がん相談支援センター
- QCセンター
 - ・医療安全管理課
 - ・褥瘡管理課
 - ・緩和医療課
 - ・感染管理課
 - ・施設課
- 栄養管理部
- 診療情報管理部
- 病床管理部
- 患者サポートチーム
- 事務部



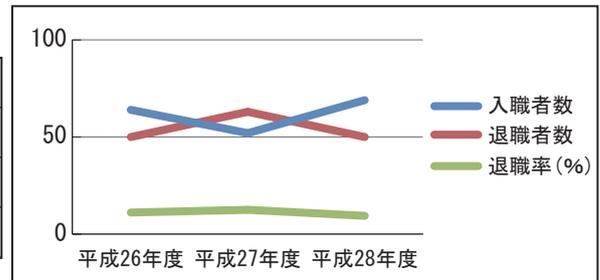
看護部

看護部長 近藤ひとみ

PNS（パートナーシップ・ナーシング・システム）看護提供方式を導入し2年が経過した。導入した目的は時間外勤務削減、リスクの減少、タイムリーな看護記録、人材育成などであったが、明らかな成果はみられていない。PNS看護提供方式に基づいて看護師がペアを組み1つのチームになり日々の業務に当たっている。ベテラン看護師は必要な情報をスピーディに選択・把握する。しかし、経験年数の浅い看護師は時間がかかるため自主的に早めに出勤し情報収集するなど、順序良く進んでいるチームと上手くいかないチーム、更には病棟がある。また、進捗状況に合わせて業務を再調整する「リシャッフル」を行うが、中にはそれでも残業をするチームがあり、業務が残っていることを遠慮して言い出せない現状があると思われる。今後も職場風土の把握や業務改善を行い、質の高い看護の提供に取り組む必要がある。

平成28年度の主な看護部の動き・活動を下記にまとめた。

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
入職者数(名)	64	52	69
退職者数(名)	50	63	50
退職率(%)	11.1	12.5	9.4



項目	数値	備考
入職者数	69名	(新卒者 33名 既卒者 36名) / 年
退職者数	50名	(新卒者 3名 既卒者 47名) / 年
退職率	9.4%	
平均年齢	35.8歳	
平均在勤年数	8.5年	常勤平均勤続 8.6年 非常勤平均勤続 8.3年
平均年休所得率	53.9%	一人平均 8.9日 / 年
時間外	4.3時間	一人平均 / 月
部署移動	43名	副部長 1名 師長 9名 副師長 1名 主任 2名
出産者数	25名	産休・育休取得者 48名 / 年
研修状況	248回 838名	院外研修
	122回 3195名	院内研修
	197回 710名	単位別学習会
院外研究発表	5名	
雑誌他投稿・執筆	1名	
院外講義・講演活動	63名	
ボランティア活動	23名	
ふれあい看護体験受入れ	9名	吉田中 1名 県立鹿児島東高校 8名
インターンシップ受入れ	10名	看護学校 6校
災害救護・訓練参加	14名	熊本地震災害支援 9名 多数傷病者事故対応訓練 2名 消火協議会 3名
看護学生実習受入れ	9校	述べ実習日数 8284日 延べ実習人数 2071名
学校訪問	24校	3回 / 年(5月・10月・1月)
表彰	1展(医療用 着衣)	第64回鹿児島県発明くふう展 鹿児島県知事賞



薬剤部

薬剤部長 高橋 真理

【平成 28 年度の概要】

平成28年度は新入職員7名を迎えたが、6名退職し1名は産休後育児休暇に入り、年度末の薬剤師数は16名となった。

薬剤師が大きく減ったため、残業時間を減らすには薬剤管理指導に関わる時間を減らさざるを得なかった。持参薬鑑別システムにより持参薬鑑別報告書を作成する病棟は2病棟（4階西・4階北病棟）を除く10病棟に増やすことができた。

【スタッフ】

薬剤師	神門優子	久津輪久世	財間富士子	前嶋一友	古賀亜希子	壽 明伸	山之内樹里
	肥田香織	瀧畑帆菜未	中山恵美	吉永咲紀	宮田麗佳	淵村佳奈	築地辰典
	釜付百合絵	福永 碧	高橋真理				
薬剤部助手	竹之内清美	田中由梨	田中美穂				

【部門実績】

■ 薬剤管理指導実施状況と化学療法患者数 平成27年度と平成28年度の比較

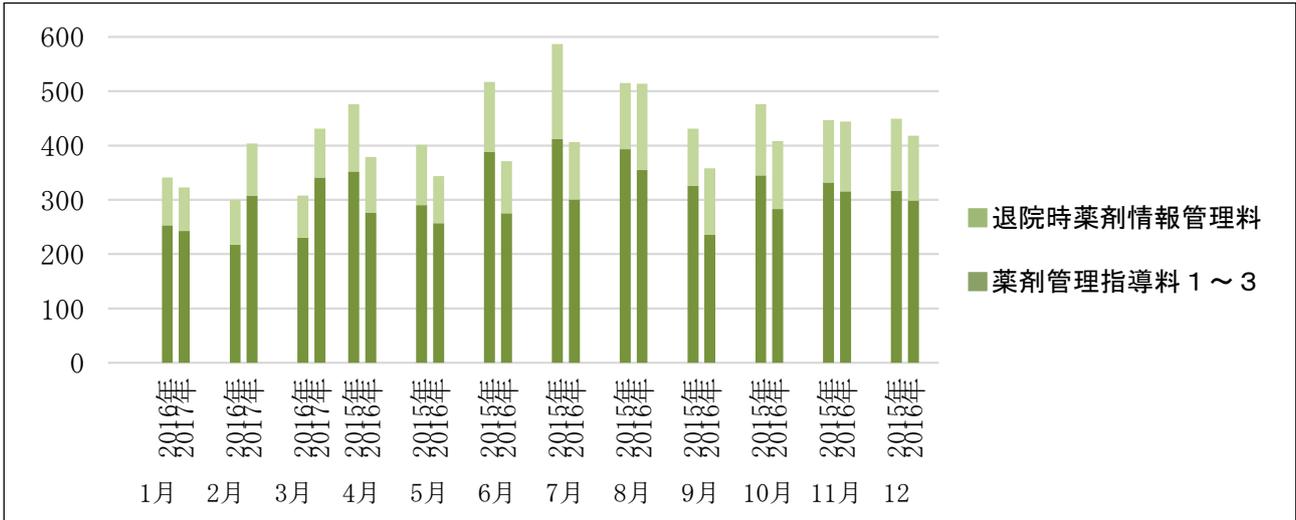
	平成27年度 月平均	平成28年度 月平均
退院患者数	682	680
薬剤師数	18	20
薬剤管理指導 患者数	262	231
薬剤管理指導 1～3 件数	317	291
薬剤管理指導実施率（薬剤管理指導患者数／退院患者数）	38.4%	31.4%
退院時薬剤情報管理指導料 算定件数	116	109
退院時薬剤情報管理指導算定率（算定患者数／退院患者数）	17.0%	16.1%
薬剤管理指導 退院時指導 件数／薬剤師数	24.1	20
薬剤管理指導料 計（円）	1,137,883	1,057,570
持参薬 鑑別件数	438	438
外来化学療法患者数	63	56
入院化学療法患者数	98	74
化学療法 計（円）	447,908	444,810

1. 薬剤管理指導

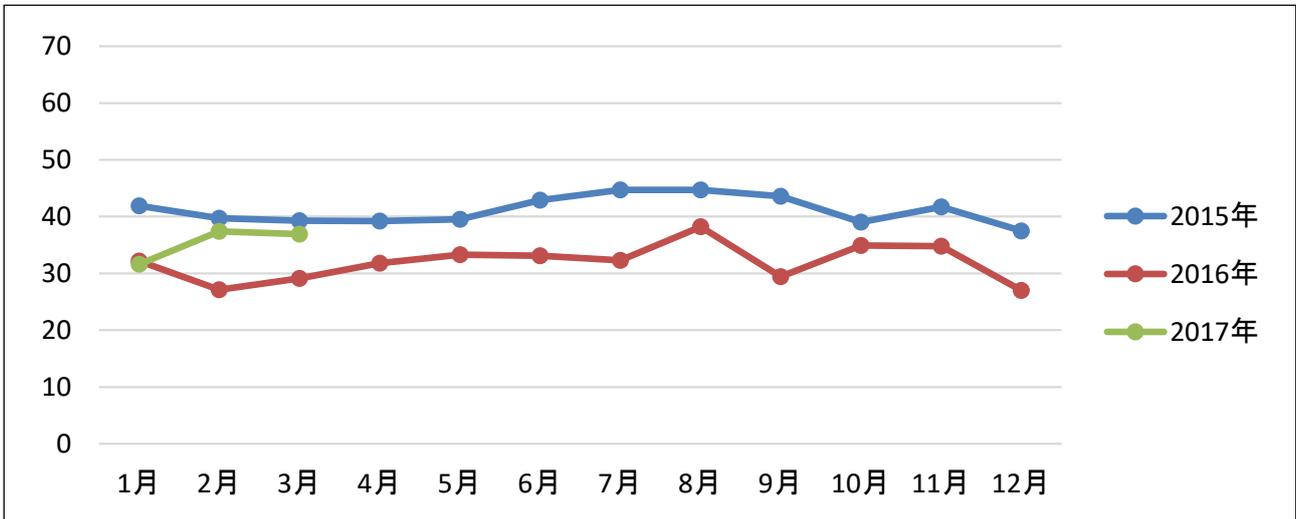
薬剤管理指導に携わる時間は、昨年度に比べると減らさざるを得なかった。薬剤管理指導患者数と薬剤管理指導1～2の件数は共に昨年度の9割ほど、薬剤管理指導実施率（＝薬剤管理指導・退院時指導 患者数／退院患者数）は31.4%、昨年度より7%低くなった。退院時薬剤情報管理指導件数も昨年度よりやや減少し、退院時薬剤情報管理指導算定率（＝算定患者数／退院患者数）は16.1%であった。

薬剤師一人あたりの指導件数（＝薬剤管理指導件数＋退院時指導件数／全薬剤師数）は20件と昨年度より減少した。月毎に平均した薬剤師数は今年度20名と昨年度より増えたにも関わらず、薬剤管理指導件数が減ったのは、4月に新入職員7名を迎えた後、経験のある職員6名が辞めてしまい、1名が育児休暇に入り、年度後半には薬剤師の半数が2年目未満の職員となったためと思われる。

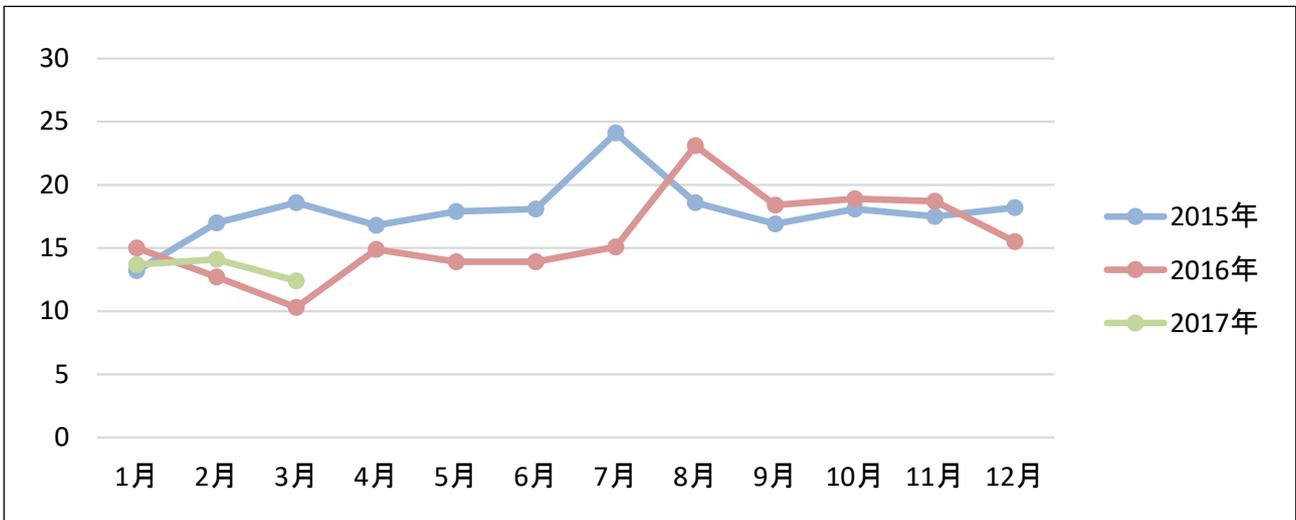
■ 薬剤管理指導料1～3・退院時薬剤情報管理料 算定件数



■ 薬剤管理指導 実施率 (薬剤管理指導・退院時指導 患者数/退院患者数)



■ 退院時薬剤情報管理指導 実施率 (退院時指導患者数/退院患者数)



2. 持参薬に関する業務

持参薬鑑別件数は月平均438件と、昨年と同数であった。

持参薬鑑別システムは昨年度中に本稼動しており、持参薬鑑別システムを運用する病棟を今年度は3病棟増やし、年度末時点では10病棟で運用している。2病棟（4階西・4階北病棟）は入院期間が短い患者様が多いため、持参薬鑑別システムの運用はまだできていない。

平成28年10月診療分より、「DPC導入の影響評価に係る調査」のEFファイルに入院中に使用した持参薬の出力が必要となり、持参薬鑑別システムを運用している病棟では持参薬オーダー入力後に医事データを取り込むことにより、EFファイルに出力するデータを作成できる。持参薬鑑別システムを運用できていない2病棟ではDPC調査のデータ作成のため、診療科クランクと病棟看護師に、入院中に使用した持参薬を入力していただくことで対応している。

3. 化学療法

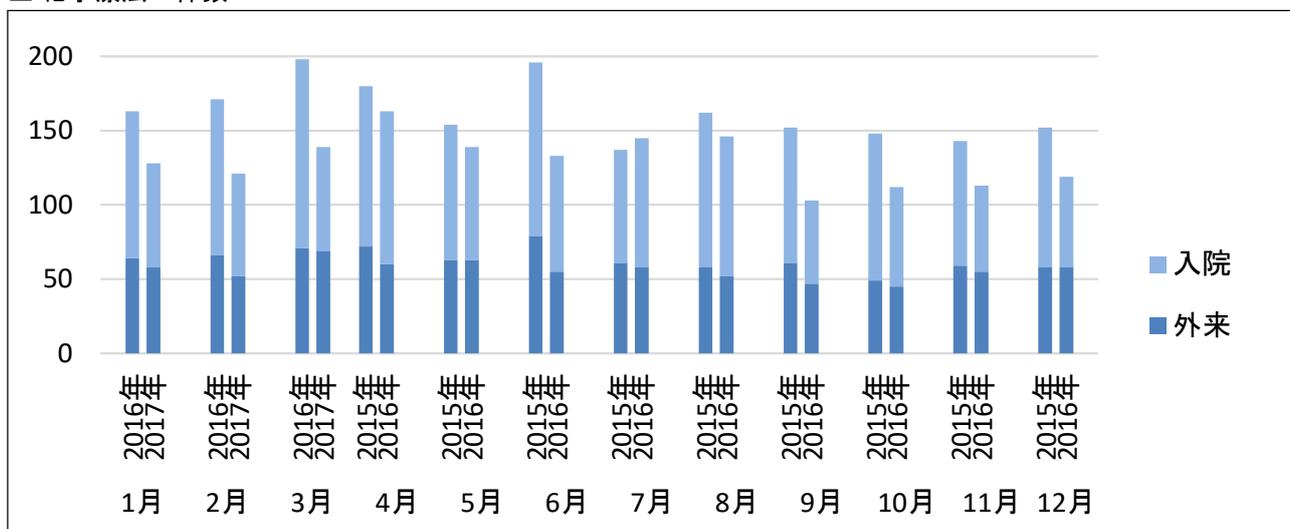
入院と外来を合わせた化学療法の件数は昨年度の8割程度で、年度別の化学療法患者数は2,000名を下回った。

化学療法により発症するB型肝炎対策ガイドラインに則ったHB抗原・HB抗体の定期的なスクリーニング、また、ゾレドロン酸・デノスマブ投与時の患者状態の確認を積極的に薬剤師が行う体制を昨年度化学療法担当者が中心となって構築し、化学療法をより安全に施行するための体制は整ってきている。

一方で、外来で経口抗がん薬による治療を受ける患者様に対するHB抗原・HB抗体の定期的なスクリーニングをチェックする体制を構築することは今後の課題である。

今年度、化学療法担当であるがん薬物療法認定薬剤師2名は、がん患者指導料3および抗悪性腫瘍剤処方管理加算の算定件数を増やすことも目標としていた。薬剤師数が十分でない中、該当する患者様に対してがん薬物療法認定薬剤師が指導する時間を作るのは大変ではあるが、これらの指導を実施した患者数は年度初め月あたり数名から年度後半には月20名以上に増加した。今後薬剤師数が増えたら、指導件数を更に増やせるような体制を作る予定である。

■ 化学療法 件数



4. 薬薬連携（保険薬局との連携）

院外処方に関する問題点の解決や、外来化学療法をより安全に行うために、病院薬剤部と保険薬局の連携は不可欠である。今年度も例年通り、薬薬連携会議とがん化学療法に関する薬薬連携研修会をそれぞれ3ヶ月毎に4回ずつ開催した。

■ 平成28年度 がん化学療法薬薬連携研修会

- 5月18日(水) 「腎機能と化学療法」 壽明伸
- 8月17日(水) 「抗がん剤投与による好中球減少と感染症対策」 福崎久美子
- 11月16日(水) 「分子標的薬における有害事象とその対処法について」 濱畑帆菜未
- 2月22日(水) 「オプジーボについて」 瀧村佳奈

昨年度より院外処方箋への検査値添付を開始したことに伴い、「薬剤適正使用のための施設間情報連絡書」の様式を病院ホームページからダウンロードできるようにした。しかし、「薬剤適正使用のための施設間情報連絡書」はあまり利用されていない。当院を退院なさる患者様に関して、かかりつけ薬局の薬剤師に薬剤に関する情報提供が必要な場合にこの連絡書を活用することは、保険薬局から当院への情報提供のきっかけの一つとも考えられ、院内での活用も進める必要がある。

薬物療法をより安全に施行するには、患者様のお薬に関する情報を他医療機関の薬剤師と共有することが必要な場合がある。これらの情報共有の手段となるお薬手帳や薬剤適正使用のための施設間情報連絡書などの活用について、今後も検討していく。

5. 専門・認定薬剤師など（今年度更新分）

壽 明伸 糖尿病療養指導士 認定取得

学術実績は「研究実績」の頁へ



中央放射線部

技師長 新村 栄次

【はじめに】

平成 28 年度スタッフは、放射線科専門医 5 名、技師 23 名、看護師 7 名、医療クラーク 5 名の総計 40 名の陣容となっています。

業務実績としては、前年度と比べて 9 項目中 5 項目は増加しました。(一般撮影、CT、透視、骨塩定量測定、DSA の件数が 415 件増加しましたが、MRI、RI、リニアック、前立腺シードで 501 件の減となりました。)

全体では 86 件の減少となりました。(表 1)

前半期は厳しい状況が続きましたが、後半期は入院数の増加で盛り返したように思います。これからも、運用面の改善と広報等で使用効率を高め、創意工夫で精度の高い画像作りを目指して参ります。

学術・各種イベント・資格取得に於いては、ボランティア活動(災害支援)や院内・外のセミナー、学術発表、又専門性を活かした認定資格取得に務めスキルアップを引き続き図ってまいります。

今後も、チーム医療の下、スタッフのレベルアップを図り患者様やスタッフ等から信頼頂ける安全・安心の検査に励んで参ります。

【放射線部組織(陣容)】

1. 放射線科(5名)

クリニック院長	大久保 幸一(放射線科専門医会認定医)
放射線治療科部長	中 禮 久彦(放射線科専門医会認定医・放射線治療認定医)
放射線診断科部長	鉢 立 博文(放射線科専門医会認定医)
	篠 原 哲也(放射線科専門医会認定医)
	高江 伸

2. 中央放射線部

<技術部門担当>(23名)

技 師 長	室屋 純一(12月退職)	副技師長	○飯 伏 順 一(12月就任)
	○新村 栄次(12月就任)		
●本院	永 山 照 明(主任)	四 本 齊(主任)	篠 原 なつき
	丸 尾 美由紀	稲 留 久 恵	池 田 真 一
	加治屋 博 一	小 屋 俊 彰	小 谷 祐 樹
	中 村 圭 太	宮ヶ谷 瑠	尾 堂 聡
	○中 村 亮 也		
リニアックセンター	松 下 芳 正(主任)	田 川 伸 夫(主任)	
●クリニック	竹之内 学(主任=室長兼務)	浮 田 啓一郎(主任)	
	濱 田 智太郎	川 畑 朋 之	川 原 美 咲

<事務部門担当>(5名)

医療クラーク	四 本 春 香(主任)	武 田 美 里	奥 ひとみ
	時 任 八千代	西 村 さおり	

<看護部門担当>(7名)

看護師	有 村 まち子(4月退職)	武 田 きみこ	中 馬 たまみ
	佐々木 まゆみ	小 園 浩 子	岩 川 る み
	○坂 元 美 和		

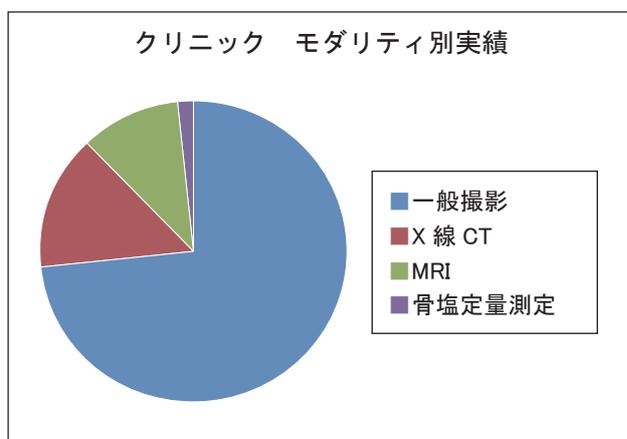
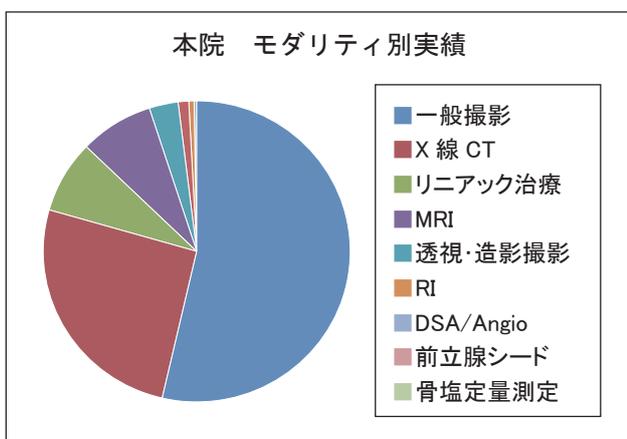
○は、新入職、配属者を示す。

合計 40名

【検査業務実績】(表1)

業務実績は、下記の通りです。全体として対前年度比0.1%の減少でした。
前年度比↑は増、↓は減

検査・治療		28年度			
		依頼件数等			
		本院	クリニック	計	増減
1	一般撮影	21,147	19,040	40,187	↑
2	X線CT	10,118	3,766	13,884	↑
3	M R I	3,053	2,672	5,725	↓
4	透視・造影撮影	1,147	—	1,147	↑
5	R I	454	—	454	↓
6	骨塩定量測定	21	424	445	↑
7	DSA/Angio	254	—	254	↑
8	リニアック治療	3,055	—	3,055	↓
9	前立腺シード	13	—	13	↓
合計		39,262	25,902	65,164	↓



【学会発表・著述】は 研究実績の項目を参照

【認定資格取得・更新者等】

新規取得 2017年1月	シニア放射線技師	川原 美咲
新規取得 2017年2月	肺がんCT検診認定技師	小谷 祐樹
新規取得 2017年2月	肺がんCT検診認定技師	濱田智太郎
新規取得 2017年3月	Ai 認定放射線技師	丸尾美由紀
新規取得 2017年3月	Ai 認定放射線技師	浮田啓一郎
新規取得 2017年3月	X線CT 認定技師	浮田啓一郎

【その他の活動】

【研修・視察受け入れ】

平成28年			
9月3日～9月31日	児玉整形外科 MRI 実習8日間	放射線部	2名
9月6日	相良病院 MRI 実習	放射線部	1名
11月9日	東高校インターンシップ研修	放射線部	4名

【実習生受け入れ】

平成28年			
6月6日～7月29日	鹿児島医療技術専門学校	診療放射線技術学科4年	2名
9月5日～9月30日	鹿児島医療技術専門学校	診療放射線技術学科4年	2名
10月3日～10月28日	鹿児島医療技術専門学校	診療放射線技術学科4年	2名

【ボランティア】

平成 28 年			
5 月 14 日	つながる思い in かごしま	上荒田の杜公園	2 名
10 月 3 日	ピンクリボンツリー設置	鹿児島市役所	1 名
10 月 23 日	ピンクリボン in かごしま 2016	かんまちあ	2 名
平成 29 年			
1 月 28 日	鹿児島県原子力防災訓練	伊集院運動公園	1 名

【院外の会議・研修会等への参加】

平成 28 年			
7 月 30 日	第 3 回 FRT 九州講演会	佐賀市文化会館	1 名
8 月 5 日	第 3 回肺がん検診均てん化研修会	鹿児島県医師会館	5 名
8 月 19 日	第 22 回乳がん検診研修会	県民交流センター	4 名
8 月 31 日	第 21 回乳がん検診従事者研修会	鹿児島県医師会館	1 名
10 月 3, 4 日	九州 GYRO ミーティング	JR 博多シティ	1 名
10 月 14 日	低線量 CT 肺がん検診研修会	鹿児島県医師会館	4 名
平成 29 年			
1 月 18 日・25 日・2 月 1 日	鹿児島医療技術専門学校	診療画像技術学 I (MR I 検査講師)	1 名
3 月 14 日	乳がん検診均てん化研修会	市民文化ホール	4 名
3 月 17 日	乳がん検診従事者研修会	鹿児島県医師会館	4 名

※学会関連は[研究実績]に掲載



中央臨床検査部

部長 佐藤 榮一 技師長 村中 利也(報告)

平成28年度はスタッフに新人2名が加わり、総勢26名の検査態勢で当院の救急医療に対応しました。認定資格は2016年6月より、厚生労働省の定めるところにより、各事業所において化学物質リスクアセスメントの取り組みが義務付けられました。当院の労働安全対策委員会で検査部スタッフ1名が担当になり第一種衛生管理者の資格を取得しました。中央臨床検査部実績は、生化学検査が504,441件、輸血・免疫血清検査が84,921件、血液・一般検査が509,075件、臨床微生物検査が20,059件、生理検査が22,990件、合計1,141,486件で前年と比較して輸血・免疫血清検査、血液・一般検査、臨床微生物検査が増加し、生化学検査、生理検査が少し減少しました。

また、日々臨床検査データの標準化に努め精度管理は、日本医師会、日本臨床検査技師会、鹿児島県医師会、その他メーカー主催の外部精度管理への参加と毎日行う内部精度管理で良好な成績を収めました。これからも精度保証認証施設として精度管理の向上に努めたいと思います。学会、研修会等へは多くのスタッフが参加し自己研鑽に励み、4演題を発表することができました。

●平成28年度中央臨床検査部スタッフ

臨床検査部長 佐藤榮一(鹿児島大学医学部名誉教授)

臨床微生物検査 村中利也(感染制御認定臨床微生物検査技師) 今堀小百合 播磨佐江子(緊急臨床検査士)

輸血・免疫血清検査

今堀貴之(認定輸血検査技師) 持留ゆりか(認定輸血検査技師)

血液・一般検査 原菌真由美(二級臨床検査士・血液学) 西田智佳(認定一般検査技師)

岩崎明日香 福迫俊介 水流遥香

生化学検査 山崎泰代 花房雅子 永岡伸代 來住和剛 牧之段李奈(第一種衛生管理者)

外来・生理検査 平原千代子 上靄昭知(認定神経生理検査技師) 宝代聡美(認定輸血検査技師) 有馬愛

小原旅人(二級臨床検査士・呼吸生理学) 池本菜月 有村美和

超音波検査 富吉祐児(認定超音波検査士) 森田修康(認定超音波検査士)

クリニック検査 久永洋一郎

●平成28年度中央臨床検査部実績

生化学検査	件数		件数		件数
セット検査	424,521	セット外検査	73,997	血液ガス	5,096
血中薬物濃度	443	血糖	384		
合計	504,441				

輸血・免疫血清検査

輸血 17,284 免疫血清 5,514 感染症 28,344

腫瘍マーカー 16,856 ホルモン 10,904 その他 6,019

合計 84,921

血液・一般検査

血液 442,917 凝固系 37,026 尿 27,211

糞便 243 穿刺液 1,677 その他 1

合計 509,075

臨床微生物検査						
細菌塗抹培養	11,998	嫌気培養	2,505	薬剤感受性	1,915	
抗酸菌塗抹培養	1,598	PCR	1,404	その他	639	
合計	20,059					
生理検査						
心電図	8,524	筋電図	1,345	ABI	369	
脳波	344	肺機能	4,545	超音波UCG	5,776	超音波腹部 2,087
合計	22,990					

●精度管理への参加

- ①第50回日本医師会精度管理
- ②第27回日本臨床検査技師会精度管理
- ③第39回鹿児島県医師会精度管理
- ④2016年度関東化学ユーザーズコントロールサーベイ
- ⑤ニッターボーユーザーズコントロールサーベイ
- ⑥第18回血液検査コントロールサーベイ
- ⑦第9回コアプレスタ(凝固系)コントロールサーベイ
- ⑧エームス尿検査コントロールサーベイ
- ⑨第23回ルミパルスコントロールサーベイ
- ⑩第21回A I Aコントロールサーベイ
- ⑪平成28年度特異 I gEコントロールサーベイ

●実習生(学生)の受け入れ

熊本保健科学大学 保健科学部 医学検査学科 3年生 3名 平成29年3月14日～17日(4日間)

●学会・研究会への参加

月	学会・研修会名	人数	備考
H28. 4月	第24回鹿児島 ICT ネットワーク学術講演会	1	座長：村中
5月	鹿児島県臨床検査技師会春季研修会・総会	2	
6月	第1回臨床一般部門研修会	5	座長：西田
	第1回輸血細胞治療部門研修会	1	
	免疫セミナー in 鹿児島	2	
	第1生物化学分析部門研修会	2	
7月	第4回九州凝固検査研究会	1	
	第1回臨床生理部門研修会	5	
9月	臨床微生物検査部門・薬剤師会合同研修会	25	
	第65回日本医学検査学会	1	
10月	第26回南九州臨床微生物研究会	13	座長：村中
	第25回鹿児島 ICT ネットワーク学術講演会	1	
	鹿児島血液疾患エリアフォーラム	2	
11月	第2生物化学分析部門研修会	2	
12月	第2回臨床微生物検査部門研修会	2	座長：村中
	第2回輸血細胞治療部門研修会	2	座長：今堀 発表：持留
H29. 1月	臨床一般部門・九州卒後教育セミナー	2	座長：西田
	第28回日本臨床微生物学会	1	
2月	平成28年度鹿児島県データ標準化サーベイ報告会	1	
	第7回輸血療法懇話会	2	

	第 13 回鹿児島県医学検査学会	9	座長：持留 発表：久永, 持留, 播磨, 牧之段
3 月	第 3 回輸血細胞治療部門研修会	4	発表：今堀
	平成 28 年度鹿児島県医師会精度管理調査研修会	2	
	第 3 回臨床微生物検査部門研修会	2	

●検査部内勉強会

	月	発表者	発表テーマ
H28	4 月	宝代 聡美	FeNO
	6 月	森田 修康	低 K 血症
	7 月	シーメンス	ADVIA
	9 月	上鶴 昭知	肘部尺骨神経障害について
	9 月	ラジオメーター	ABL90
	10 月	福迫 俊介	関節液について
	11 月	牧之段 李奈	化学物質リスクアセスメント
H29	2 月	久永 洋一郎	糞線虫

※学会関連は[研究実績]にも掲載



リハビリテーション部

療法士長 児島 邦幸

【平成 28 年度の概要】

1. はじめに

急性期医療は、救命や原疾患の治療が、細心のコントロール下で行われます。そのチーム医療の一役を担える職種として、他職種の信頼を得られるかどうか。2つの大切なポイントを考えています。

ひとつは、合併症の発症です。治療計画にとっては負のバリエーションになります。診療報酬改定毎に新たな「チーム医療の評価」が要件化される中で、その発症や重症化の予防のために何ができるのか。リスク管理を含めた、具体的なリハビリ運用システムは、できるだけ明確で、効果的でなければなりません。

もうひとつは、原疾患の治療が、順調な回復路線に乗れば、リハビリ計画は、退院後の生活の質をも考慮したものでなければならないということです。「重症患者を対象に、できるだけ短い期間で、しかも在宅に帰っていただく」そのための計画は、退院後の生活をイメージできるような、利用者毎の個別的なリハビリの内容にならなければなりません。内容が変われば、リハビリ実施の場所と時間が変わります。訓練室から病棟へ、さらに社会生活機能を高める場所へと変わっていく。リハビリの提供時間は、生活活動が集中する時間帯での実施こそ、より高い学習効果が期待できると考えています。リハビリスタッフも食事訓練、排泄動作訓練など、時間を調整して行うことが必要だと考えています。

2. 届出承認

施設承認	受理番号	算定開始
脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	(脳Ⅰ)第46号	平成18年4月1日
呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	(呼Ⅰ)第28号	平成18年4月1日
運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	(運Ⅰ)第7号	平成22年4月1日
がん患者リハビリテーション料	(がんリハ)第9号	平成23年7月1日

3. スタッフ(平成29年4月1日現在)

専任リハ医師	1名		
理学療法士	47名 (1名育休中)	作業療法士	19名
言語聴覚士		言語聴覚士	10名
リハビリ事務	3名 (1名育休中)	リハビリ助手	2名

4. 人事

入職	H28.4.1	作業療法士	有菌 佳菜	鹿児島大学
	H28.4.1	作業療法士	瀬戸口美優	鹿児島大学
	H28.4.1	言語聴覚士	成元 柚香	鹿児島医療技術専門学校
退職	H28.7.31	理学療法士	上岡 優	
	H28.8.1	理学療法士	佐藤 珠葵	
	H28.9.30	理学療法士	辻 直聖	
	H28.12.31	作業療法士	押領司真里奈	
	H29.3.31	言語聴覚士	堀 綾香	
	H29.3.31	理学療法士	上岡 裕明	
	H29.3.31	作業療法士	中村 環	
	H29.3.31	作業療法士	前田 美香	
	H29.3.31	作業療法士	久保 裕紀子	

【部門実績】

1. (1) 28年度療法明細

療法明細	□外来			□入院			■合計		
	件数	単位数	人数	件数	単位数	人数	件数	単位数	人数
脳血管リハ I	140	321	140	39,320	89,213	20,250	39,460	89,534	20,390
廃用症候群	0	0	0	17,550	35,622	10,663	17,550	35,622	10,663
運動器リハ I	1,874	3,936	1,874	66,081	143,546	47,303	67,955	147,482	49,177
呼吸器リハ I	0	0	0	5,459	10,902	5,060	5,459	10,902	5,060
摂食機能療法				669		669	669		669
がん患者リハ	0	0	0	3,598	7,435	3,090	3,598	7,435	3,090
リハ総合計画書評価料	365		365	4,616		4,616	4,981		4,981
退院時リハ指導料				1,128		1,128	1,128		1,128
初期加算				30,326	59,810	23,578	30,326	59,810	23,578
早期リハ加算				57,445	119,037	40,778	57,445	119,037	40,778

2) 月別疾患別リハビリ単位

	H28.4	H28.5	H28.6	H28.7	H28.8	H28.9	H28.10	H28.11	H28.12	H29.1	H29.2	H29.3
脳血管 I	6,938	7,425	8,058	7,678	6,744	6,587	8,248	7,860	8,190	7,499	7,057	7,250
廃用	2,288	2,747	3,096	3,160	3,320	2,859	2,486	2,640	2,952	2,900	3,104	4,056
運動器 I	13,664	13,363	12,455	12,617	12,324	12,270	12,417	11,666	11,836	12,108	10,704	12,060
呼吸 I	886	878	789	1,010	865	1,083	1,066	859	703	988	896	879
がんリハ	455	404	330	575	823	554	708	657	886	665	695	695
計	24,231	24,817	24,728	25,040	24,076	23,353	24,925	23,682	24,567	24,160	22,456	24,940

(3) 月別診療科別処方件数

	H28.4	H28.5	H28.6	H28.7	H28.8	H28.9	H28.10	H28.11	H28.12	H29.1	H29.2	H29.3	総計
外科	18	23	19	30	29	22	23	24	19	28	30	32	297
緩和医療科	5	2	2	2	3	2	1					1	18
眼科	1												1
形成外科	23	23	22	22	20	26	32	35	34	28	28	27	320
血液内科	4	6	4	5	5	6	3	7	7	9	8	10	74
呼吸器外科	20	18	22	27	20	21	23	31	25	30	22	28	287
呼吸器内科	22	14	15	20	25	24	22	16	21	23	23	21	246
産婦人科	6	6	7	8	4	1	3	5	5	10	10	10	75
歯科口腔外科													0
耳鼻咽喉科	2	1		1	1	1							6
循環器内科	9	14	12	10	13	9	11	12	14	15	15	17	151
小児科			1	2	1		1		1	3	2		11
消化器外科											1	1	2
消化器内科	10	12	16	15	16	18	24	29	20	13	18	23	214
新生児内科	25	26	26	27	25	27	35	29	28	26	29	28	331
神経内科	58	66	63	58	58	58	74	66	56	66	63	64	750
整形外科	197	202	192	181	209	185	192	197	185	194	217	219	2,370
総合内科	34	27	23	27	32	20	25	27	25	26	27	29	322
糖尿病科			1										1
脳神経外科	29	28	30	32	33	32	27	26	32	32	30	24	355
泌尿器科	12	12	10	3	7	3	2	7	6	9	8	14	93
皮膚科	2	5	4	1	2	1	1	3	4	4	3	5	35
放射線科	1				1		1	2	1	1	3	1	11
麻酔科									1		1	1	3
処方箋合計	478	485	469	471	504	456	500	516	484	517	538	555	5,973

2. 実習受入

専門	養成校	種別	人数	開始	終了
理学療法	鹿児島大学	総合臨床実習Ⅲ	1	H28. 7. 9	H28. 9. 9
	鹿児島医療技術専門学校	臨床実習Ⅳ	2	H28. 5. 9	H28. 7. 15
		臨床実習Ⅰ	1	H29. 2. 20	H29. 2. 24
	鹿児島医療福祉専門学校	長期臨床実習	2	H28. 5. 9	H28. 7. 16
		検査測定実習	2	H28. 7. 25	H28. 7. 30
	神村学園専修学校	臨床実習	1	H28. 4. 11	H28. 6. 18
	九州看護福祉大学	臨床実習ⅢA	1	H28. 5. 9	H28. 7. 2
		臨床実習ⅠB	1	H28. 11. 28	H28. 12. 17
	帝京大学 福岡医療技術学部	臨床実習Ⅱ	1	H29. 1. 10	H29. 2. 4
	福岡リハビリテーション専門学校	評価実習	1	H28. 8. 22	H28. 9. 9
長期実習		1	H29. 1. 10	H29. 3. 2	
作業療法	鹿児島医療技術専門学校	臨床長期実習	1	H28. 8. 1	H28. 10. 7
		臨床見学実習	2	H29. 1. 23	H29. 1. 27
		臨床見学実習	2	H29. 1. 30	H29. 2. 3
	神村学園専修学校	臨床実習	1	H28. 6. 13	H28. 8. 6
		見学実習	1	H28. 9. 5	H28. 9. 7
	沖縄リハビリテーション福祉学院	長期臨床実習	1	H28. 5. 9	H28. 7. 9
熊本保健科学大学	臨床実習Ⅱ	1	H28. 5. 9	H28. 7. 1	
言語聴覚療法	鹿児島医療技術専門学校	臨床実習Ⅱ	1	H28. 5. 23	H28. 7. 15
		臨床実習Ⅰ	1	H29. 1. 23	H29. 2. 17
	沖縄リハビリテーション福祉学院	長期臨床実習	1	H28. 7. 25	H28. 8. 20

【認定資格者】

がんのリハビリテーション研修終了者	16名
3学会合同呼吸療法認定士	13名
心臓リハビリテーション指導士	1名
リンパ浮腫指導技能者	1名
褥瘡認定作業療法士	1名

【部門の取組み】

平成17年11月～	NSTにST参加
平成18年4月～	疾患別リハ施設承認
平成18年4月～	専従常勤の療法士が20名
平成19年10月～	褥瘡対策チームにPT・OT・ST参加
平成20年4月～	専従常勤の療法士が30名
平成20年7月～	療法士の病棟担当制の開始
平成21年3月～	日祝含めた均等配置勤務体制開始
平成21年4月～	専従常勤の療法士が40名
平成22年6月～	口腔ケアチームにST参加
平成22年10月～	緩和ケアチームにPT・OT参加
平成23年6月～	専従常勤の療法士が50名
平成23年7月～	がん患者リハ施設承認
平成24年4月～	日本リハビリテーション医学会専門医・認定臨床医を専任配置
平成24年6月～	リンパ浮腫外来開始
平成25年4月～	専従常勤の療法士が60名
平成25年7月～	NSTにPT・OT参加
平成26年3月～	RSTにPT参加
平成26年4月～	化療緩和ネットワーク委員会に参加
平成27年1月～	回復期病棟開設
平成28年4月～	転倒・転落ワーキンググループ参加



臨床工学部

技士長 齋藤謙一

1. 高気圧酸素療法 (HBO)

高気圧酸素療法は、第1種装置（川崎エンジニアリング社製KOH-2000）2台で月～金曜日8：30～17：00、土曜、祝祭日8：30～12：00実施。緊急時にはオンコールでいつでも実施できる体制になっています。

平成28年度は、204名（男122名、女82名）の患者様に対して治療回数は2,471回（救急適応533回（22%）、非救急適応1,938回）でした（表1）。診療科別では、整形外科58%、耳鼻咽喉科26%と2診療科で全体の約8割を占めています（表2）。

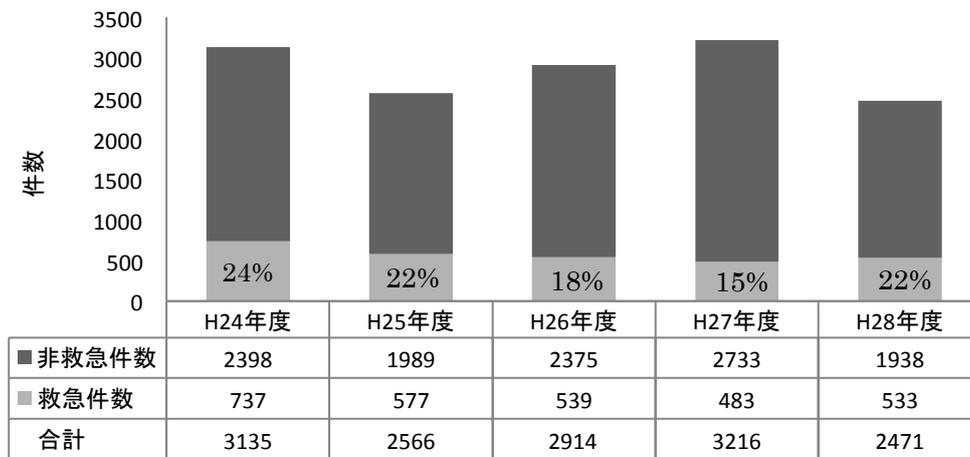


表 1 高気圧酸素治療実施状況

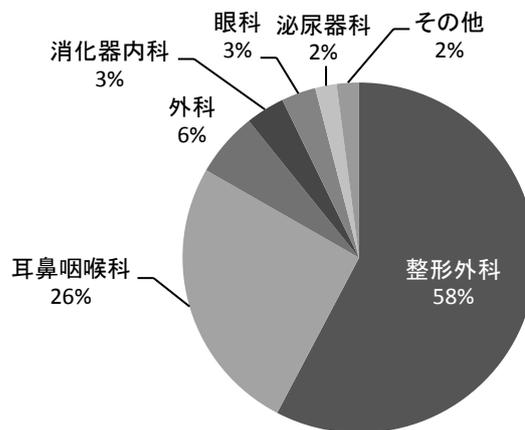


表 2 診療科別HBO依頼件数

2. 人工呼吸関連

当院の人工呼吸器を表 3 に示します。平成 25 年度から導入されたハイフローセラピー／ネーザルハイフロー（NHF）の使用状況を表 4 に示します。NHF は鼻カニューラを通して 21 ～ 100%の酸素を最大 60L/min の高流量で患者に供給できるシステムで低流量酸素療法と NPPV との間の治療法として NPPV の拒否患者や気管挿管チューブ抜管後などに有効とされます。当院での使用状況は増加傾向にありましたが平成 28 年度は一気に 337 件と増加しました。重症な呼吸不全患者の増加と本治療法の理解が深まってきたことが原因と考えられます。

機種名	メーカー	台数	コメント
HAMILTON-C1	HAMILTON	4	長時間バッテリー、小型、コンプレッサ内蔵、NPPV・IPPV可、ASV・APRVモード搭載
NPB-740	Covidien	4	コンプレッサ内蔵、長時間バッテリー搭載、病棟用
NPB-840	Covidien	4	高性能、高度な設定が可能、
Evita_XL	Dräger	1	高性能、APRVモード、スマートケア搭載
Engstrom Carestation	GE Healthcare	1	高性能、酸素消費量やCO2産生量、エネルギー消費量、呼吸商、FRC測定
BiPAP vision	Philips	1	NPPV専用機
V 60	Philips	2	NPPV専用機 常時レンタル
Carina	Dräger	1	長時間バッテリー、小型、コンプレッサ内蔵、NPPV・IPPV可
Babylog 8000plus	Dräger	3	新生児専用人工呼吸器
Babylog VN500	Dräger	1	HFO搭載の新生児専用高性能人工呼吸器
infant Flow SiPAP	CareFusion	2	新生児専用 n-CPAP装置+3台レンタル中
sindi	MedIn	2	新生児専用 n-CPAP装置
CARE vent MRI	O-TWO Medical	1	ガス駆動、搬送用、MRI対応

表 3 人工呼吸器使用状況

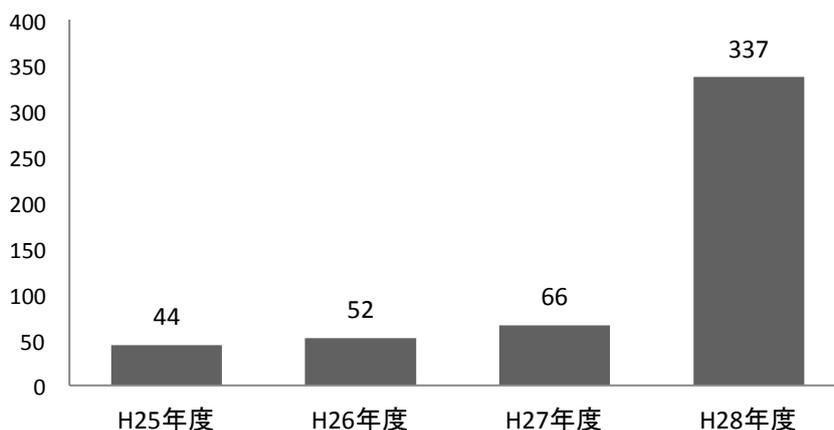


表 4 ネーザルハイフロー実施状況

人工呼吸器患者の搬送について

人工呼吸器装着患者のCTやMRIの検査や院外への転院などは、これまで医師がバッグバルブマスクなどを用いて用手換気を行いながら実施していましたが、当院では人工呼吸器装着患者の搬送にも適した人工呼吸器やMRI対応人工呼吸器の採用により必要な時にいつでも検査することができます。また、人工呼吸に関わる搬送には必ず臨床工学技士が同伴して医師や看護師の労力軽減につなげられるよう努力しています。

平成28年度は103件の搬送がありCT/MRIは43件（内MRI：3件）他院への転院搬送は10件でした。転院時には搬送先での人工呼吸器設定などの申し送り等を臨床工学技士が実施しています。また、鹿児島市立病院NICUより当院へ転送する新生児に人工呼吸器（n-D PAP）が装着されている場合は必ず当院臨床工学技士も一緒にお迎えに行き搬送用呼吸器のセットアップ、搬送中の監視を実施しています（表5）。

搬送先	回数
鹿児島市立病院	4
鹿児島大学病院	1
高田病院	1
天陽会中央病院	1
垂水中央病院	1
指宿浩然会病院	1
種子島医療センター	1
鹿児島市立病院 NICU より新生児搬送	24

表 5 人工呼吸患者搬送先病院

3. 血液浄化

血液浄化のうち血液透析は3台の個人器（+ICU内に1台）で実施しています。平成28年度の透析実施回数は355回でした（表6）。その他、持続的腎代替療法（CRRT）、アフエレーシスの実施状況を（表7）に示しました。

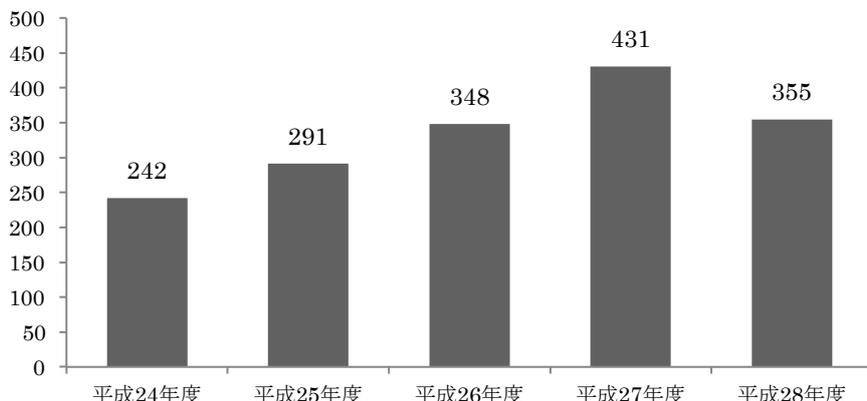


表 6 血液透析実施状況

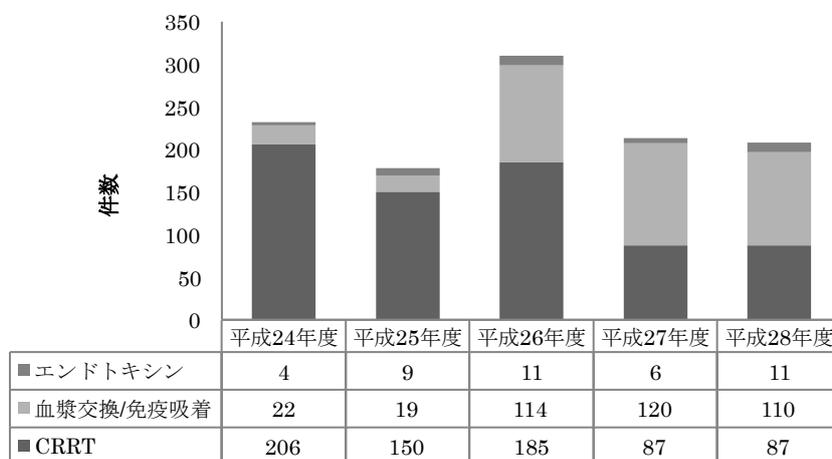


表 7 アフエレーシス実施状況

4. 術中脊椎誘発電位モニタリング

脊椎、脊髄の手術の際、MEP（運動誘発電位）およびSSEP（体性感覚誘発電位）による術中モニタリングを施行しています。脊髄モニタリングとは脊髄の電気伝導能を評価する方法であり、圧迫性病変や脊髄腫瘍などによる脊髄の損傷の程度を評価することができます。

平成27年10月に検査機器（Endeavor CR 術中モニタリング装置）の導入を行いMEPの計測が可能になり平成28年度は221件の脊椎・脊髄手術で実施しました（表8）。

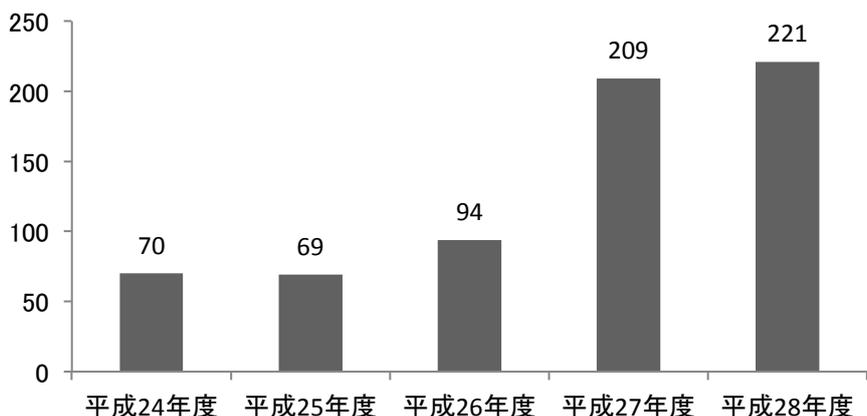


表 8 術中モニタリング件数推移



在宅医療部

主任 生野 雅子

I. 訪問看護活動(平成 28 年 1 月 1 日～ 12 月 31 日) ※在宅診療科に合わせ、年次報告

1) スタッフ (五十音順)

保健師・看護師 4名 小野・生野・竹ノ下(H28年8月退職)・南
 訪問診察医師(兼任) 8名 臼元・甲斐・生野・野村・林・二木・松添・三宅
 兼任作業療法士 1名 児島

2) 患者総数 49名 (男性 22名 女性 27名)

①転帰

転帰	人数(人)
軽快	2
転院	7
施設入所	0
長期入院	0
死亡(病院)	6
死亡(在宅)	3
合計	18

②月別訪問件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計(件)
訪問診察	33	33	29	32	30	30	31	34	37	35	42	43	409
(緩和診察)	(0)	(0)	(0)	(1)	(1)	(0)	(0)	(2)	(3)	(1)	(2)	(0)	10
訪問看護	77	108	109	101	91	115	116	126	103	95	97	97	1,235
訪問リハビリ	2	5	3	3	4	4	3	4	3	3	4	4	42
合計(件)	112	146	141	136	125	149	150	164	143	133	143	144	1,686

3) 相談ケース

①相談内容

相談内容	件数
訪問診察と看護について	13
訪問看護について	21
訪問診察について	6
介護保険について	0
その他	0
合計	45

②相談依頼者

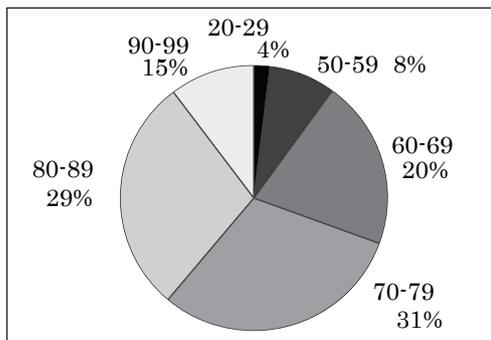
相談依頼者	件数
緩和ケアスタッフ	13
医師	12
ケアマネージャー	11
MSW	5
患者・家族	1
看護師	3
その他	0
合計	45

4) 主疾患名(49名)

疾患	(人)	疾患	(人)
神経系疾患	21	尿路器系疾患	1
悪性新生物	9	消化器系	1
循環器疾患	8	内分泌系・代謝疾患	2
呼吸器疾患	4	感染症	1
損傷、中毒外因の影響	2		

5) 患者年齢 (平均 74.9 歳 22 ~ 95 歳)

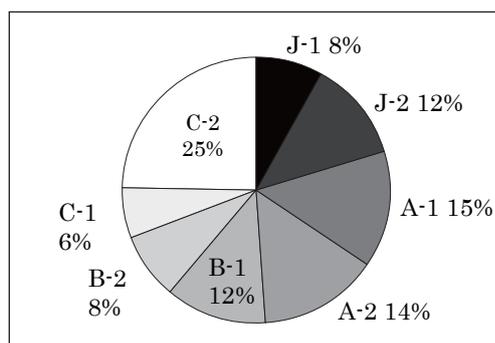
年代	人数(人)
20-29	1
30-39	0
40-49	0
50-59	4
60-69	10
70-79	15
80-89	14
90-99	5
合計	49



6) 寝たきりランク

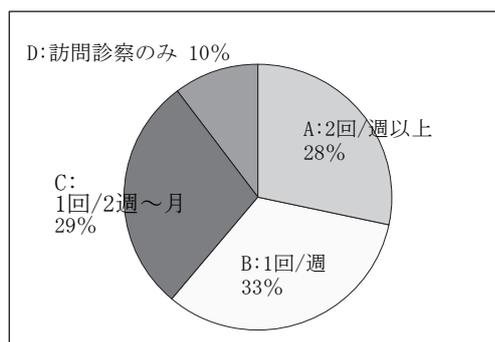
生活自立	ランク J	何らかの障害等を有するが、日常生活は自立しており独力で外出する 1. 交通機関を利用して外出する 2. 隣近所へなら外出する
準寝たきり	ランク A	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない 1. 介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する 2. 外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている
寝たきり	ランク B	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが座位を保つ 1. 車椅子に移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う 2. 介助により車椅子に移乗する
	ランク C	1 日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替において介助を要する 1. 自力で寝返りをうつ 2. 自力では寝返りもうたない

ランク	人数(人)
J-1	4
J-2	6
A-1	7
A-2	7
B-1	6
B-2	4
C-1	3
C-2	12
合計	49



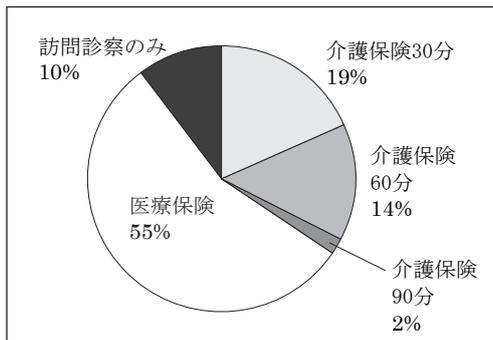
7) 訪問看護の頻度

訪問回数	人数(人)
A:2回/週 以上	14
B:1回/週	16
C:1回/2週~月	14
D:訪問診察のみ	5
合計	49



8) 訪問看護の保険の種類

介護保険30分	9
介護保険60分	7
介護保険90分	1
医療保険	27
訪問診察のみ	5
合計	49

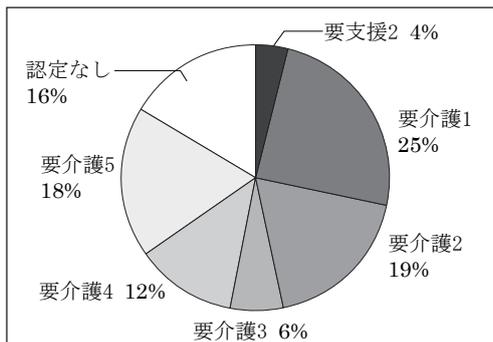


9) 医療依存度ケース

内容	人数(人)	内容	人数(人)	内容	人数(人)
軟膏塗布	16	坐薬挿入	2	吸入	3
創処置	16	人工呼吸器	1	血糖チェック	4
排便・浣腸	6	バルンカテーテル留置	3	人工肛門・ウロストミー	1
点滴・注射	8	リハビリ	4	点眼	2
麻薬・抗癌剤管理	2	気管切開	5	IVH(ポート)	1
胃ろう・経管栄養	6	在宅酸素療法	6	服薬管理	27
吸引	9	導尿	1	その他	0

10) 介護保険利用者

介護度	人数(人)
要支援1	0
要支援2	2
要介護1	12
要介護2	9
要介護3	3
要介護4	6
要介護5	9
認定なし	8
合計	49



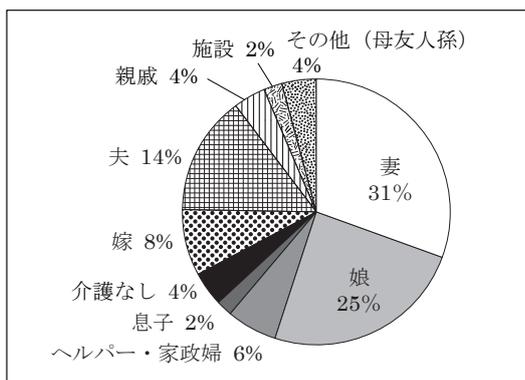
11) 清潔介助

内容	人数(人)
全身浴	2
部分浴	8
部分保清	13

全身浴: 入浴・シャワー浴・全身清拭など
 部分浴: 足浴・手浴・陰部洗浄・洗髪など
 部分保清: 部分清拭・口腔ケア・耳垢除去・髭剃り・爪きりなど

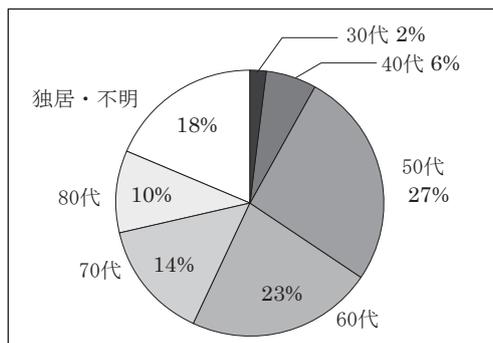
12) 主な介護者

介護者	人数(人)
妻	15
娘	12
ヘルパー・家政婦	3
息子	1
介護なし	2
嫁	4
夫	7
兄弟	0
親戚	2
施設	1
その他(母友人孫)	2
合計	49



13) 介護者の年齢(平均 63.1 歳 36 ～ 87 歳)

年代	人数 (人)
20代	0
30代	1
40代	3
50代	13
60代	11
70代	7
80代	5
独居・不明	9
合計	49



14) 介護保険利用状況

内容	人数 (人)	内容	人数 (人)
訪問介護	21	通所リハビリ	8
訪問入浴	7	通所サービス	9
訪問リハビリ	20	ショートステイ(病院を含む)	5

15) 指導内容

内容	人数 (人)	内容	人数 (人)
服薬指導	36	精神的支え	11
栄養指導	23	認知症対応方法	8
介護指導	13	家族の健康相談	8
福祉サービス紹介	8	終末期の援助	10

16) 他の専門機関・職種との連携

- 1) 訪問歯科診療の利用 6名
- 2) 訪問薬剤指導の利用 6名

Ⅱ. その他の活動

1) 家族会だより 第 29 号 平成 28 年 5 月発行

2) 実習生受け入れ実績

- ・久木田学園看護専門学校 : 4/11 ～ 9/15 9名
- ・鹿児島中央看護専門学校 2年課程(通信制)看護科 : 7/25 ～ 8/25 24名
- ・神村学園高等部 看護学科専門課程 : 6/27 ～ 12/2 20名

3) 院内感染防止対策委員会 : 月 1 回

4) 労働安全衛生委員会 : 月 1 回

5) 病院業務運営会議 : 月 1 回

6) 死亡患者初七日訪問 : 6名



相談支援センター 医療相談室

副センター長 吉 満 実

当院は地域の基幹病院としての性格を持ち、高度救急医療の提供を行う当病院では入院外来治療において阻害要因としての様々な問題が発生しています。また、医療制度の変遷により役割分担が更に明確になって来ており、このような背景において平成28年度のMSWとしての活動を報告致します。

平均在院日数の短縮

当病院におけるMSWとしての最大の役割としては、院内外との連携であります。現在の当院の基準としては、『平均在院日数 17日以内』です。在院日数は退院支援部門の設置、退院支援の強化もあり16.46日で短縮化が図れました。平均在院日数の短縮及び稼働率向上が当院として最大の課題です。

質の高い医療の提供と共に患者様の早期退院や転院、社会復帰を目指し援助を行っています。

◆MSWの早期介入の促進(退院支援部門の強化)

MSWが入院初期より、患者様の状態・基本情報等を把握することにより、いろいろな問題を未然に防ぎ、円滑な退院・転院への援助が可能となります。

早期での患者様との関わりを持つことで、信頼関係の構築が容易になり、患者様・そのご家族の理解を得ることにより、入院・治療期間の短縮につながります。また、整形外科・脳神経外科・神経内科・呼吸器内科・総合内科のカンファレンスに同席し患者様の状態や状況の変化に応じて対応しています。また、退院支援部門として退院調整カンファレンスの他職種介入により患者様の退院や転院に関して質の高い支援が構築されつつあります。

◆社会的入院患者へのアプローチ

核家族化が進む中、一人暮らしのために家に帰れない・日中、仕事で自宅介護が困難等いわゆる「社会的入院」が、問題になっています。当病院においても例外ではありません。現時点においては、MSWの早期患者把握・介入によって、かなり減少傾向にあります。常日頃より療養型の医療機関、回復期リハビリテーション病院・介護老人保健施設グループホームや在宅復帰の場合は居宅介護支援事業所等と綿密に連携をとることで、迅速な援助を行うことができます。

◆長期入院患者へのアプローチ

長期入院患者（入院期間3ヶ月以上）の的確な把握を行い、「なぜ、長期になっているのか」ということを明確にすることが重要です。長期入院となっている患者様の中には、治療の経過で長期になられた患者様や病状的に退院・転院が困難な患者様への理解は忘れてはなりません。長期入院は年々減少傾向です。

◆回復期病棟における退院支援

平成27年1月1日より3階北病棟において33床の回復期病棟を運営開始しました。整形外科の術後の患者様が中心ですが、高齢者、要介護者、障害者など自宅退院を目標とした病棟なので退院に際し、在宅サービスの導入など調整が必要です。患者様及び御家族にとってより良い退院調整ができるように努めます。

地域の医療機関・介護保険関連事業所との連携強化

当病院が急性のDPC医療機関として体制を維持していくためには、地域の各医療機関との連携を推進していかなければなりません。

また、療養型の医療機関もそれぞれ役割や特徴があります。その状況を把握して患者様の橋渡しをしなくてはなりません。リハビリテーションにおいても疾患別限度日数が導入され、リハビリ目的で早い時期での

転院が必要となってきました。地域の医療機関との連携もより迅速に行っていかなければならなくなりました。

また、介護保険に関連した施設や居宅会議支援事業所との連携もより多様化し、多くの事業所との関係が必要となっています。介護連携指導と退院時共同指導の充実が今後の課題です。

医療相談室の開設

当院本館1階に医療相談室や患者サポート窓口が開設してあり、個室での面談・相談が可能です。患者様のプライバシーに配慮し、面談を行っています。

医療相談室では、患者様や御家族に入室していただき相談援助を実施する形をとっていますが、入室が困難な場合は各病室への訪室も可能です。また、がん相談・経済的相談・社会的相談・各種申請書類についての相談や苦情や個人情報に関する相談窓口としての機能を有しています。

その他の業務として

変遷していく医療保険制度や介護保険制度において、退院支援部門として対処しなければならない事柄は多いものです。

MSW の役割として、外来・入院患者様を問わず、医療費の相談や社会福祉サービス等の相談を受けています。介護保険・指定難病・身体障害者手帳の手続き代行や苦情処理・個人情報に関わる相談・平均在院日数の管理・紹介患者の管理・問題患者への対処等々、その他の細かい業務は多いものです。

来年度は退院支援に関し、調整部門の充実と患者様、ご家族にとってより良い、退院支援を目指して行きたいと思えます。

退院調整部門（MSW5名 退院調整看護師2名）

MSW：原口 一博・吉満 実・上西 章子・山崎 留美・湯田 麻里子

NS：大重 智子・窪田 いづみ

現在、月曜日から金曜日までの午前・午後、土曜日の午前の勤務となっています。

事前に連絡を頂ければ、時間外でも相談には応じます。

平成28年度 平均在院日数、長期入院患者、退院援助の統計表

平均在院日数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平成26年度	17.0	18.3	17.8	16.4	16.9	16.5	16.6	19.6	17.5	17.7	15.8	16.8	17.24
平成27年度	15.1	16.9	15.4	15.5	15.9	15.5	15.8	16.5	15.7	17.1	17.1	15.7	16.02
平成28年度	16.5	16.7	15.8	16.0	15.5	16.2	17.3	15.7	16.2	17.9	16.9	16.8	16.46

長期入院患者（3ヶ月以上入院患者）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平成26年度	4.7%	5.7%	4.8%	5.9%	4.2%	4.2%	2.8%	3.7%	4.0%	3.2%	3.5%	4.3%	4.2%
長期（人数）	17	20	18	22	16	15	10	14	15	12	14	17	15.83
病床稼働	362	349	372	370	377	357	362	377	371	376	400	398	372.6
平成27年度	4.2%	5.0%	3.6%	5.1%	6.5%	6.3%	4.2%	4.1%	6.7%	6.2%	5.6%	5.4%	5.2%
長期（人数）	15	17	13	17	21	21	14	14	18	22	21	20	17.75
病床稼働	356	340	362	332	324	335	335	343	270	354	376	367	341.2
平成28年度	4.8%	6.1%	4.9%	5.9%	4.6%	5.1%	4.8%	4.2%	3.3%	2.9%	2.5%	2.3%	4.2%
長期（人数）	18	22	18	22	17	19	18	16	13	11	10	9	16.08
病床稼働	376	358	367	372	373	369	378	381	394	383	406	399	379.67

長期入院患者（3ヶ月以上入院患者）

	医療機関	在宅	老人保健施設	他施設	死亡退院	平成28年度合計
4月	56	24	0	6	1	87
5月	66	25	1	5	3	100
6月	65	21	2	10	2	100
7月	61	21	4	4	2	92
8月	74	34	1	7	0	116
9月	51	13	0	7	1	72
10月	71	28	1	7	4	111
11月	56	30	1	8	4	99
12月	77	43	7	8	6	141
1月	64	18	8	7	3	100
2月	85	34	7	15	7	148
3月	83	25	6	4	5	123
平成26年度合計	872	202	16	62	35	1,187
平成27年度合計	738	197	35	67	25	1,062
平成28年度合計	809	316	38	88	38	1,289



がん相談支援センター

専従保健師（緩和医療課） 植屋 明代

がん相談支援センターは本館1階の産婦人科外来の前にあり、専従相談員の植屋が常駐、不在時は緩和ケア認定看護師の早崎・岩山が対応。MSWは主に退院支援に携わり、管理栄養士・薬剤師・医事課の方など院内スタッフの協力を得ながら対応しています。地域がん診療連携拠点病院となりがん相談にも力を入れておりますが「ここがあると知らなかった」と相談者だけでなく、院内スタッフへの周知もまだ十分とは言えない状況です。広報活動とともに「がん相談支援センターを利用してよかった、また利用しよう」と思っただけのような支援に努めていきたいと思ひます。

【スタッフ】植屋・早崎・岩山(緩和医療課) 原口・吉満(相談支援センター)

相談内容 （*重複相談対応あり）	緩和医療課対応			相談支援センター対応			合計
	患者	家族	その他	患者	家族	その他	
がん治療	28	30	8	0	0	0	66
がんの検査	6	4	3	0	0	0	13
症状・副作用・後遺症	28	15	2	0	0	0	45
セカンドオピニオン	11	10	3	0	0	0	24
治療実績	2	0	1	0	0	0	3
受診方法・入院	10	6	9	0	45	0	70
転院	17	28	5	0	106	0	156
医療機関の紹介	4	11	3	0	0	0	18
がん予防・検診	1	0	0	0	0	0	1
在宅医療	8	19	14	0	35	0	76
ホスピス・緩和ケア	18	49	2	0	0	0	69
症状・副作用・後遺症への対応	7	7	2	0	0	0	16
食事・服薬・入浴運動・外出など	11	4	2	0	0	0	17
介護・看護・養育	12	21	6	0	0	0	39
社会生活(仕事・運動・外出)	4	3	0	7	0	0	14
医療費・生活費・社会保障制度	15	15	5	11	0	0	46
補完代替医療	3	8	3	0	0	0	14
不安・精神的苦痛	130	91	7	0	0	0	228
告知	2	8	0	0	0	0	10
医療者との関係・コミュニケーション	6	11	7	0	0	0	24
患者-家族の関係・コミュニケーション	4	15	0	0	0	0	19
友人・知人・職場の人間関係・コミュニケーション	2	0	0	0	0	0	2
患者会・家族会	7	8	2	0	0	0	17
その他	14	18	8	0	0	0	40

★緩和医療課のがん相談 435 件の内訳は『緩和医療課』のページに詳細掲載。

【院外会議】

鹿児島県がん相談員部門会議(鹿児島大学病院) 6月：原口、植屋 3月：原口、植屋

がん患者と語ろう会(がんサポートかごしま主催)：11月：植屋 1月：植屋

がん相談・サロン協力 5月14日 つながる想い in かごしま : 早崎、吉國、植屋



医療安全管理課

課長 千田 清美

当院は、基本診療料の施設基準の届け出において医療安全管理加算1を取得しており、要件を充足するためにも組織的な医療安全管理活動が求められています。組織の安全文化を醸成するためには、各部署・部門において発生したインシデント・アクシデント事象を報告書で可視化すること、作業環境や情報管理および業務手順・運用システムなどの現行状況を振り返りエラーが誘発される根本原因を明らかにし、改善策を策定して取り組みの評価を行い、発生した事例を学習することが必要とされます。また、医療提供の過程においては、危険を伴う手技や行為が必要とされる状況があることから、職員一人ひとりが患者安全を優先する取り組みを実践することが欠かせません。患者安全を優先する取り組みのひとつに、あらゆる医療行為の前提を成す最も初歩的で基本的な確認行為となる「患者同定」があります。今年度は、医療安全推進月間のテーマのひとつに、院内のすべての職種が対象患者を正確に識別するための手順を遵守することを提示しました。

【スタッフ】

看護師2名 千田清美、長野みつ美

【部門実績及び活動内容】

- ・安全管理部門カンファレンスの運営
(1回/週-第1火曜日と毎週月曜日) ~長野、千田
- ・医療安全対策委員会の運営 (毎月第2水曜日)
~長野、千田
- ・看護安全対策委員会の開催支援
(毎月第3火曜日) ~長野、千田
- ・多職種チーム活動への参加
- ・RSTチーム (木曜日/週) ~長野、千田
- ・口腔ケアチーム (金曜日/週) ~長野
- ・転倒、転落ワーキンググループ
(毎月第2木曜日) ~長野
長野 -日本転倒予防学会転倒予防指導士取 (H29/2/12)
- ・院内報告システムにおけるレポートの管理および定例会へのフィードバック
- ・院内教育研修の企画と開催、看護部教育研修の支援
- ・医療安全管理指針の見直し
- ・患者相談および患者・家族対応への相談事案
(4診療科・5部署・外部1件)
- ・院内BLS講習会及びICLS講習会の開催支援 (7回/年)
- ・リスクマネジメントニュースの発行 (12回/年)

4月	2015年度の振り返り
5月	輸血に関するインシデント (受け渡し)
6月	転倒・転落予防の床センサーマット使用について
7月	ダブルチェックの目的
8月	実施している作業の到達点は明確ですか?
9月	患者安全のための患者確認できていますか
10月	手術・検査処置時の「部位」確認について
11月	作業の中断によるインシデント
12月	誤飲事故!
1月	患者情報確認ミス
2月	エレベータ挟まれ事故
3月	禁忌薬情報

【医療安全管理部門カンファレンス (1回/週)】

〈カンファレンスメンバー〉

今年度より、看護安全対策委員会の委員長交代に伴い、末吉師長が参加することとなりました。

松永俊二副院長(チーフ統括セーフティマネージャー)、高橋真理(医薬品安全管理責任者)
斎藤謙一(医療機器安全管理責任者)、岩下邦子(看護副部長)、末吉美津代(看護安全対策委員会委員長)
千田清美(専従医療安全管理者)、長野みつ美(専従医療安全管理者)、田中英樹(施設課課長)
野口桂一(事務局長)、川井田祐一郎(事務局長代理)、濱田敏彦(クリニック事務長)
益田阿佑美(総務課)：書記

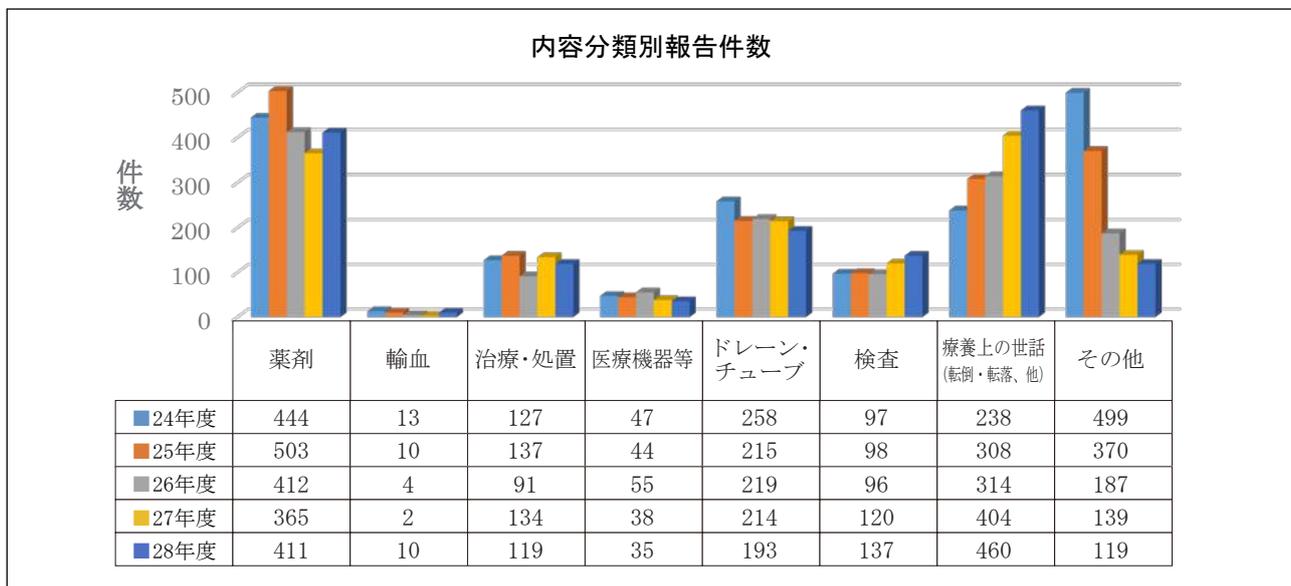
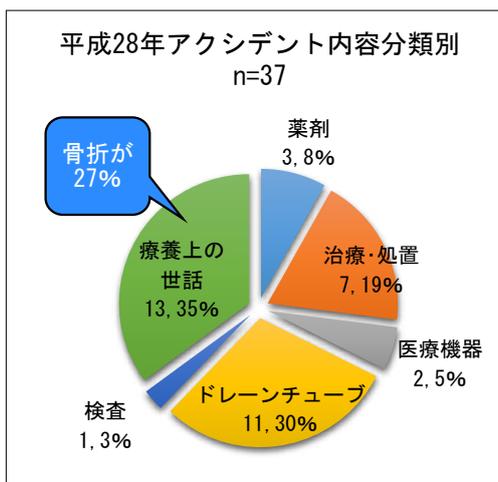
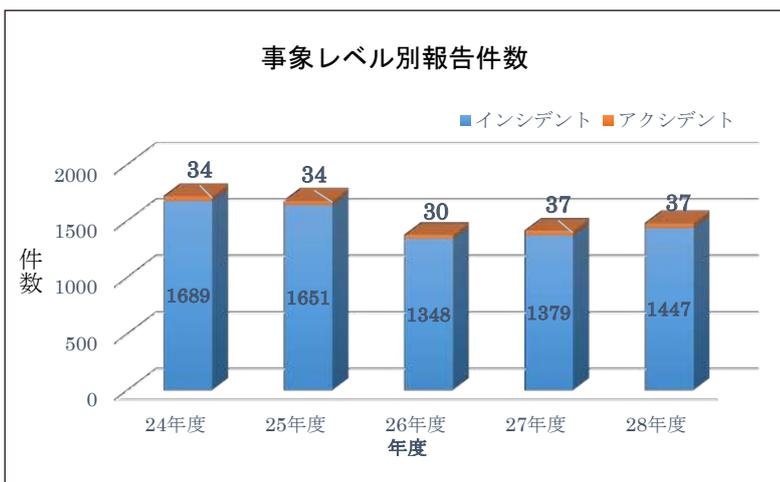
1週間単位で登録されたインシデントレポート件数および事案の経緯についてカンファレンスメンバーで情報共有を行い危険度の評価および対策や対応方針について検討しました。

〈主な検討事項〉

患者対応事案の経過確認、完全停電下での電気設備点検への対応、転倒事故発生場所の物理的対策の整備、注射薬ミキシングの手順監査の策定、消化器内科外来側出入口の施錠管理の見直し、エアシューターによる検体取扱いのルール策定、ワーファリン服用患者の併用薬に関する対策の検討、末梢ライン確保時の温罨法の危険性の確認、エレベータ挟まれ事故の検証、不適切な禁忌薬情報登録のエラー要因の確認、MRI検査時の熱傷疑い事案の検討など協議を行いました。なかでも、電気設備点検の実施に当たり非常電源に切り替わらない5分間の計画停電を行う必要があったため、組織全体で事前のリスク評価と対応策について検討し実施することができました。計画停電を実施したのは5月でしたが、4月に熊本地震が発生しており、災害に対する職員の意識が高まっていたことも、計画停電に伴う不具合の事前抽出や点検実施のための判断基準の策定をスムーズに進めることが出来たものと考えます。

【院内報告件数の推移：平成28年】

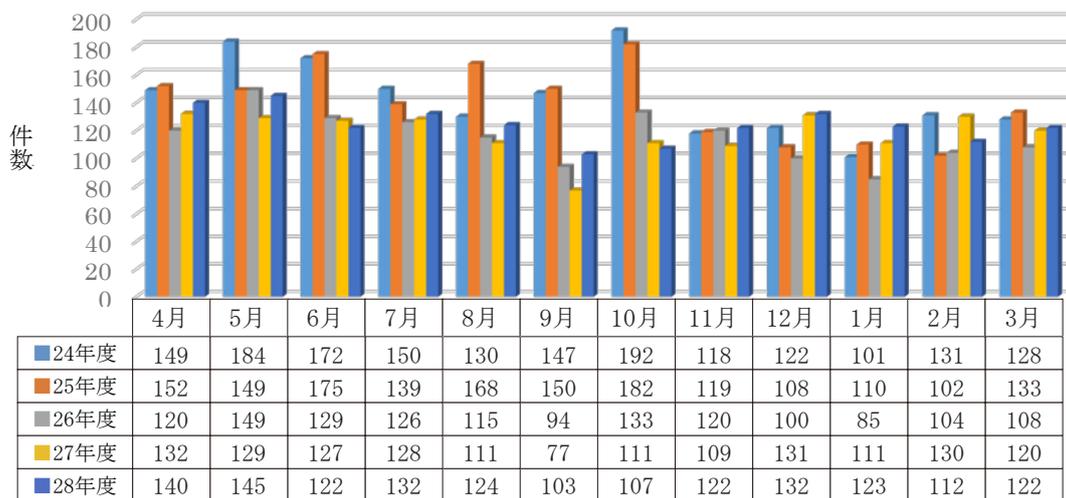
平成28年度の報告件数は1484件で、事象レベル別ではインシデント1447件(前年度1379件)アクシデント37件(前年度37件)で、前年度より68件の増加あり。内容分類別の内訳は、療養上の世話(転倒・転落、褥瘡を含む)が460件(前年度404件)、薬剤411件(前年度365件)、ドレーン・チューブ管理193件(前年度214件)、検査137件(前年度120件)、治療・処置関連119件(前年度134件)、その他119件(前年度139件)、医療機器等35件(前年度38件)、輸血関連10件(前年度2件)で、薬剤・転倒転落・検査関連、輸血関連の報告件数が増加しました。アクシデント(事象レベル3b以上)の内訳は、療養上の世話35%、ドレーン・チューブ管理30%、治療処置関連19%、薬剤8%、医療機器5%、検査3%の割合でした。なかでも、療養上の世話における事象において、転倒転落事故や不穏で興奮状態にある患者において骨折が生じた事例がアクシデント事案の27%(10件)と最多で、次に気切カニューレや挿管チューブなど呼吸管理への迅速な対応が求められる事案が19%(7件)でした。



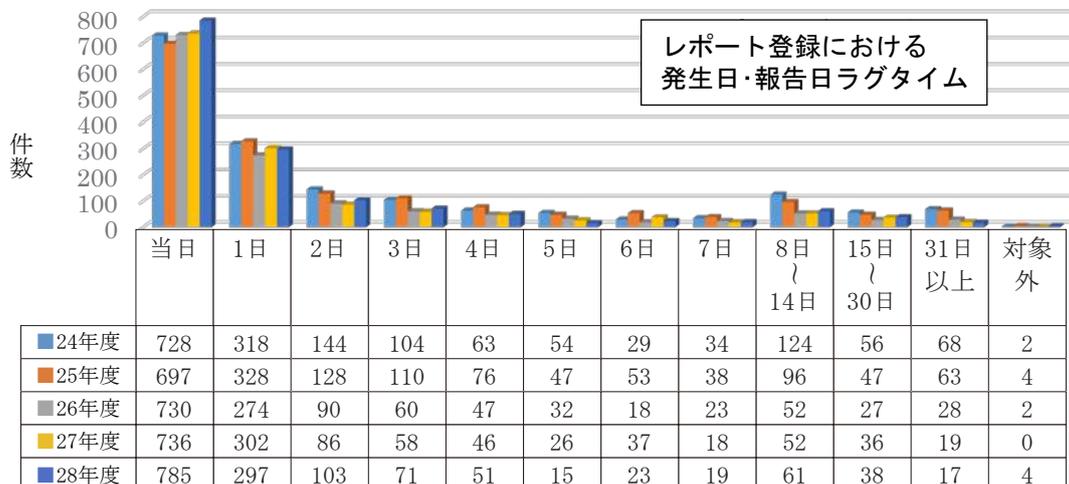
平成 28 年度 報告者職種区分 報告件数 n=1484



月別報告件数



レポート登録における
発生日・報告日ラグタイム



【院内教育研修】

日 程	内 容	対 象 者
平成 28 年 3 月 30 日 11:20~12:30	医療安全管理について	新入職者 49 名
平成 28 年 4 月 15 日 16:00~17:00	研修医ガイダンス	研修医 2 名
平成 28 年 6 月 13 日 13:30~14:30	看護部クリニカルラダー 医療安全研修~KYT(座学)	レベル4 12 名
平成 28 年 6 月 16 日 6 月 21 日 7 月 15 日 17:30~18:30	安全勉強会:転倒・転落対策について パラマウントベッド	看護部 75 名(1回目) 25 名(2回目) 47 名(3回目) 総数 147 名
平成 28 年 7 月 1 日 13:30~15:00	看護部クリニカルラダー:インシデントKYT(演習)	レベル 3 29 名
平成 28 年 7 月 12 日 13:30~14:30	看護部クリニカルラダー:インシデントKYT GW	レベル 4 13 名
平成 28 年 9 月 2 日 13:30~14:30	看護部クリニカルラダー 医療安全管理活動について	レベル 2 24 名
平成 28 年 9 月 6 日 13:30~15:00	静脈注射看護師養成トレーニング 看護師の責任	レベル4 ivナース受講者 28 名
平成 28 年 9 月 12 日 13:30~14:30	看護部クリニカルラダー:リスククレーム GW	レベル 3 27 名
平成 28 年 9 月 23 日 13:30~15:00	看護部クリニカルラダー:インシデントKYTの実際 中間発表	レベル 4 10 名
平成 28 年 9 月 30 日 14:30~16:00	看護部クリニカルラダー インシデントレポートの書き方とKYT	レベル1 32 名
平成 28 年 11 月 4 日 11 月 28 日 13:00~14:00	ナースアシスタント研修	1 回目 30 名 2 回目 21 名
平成 28 年 11 月 5 日 13:30~14:30	平成 28 年度第 1 回 医療安全研修会 5Sと医療現場への応用 テルモ株式会社富士宮工場 管理部TIM推進室 室長 吉良憲輔先生	全職員対象 109 名
平成 28 年 12 月 27 日 17:15~18:15 12 月 28 日 16:45~18:45 12 月 29 日 17:30~18:30	第 1 回医療安全研修会 - 追加開催 5Sと医療現場への応用 ~DVD視聴~	追加研修 11 回開催 全職員対象 658 名
平成 29 年 1 月 4 日 15:00~16:00 1 月 13 日 17:30~18:30 1 月 17 日 17:30~18:30 1 月 18 日 15:00~16:00、17:30~18:30 1 月 20 日 17:30~18:30 1 月 25 日 13:00~14:00、17:30~18:30	第 1 回医療安全研修会 - 追加開催 5Sと医療現場への応用 ~DVD視聴~	
平成 29 年 2 月 17 日 2 月 18 日	平成 28 年度第 2 回 医療安全研修会 ワークで学ぼう!みんなのSBAR ~報告・連絡のためのコミュニケーション~ 講師:東京海上日動メディカルサービス株式会社 メディカルリスクマネジメント室 玉利 英子先生	全職員対象 1 日目 124 名 2 日目 78 名 202 名
平成 29 年 3 月 10 日 17:30~19:00 3 月 17 日 13:30~15:00 3 月 23 日 17:30~19:00 3 月 29 日 13:30~15:00 3 月 31 日 17:30~19:00 4 月 18 日 17:30~19:00	第 2 回 医療安全研修会 -追加開催 座学+事例演習(グループワーク)	全職員対象 追加研修 6 回開催 604 名

【救急蘇生ワーキンググループ】

当院職員を対象に、日本救急医学会認定プログラムの BLS コースと ICLS コースを開催し、BLS コース 80 名 ICLS コース 6 名の受講生に修了証が発行されました。今年度の ICLS コースは、1 回の開催となりましたが、昨年 10 月の心肺蘇生法ガイドライン 2015 公表を受け、ガイドライン 2015 に準拠したコース内容を考慮し開催しました。

○コースディレクター
西山淳(麻酔科)

○インストラクター

齊藤謙一(臨床工学技士)、橋口恒夫(救急認定看護師)、尾堂知子(看護師)、有菌さつき(看護師)、熊迫智枝(看護師)、伊野知余子(看護師)、永田恵理(看護師)、小野保代(看護師)、千田清美(看護師)、古市寿子(理学療法士)、日高里美(看護師)

院内 BLS コース (3 時間) 18:00~21:00		
日 程	内 容	対 象 者
平成 28 年 6 月 10 日	第 36 回 院内 BLS 講習会	受講希望者 17 名 研修医 3 名含む
平成 28 年 6 月 18 日	第 37 回 院内 BLS 講習会 (午前)	新卒看護師 18 名
	第 38 回 院内 BLS 講習会 (午後)	新卒看護師 18 名
平成 28 年 8 月 19 日	第 39 回 院内 BLS 講習会	受講希望者 10 名
平成 28 年 11 月 11 日	第 40 回 院内 BLS 講習会	受講希望者 10 名
平成 29 年 2 月 10 日	第 41 回 院内 BLS 講習会	受講希望者 7 名
今給黎総合病院 ICLS コース (8 時間) 9:00~17:00		
日 程	内 容	対 象 者
平成 29 年 3 月 18 日	第 9 回 ICLS コース (鹿児島大学総合臨床研修センター)	受講希望者 6 名 研修医 2 名含む

【その他の活動】

鹿児島県看護協会医療安全情報ネットワークの鹿児島地区委員として、以下の院外活動を行いました。(鹿児島地区医療安全情報ネットワーク委員会 委員 千田清美)

1、鹿児島地区医療安全情報ネットワーク会議

- 第 1 回 平成 28 年 7 月 28 日(木) 18:30~20:00 鹿児島大学病院
- 第 2 回 平成 28 年 10 月 27 日(木) 18:30~20:00 鹿児島大学病院
- 第 3 回 平成 28 年 12 月 22 日(木) 18:30~20:00 鹿児島市立病院
- 第 4 回 平成 29 年 5 月 25 日(木) 18:30~20:00 鹿児島市立病院

2、鹿児島県医療安全情報ネットワーク会議

- 平成 28 年 8 月 27 日(土) 11:00~13:00 鹿児島県看護研修会館
- 平成 29 年 1 月 28 日(土) 11:00~13:00 鹿児島県看護研修会館

3、鹿児島県看護協会

- 平成 28 年度通常総会 書記
- 平成 28 年 5 月 21 日(土) 8:15~13:00 鹿児島県市町村自治会館
- 平成 28 年鹿児島地区集会 医療安全情報ネットワーク委員
- 平成 28 年 6 月 11 日(土) 13:30~16:00 鹿児島県看護研修会館

4、鹿児島県鹿児島地区評議員会

- 平成 28 年 6 月 17 日(金) 14:00~17:00 鹿児島県看護研修会館
- 平成 28 年 11 月 25 日(金) 14:00~17:00 鹿児島県看護研修会館
- 平成 29 年 2 月 24 日(金) 14:30~17:00 鹿児島県看護研修会館
- 平成 29 年 5 月 26 日(金) 14:30~17:00 鹿児島県看護研修会館

5、鹿児島県看護協会医療安全研修会

- 平成 29 年 2 月 10 日(金) 10:00~16:00 鹿児島県看護研修会館
- 鹿児島地区医療安全管理担当者 - 医療安全推進に向けた取り組みの実際
「計画停電による電気設備点検への対応」発表

6、講師派遣 (講師)

- 済生会鹿児島病院全職員対象医療安全研修会 平成28年7月19日 (火) 17:15~18:45



褥瘡管理課

主任 下前百合香

【スタッフ】 4名(皮膚・排泄ケア認定看護師2名、日本褥瘡学会認定師(看護師)1名、事務1名)

【部門実績】

1)業務内容

- ・入院患者の褥瘡対策・褥瘡患者管理、スタッフ指導、形成外来との連携
⇒詳細は褥瘡対策委員会報告書参照
- ・褥瘡対策患者抽出し、褥瘡ハイリスク対象患者への予防訪問
- ・スキンケア・創傷ケア・ストーマケアコンサルテーション
- ・NPWT(VAC・RENASYS・PICO・SNaP) 製品物品管理
- ・体圧分散寝具管理(除圧マット・Air マット・ポジショニングクッション)
- ・褥瘡回診(毎週月曜日 14:00～)
形成外科医師(外菌)、皮膚・排泄ケア認定看護師(下前、椎木)、
日本褥瘡学会認定師(看護師:逆瀬川)、薬剤師(古賀、賤間、寿)、
管理栄養士(鈴木:日本褥瘡学会認定師)、作業療法士(宮之原:日本褥瘡学会認定師、
鮫島、鶴田)、理学療法士(野村、中辻、井上、福永)、言語聴覚士(下園)、各病棟スタッフ)
- ・NSTカンファレンス・回診:日本褥瘡学会認定師(看護師:逆瀬川)参加(毎週火曜日)
- ・褥瘡対策委員会開催(毎月第1水曜日:17:15～18:15)
- ・NST委員会会議参加(毎月第1水曜日:13:15～13:45)
- ・NICUカンファレンス(毎月第3木曜日:15:30～16:00):下前・椎木
- ・看護部:DiNQL 褥瘡関連データ入力確認・修正(H28年10月迄)
- ・ストーマケア管理コンサルテーション
新規ストーマ造設患者数:14名
コロストーマ:10名、イレオストーマ:2名、回腸導管術:2名
ストーマサイトマーキング施行患者数:11名(うち3名はマーキングのみ)
- ・ストーマ外来(診察日に合わせて日程調整)
- ・褥瘡勉強会開催(偶数月開催)

日時	内容	担当講師	参加人数
3月30日	「チームで取り組む褥瘡予防」(対象:新入職者)	褥瘡管理課:下前	49名
4月13日	「褥瘡予防対策・治療」(対象:研修医)	褥瘡管理課:下前	2名
6月26日	「褥瘡関連の記録について」	褥瘡管理課:逆瀬川	216名
8月26日	「スキンケア」	褥瘡管理課:椎木	136名
10月5日	オムツ種類変更「特徴や適切な使用方法について」	株式会社リブドゥーコーポレーション 排泄ケアアドバイザー:伊藤操氏	114名
10月19日	「褥瘡ハイリスクアセスメント・評価方法について」	褥瘡管理課:下前	111名
12月21日	「ポジショニング」	リハビリテーション部:宮之原(OT)	122名
H29年 3月15日	①「褥瘡・創傷治療に使用する薬剤について」 ②「ドレッシング材の特徴と局所ケアの実際」	①薬剤部:古賀(薬剤師) ②褥瘡管理課:椎木	144名

・褥瘡以外の勉強会開催

日時	内容	担当講師	参加人数
10月25日	ストーマ閉鎖について	椎木	2東:28名
H29年 1月10日	便失禁管理システム“フレキシシール”管理について	コンバテック社 桑原健氏	2東:16名

2) その他

- ・ 鹿児島県内 皮膚・排泄ケア認定看護師勉強会開催
 8月27日
 県内 皮膚・排泄ケア認定看護師、その他関係者対象 WOCN に係わる 医療マネジメント
 「平成28年度診療報酬改定」について
 講師：3Mヘルスケア株式会社 高水勝氏 参加者：WOCN：17名、医事・看護部：9名（他院も含む）
- ・ 他院：静岡済生会病院スタッフより、写真付き褥瘡予防マニュアルについての問い合わせ対応

3) 学術実績

院外講演活動

日時	主催・場所	内容	担当
5月27日	主催：社会福祉法人 厚生会 介護老人福祉施設 睦園 睦園 2階 多目的ホール 19:00～20:30	「褥瘡に関する基礎知識と予防対策」	講義：下前 アシスタント：逆瀬川 椎木
10月11日	主催：株式会社ホリスター・ダンサック ダンサック営業本部 かごしま県民交流センター 大研修室1 (13:00～16:30)	ダンサック ストーマケア セミナー 講義1「装具選択のポイント」 講義2「ノバライフ1フィットの症例報告」	講義1：下前 講義2：椎木
12月17日	公益財団法人 日本オストミー協会 鹿児島県支部(こだま会) キャンセビル7階 会議室 (13:00～16:00)	オストメイトとその家族の集い 「ストーマケアの実技演習」	椎木

4) 院外開催講演会への参加

- H29. 3. 18 日本褥瘡学会在宅褥瘡医療ネットワーク委員会
 第10回鹿児島県在宅褥瘡セミナー（「在宅褥瘡管理者」対応講習）
 下前：世話人・運営、椎木：運営スタッフ
- H28. 11. 15～H29. 3. 5 迄：看護師特定行為研修受講（日本看護協会研修学校）：下前
 ≪取得した特定行為≫

創傷管理関連	褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去
	創傷に対する陰圧閉鎖療法
創部ドレーン管理関連	創部ドレーン抜去(皮下)
栄養及び水分管理に係わる薬剤投与関連	持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整
	脱水症状に対する輸液による補正

5) 院外開催会議への参加

- H29. 3. 18 日本褥瘡学会在宅褥瘡医療ネットワーク委員会
 第10回鹿児島県在宅褥瘡セミナー(運営会議) 下前・椎木



緩和医療課

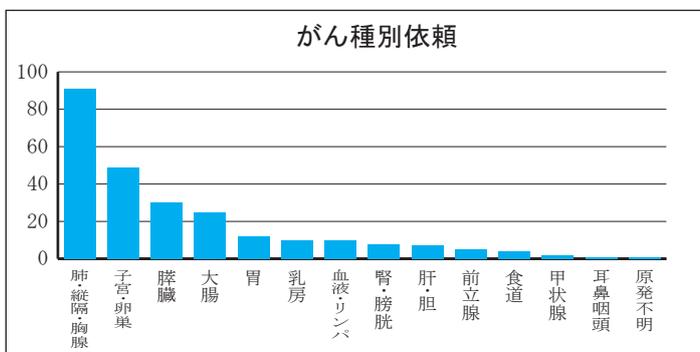
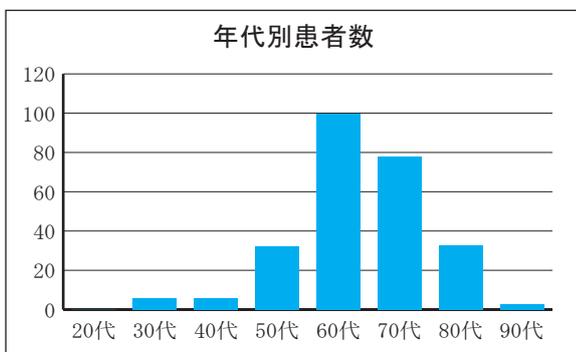
主任 植屋 明代

緩和医療課は、緩和ケア認定看護師早崎・岩山と保健師植屋の3名です。認定看護師は緩和ケア、保健師はがん相談を主軸にお互い情報共有・サポートし合いながら活動しています。残念ながら昨年度は依頼件数がどちらも減少しました。自分達がかもっと頼られる存在になれるよう自己研鑽そして広報に努めたいと思います。

●スタッフ：早崎玲子・岩山友紀(緩和ケア認定看護師)、植屋明代(保健師)、吉國久子(社会福祉士 5月まで)

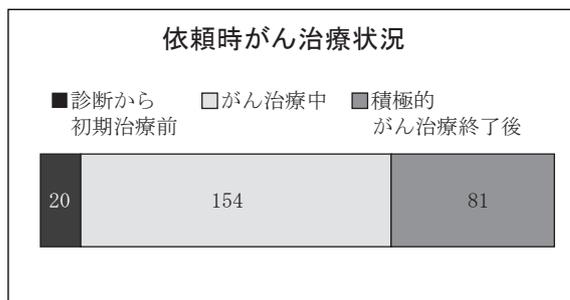
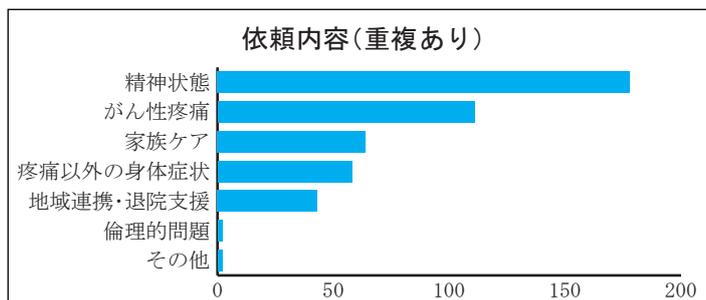
●緩和ケアチーム実績

チーム依頼件数：258名(男124名・女134名 / がん患者255名・非がん患者3名)



診療科別依頼内容(重複依頼あり)

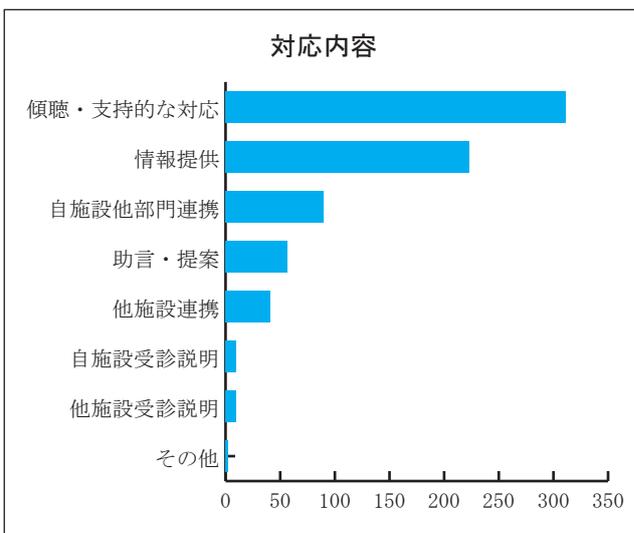
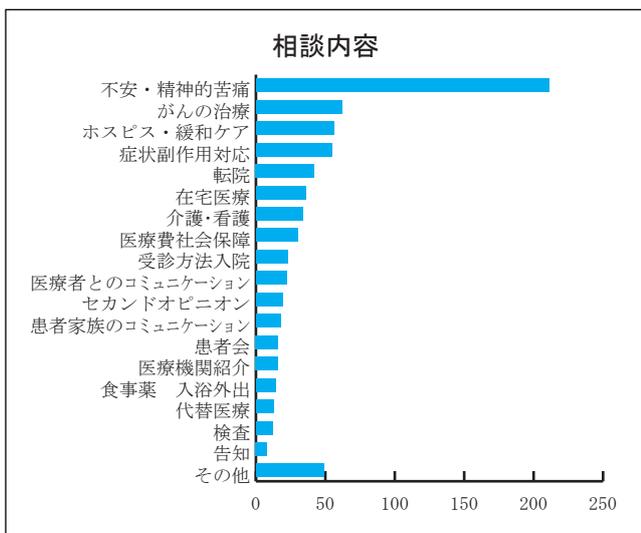
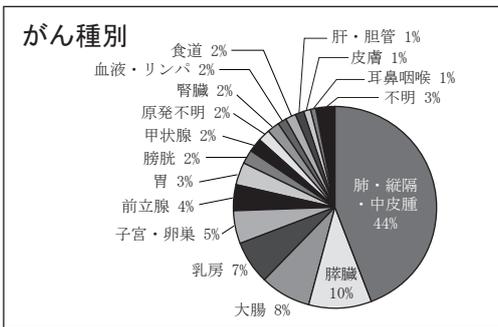
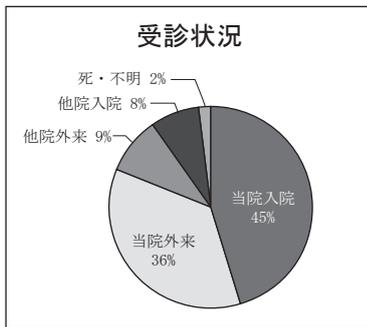
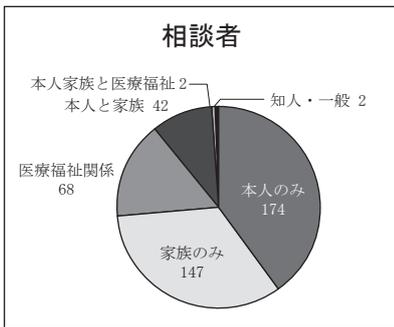
	疼痛	疼痛以外の身体症状	精神症状	家族ケア	倫理的問題	地域連携退院支援	その他	依頼件数
呼吸器内科	16	14	38	23	0	19	0	56
婦人科	4	5	41	8	0	5	0	46
外科	26	12	31	14	2	5	1	45
呼吸器外科	24	11	21	3	0	6	1	38
消化器内科	22	11	24	12	0	7	1	37
泌尿器科	8	0	5	1	0	0	0	13
血液内科	2	2	6	1	0	1	0	7
放射線科	3	2	5	1	0	0	0	7
整形外科	3	0	3	1	0	0	0	5
循環器内科	1	0	1	0	0	0	0	1
耳鼻科	1	0	0	0	0	0	0	1
形成外科	0	0	1	0	0	0	0	1
他施設	1	1	0	0	0	0	0	1



●がん相談支援センター(緩和医療課対応分)

相談件数：435 件

(面談：317 電話：110 メール：8 / 初回：138 2回目以上：297)



●ほっとサロン今給黎(第3水曜日 13:00～15:00) *2016.1より14:00～16:00

がん患者さん、ご家族が安心して思いを語り合う場として、がんサポートかごしまと協働で開催しています。

月	ミニ勉強会テーマ	担当	参加者(スタッフ含)
4	医療用麻薬について	堀内智裕(薬剤師)	12
5	がん情報のさがし方	植屋明代(保健師)	8
6	バルーンアートを作ろう!	藤山みどり(副看護部長)	19
7	実践できる良好な食事のポイントについて	田中美帆(管理栄養士)	13
8	いのちの授業について	三好綾(がんサポートかごしま理事長)	11
9	抗がん剤の話	河原尚美(がん化学療法看護認定看護師)	17
10	がんとお金の話	原口一博(社会福祉士)	12
11	睡眠について	小玉哲史(精神腫瘍医)	11
12	クリスマス会	参加のみなさん	17
1	がんと口腔ケア	瀬戸山智香(歯科衛生士)	12
2	みんなで絵手紙をかこう	がんサポートかごしま	8
3	みんなでストレッチ	重水智子(理学療法士)	9

●がん・緩和ケア研修会

日付	テーマ	講師	人数
H28. 4. 21	アドバンス・ケア・プランニング	落合美智子先生(鹿児島大学病院 がん専門看護師)	77名
H28. 10. 6	がん患者さんとの接し方	小玉哲史先生(当院緩和医療科医師)	102名

●セカンドオピニオン外来 1件

性別	年齢	がん部位	相談内容	対応医師
男	65歳	大腸がん、肝転移	治療方針、他の治療の可能性	牟禮洋(外科)

●がん患者カウンセリング料算定(緩和ケア認定看護師早崎・岩山対応分)

18件 岩山 12件(6件は算定不可)・早崎 6件

(依頼診療科:呼吸器内科:9件、外科1件、婦人科1件、消化器内科1件)

●退院支援(緩和医療課対応:緩和ケアチーム+がん相談支援センター)(人数)

緩和ケア病棟・外来(計37):天陽会中央病院(14)今村病院(8)鹿児島市医師会病院(7)相良病院(3)南九州病院(3)人吉医療センター(1)南風病院(1)

他医療機関(計28):三船病院(4)種子島医療センター(2)指宿浩然会病院(2)薩南病院(2)上原クリニック(1)久保内科(1)前田病院(1)湯田内科(1)鹿児島市立病院(1)今村分院(1)おぐら病院(1)新村病院(1)豊島病院(1)さくら病院(1)あんびる病院(1)かごしま生協病院(1)南風病院(1)八木クリニック(1)大隅鹿屋病院(1)岩尾病院(1)盛満医院(1)大阪医科大学(1)

在宅医療(計10): 当院在宅医療部(3)五反田内科クリニック(2)久保内科(1)ナカノ在宅医療クリニック(1)ひさまつクリニック(1)こまきクリニック(1)小笠原内科(1)

訪問看護(計16名): 当院在宅医療部(8)こもれ陽S t(2)かりんS t(2)モーシオン鹿児島(1)日置市医師会S t(1)平和会S t(1)みなみ風S t(1)

●図書の見覧・貸出利用者(がん相談支援センター図書) 10名利用(貸し出し:計10冊)

●つながる想い in かごしま 5月14日(土)上荒田の杜公園:今給黎総合病院 29名参加

●学術実績

・講義(院内)

看護部研修クリニカルラダー	レベルⅡ	「エンゼルケア」「エンゼルメイク」	岩山
〃		「ケーススタディ」	早崎
〃	レベルⅣ	がん看護「NURSEについて」	早崎
〃		「NURSE ロールプレイ」	早崎・岩山・植屋

・病棟勉強会

2北 エンゼルケアについて 岩山

・研修協力

緩和ケア研修ファシリテーター 今給黎総合病院 早崎・岩山・植屋

●その他の活動

- ・緩和ケアチームラウンド・カンファレンス(木曜日午後)
- ・病棟カンファレンス・キャンサーボード参加(随時)
- ・呼吸器内科回診参加(金曜日)
- ・在宅医療部カンファレンス参加(第2・4火曜日)
- ・化学療法緩和ケアネットワーク(第1木曜日)
- ・がん看護委員会(がん関連認定看護師で企画実施)(第1木曜日)
- ・緩和ケア合同カンファレンス(鹿児島市内がん拠点病院・指定病院 1回/月)
- ・緩和ケアに関する地域連携会議(相良病院2回/年)
- ・鹿児島県4部門会議(鹿大病院2回/年)
- ・緩和医療科・精神腫瘍科診療の調整・補佐
- ・緩和ケア週間にてPR(10/4-10)Wish Tree
- ・パンフレット・リーフレットにより情報提供、広報・周知活動、図書館“すまいる”へパンフレット等提供
- ・誕生日カード、グリーフケア(電話・手紙での遺族ケア)
- ・鹿児島県がん相談員メーリングリスト管理
- ・認定看護師会(奇数月) ・認定看護師連絡会(9月) ・認定看護師だより(輪番制)
- ・患者図書運営委員会 ・職員教育研修委員会 ・病院業務運営会議(第2月曜日)



感染管理課

主任 立和名聖子

当課は、平成 24 年に院長直下の感染管理部門として新設された。その後、感染防止対策加算 1・地域連携加算を取得しており院内感染対策が強化されている。病院感染対策委員会副委員長、感染対策チームメンバー、看護部感染リンクナース会管理者として院内の多くの部署と関わり院内感染防止対策の指導、実践、相談を主な業務としている。院内のほぼすべての感染情報が当課に集まるため、院内の感染情報を整理し迅速に関係部署へ伝達・介入できるよう取り組んでいる。院内のあらゆる職種と関わり、相談しやすい環境づくりや問題点の提示、現場と一緒に改善に向け取り組むこと、状況に応じて迅速な指示を活動の一貫としている。

今年度の新規取り組みとして不定期ではあるが、感染症情報の発行を行った。その時に院内や鹿児島で流行している感染症を取り上げ知識と意識の向上を図った。その他 ICT 環境ラウンドの結果を基に報告書を作成し、毎週月曜日の師長カンファレンスで報告と改善を促した。昨年に引き続き BSI、UTI、手指消毒剤使用量、血液培養採取に関するサーベイランス、JANIS 全入院部門のサーベイランスを継続した。耐性菌対策として今年度は、NICU の感染対策に多く関わった。ESBL や MRSA に対するミニレクチャーの実施と個別の PPE 着脱チェック、ラウンドの強化を行い感染拡大防止に病棟とともに取り組んだ。

院内の感染発症対応の一つとしてインフルエンザがあげられる。今年度は、鹿児島県で集団発生が報告される中、緊迫した中での感染対策の遂行となった。早期からマニュアルの見直しや症候性サーベイランスの強化、注意喚起を行っていたが、1 病棟のインフルエンザ発生について鹿児島市保健所へ報告することになった。早期対応により 10 日ほどで収束宣言することができた。

今年 4 月に発生した熊本地震は、鹿児島でも今までに感じたことのない揺れであった。熊本では多大な被害によりたくさんの方が避難生活を余儀なくされる事態となった。その中で 4 月 20 日 JMAT 感染対策チーム派遣の要請があった。災害地域での支援活動は初めてであったが感染管理の知識や今までの経験を基に何か貢献できればと思い、院長・事務長・看護部長の承諾を得て 4 月 27 日から 29 日の 3 日間 JMAT 感染対策チームの一員として鹿児島厚生連病院の宮原医師と宇土地区で活動を行った。感染対策として今ある資源をどのように活用することが最善であるかまた、避難を余儀なくされている方へ負担をかけない関わり方、適切な感染対策の指導助言について考えながらの活動となった。

今後も、患者と医療従事者の両方を無用な感染から守るために日々活動していくことが責務であり院内外の関係各部署と情報共有や相談介入を積極的に実践できるよう取り組んで行く。

【スタッフ】 1 名(感染管理認定看護師)

【部門実績】

院内

- ・院内感染防止対策委員会の運営(毎月第 4 水曜日)
 - CV ドレッシング材変更案の提示(BSI サーベイランス結果とコストを踏まえて提案)
 - TB 接触者検診の計画と結果報告
 - 院内感染防止対策マニュアルの見直し案の提示
 - 院内感染発生状況報告と対策の検討
 - 2015 年分の JANIS 全入院部門の結果報告
- ・ ICT 会議、ラウンド(毎週水曜日)の調整、計画、実施
 - 環境ラウンド結果を基に報告書を作成(毎週月曜日師長カンファレンスで報告)
 - 新入職者のワクチン接種時期について労働安全衛生委員会へ要望書を提出
- ・看護部リンクナース会の運営(毎月第 1 火曜日)
 - リンクナース環境ラウンドやグループ活動の助言
 - 手指消毒使用量サーベイランスの実施と結果報告
 - ネブライザー管理の現状調査と管理手順書の作成
 - 看護ケア物品の取り扱いについて周知
 - 手洗いチェック演習の計画、リンクナースへ実践指導
 - ミニレクチャー：「シンク周囲環境について」
「流行性耳下腺炎事例と麻疹の流行について」

- ・サーベイランスの実施と結果報告
 - カテーテル関連尿路感染サーベイランス(4病棟)
 - カテーテル関連血流感染サーベイランス(1病棟)
 - 血液培養セット数サーベイランス
 - 手指消毒剤使用量サーベイランス(14部署)
 - 厚労省サーベイランス事業(JANIS)全入院部門
- ・相談：75件(内訳：環境4件、患者配置14件、洗浄消毒滅菌1件、標準予防策経路別予防策関連33件、ケア手順1件、就業制限6件、廃棄物6件、職業感染1件、その他11件)
- ・インフルエンザ病棟閉鎖対応
- ・院内研修の計画、実施

第1回 全職員対象	「病院環境整備と手指衛生の重要性」 講師：大畑節子先生（(株)SRL 管理部本部本社統括部営業サポートチーム）	参加率 86%
第2回 全職員対象	「麻疹・風疹・水痘・ムンプスに対する感染対策」 講師：徳田浩一先生（鹿児島大学病院医療環境安全全部感染制御部門副部門長特定准教授）	参加率 86%

【加算関連】

- ・感染防止対策加算地域連携ラウンドの調整、計画、開催

	評価対象医療機関	評価実施医療機関
10月14日	鹿児島市立病院	今給黎総合病院
12月8日	今給黎総合病院	鹿児島市立病院

- ・感染防止対策加算合同カンファレンスの調整、計画、開催(米盛病院)

開催日	主な内容
6月29日	手指衛生について、ICTラウンドの実際、抗菌薬使用状況
9月1日	流行性耳下腺炎事例、JANIS検査部門還元データ、抗菌薬使用状況
12月29日	院内感染研修について、抗菌薬使用状況、インフルエンザ・感染性胃腸炎発生状況と対策
3月14日	インフルエンザ発生経過と感染対策、抗菌薬使用状況

【院外】

- ・熊本地震支援活動
4月27日～29日 JMAT 感染対策チーム

【学術実績】

院内感染研修

4月8日	研修医ガイダンス
4月14日	看護部レベル1
5月9日、7月22日、12月2日	看護部レベル4 感染管理基礎
5月17日、7月8日、9月2日、12月2日	看護部レベル4 感染管理応用
10月3日	看護部レベル4IV ナース
10月17日	看護部レベル3
10月24日、10月27日	Ns アシスタント感染研修

院外研修講師

5月13日、7月15日、11月17日	日本感染管理ベストプラクティス Saizen 研究会 鹿児島ワーキンググループ アドバイザー
6月15日	社会福祉法人厚生会 睦園 感染研修 「高齢者に多い感染症の基礎知識と蔓延防止対策」
7月30日	鹿児島県看護協会鹿児島地区研修 感染管理基礎
3月13日、3月17日	南九イリョー(株) 「院内リネン業務に係るための感染対策の基礎知識」

院外発表は「研究実績」の頁へ



施設課

課長 田中英樹

【はじめに】

当課は、病院全体の施設の管理を行う部署で、24時間体制で業務を行っています。

病院の理念、基本方針、目標に沿って目標課題を毎年設定し達成できるように業務を推進しています。また、病院で活動する全ての方に安全で快適な環境を提供するために建物、設備のメンテナンスをサポートしています。老朽化した建物、設備に対して単純に修理・更新の手配をするのみではなく、運営方針や経費対効果を考慮した、適切な修繕計画の策定も担っています。また東日本大震災・熊本地震レベルの大規模災害時にも、建物の機能不全に陥ることがないように、日常の点検業務・修繕に取り組んでいます。

【スタッフ】 7人体制

1・2級ボイラー技士、第1・2種電気工事士、危険物取り扱い、冷凍機、防火管理者等の有資格者

田中・米盛・佐々木・山元・小土橋・大迫・上赤
資格を取得することだけでなく、どんな物でも修理できる発想力の豊かさが求められます。

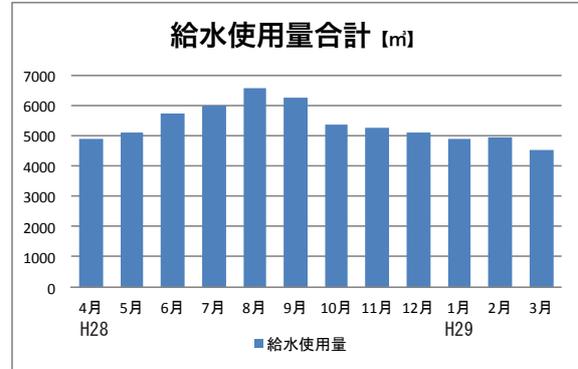
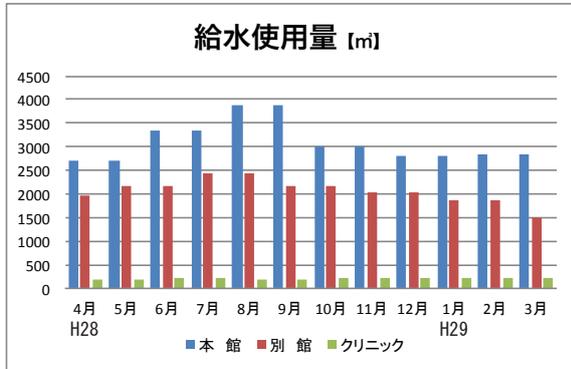
【実績】

4月	本・別館冷温水機分解整備 全館害虫駆除 エレベータ点検【全館】 医療ガス研修会 防火委員会	11月	本館2号ボイラー性能検査 火祭り ホルムアルデヒド残留濃度測定 消防設備総合点検【本・別館・クリニック】 ガス器具保守点検 本・別館冷温水機分解整備 総合防火訓練 エレベータ点検【全館】
5月	中材・消毒器性能検査【3缶】 本・別館、貯水槽清掃作業 クリニック電気年次精密点検 ホルムアルデヒド残留濃度測定 消防設備機器点検【本・別館・クリニック】 エレベータ点検【全館】 総合防火訓練	12月	本館1号ボイラー性能検査 エレベータ点検【全館】 コンセントプラグ点検 手術室 環境消毒清掃・清浄度測定 高圧酸素治療装置精密点検
6月	自動ドア総合点検 エチレンガス残留測定 エレベータ点検【全館】 コンセントプラグ点検	1月	医療ガス設備保守点検【本・別館・クリニック】 エレベータ点検【全館】
7月	自家発電設備精密点検 手術室消毒器性能検査【2缶】 エレベータ点検【全館】	2月	本館ストレージタンク性能検査 本・別館電気年次精密点検 窒素酸化物・ばいじん量測定 エレベータ点検【全館】 汚水検査 自動ドア総合点検
8月	別館ストレージタンク性能検査 窒素酸化物・ばいじん量測定 ガス器具保守点検 エレベータ点検【全館】	3月	CE設備検査 ガス器具保守点検 エレベータ点検【全館】 ナースステーション空調機点検清掃 医療ガス安全管理委員会 在庫管理
9月	汚水検査 エレベータ点検【全館】		
10月	熱交換器、分解整備 全館害虫駆除 自動ドア総合点検 エレベータ点検【全館】 防火委員会		

【給水使用量実績表】
2016年4月分～2017年3月分

単位【m³】

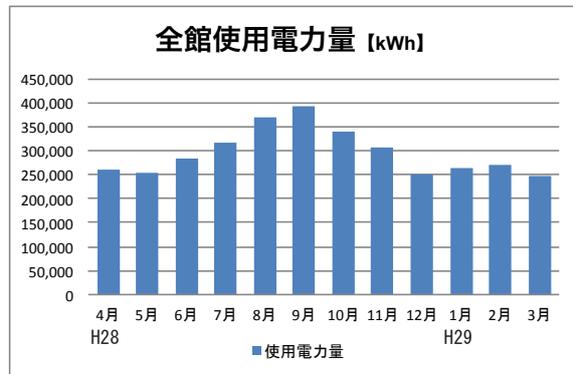
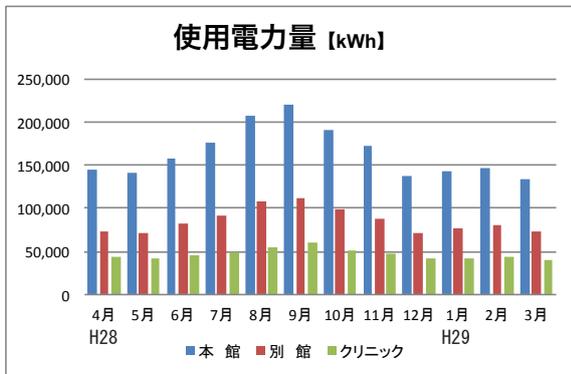
給水使用量	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
本館	2,716	2,716	3,340	3,342	3,890	3,890	3,006	3,006	2,820	2,820	2,850	2,850	37,246
別館	1,958	2,175	2,175	2,453	2,453	2,157	2,158	2,045	2,044	1,879	1,879	1,488	24,864
クリニック	202	202	213	213	202	202	205	205	211	212	205	205	2,477
合計	4,876	5,093	5,728	6,008	6,545	6,249	5,369	5,256	5,075	4,911	4,934	4,543	64,587



【電力使用量実績表】
2016年4月分～2017年3月分

使用電力量【kWh】

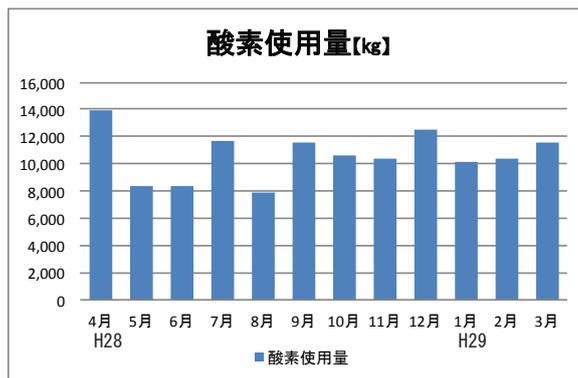
使用電力量	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
本館	145,224	141,048	157,140	176,724	207,516	220,512	190,164	171,960	138,012	143,124	146,016	134,064	1,971,504
別館	72,624	71,052	82,500	91,584	108,528	112,428	98,856	87,756	71,256	76,512	81,216	73,692	1,028,004
クリニック	43,950	41,862	44,994	49,086	54,918	59,838	50,526	47,796	41,178	42,540	44,538	40,626	561,852
合計	261,798	253,962	284,634	317,394	370,962	392,778	339,546	307,512	250,446	262,176	271,770	248,382	3,561,360



【医療用酸素使用量実績表】
2016年4月分～2017年3月分

使用電力量【kWh】

酸素使用量	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
酸素使用量	13,908	8,307	8,423	11,664	7,937	11,617	10,668	10,414	12,566	10,182	10,414	11,617	127,717





栄養管理部

課長 上平田美樹

●スタッフ構成(平成29年4月1日現在)

管理栄養士11名、NST専従管理栄養士1名、栄養士8名
調理師5名、調理員12名、洗浄パート4名、洗浄部門(委託)8名 合計49名

●認定資格取得状況(平成29年5月現在)

・病態栄養専門師認定	上平田美樹	鈴木聖子	鵜瀬裕美	田中美帆	染川麻美
・NSTサポートチーム専門療養士認定	上平田美樹	鈴木聖子			
・NSTコーディネーター認定	上平田美樹	鈴木聖子			
・糖尿病療養指導士認定	上平田美樹	鵜瀬裕美	染川麻美		
・がん病栄養態専門師認定	上平田美樹	鵜瀬裕美	田中美帆		
・認定褥瘡管理栄養士	鈴木聖子				
・健康運動療指導士認定	鵜瀬裕美				
・特定保健従事者認定	鈴木聖子				

●栄養管理

今年度は、平成28年4月1日から直営にて給食管理開始。新規スタッフを交えて、衛生管理の徹底、食味に考慮した食材調達及び人員管理を中心に給食運営を行いました。

食事アンケート結果において、満足度85%(図1)の結果が得られ、主食、味付けにおいても前年度を上回りました。今後も急性期における栄養管理・給食運営においても「安心・安全で喜ばれる給食」を目指し、スタッフ一丸となり取り組んで参ります。

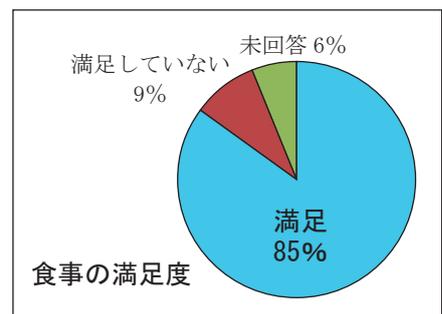


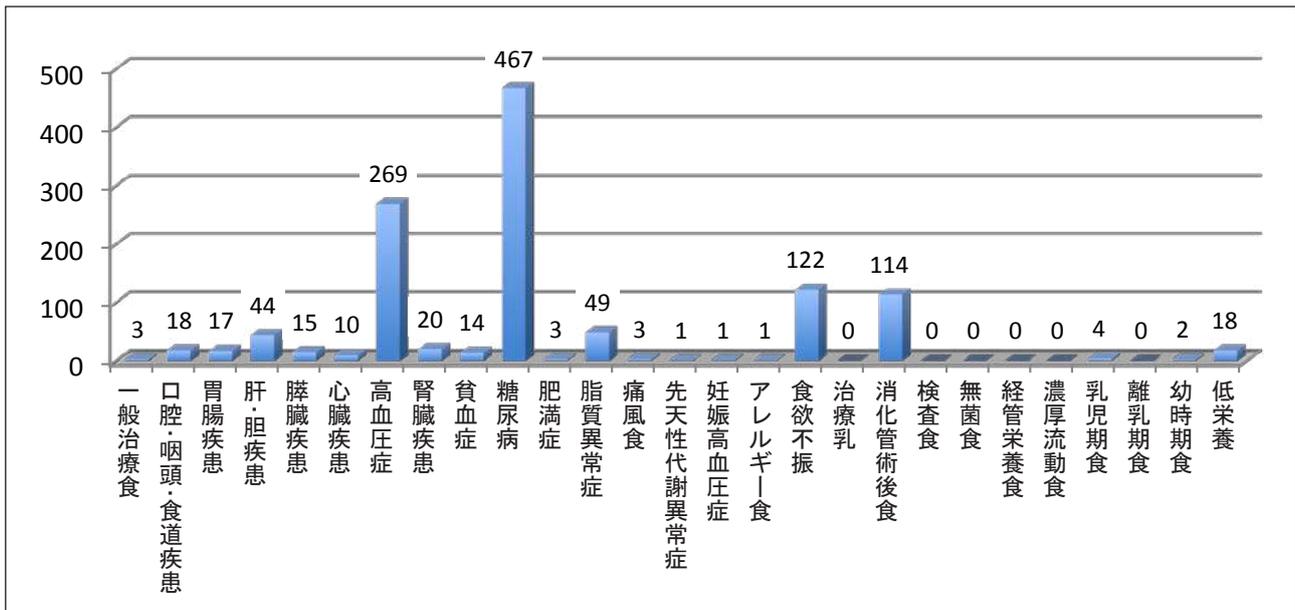
図1)平成28年8月アンケート結果

●栄養指導

平成28年度の指導実績は、入院栄養指導3,123件、外来栄養指導192件、昭和会クリニック外来栄養指導200件、合計3,337件でした。(疾患別内訳；図2参照、※1；栄養指導算定・非算定を含む実施数)

今年度は、給食運営に注力した為、前年度より件数が大幅に減少する結果となりましたが、4月からの診療報酬改訂において栄養指導要件の見直しと指導範囲(がん、摂食嚥下機能、低栄養の患者に対する)拡充があり、引き続き充実した活動と分かりやすい栄養指導を目標とし、指導技術の向上を目指し、認定資格の取得に向けた取り組みやスキル向上に励んで参りたいと思います。

図2)平成28年度 栄養指導統計(疾患別)



●平成28年度 栄養管理部活動状況報告

・実習生受け入れ状況

鹿児島県立短期大学生活科学科食物栄養専攻 平成28年8月17日～30日(2週間)
 臨地・校外実習(病院給食実習) 1名

・インターンシップ(職場体験学習)受け入れ

平成28年9月12日 児童養護施設 大村報徳学園 職場体験(1週間) 1名
 平成28年11月10日 鹿児島県立 東高校 4名 講師 上平田美樹
 平成28年12月8・9日(2日間) 2名 / 平成28年12月15・16日(2日間) 2名
 授産施設(ワークステージつばさ)職場体験(洗浄業務) 計4名
 平成29年2月16日 鹿児島私立樟南高校 職場体験 4名 講師 上平田美樹

・病院施設(電子カルテシステム)見学受け入れ

平成29年3月7日 医療法人 青仁会 池田病院 管理栄養士1名 上平田美樹

・病院施設の公開利用

平成28年7月20日 がん患者サロン「ほっとサロン今給黎」ミニ勉強会
 「実践できる良好な食事のポイント」 講師 田中美帆

・院外講師活動

平成28年10月22日 鹿児島県栄養士会自主勉強会 「肝胆膵の栄養管理」 講師 上平田美樹
 平成29年3月18日 日本褥瘡学会主催鹿児島県在宅褥瘡セミナー「栄養」 講師 鈴木聖子

・院外発表活動

平成29年2月11日 第28年度公益社団法人鹿児島県栄養士会第4回研修会研究発表
 「消化吸収に着目した経腸栄養剤の選択」 発表者 鈴木聖子

・大規模災害研修会

鹿児島救急医学会3部会(医師部会・看護部会・救急隊員部会)合同学術集会
 「桜島大噴火各分野の英知を集めその時に備える」 平成28年9月10日 上平田美樹

・院外ボランティア活動

平成28年5月14日 つながる想い in かごしま～がんとともに生きる～ 鈴木聖子
 平成28年8月27・28日 第47回鹿児島小児糖尿病サマーキャンプ 鶴瀬裕美
 平成28年10月23日 第33回市民健康まつり 染川麻美、鶴瀬裕美

・公的会議参加

平成28年11月12日 鹿児島摂食嚥下リハビリテーション研究会 理事会 鈴木聖子

・ 院外研修参加

- 平成28年5月11日 乙種防火管理講習 上平田美樹
 平成28年度在宅歯科医療人材育成事業 摂食・嚥下食支援研修会
 平成29年1月15日 「摂食嚥下障害の基本/有病高齢者の歯科治療と食支援」 上平田美樹

・ その他、研修会・学会参加状況

- 平成28年12月13日 ダスキン衛生研修会「ノロウイルス対策」 福元のぞみ、徳田まどか、安山寿登
 平成28年9月29日 平成28年度給食施設従事者研修会 上野真紀、神之田優
 平成28年9月6日 平成28年度給食施設従事者研修会 上平田智喜
 平成28年9月7日 平成28年度給食施設従事者研修会 小野匡史
 平成28年6月18日 第12回 びくるすの会研修会 鈴木聖子
 平成28年9月2日3日 第18回日本褥瘡学会学術集会 鈴木聖子
 平成28年10月14・15日 第54回日本糖尿病学会九州地方会 鵜瀬裕美、染川麻美
 平成28年10月15日 日本静脈経腸栄養学会九州地方会 鈴木聖子
 平成28年10月20日 大塚製薬工場 Live on Nutrition Seminar 「リハビリテーションと栄養管理」
 染川麻美、松尾さやか、栢さゆり
 平成28年10月22日 鹿児島県栄養士会自主勉強会 篠田佳那、松尾さやか
 平成28年11月5日 第7回チーム医療を考える会「チームで関わる栄養指導」 染川麻美、鵜瀬裕美
 平成28年11月12日 鹿児島県摂食嚥下リハビリテーション研究会
 鈴木聖子、染川麻美、栢沙由理、井上恵里菜、柏木美保
 平成28年11月15日 第9回 糖尿病医療連携体制講習会
 染川麻美、鵜瀬裕美、森岡万悠子、篠田佳那、栢沙由理、井上恵里菜、柏木美保
 平成28年11月18日 鹿児島 NSTセミナー 鈴木聖子、染川麻美、鵜瀬裕美、末平亜里紗
 平成28年11月27日 第10回県民公開講座～高血圧予防と食生活～ 上野真紀、神之田優
 平成28年11月29日 大塚製薬工場 Live on Nutrition Seminar 「半固形剤による栄養管理」
 染川麻美、鵜瀬裕美、森岡万悠子、篠田佳那、栢沙由理、柏木美保、井上恵里菜
 上野真紀、神之田優、小園千恵美、富永奈穂美、徳田まどか
 平成28年12月20日 ガスチームコンベクション体験調理セミナー
 上平田智喜、高山省吾、松山貴子、安山寿登、井上恵里菜、神之田優、徳田まどか
 平成29年1月13日～15日 第20回日本病態栄養学会年次学術集会 鈴木聖子、田中美帆
 平成29年1月19日 株式会社フジマック クッキングライブ 上平田智喜、小野匡史
 平成29年1月22日 平成28年度公益社団法人鹿児島県栄養士会第3回研修会
 鈴木聖子、末平亜里紗、福元のぞみ
 平成29年2月11日 平成28年度公益社団法人鹿児島県栄養士会第4回研修会
 上平田美樹、鈴木聖子、染川麻美、松尾さやか
 平成29年2月17日18日 第51回糖尿病学の進歩 鵜瀬裕美
 平成29年2月23日 順天堂医院、太田病院 厨房システム視察研修 上平田美樹、鈴木聖子、田中美帆
 平成29年2月22日24日HCJ2017 厨房設備機器展 上平田美樹、鈴木聖子、田中美帆
 平成29年2月24日 第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会 鈴木聖子

・ 病院指定

- 日本静脈経腸栄養学会
 ・ NST稼働施設認定 平成26年4月1日～平成31年3月31日
 ・ NST専門療法士認定教育施設 平成28年4月1日～平成33年3月31日
 日本栄養療法推進協議会 NST稼働施設認定 平成28年9月1日～平成33年8月31日



診療情報管理部

主任 畑 中 幸 子

当院は、診療録管理体制加算1を算定し、DPC病院・地域がん診療連携拠点病院に認定されています。すべてのデータ元は診療録にあり、診療録が診療報酬算定のベースになっています。診療情報管理部では診療録の質的向上を目的に、診療情報管理部・診療記録検討委員会を中心に組織的活動を行っています。

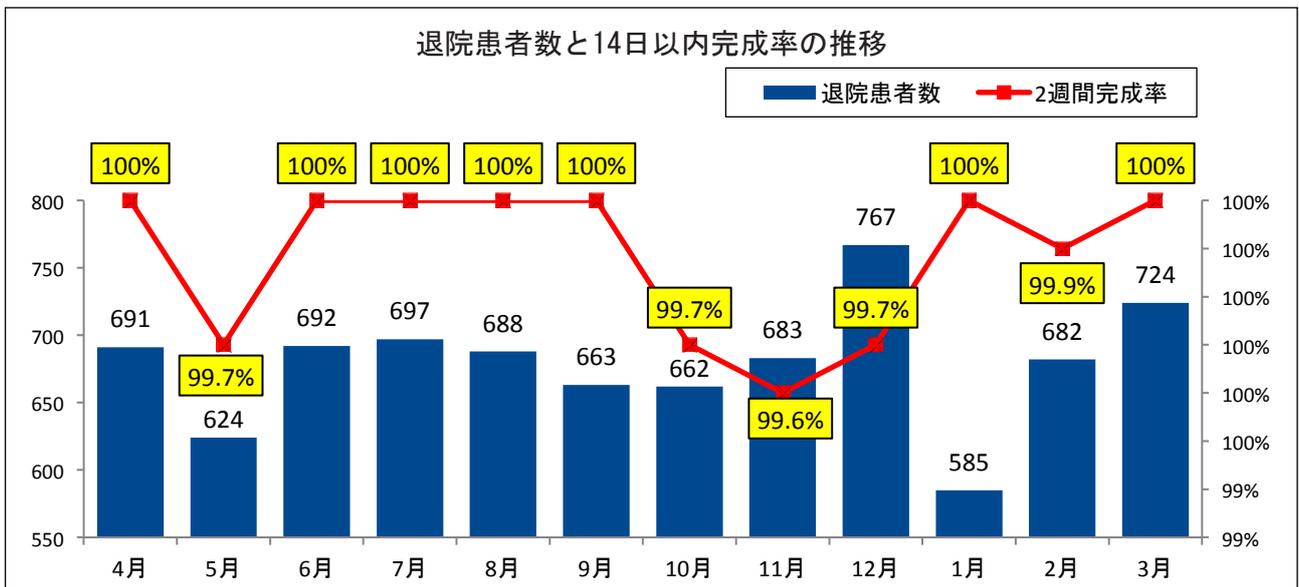
今年度はサマリー、手術記録に加え入退院時記録の内容充実、病状経過説明同意書の使用促進に取り組んで参りましたので、その実績を報告します。

【退院時要約(サマリー)完成率】

◆H28年度全体

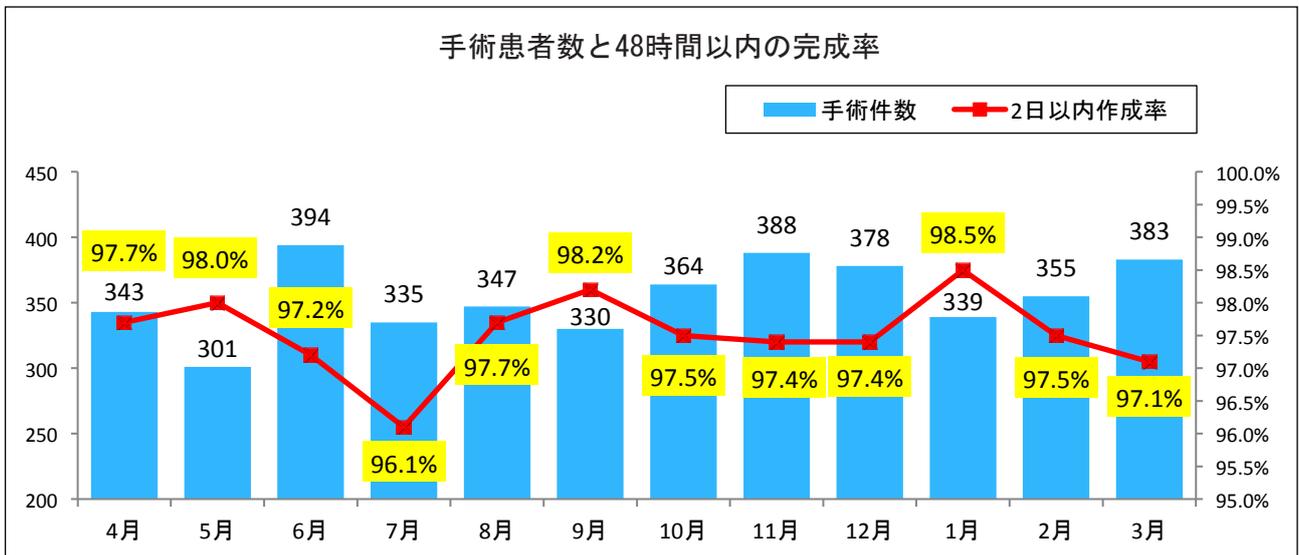
14日以内(2週間)完成率 99.9%

7日以内(1週間)完成率 91.1%



【手術記録 48 時間以内の記載率】

◆H28年度全体 97.5%



【入退院時記録記載向上に向けての取り組み】

記載もれのないよう、電子カルテのワードパレットに必要項目を作成し使用促進を図った。

入院時：主訴、現病歴、既往歴、服用中の薬、診断名、入院目的

退院時：治療評価、退院後の治療方針、再診日

3月末現在、ワードパレット使用率は入院時12.0%、退院時12.8%。使用促進開始時から、約5%使用率が向上してきている。ワードパレット未使用・フリーで記載している場合もあるが、記載もれが見受けられるため、なるべくワードパレットを使用し記載するよう声かけを行っている。また、入院時記録はよく記載されているが、退院時の記録が漏れがちである。記載率の低い医師には個別で記載特徴を示し、指導を行っている。

入院時記録および退院時記録の記載を充実させることで診療の質向上に繋がるのではないかと考える。今後も診療情報管理の立場から貢献していきたい。

【診療録監査】

診療記録検討委員会報告を参照

【病状経過説明同意書使用促進】

診療録監査にて「患者様に説明した」と記載があるにも関わらず、その詳細な説明内容が残されていない診療録が多数見受けられた。当院は手術や処置等の同意書はすべて取得しているが、「病状の説明」における同意書の使用が少ないことがわかった。同意書使用のタイミングとして「診断時、初回治療内容説明時、治療内容変更時、その他(急変時、副作用発生時など)」を提示した。監査報告時、一部の医師より電子カルテから探しづらい等の意見があがり、手書きでも作成できる同意書を作成し、外来診察室および病棟へ配布・設置した。今後、同意書使用の評価を行う予定である。

【スタッフ】 (平成28年度)

- ・畑中幸子 H13年4月入職 診療情報管理士・院内がん登録実務初級者・DPCコース認定
- ・黒丸恭弘 H20年2月入職 診療情報管理士・院内がん登録実務中級者・DPCコース認定
- ・新地佑貴 H20年4月入職 診療情報管理士・院内がん登録実務中級者・DPCコース認定
- ・小西佑典 H22年8月入職 診療情報管理士・院内がん登録実務初級者・DPCコース認定
- ・吉永理恵 H22年9月入職 診療情報管理士・院内がん登録実務初級者・DPCコース認定
- ・越間北斗 H24年3月入職 診療情報管理士・DPCコース認定
H28年8月医事部より診療情報管理部へ異動
- ・松崎愛 H22年7月入職 H28年5月末診療補助部より診療情報管理部へ異動
- ・藤原和代 H10年8月入職 H29年3月22日退職
- ・高橋和代 H17年3月入職
- ・濱藺千鶴 H24年5月入職
- ・鈴木由香 H24年5月入職 H28年7月診療補助部へ異動

【部門実績】

【実習受入れ】

- ・鹿児島キャリアデザイン専門学校(医療情報管理学科3年 2名) H28.5.16～5.27

【職場体験受入れ】

- ・明桜館高校 1名 H29.2.1
- ・樟南高校 3名 H29.2.15

【講師】

- ・鹿児島キャリアデザイン専門学校 医療情報管理学科 臨時講義「DPCについて」 H29.2.4

畑中幸子

【病院施設の公開利用】

- ・ 鹿児島診療情報管理研究会セミナー 参加者 81 名 H28. 11. 19
東北大学大学院医学系研究科 医療管理学分野 藤森 研司 先生
- ・ 鹿児島診療情報管理研究会 A・北薩ブロック会 参加者 30 名 H29. 2. 4

【院外開催会議】

- ・ 鹿児島キャリアデザイン専門学校 教育課程編成委員会 H28. 7. 21、H29. 2. 21 畑中幸子
- ・ 鹿児島県院内がん登録部門会 H28. 8. 20 黒丸恭弘

【主な研修会参加】

- ・ 鹿児島県院内がん登録研修会
- ・ 鹿児島県がん診療連携拠点病院事業 四部門合同研修会
- ・ 鹿児島診療情報管理研究会セミナー
「DPCに関するホットな話題」 川崎医療福祉大学 阿南誠氏
「病院情報の公開の論点整理と今後の展開」 東北大学病院 藤森研司氏
- ・ 地域医療構想セミナー 産業医科大学 松田晋哉氏
- ・ 診療情報管理士生涯教育研修会
- ・ 日本病院会主催「DPC制度の現状と今後の方向性に関する講演会」

【院内がん登録集計(2015年1月1日～2015年12月31日)】

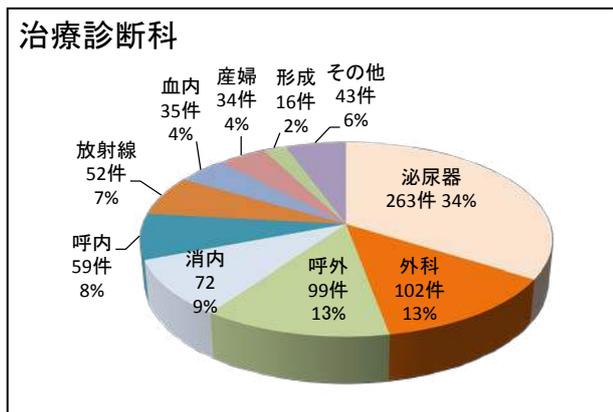
※がん登録の対象となる症例：上記期間中に診断および治療の対象となった症例

★1腫瘍1登録★ 重複がんの場合は原発の数をそれぞれ登録

①治療診断科

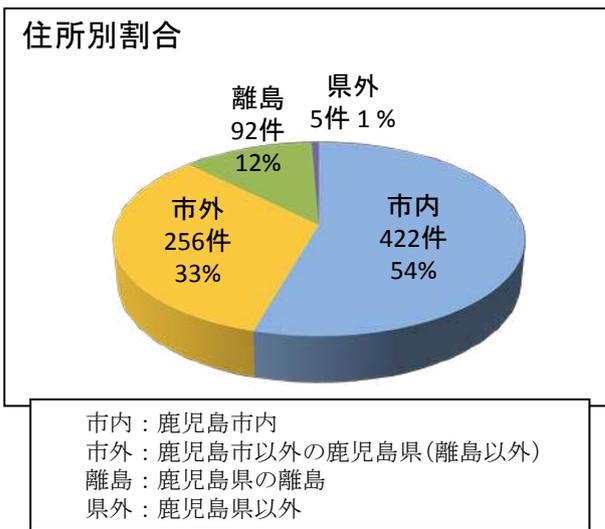
診断のみで終了した場合：診断を行った診療科
 治療を行った場合：初回治療を行った診療科
 どちらも行った場合は、治療をした診療科を1としています。

(例) 消化器内科にて診断、外科にて治療
 ⇒ 外科でカウント



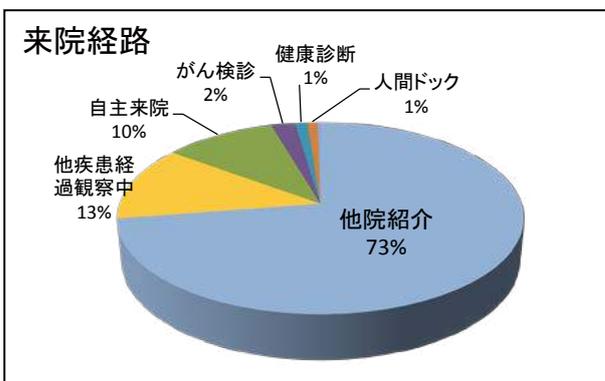
②住所別割合

患者様の居住されている地域別分類です。
 市外では多い順に、日置市 37、霧島市 35、鹿屋市 24、指宿市 22、離島では、種子島が 50、屋久島が 29 の順となっています。



③来院経路

がんの診断・治療のため当院を受診した経路別分類です。



④ 症例区分

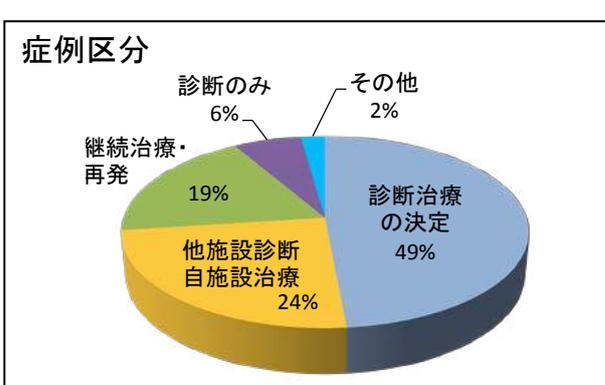
診断治療の決定：
 当院でがんの診断を行い、治療方針を決定した症例

施設診断自施設治療：
 がんの診断は他施設で行われ、初回治療を当院で行った症例

継続治療・再発：
 他施設にて初回治療後、当院にて継続治療を行った症例。もしくは、他施設にて治療後、再発し、当院にて治療を行った症例

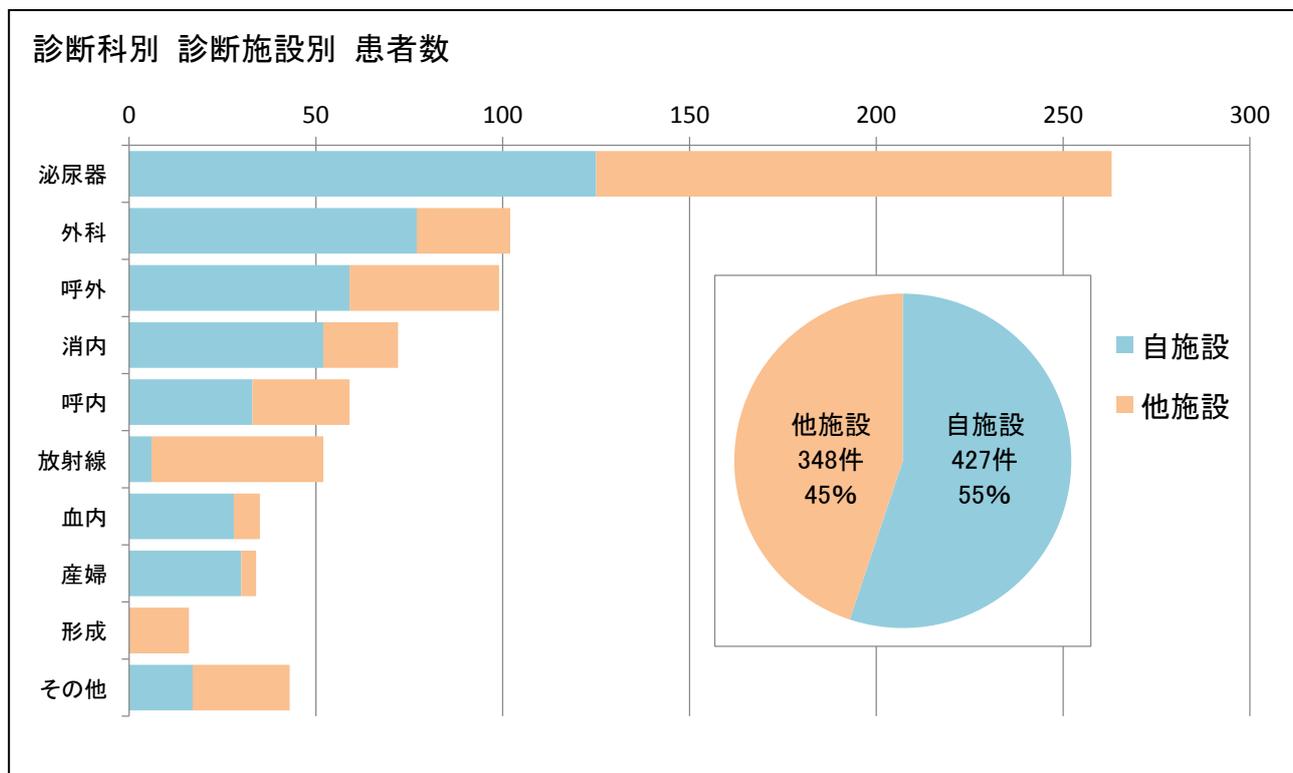
診断のみの症例：
 当院でがんの診断を行ったが、治療は他施設で行ったもしくは治療を選択しなかった症例

その他：セカンドオピニオン症例



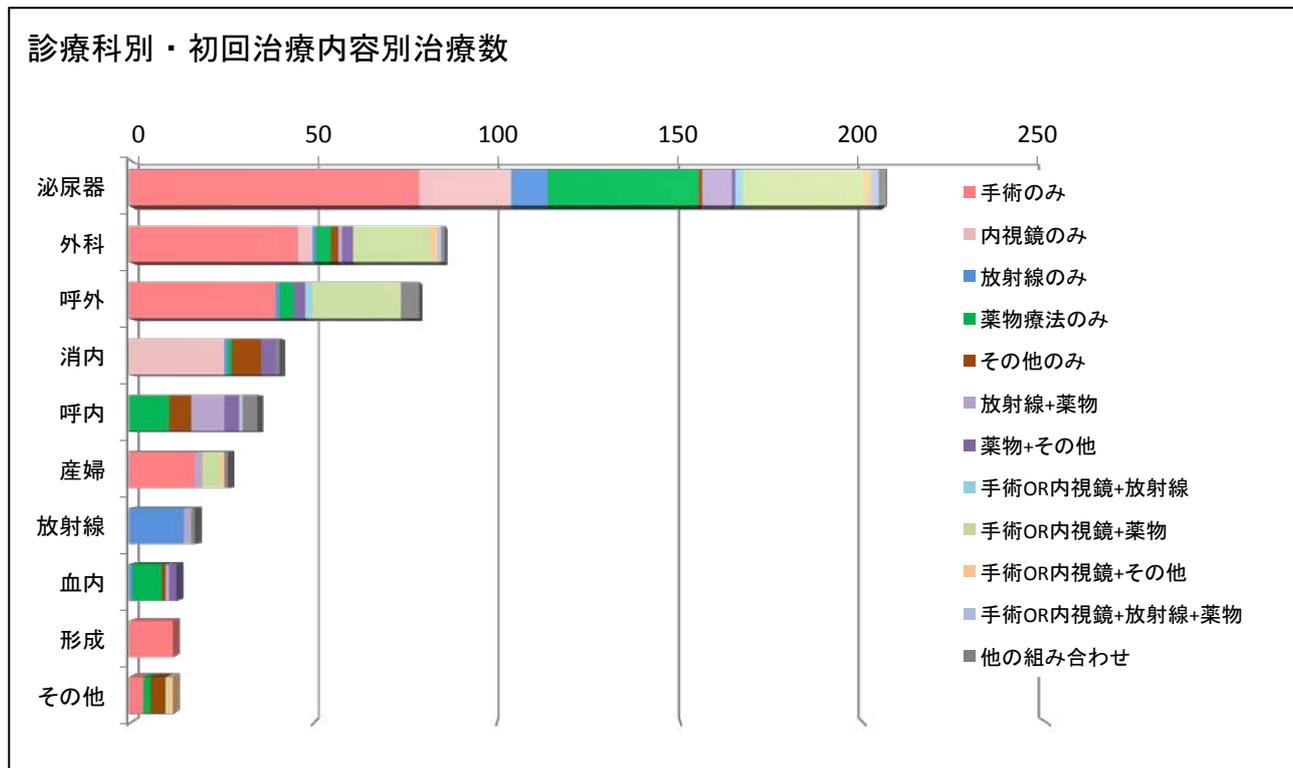
⑤ 診療科別・診断施設別患者数

がん患者様の診断がどこで行われたかを診療科別で示しています。



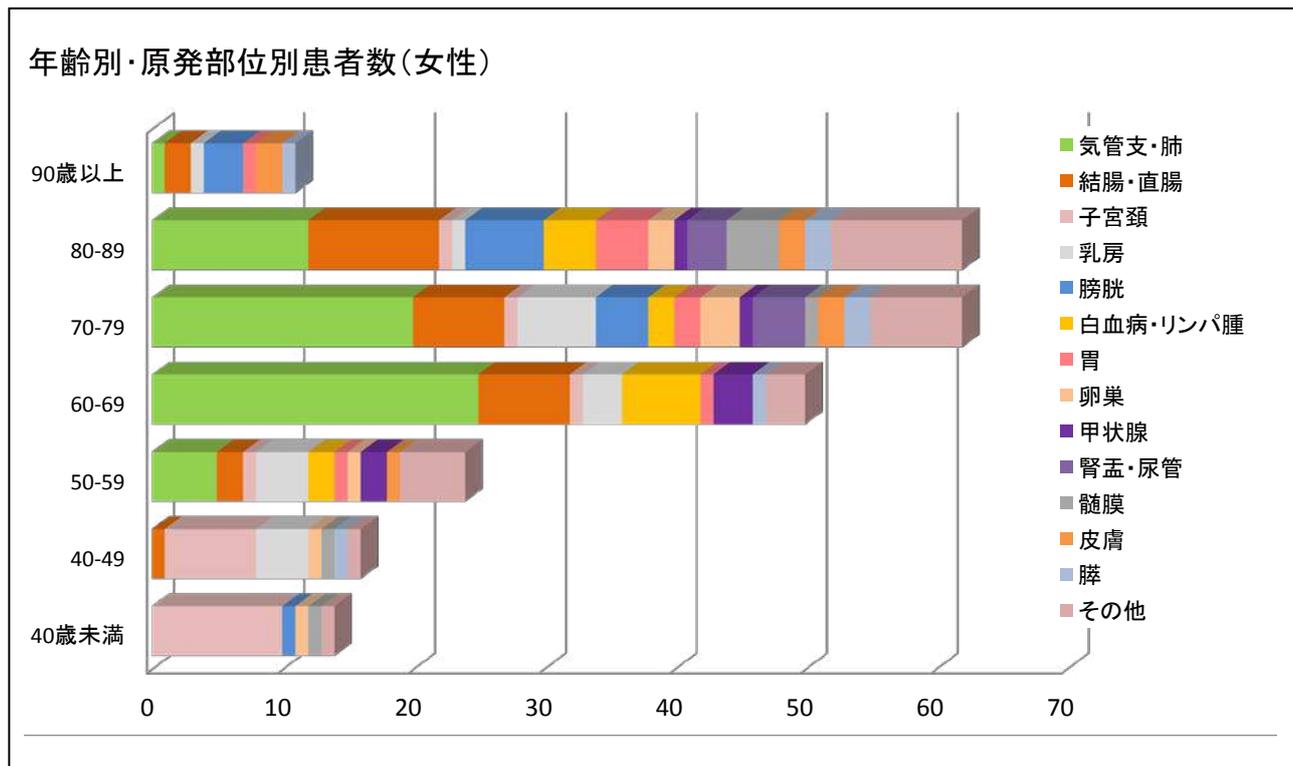
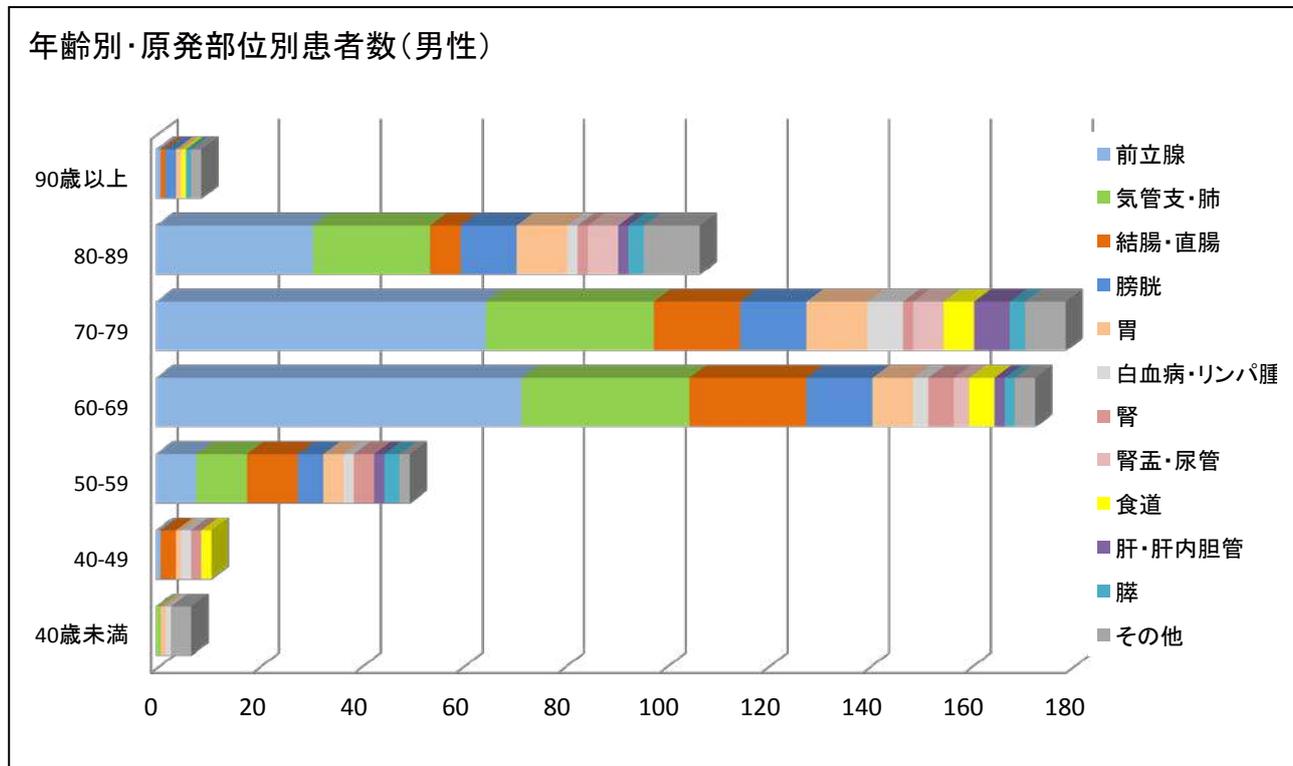
⑥ 診療科別・初回治療内容別治療数

初回治療として選択された治療内容を診療科別で示しています



⑦性別・年齢階層別・原発部位別 患者数

どの年代でどのようながんが多いかをグラフ化しています。





病床管理部

師長 松野下恵子

【病床管理部メンバー】

生野医師、近藤看護部長、MSW原口、MSW吉満、看護部 松野下師長
退院調整看護師 窪田主任、医事課 小湊主任、看護部 宮下

【病床管理部会議】

業務運営会議前後の週の金曜日（月2回）（経営企画室 御供田課長も参加）

【目標】

- ①病床稼働率達成の支援
- ②退院支援の調整(退院支援加算1の取得)
- ③全病室一元化(予約入院)

【活動内容】

平成28年度は診療報酬改定に伴い、前半は退院支援加算の取り組みを重視し活動。退院支援調整加算1の算定要件に従い、退院支援専従・専任、退院支援職員を配置。H28年9月退院支援加算1を申請し、10月取得した。また、退院支援マニュアルの見直しを行い、退院前カンファレンスの定着に向け活動中。

目標①③に関しては、4月より予約入院一元管理を開始し、予約入院の采配と病床調整の依頼時の調整を行っている。緊急入院に関しては、ロスタイムを考慮し、外来から直接病棟師長と連携して頂いている。

新入院患者数の働きかけとしては、外来ラウンドを経営企画室と共に行い、医師への声かけ・病棟師長へのDPC2期満了日での退院調整、及び稼働の維持を声かけした。また、改善計画シートを活用し、それぞれの病棟での現状の把握をして頂くと同時に、ヒアリングを行う事で問題点の改善に努めてきた。しかしながら病院全体での稼働率の達成は難しく、今後も経営企画室と協働して取り組んでいく。



患者サポートチーム

看護副部長 岩下邦子

患者サポート窓口創設5年目。昨年より配置されていた看護師1名の退職に伴い、6月より社会福祉士1名が常駐する体制へ変更となった。

窓口での対応は、表の通りである（次頁）。年度末に向かって患者の窓口利用が増えている。

患者サポート体制は窓口対応に加え、毎週月曜日に院長、事務長、クリニック事務長、事務長代理、看護部長を含め、窓口担当者、医療安全管理者、施設課課長、医事担当、MSW、外部の接遇コンサルタントなど13名でカンファレンスを行っている。意見箱に寄せられたご意見・要望に加え、各部門に寄せられた内容に対し対策を検討している。そして、その内容を全部署の代表が参加する患者サービス委員会を月に1回開催し、会議の中で立てられた対策を周知伝達し、時には再検討し、効果判定を行っている。

今年度カンファレンスで検討された主な内容は、以下の通りである。

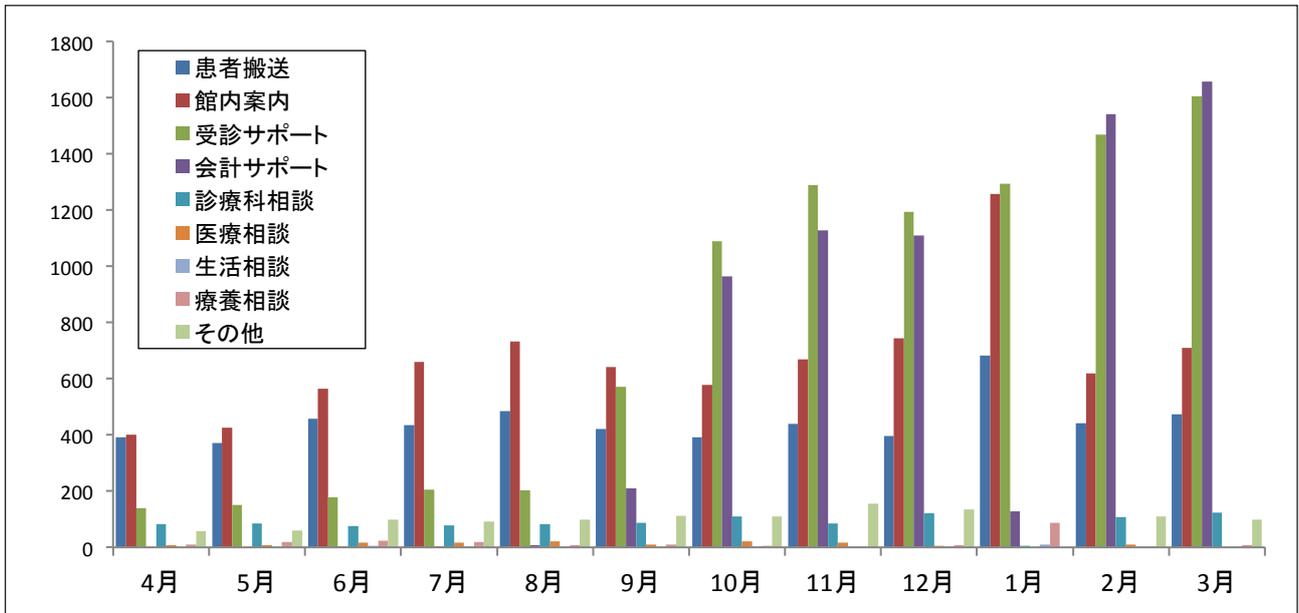
- ・清掃業者への苦情→総務課長より直接業者へ指導改善を要望
- ・杖ホルダーを全トイレに設置
- ・Facebookへの外来診療情報掲載を希望する声あり
→Facebookではなく、診療情報はホームページへ掲載する
- ・外来待ち合いホールに設置されているラックの高さが低い →高さの高いラックを購入設置した
- ・入院セットサービスの検討→8月1日より開始
- ・職員のあいさつや対応のまずさに対する苦情 →接遇研修を企画
- ・駐輪場に段差があり止めにくい→新たな駐輪場を作成
- ・手術患者の家族待合室で大声で会話する家族があり迷惑した
→室内でのマナーについて案内を作成し掲示した。
- ・エレベーターが配膳車・洗濯物など清潔な物やそうでないもの、あまり人目に触れない方が良さそうな物など様々の利用がされている。
→前後方の扉が操作できるように設定を変更し、用途に応じて運転できるように改善した。
また、エレベーター事故多発の掲示物を作成、各階フロアのボタン横に掲示した。
- ・おしぼりタオルへの毛髪など異物の混入有り →布製からのディスポの物へ9/1より変更
- ・個室にバスマットの導入9/1より開始
- ・駐車場料金に対する苦情
→駐車場スペースが無いため面会時間外の面会者へは若干高めな設定となっている。
検討したが、現状では外来患者のために駐車場を確保したいため金額変更しないと決定
- ・女子トイレの汚物処理容器が使いづらい →すぐにペタル式の汚物処理容器に変更
- ・前年度より開始していた安全のための窓の開閉制限工事が完了
- ・車椅子用駐車スペースに車止めがなく不安
→施設課にて車止めを設置、パーキングパーミットマークをタイルに表示を行う
- ・病室入り口が狭く車椅子やベッドが通りにくい →入り口扉を撤去しアコーディオンカーテンへ変更
- ・消化器内科横の出入り口の冷気流入対策として衝立の設置を検討
- ・ベッドごとのナースコールのデモ機を開発中
- ・「患者図書室」・医師・看護師・サポート窓口対応に対し感謝のことが19件寄せられた。

このほか、これまで不定期実施や、一部の部門だけが行なってきた患者満足度調査を今年度1月より4月に1度の体制で開始した。

4月316枚、7月259枚、10月275枚、1月284枚の回収であった。

【28年度患者サポート窓口利用集計】

	患者搬送	館内案内	受診サポート	会計サポート	診療科相談	医療相談	生活相談	療養相談	その他
4月	391	400	139	0	83	7	0	10	57
5月	372	426	150	0	85	7	0	19	59
6月	457	565	178	3	76	16	6	24	98
7月	436	659	206	4	78	17	3	18	91
8月	486	732	204	7	83	21	2	8	99
9月	421	641	571	211	88	11	0	9	113
10月	391	578	1089	964	111	21	2	5	110
11月	439	670	1289	1128	84	16	1	3	156
12月	397	744	1193	1111	122	5	3	7	134
1月	682	1257	1294	128	6	0	10	88	0
2月	442	618	1469	1542	108	9	1	4	109
3月	474	709	1605	1658	123	0	4	8	98
総数	5388	7999	9387	6756	1047	130	32	203	1124
月平均	449	667	782	563	87	11	3	17	94





事務部

事務局長 野口桂一

特記事項

4月16日～25日 熊本地震における救援活動
 4月19日／5月14日～22日／21日～29日／7月4日～10日／11月14日～15日
 離島看護師スキルアップ事業（三島村・十島村）代替看護師の派遣
 12月10日 第64回鹿児島県発明くふう展 鹿児島県知事賞 集中治療室
 3月22日 新病院建設予定地購入7300㎡（鹿児島市高麗町43番12）

1. 院内行事

5月18日～20日	職員健診	889名実施
7月30日	リフレッシュ研修	58名参加
8月18日	鹿児島県臨床研修病院見学ツアーAコース	県外医学生
10月22日・23日	がん診療に携わる医師のための緩和ケア研修会	9名参加
11月16日～18日	職員健診	456名実施

※入社式は例年前年度の3月に行われていたが、平成29年度より4月に行うこととなった

2. 文化活動・スポーツ事業活動・ボランティア活動

毎月第一木曜日 病院周辺清掃活動 主任級以上20名程度で活動

6月27日	鹿児島県赤十字血液センター 当院リニアックセンター前駐車場にて集団献血	37名実施
11月6日	KHPバレーボール大会 スタッフ派遣	4名
11月29日	鹿児島県赤十字血液センター 当院リニアックセンター前駐車場にて集団献血	16名実施

3. 入院患者不在者投票実施

4月17日	鹿児島市議会議員選挙	25名実施
7月10日	第24回衆議院議員通常選挙及び鹿児島県知事選挙	26名実施
11月27日	鹿児島市長選挙	14名実施

4. 各種補助金関係

へき地医療拠点病院運営費補助金	} 8つの項目において申請手続きを行った
医師臨床研修費等補助金	
がん診療連携拠点病院整備事業補助金	
周産期母子医療センター運営費補助金	
病院内保育所運営補助事業	
産科医等確保支援事業補助金	
新生児医療担当医確保支援事業補助金	
地域周産期母子医療センター設備費補助金	

5. その他の活動報告

乳がん検診	130名受付
子宮がん検診	144名受付
大腸がん検診	31名受付
低線量CT肺がん検診	86名受付
前立腺がん検診	2名受付

8月10日	南九州地区洋上救急支援協議会1名派遣	
10月19日	産科退院患者による日母おぎゃー献金	19,301円
9月9日	多数傷病者事故対応訓練における電話連絡訓練	
12月22日	NHK歳末たすけあい募金	85,616円
1月14日・15日	ALSOプロバイダーコース@鹿児島	4名派遣
1月28日	原子力防災・避難施設調整システム活用訓練（電話訓練）	

6. 教育研修

平成28年度は教育研修なし

※新入職員研修は例年前年度の3月に行われていたが、平成29年度より4月に行うこととなったため

7. 会計監査

監査法人監査（北三会計社）

平成27年度	現金実査・棚卸立会	平成28年4月4日・5日
	下半期監査	平成28年5月25日・26日
	決算監査	平成28年6月7日・8日
平成28年度	上半期監査	平成29年1月12日・13日

8. 平成28年度購入物品（100万円以上の物品）

購入日	購入品
4月8日	耳鼻科用診療椅子（電動2関節支頭器付）
4月27日	シャリ弁ロボ
5月30日	レーザービームカセット印字器 W3タイプ
6月16日	X8000光源装置 キセノン
6月17日	インピーダンスオージオメーター
6月30日	遺伝子解析装置 コバス z 480 200V
7月19日	光学式眼軸長測定装置
8月31日	プリマド2コントロールユニット(本体)
8月31日	液状化検体細胞診システム
9月26日	分娩監視装置 FM20
9月27日	医用テレメータ8床用
10月31日	ベッドサイドモニタ(新生児仕様)
10月31日	ベッドサイドモニタ(新生児仕様)
11月18日	ベッドサイドモニタ(新生児仕様)
11月24日	インファントフローサイパップ
12月15日	インファントフローサイパップ

会議・委員会活動報告

IV

- 各会議
- 法令関連
- 医療安全
- 医療の質向上
- 教育研修推進
- 病院運営
- 地域サービス



病院業務運営会議

【目的】

総合医療推進に伴い、病院運営上の実務についての連絡調整、意見集約を図りながら、より充実したチーム医療を構築する。

【本会議の開催】 毎月第2月曜日 (18:00～19:30)

【出席者】

理事長、院長、各科部長、各科医師、看護部長、看護師長、薬局長、放射線・検査技師長、療法士長、栄養管理課長、事務局長、各事務部課長、各部署責任者

本会議は、病院運営において、原動力的会議として位置づけられ、毎月1回開催されている。各科各部署より連絡事項、報告、問題点、提案等を提議して、多面的な立場より検討し『より適切な医療とサービスの提供』を目標にしている。

本年度も多くの課題が検討され、医療機能の質の向上・改善が図られた。

4月に診療報酬改定があり、医事課より変更内容の説明を行い、認識の統一を図った。

1月に九州厚生局の適時調査があり、指摘事項を報告し、改善を図った。

病院建築の状況は、全移転で検討していたが、一部別館を残す形での進路変更となり、構想を再度検討することとなった。このことにより開業日時が大幅にずれ込む予定である。よりよい病院を目指すには、いろいろと困難なことも多く、全職員の知恵と協力は必須である。大幅に工期が遅れることも前向きに捉え、職員が一致団結して取り組むしかない。

今後も患者様はじめ、地域医療関係機関へ更なる貢献向上に向けて、全職員一体となり取り組んでいきたい。

《今年度の主な検討事項》

- ・各部署からの現状実績報告
- ・各委員会からの報告
- ・収入支出報告、稼働状況報告
- ・医療安全対策・院内感染対策
- ・サマリー、診療記録監査、がん登録報告
- ・クリニカルパス使用率報告
- ・各講演会関係開催
- ・在院日数短縮、病床利用率
- ・インフル、ノロウィルス対策
- ・病院移転関係 他

**薬事委員会**

【目的・目標】 採用薬の整理・後発医薬品への切替え

【開催日】 3ヶ月に1回

【構成員】

大久保幸一 昇卓夫 中目康彦 大場一郎 野口桂一 酒匂英子 前嶋一友 高橋真理

【平成28年度活動内容】

平成28年度は、新規採用・削除薬を審議する定期の薬事委員会を第89回～92回まで4回開催した。新規採用薬は23品目であった。

平成26年診療報酬改定DPC機能評価係数Ⅱの見直しにより、後発医薬品係数が新設されたことを受け、後発医薬品への切替えを検討する薬剤を定期的に提示している。今年度は内服薬42剤、注射薬19剤、外用薬9剤の計60剤を後発品へ切替えた。その結果、平成29年度の後発医薬品係数は平成28年度に続いて評価上限であった。後発医薬品の使用割合を数量ベースで見た後発医薬品置換率は80.7%となり、前年度71.8%より上昇した。

分子標的薬・生物学的製剤など高額な薬剤が増えてきており、薬剤費は年々増加してきたが、今年度は前年度より薬剤費が17,400万円減少した。医薬収入に対する薬剤費率は昨年度より1.7%減少し、10.8%となった。

薬剤費率(医薬収入に対する薬剤費の割合)と薬剤費に対する後発品の割合 前年度との比較

	平成27年度		平成28年度		平成29年度
	合計	月平均	合計	月平均	
医薬収入	9,895,557,926	824,629,827	9,838,193,534	819,849,461	
薬剤費	1,236,925,856	103,077,154	1,062,360,218	88,530,018	
薬剤費率	12.5%		10.8%		
後発品金額	111,631,062	9,302,589	109,812,264	9,151,022	
後発品割合(金額)	9.02%		10.3%		
後発医薬品置換率	39.18%		71.8%		80.7%
後発医薬品係数	0.00832		0.01058		0.00949

*平成29年度の後発医薬品指数は、平成27年10月から平成28年9月までの後発医薬品置換率に応じて決められる。後発医薬品置換率(=後発医薬品使用数量/後発品が発売されている医薬品の使用数量 *使用数量は薬価単位)70%以上の場合、後発医薬品指数は0.00949となる。

厚生労働省は「後発医薬品のさらなる使用促進のためのロードマップ」を策定し後発医薬品の使用促進の取組みを進めている。平成27年6月の閣議決定において、平成29年央に70%以上とするとともに、平成30年度から平成32年度末までの間のなるべく早い時期に80%以上とする新たな数量シェア目標が定められたが、平成27年9月薬価調査時点での後発医薬品の数量シェアは56.2%であった。

後発医薬品の数量シェアの目標の達成時期については、平成29年6月の閣議決定において、平成32年9月までに後発医薬品の使用割合を80%とし、できる限り早期に達成できるよう更なる使用促進策を検討するとされている。

今後も定期的な後発医薬品への切替えと採用薬の適正化を検討し、薬剤費の増加を少しでも抑えられるよう努めていく。



労働安全衛生委員会

【目的】

職員の健康保持及び職場の環境衛生の改善について必要な事項を定め、職場の勤務能力を向上させる。

【開催日】 毎月1回

【委員会構成員】

牟禮洋(委員長・産業医)、岩下邦子(看護部・衛生管理者)、藤山みどり(看護部)、福元こずえ(看護部・衛生管理者)、飯伏順一(中放)、村中利也(中検)、有村郷司(病理・衛生管理者)、牧之段李奈(中検)、小野純子(在宅・衛生管理者)、児島邦幸(リハ)、山之内樹里(薬局)、十島達也(人事)、小林美子(人事)、上唐湊(医事)、前野浩一(総務) 15名

【活動内容】

1. 労働環境衛生、施設等の改善
2. 職員の健康保持の判定及び事務処理に関する事
3. 職員の疾病予防に関する事
4. 常時飲食物を扱う職員の保菌検査及び保健衛生や指導に関する事
5. 放射線技師及び放射線科に勤務する職員の保健衛生や指導に関する事
6. 夜勤を行う職員の保険衛生や指導に関する事
7. その他衛生管理に必要な事

【総括】

今年も例年通り、5月と11月に職員健康診断、職員インフルエンザ予防接種と予定をこなした。医師の時間外状況や化学物質リスクアセスメントについても、毎回報告をあげ検討してきた。健診では胸写読影に時間がかかり各個人への返却が遅くなってしまったので、2カ月以内を目標に尽力したい。

また今年初めて、11月にストレスチェックを全職員に実施した。全体の受検率は69%であった。高ストレス者や予備軍と思われる方も数名いた。当委員会より面談も実施した。次回は、もう少し受検率が上がるよう努力して、職員の心のケアにも力を入れていきたい。

職員の健康に関する講演会を2回開催した。一つは熱中症に関して麻酔科の西山医師に、もう一つは、アンガーマネジメントについて、外部講師を招き開催した。怒りやイライラなどをコントロールするというとても斬新な講演会でありとても勉強になった。

監督署の方から3月に監査を受け、院内巡視を行うよう指導があった。委員会でも検討し毎週院内巡視を行うよう改善していく。

職員が安心安全な環境で業務が行えるよう、今後とも当委員会が中心となり取り組んでいきたい。



防火対策委員会

【目的】

火災の予防及び火災発生時の対応について、日常的に職員の防火意識の高揚と防火訓練の立案・計画・実施等により、患者様・職員の人命を守る事を最大の目的とする。

本委員会の第一目標は、火災発生時の対応並びに初期消火と患者様・職員の人命救助である。日常的には、消火設備・非常ベルの位置・避難経路の確保及び周知、廊下の物品管理消火設備・防火戸の前に物を置かない等、職員の防火意識向上を図ることである。

今年度は、鹿児島市消防局中央消防署上町分遣隊立ち合いのもと、職員が手薄な夜間帯を想定した防火総合訓練を2回実施した。訓練では、火災発生連絡、消防への通報、消火器による初期消火・消火栓による消火、避難誘導出火区画外への護送・担送、本部への報告、寮生への応援要請訓練を行った。消防隊ご指導のもと、水消火器を使用した消火訓練を行い、初期消火の重要性と取り扱い方法の周知を図った。また、火元責任者には更なる防火意識の向上に努めていただけるよう乙種防火管理講習を受講してもらいました。

今後も、火災時に落ち着いて行動・判断出来るよう基本的な訓練は怠らず、本委員会を通じて職員一人一人の防火意識の向上に努めたい。

【構成員】 病院長（委員長）、事務長、看護部長、看護副部長、施設課長、各部火元責任者（26名）

【平成28年度の主な活動】

- 4月 鹿児島市自衛防火協会定期総会
- 4/28 本委員会開催（26名出席）
- 5/11 乙種防火管理者講習（火元責任者13名受講）
- 5/13～5/16 消防設備機器点検（4日間）
- 5/25 夜間想定防火訓練実施（通報・初期消火・避難誘導） 96名参加
消火器取扱い（4名実施）
- 6/7 防火訓練反省会（25名出席）
- 8/25 昭和会クリニック昼間想定防火訓練実施（通報・初期消火・避難誘導） 28名参加
消火器取扱い（4名実施）
- 9/13 中央消防署立入検査
- 10/9 防火優良認定（別館）
- 10/21 本委員会開催（31名出席）
- 11/1～11/5 消防設備総合点検（4日間）
- 11/11 第55回自衛消防隊消火競技会出場（男性3名、女性3名）
- 11/25 夜間想定防火訓練実施（通報・初期消火・避難誘導） 105名参加
消火器取扱い（3名実施）
- 3/23 昭和会クリニック昼間想定防火訓練実施（通報・初期消火・避難誘導） 29名参加
消火器取扱い（3名実施）



医療ガス設備安全管理委員会

【点検活動実績】

- *エチレンオキシド・ホルマリン作業環境測定 5月・11月/年2回
- *医療ガス配管設備年次点検 12月/4日間
- *高気圧酸素治療装置点検 12月/2日間
- *7トンCEタンク(液体酸素)年次点検 2月
- *医療ガス設備安全管理委員会 3月
- *新人看護師医療ガス研修 4月

- 【目的、目標】 医療ガスの安全及び管理について審議し決定し以て医療事故防止を図る
*医療ガスの使用量は病院の売りに比例します。

【委員会議事録】/ 委員会 年1回

1. 委員の退任と後任者の紹介

有村看護部長→近藤看護部長、田中ICU師長→伊野ICU師長、壽薬剤師→濱畑薬剤師

2. 高気圧酸素治療装置の点検報告書の連絡事項

Q. 点検報告書の連絡事項に温度指示計の表示に1℃以上の誤差とありますが、正確にはどの程度の誤差でしょうか

A. 最大で1.2℃の誤差がありましたが、調整後の温度指示は正常に出来ております。
温度指示計精度 許容範囲 200℃±1.25% F.S (±2.5℃)

3. 吸引ポンプ、チャッキ弁について

医療ガス不具合の多数を吸引装置が占めています。故障を未然に防ぐ為にも、医療ガス配管設備年次保守点検でパイピング室の制御盤内部品(電磁開閉器、リレー、タイマー)の取り替え・7月には不具合があった吸引ポンプ2号機チャッキ弁を含む3基のチャッキ弁を交換を致しました。運転時間・動作回数と共に多いので消耗品は定期的に交換を行い安定した医療ガス供給に努めて行きます。

4. 医療ガス取扱い講習会を4月初旬に新人看護師対象に行います。また新人看護師対象とありますが講習の参加に制限はありませんので、興味のある方は受講してください。

日時：3月10日 7F カンファレンス室

出席者名簿

役付委員又は役割	名 前	病院内職務名	備考欄
委員長・・・総括責任者	牟 禮 洋	副院長	
委員(監督責任者)	田 中 英 樹	施設課長	
委 員	東 美 津 子	中央材料室 師長	
委 員	伊 野 知 余 子	看護部 ICU 師長	
委 員	坂 口 聖 治	医事部	
委 員	濱 畑 帆 菜 未	薬剤部	
委 員	米 盛 正 志	施設課長補佐	
委 員	中 村 章 子	看護副部長	近藤(看護部長)副委員の代理出席
委 員	外 口 健 太 郎	臨床工学部 主任	齋藤(ME技師長)委員の代理出席

副委員長	池 田 耕 自	麻酔科部長	学会出張の為
委 員	藤 山 み どり	看護副部長	出張の為

委員出席者：7名

代理出席：2名

欠席：2名



栄養管理委員会

【目的】 患者栄養管理の内容充実、栄養管理業務の改善向上

【会議内容】 栄養管理及び給食管理業務に関する事項
院内約束食事箋・入院患者の嗜好調査に関する事項
入院及び外来栄養指導に関する事項
NST・医療安全管理に関連する事項
電子カルテ使用に関する事項

【構成員】 院長・事務長・看護部長・副看護部長 2 名・病棟師長 5 名
栄養管理部課長(管理栄養士) 1 名・NST専従管理栄養士 1 名 調理師 1 名

【開催日】 毎月第三月曜日 13:30～

【平成 28 年度の活動内容及び取り組み】

＝平成 28 年＝

- 4 月 4 月 1 日より給食運営方法の変更
- 5 月 4 月からの給食運営について報告、必要機器及び什器類の購入報告
診療報酬改訂に伴う栄養指導対象の拡充
- 6 月 洗浄部門業務連携(検討と報告)
災害時食材のローリングストック計画と実施
- 7 月 前年度安全管理集計結果報告と改善策検討
放射線・化学療法時の食事(すずらん食)の改訂と再開
- 8 月 食事アンケート調査実施(全病棟の一般常食・全粥食対象)
災害時対策の為、仕入れ及びストック食の見直し
- 9 月 食事アンケート結果報告(配布数 129 名、回答数 89 名：回収率 69%)
災害対策(院内役割分担、連絡手順の見直し)
- 10 月 ノロウイルス対策強化・感染拡大防止策検討
災害時院内対策(対応フロー)改訂
- 11 月 食中毒予防対策と教育(勉強会開催、3 部：ノロウイルス、細菌、器具取り扱い)
栄養指導依頼件数増加に対する取り組みについて検討
- 12 月 病院移転(新病院)での給食運営方法の検討
給食・洗浄部門の職場体験の受け入れ報告

＝平成 29 年＝

- 2 月 食事アンケート計画と調査内容の検討(平成 29 年 3 月 8 日実施予定)
- 3 月 次年度年間計画の立案
病院視察報告(東京)、新病院移転に伴う厨房設計検討
次年度食材納入業者の選定について
厚生労働局 適時調査の結果報告と対応について
食事アンケート結果報告(配布数 95 名、回答数 67 名：回収率 71.0%)満足度 85%



[法令関連]

委員長 生野 博久 報 告 前 嶋 一 友

治験審査委員会

昨年度に引き続き、新日本科学臨床薬理研究所がSMO(治験施設支援機関)として参加して頂きました。委員会に関しては毎月開催しています。

本年度の当施設における審査対象試験

● 昭和会クリニック神経内科実施試験

➤ パーキンソニズムを伴うレビー小体型認知症を対象としたAD-810Nの検証的試験(第3相試験)

今給黎総合病院実施試験は昨年度同様に0試験であった。また、昭和会クリニック実施試験は昨年度の3試験から1試験に減少した。

院外からの審査依頼試験数は昨年度4試験に対し、本年度は5試験であった。

審査依頼施設としては、藤元総合病院、厚地脳神経外科、川原泌尿器科、天保山内科、田村脳神経外科クリニックであった。

来年度は当院、昭和会クリニックでの実施治験数の増加及び外部医療機関の治験審査依頼数の増加に努めていきたいと考えます。



[法令関連]

委員長 白濱 浩 報 告 東 貴史

個人情報保護推進委員会

個人情報管理責任者 白濱 浩

個人情報保護監査責任者 昇 卓夫

【構成員】

藤山 みどり 岩下 邦子 千田 清美 吉満 実 平原 千代子
篠原 なつき 加治屋 博一 壽 明伸 上田平 美樹 兒島 邦幸 堀 雅之 永井 美由紀
横路 久美 上野 健人 新地 佑貴 山内 久法 松下 智美 東 貴史

当委員会は、毎月第3月曜日午後5時より開催しております。

個人情報漏洩などの発生防止や、書類の入れ間違い、FAX誤送信対策のため、職員同士によるダブルチェックの徹底を実施しております。また、個人情報保護推進委員による院内巡視を年2回(7月、2月)行い、患者様目線から個人情報に関する資料が目につきやすい部分にないように指導、改善などを行っております。

平成28年度は、個人情報保護推進委員会、医療安全対策委員会合同の全職員対象研修会を開催するにあたり、鹿児島県警察本部 生活環境課 サイバー犯罪対策室 担当者をお招きし、「インターネットの危険性と対策」をテーマとして研修会を実施致しました。

職員、職員家族へも、インターネット使用の危険性や対策を知り得る良い研修会となりました。

今後も、院内巡視または研修会を開催し、職員教育、漏洩防止を行っていく予定です。



化学療法緩和ケアネットワーク委員会

【目的】

本委員会は、院内で行われているがん化学療法の問題点などを議論し解決策を見出すことを目的としている。さらに院内で実施されている化学療法のレジメン(治療内容)の妥当性を評価し、承認する。また、外来化学療法室の現状を報告し、問題点を洗い出し、解決策を見出す。そして、緩和ケアに関する問題点を議論し、院内で統一化を計る。

【構成員】※異動者を含む

委員長 米田 敏(呼吸器外科)

委員 濱之上 雅博(外科)、今給黎 尚幸(呼吸器外科)、山本 耕三(呼吸器外科)
小濱 浩介(血液内科)、立和田 得志(泌尿器科)、中間 恵美子(産婦人科)
財間 富士子、前島 一友、中目 貴子、堀内 智裕、尾上 博隆(薬剤部)
古市 寿子、高田 奨(リハ)田中 美帆(栄養管理部) 福徳 里佳、田中 泉美、下野 智子(医事課)

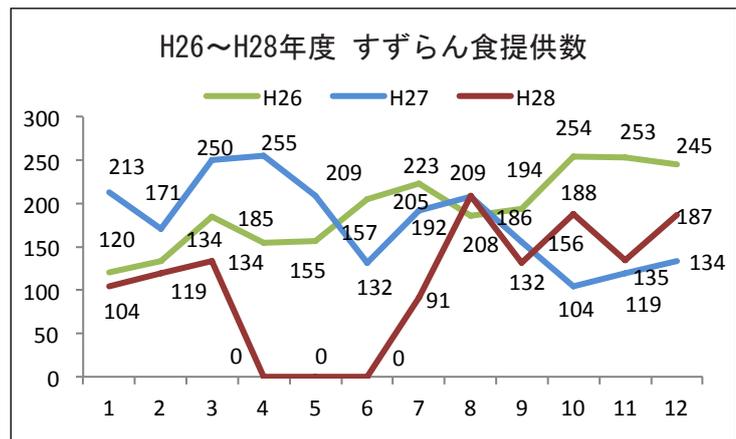
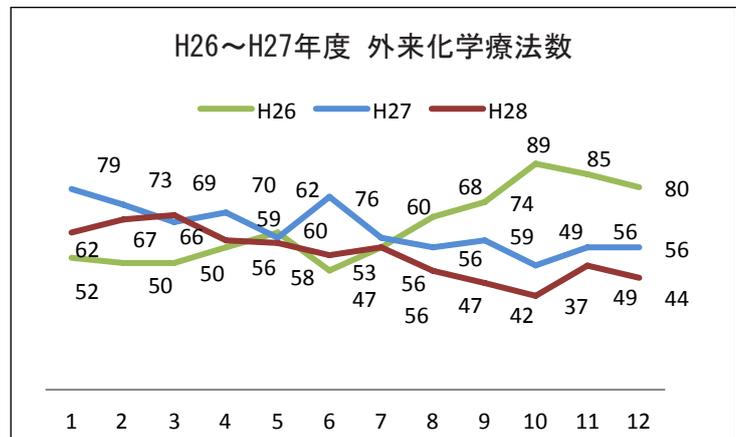
【看護部】※退職者、異動者を含む

中村 章子、横山 睦美、前田 康子、吉谷 茜(2東) 酒匂 英子、税所 克代(2西)
有菌 さつき、恒吉、ひろみ、前田 成美(3東) 新徳 まゆみ(3中)
水元 英子、松崎 有香、宮園 奈真、大村 彩乃(3西)
田中 かすみ、中村 詩歩、芝 こずえ、(2北) 稲森 優子、永瀬 尚子(2南)
松山 真衣(4北) 橋口 恒夫、河原 尚美、村崎 まこと、布市 多美子(外来)
植屋 明代、早崎 玲子、岩山 友紀(緩和医療課)

【平成 28 年度活動内容】

毎月1回 第1木曜日(17時15分～)

- ・毎月の外来化学療法実績報告
- ・院内の化学療法数・主な有害事象報告、化学療法に関わる医療安全事案、解決すべき問題点の提案が行われた。
※特にアレルギーや血管外漏出などの情報を共有することができた。



・栄養管理部(右図)

※4月から7月3日まで厨房職員不足のため、すずらん食の提供ができなかった。

・医事課

算定報告並びに化学療法・緩和ケアに関する診療報酬改定内容の説明



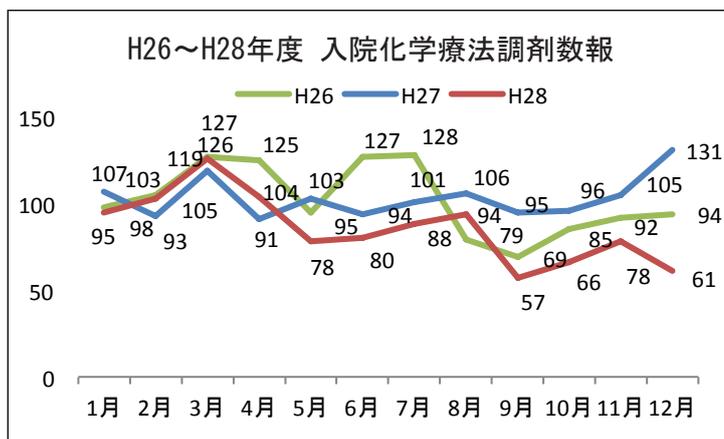
・緩和ケア

ほっとサロン案内、緩和ケア研修会案内(詳しい内容に関しては、緩和医療課の項参照)

・薬剤部

毎月、入院化学療法調剤数報告

- 薬剤に関する情報提供
- オブジーボ適正使用について
- ハイカムチン供給再開
- 5FU からフルオロウラシル(後発品)へ変更
- ペナ錠からポララミンへ変更などを報告した。



・医師

承認月	申請診療科	レジメン名	適応がん
4月	呼吸器科	CBDC+PTX(放射線療法併用)	非小細胞肺がん
9月	呼吸器科	RAM+DOC	切除不能進行・再発非小細胞肺がん
10月	外科	RAM+FOLFIRI	治癒切除不能な進行再発結腸・直腸がん
	外科	FEC	乳がん
11月	泌尿器科	ジェブタナ	前立腺がん
1月	外科	ヨンデリス	悪性軟部腫瘍
2月	血液内科	カイプロリス	再発または難治性の多発性骨髄腫
3月	呼吸器内科	キイトルーダ	非小細胞肺がん

以上、8件が申請され、すべて承認された。

- イメンド内服時間間違いへの対策については、注射薬の対応も可能である。
- がん患者指導管理料の加算がほとんどとれていないため、今後対策を検討していく。
- 新病院の外來化学療法室について

・その他

- 9月27日に第1回オブジーボ関連会議を各診療科の医師、薬剤師、医事課、看護師を中心に開催した。
- 平成29年4月から看護部の出席は、時間外業務削減のために管理者(師長)のみへ変更する。



DPCコーディング委員会

【活動報告】

当委員会は、年4回(4、7、10、1月)開催しております。

委員の構成は、病院長をはじめとして副院長、事務局長、診療情報管理士、医事課スタッフ17名 総勢約21名で構成されます。

【目的】

標準的な診断及び治療方法について院内で周知を徹底し、適切なコーディングを行う体制を確保することを目的とする

【構成員】

委員長 牟禮 洋(副院長)

委員 昇 卓夫(病院長)	野口 桂一(事務局長)	畑中 幸子(診療情報管理士)
上唐湊 芳一(医事課長)	東 貴史(医事課長補佐)	坂口 聖治(ICU 医事担当)
永野 一彰(2 東医事担当)	柿木 浩希(3 東医事担当)	岩元 正子(手術室医事担当)
中村 亜希子(2 西・N・GCU 医事担当)		東 知子(3 中央医事担当)
針山 朋美(2 南医事担当)	小湊 麻美(病床管理部兼務)	米満 久美(2 北医事担当)
福徳 里佳(3 西医事担当)	河野 真子(3 北医事担当)	岡元 麻衣(4 北医事担当)
中菌 ひとみ(4 西医事担当)	松元 葵(3 南医事担当)	川畑 美穂(2 東医事担当)

議事内容としまして、様々な報告、提案をしています。

【議題】

- | | |
|--|---|
| <p>28. 4 月</p> <ul style="list-style-type: none"> 短期滞在手術基本料と DPC 比較検討(眼科)
前年度と今年度の点数比較
28 年 4 月改正より短期滞在手術基本料(両眼)が新設
両眼手術すると減収が予測される為運用・対策が必須 縦隔膿瘍 DPC コーディングについて
040150××97×1××
肺・縦隔の感染、膿瘍形成
080011××970××× 急性膿皮症
030240××01××××
扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎
コーディングで期間や点数が変更となるため主治医、管理部と要相談を。 コーディングについて
肺炎、誤嚥性肺炎との入院期間の比較
パーキンソン病でフォロー中、転倒して顔面打撲、皮下血腫 <p>28. 7 月</p> <ul style="list-style-type: none"> 症例検討(泌尿器科)
平成 27 年と平成 28 年と比較。DPC 期間が長くなっている
膀胱癌 パス使用患者率は高い
DPC と出来高算定に差がない為、回転が重要 28 年 4 月～6 月データ提出におけるエラーについて
看護師、医事、診療情報管理部の入力点を再確認 <p>28. 10 月</p> <ul style="list-style-type: none"> 症例検討(皮膚科)
帯状疱疹 ICD が 2 つある(B02 と G05) | <ul style="list-style-type: none"> DPC 調査項目について
28. 10 月から調査項目が追加となる 28 年 7 月～9 月データ提出におけるエラーについて
前回同一疾患で自院入院の有無再入院の理由
認知症高齢者の日常生活、自立度判定基準
医療介護関連肺炎の有無等々 今後の検討方針と主な検討課題について(中医協から)
基礎係数(医療機関群)のあり方 II 群の選定要件について
調整係数のあり方
機能評価係数 II について
診断群分類点数表について
請求に関するルールについて <p>29. 1 月</p> <ul style="list-style-type: none"> 症例検討(放射線科)
28. 4. 1～28. 12. 31 多い症例数について
術中に使用した化学療法薬剤についてのコーディングのあり方
食道の悪性腫瘍 副傷病有について 28 年 10 月～12 月データ提出におけるエラーについて
様式 1 と医事請求の不一致について 退院サマリから
急性薬物中毒症例から 副傷病をつけることで点数アップ |
|--|---|

【総括】

適切なコーディネングを行うために、関係部署でよく議論し診療報酬請求業務等を行っております。症例検討等は医事スタッフにより輪番で議題を提出しています。

また、ICDの知識が浅いと誤ったコードにより、診療報酬請求業務にも影響がありますので、皆でより一層の向上を図りたいと考えております。

先生方にもDPC制度・請求業務に関して啓発活動をもう少しできたらと思います。

また、DPCのデータを提出していることから行政や患者様からの評価も受けているとの認識をもち、正確なデータが提出できるよう日々精進していきたいと考えております。



[医療安全]

医療安全対策委員会

委員長 松永 俊二

管理者 千田 清美

報告 益田 阿佑美

【目的】

本委員会は医療安全対策の確立を促進し、以て適切かつ安全な医療の提供に資することを目的とする。また、医療事故発生時の適切な対応及び医療事故等の経験を活かすため、原因分析と再発防止策を検討の上、安全教育の場にフィードバックするなど、医療の質の確保と向上および職員の安全に関わるスキルの向上を目指すものである。

【平成 28 年度委員会構成員】

松永俊二（委員長）、牟禮洋（副委員長）、昇卓夫、丸山芳一、土持健一、有村智代（～H28.12.31）、近藤ひとみ（H29.1.1～）藤山みどり、岩下邦子、千田清美（医療安全管理者）、長野みつ美（専従医療安全管理者）、下前百合香、高橋真理（医薬品安全管理者）、室屋純一、今堀貴之、児島邦幸、齊藤健一（医療機器安全管理者）、徳永敬之（～H28.4.30）、田邊尚子（H29.5.1～）、鈴木聖子、野口桂一、原口一博、濱田敏彦、岩元正子、田中英樹、中間誠、益田阿佑美
（外部）東京海上日動メディカルサービス株式会社メディカルリスクマネジメント室 玉利英子（年4回）

【今年度の主な活動】

※看護安全対策委員会との連携

- ・同委員会で特に課題となったアクシデント報告の再検討と対策を図る

※医療安全管理責任者より、毎月発生したインシデント・アクシデント事案を、内容分類別・事象レベル別の報告あり、事案を共有し検討を加える

※医療安全推進週間 11月20日～11月26日 （安全標語・ポスター作成、レポート入力促進）

※医療安全推進月間 12月1日～1月31日 『わかるまで 聞こう 話そう 伝えよう』 『患者同定を確実にしよう！』 『5Sで安全な作業環境を考えよう！』 3つのテーマを提示し各部署での取り組みを奨励

※医療安全対策研修会（2回/年）

- < 1回目 > H27年11月5日実施
追加研修5回実施
- ・全職員対象：総参加者数 669名
- 「5Sと医療現場への応用」
講師：テルモ株式会社富士宮工場
管理部TIM推進室 室長 吉良憲輔先生

< 2回目 > 平成29年2月17日18日実施 追加研修6回実施

- ・全職員対象：総参加数 804名
- 「ワークで学ぼうみんなのSBAR
～報告・連絡のためのコミュニケーションスキル」
講師：
東京海上日動メディカルサービス株式会社
メディカルリスクマネジメント室
玉利英子先生

※その他、主な検討実施事項

- ・安全管理報告書の集計結果と改善策の提示
- ・安全管理のための方策の提示
- ・リスクマネジメント関連情報の検討
- ・安全管理に関連する委員会からの報告、情報提供
- ・医療機能評価機構の安全情報の検討
- ・医薬品、医療機器材料、褥瘡管理者による安全情報の検討
- ・安全管理部門カンファレンスの実施（毎週月曜）
- ・院内避難経路・施設ラウンド
- ・リストバンド着用ラウンド実施
- ・医療安全管理指針の改訂（7月）



病院感染防止対策委員会

【目的】

院内感染の発生を未然に防止することや院内感染が発生した場合における緊急対策など院内感染防止対策に関する問題の原因分析、改善策を審議し諸施策の査定などを行うことを目的とする。病院長直属の顧問機関とし最終的な意思決定機関として機能する。

【構成員】 毎月第4水曜日 14時30分～

【構成員】

委員長 丸山芳一(神経内科、ICD)

副委員長 川島寿史(呼吸器内科医師)、立和名聖子(感染管理課)

委員 昇卓夫(病院長)、土持賢一(歯科口腔外科医師)、有村智代*¹、藤山みどり、岩下邦子、近藤ひとみ、酒匂英子、古川秀子、横山睦美、水元英子、末吉美津代、有菌さつき、郡山リカ*²、伊野千余子、田中かすみ、東美津子、尾堂知子、上野京、稲森優子、尾ノ上稲子、山下真理恵、橋口恒夫、上ノ町和子、上之菌洋子*³(看護部)松野下恵子(病床管理部)、村中利也(中央検査部)、高橋真理、久津輪久世、山之内樹里(薬剤部)、肥後真(病理部)、永山照明(放射線部)、福留舞子、植村大介(リハビリテーション部)、上平田美樹(栄養管理部)、南貴美子(在宅医療部)、野口佳一(事務局長)、今堀小百合(中央検査部議事記録)

上山真紀*⁴、中村章子*⁵、河原尚美*⁵

(*¹ 退職に伴い委員変更 *² 1月をもって委員削除 *³ 退職に伴い委員変更 *⁴ へ変更

*⁵ 1月より新規追加)

Infection Control Team (ICT)

丸山芳一(ICD)、川島寿史(医師)、立和名聖子(CNIC)、村中利也(ICMT)、久津輪久世(BCPIC)、山之内樹里(薬剤師)、西岡帆奈美(薬剤師)、横山睦美(看護部)、山本あかり(総務課)、日高章洋(用度課)

【平成28年度活動内容及び実績】

定例会議では、耐性菌検出状況や抗菌薬使用状況の報告、事案検討、感染症発生に対する院内感染対策の周知と検討などを行った。耐性菌検出は、他院からの持ち込みによるNICUの院内保菌事例に対しICTで介入、抗菌薬使用に関しては、一昨年より指定抗菌薬届出制が強化され毎月の届出書記載率は、89-100%となった。P. aeruginos薬剤感受性率も若干ではあるが上昇傾向を示した。

例年、感染対策に苦慮するインフルエンザは、流行前にマニュアルの見直し、10月より症候性サーベイランスを強化した。10月は、職員3名の発生を認めた。その後、散発的な発生は見られたが集団発生することなく経過した。1月中旬頃より患者、職員ともに発生の増加が見られた。今シーズンは、鹿児島県医師会より緊急FAXが出されるほど鹿児島県は発生が多かった。鹿児島県や鹿児島市、当院の発生状況を踏まえ当委員会にて感染対策の確認と検討を行った。1月23日より全職員のマスク着用、1月26日より面会制限レベル1、1月30日より面会制限レベル2の対応を行ったが、1病棟については、鹿児島市保健所へ報告・相談を行う事態となった。鹿児島県感染管理看護師会インフルエンザ緊急会議で県内12施設の医療機関と当院のインフルエンザ対策を比較する機会があった。標準的な対策は、他施設に劣っていないが、発症者や同室者の隔離期間及び発症職員の就業制限期間が短いことが分かった。感染対策委員長丸山より改善案が出された。隔離期間や就業制限期間の変更の承認を受けて2月15日より新基準での対応となった。この決定により、来シーズンの発生が少なくなることを期待したい。

その他の活動として、中心静脈カテーテル刺入部のドレッシング材の検討を行いBSI感染率やコストを比較し材料変更や感染対策物品の検討、結核発生に伴う接触者検診の判断、結核疑い患者の感染対策を再度周知した。感染活動の一つであるサーベイランスは、昨年に引き続き厚労省院内感染対策サーベイランス事業(以下JANIS)の検査部門、全入院部門へ参加した。検査部門は、中央検査部の村中が担当、全入院部門は丸山と立和名が担当し毎月継続的にJANISへ報告している。全入院部門のサーベイランス結果は、12月にICN立和名より委員会で報告された。

全職員対象の院内感染研修は、企画運営をICTが中心となり実施した。第1回：7月にDVD視聴を含め計6回、第2回：12月にDVD視聴含め計7回開催した(研修内容と参加率は次頁参照)。

感染防止対策加算や地域連携加算に伴う活動では、鹿児島市立病院と連携し10月と12月に相互評価ラウンドを実施し指摘事項は、委員会で報告され改善に向け取り組んでいる。また、感染防止対策加算2施設と計4回の合同カンファレンスを行った。

委員会の主な内容、検討事項

4月22日	耐性菌報告、抗菌薬使用状況報告、院内感染防止対策マニュアル検討
5月27日	耐性菌報告、抗菌薬使用状況報告、CV ドレッシング材の変更を検討
6月24日	耐性菌報告、抗菌薬使用状況報告、TB 接触者検診報告
7月22日	耐性菌報告、抗菌薬使用状況報告
8月26日	耐性菌報告、抗菌薬使用状況報告、TB 接触者検診報告、リハビリテーション部のPPE 選択について
9月16日	耐性菌報告、抗菌薬使用状況報告、院内感染研修参加率について
10月28日	耐性菌報告、抗菌薬使用状況報告、院内感染防止対策マニュアルの見直し
11月25日	耐性菌報告、抗菌薬使用状況報告、院内感染防止対策マニュアルの見直し
12月16日	耐性菌報告、抗菌薬使用状況報告、JANIS 還元データ報告
1月27日	耐性菌報告、抗菌薬使用状況報告、感染発生報告と対策、院内感染研修参加率について
2月24日	耐性菌報告、抗菌薬使用状況報告、感染発生報告と対策
3月23日	耐性菌報告、抗菌薬使用状況報告、感染発生報告と対策

院内感染研修の内容と参加率(全職員対象)

	内容(講師)	参加率
第1回	病院環境整備と手指衛生の重要性 (大畑 節子先生)	86%
第2回	麻疹・風疹・水痘・ムンプスに対する感染対策 (徳田 浩一先生)	86%



輸血療法委員会

【構成員】

委員長 丸山芳一（神経内科）

副委員長 濱之上雅博（外科）、小濱浩介（血液内科）

委員 昇 卓夫（病院長）、

近藤ひとみ、藤山みどり、伊野、横山、尾堂、濱田 緑、二宮ルミ子（看護部）

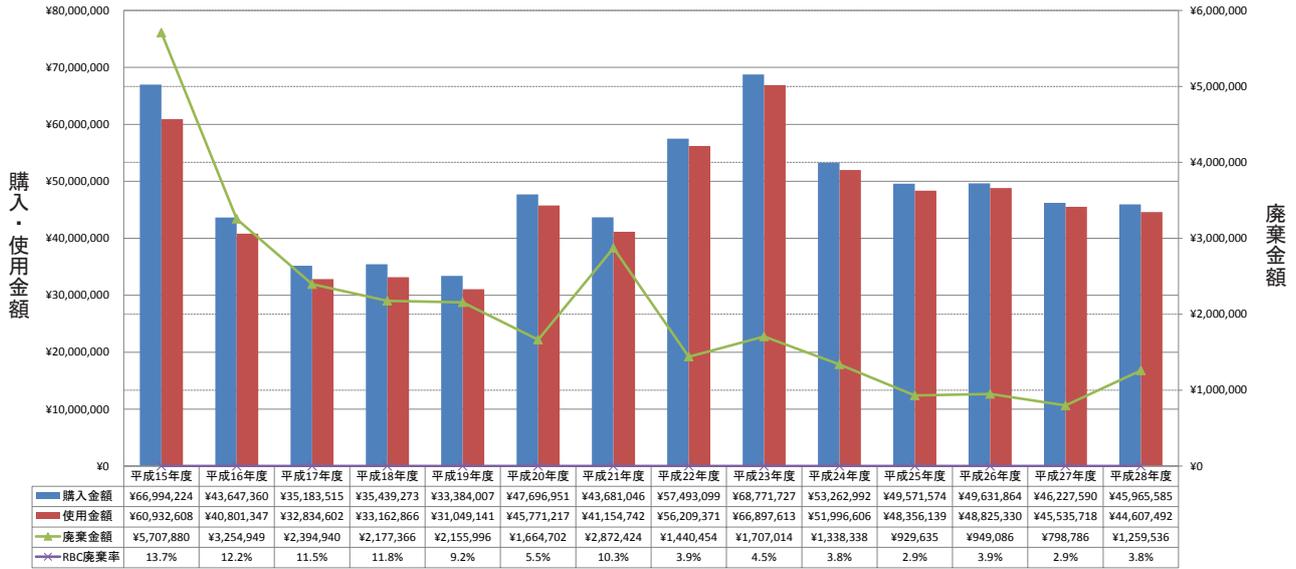
高橋真理（薬剤部）、川井田祐一郎（事務部）、村中利也、今堀貴之、宝代聡美（検査部）

当委員会は隔月の第4水曜日に開催した。主な協議事項は血液製剤の適正使用を目標に診療科ごと、医師ごとの血液製剤発注と使用量、製剤ごとの廃棄量とその原因につき詳細な検討を行った。廃棄は期限切れが一番の理由であり、新鮮凍結血漿ではバッグ破損が原因であった。アルブミン / 赤血球製剤比は 17.8、FFP / 赤血球比は 0.52 と輸血管料算定基準を満たしていた。その他、大きな変更事案はなかった。不適切輸血、過剰オーダーなどには十分なお理解が得られていると思われた。以下に 28 年度の血液製剤使用量、廃棄量と平成 15 年度から 28 年度までの購入金額と廃棄金額の推移をまとめた。

平成 28 年度血液製剤使用量
(平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月)

製剤名	単位	薬価 (円)	購入本数	購入金額 (円)	使用本数	廃棄本数	廃棄金額 (円)	廃棄率 (%)
濃厚赤血球	1 単位	8,864	10	88,940	9	0	0	3.79
	2 単位	17,726	1,309	23,203,334	1,264	50	886,300	
新鮮凍結血漿	120m l	8,955	5	44,775	5	0	0	0.45
	240m l	17,912	654	11,714,448	645	3	53,736	
	480m l	23,617	14	330,638	11	0	0	
血小板製剤	5 単位	40,100	2	80,200	2	0	0	3.02
	10 単位	79,875	130	10,383,750	126	4	319,500	
	15 単位	119,800	1	119,800	1	0	0	
	20 単位	159,733	0	0	0	0	0	
自己血	1 単位		6		5	1	0	8.62
	2 単位		24		24	2		
計			2,155	45,965,585	2,092	60	1,259,536	

血液製剤使用状況



[医療の質向上]

委員長 西澤輝彦 報告 川井田祐一郎

地域医療支援病院委員会

【目的】

地域における医療の確保、向上のために必要な支援に係る業務に関し、当該業務が適切に行われるために必要な事項を審議することを目的とする。

【構成員】

鹿児島県医師会副会長	野村秀洋	今給黎総合病院院長	昇卓夫
鹿児島市医師会副会長	池田耕自	今給黎総合病院副院長	西澤輝彦
鹿児島県立病院事業管理者	福元俊孝	今給黎総合病院看護部長	近藤ひとみ
鹿児島市消防局長	木場登士朗		

当院は、平成 25 年 3 月 22 日地域医療支援病院に承認されました。

【議事内容】

- 1、年度業務報告
 - 年度業務報告を県知事への業務報告書に沿って行った
- 2、地域医療連携強化について
 - 地域医療連携強化に向けて MSW より今後の活動予定の報告を行った。
- 3、病院移転について
 - 病院移転について現況報告を行った。
- 4、質疑応答
 - 年度業務報告についての質疑、外部委員からの助言を頂いた。



看護安全対策委員会

【目的】

本委員会は、医療事故防止対策の確立を促進すると共に安全な医療看護を提供し、万が一事故が発生時は、速やかに誠心誠意取り組むそれを生かし、安全教育の場にフィードバックし再発防止に努め、看護医療の質の確保と向上を図る

【目標】

病棟全体の医療安全への意識を高め、安全な行動が実践できる

【年間目標】

各病棟単位で自部署のインシデントKYT事例に関する活動報告を行い、安全行動を共有することで看護部全体の安全の意識と行動の標準化を図る

【構成員】

有村看護部長 近藤看護部長 岩下看護副部長 藤山看護副部長 中村看護副部長

医療安全管理課：千田課長 長野主任 各部署師長

委員メンバー：各部署委員

【活動内容】

1. 毎月の安全管理報告件数、事象レベル、発生事例についての報告
2. アクシデント発生部署からの事例及び対策の報告
(報告を受けることで看護部全体の情報共有・注意喚起に繋がる)
3. 医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理者からの周知事項の提示
4. 外部リスクマネジメント関連情報の提示
医療機能評価機構からの医療安全情報、PMDA情報
東京海上日動メディカルサービスからのリスクマネジメント関連情報
5. 各部署のインシデントKYTを提示し、改善策の立案と対策の取り組みについて評価を行い、委員会内で報告を行った
6. 看護医療安全対策委員会において、4つのワーキンググループを立ち上げ安全行動の標準化を図るべく既存のマニュアルの見直し、改訂を検討
①転倒・転落対策グループ ②薬剤：内服管理グループ ③薬剤：注射管理グループ
④ドレン・チューブ管理グループ

本年度は、各部署でのインシデントKYT事例に関する活動報告をプレゼンテーション形式としたことで、多部署で活動状況を把握・共有することができた。部署により活動状況に差はあるが、KYTシートを用いたカンファレンスの開催、情報共有することで安全の意識は図れたと考える。

今後は、標準化された安全な行動の実践に取り組み、看護医療の質の確保と向上を目指す。



診療録検討委員会

【構成員】

委員長 丸山芳一（神経内科）

委員 昇卓夫（院長）

【看護部】有村智代→近藤ひとみ（看護部長）、岩下邦子（副部長）、上野京（看護記録委員長）
千田清美（医療安全管理課課長）、上山真紀（クリニック師長）

【薬剤部】高橋真理（部長） 【リハビリテーション部】豊留研二、前迫篤

【栄養管理課】上平田美樹（課長） 【医療情報管理課】神野博幸（主任）

【診療補助部】桑波田かおり、中山直子（4月まで）→ 5月より神村美月

【医事課】針山朋美、米満久美 【中央臨床検査部】上鶴昭知

【中央放射線部】新村栄次 【診療情報管理部】畑中幸子、黒丸恭弘、小西佑典

【活動内容】

- ・委員会 毎月第2火曜日 15:00～16:00
- ・診療記録監査 毎月第4金曜日 13:30～14:30

【今年度の主な活動】

- ・インフォームド・コンセント書式運用マニュアル使用開始
- ・入退院時記録の充実（ワードパレット使用促進）
- ・同意書および文書の改定等（共通文書より掲載）
救急医療管理加算チェック表、輸血・血漿分画製剤に関する説明書、
身体抑制同意書→安全帯使用説明同意書（名称変更）
C P A P説明同意書、高気圧酸素治療同意書
- ・診療録監査 実施診療科

監査日	監査対象診療科	監査実施診療科	師長もしくは主任
4月 25日	消化器内科	脳神経外科	2東
5月 27日	眼科	呼吸器内科	4西
6月 24日	産婦人科	消化器内科	2西
7月 22日	泌尿器科	整形外科	3東
8月 26日	呼吸器内科	総合内科	3西
9月 23日	小児科、DM	産婦人科	4北
10月 21日	口腔外科	呼吸器外科	4北
11月 25日	放射線、緩和医療科	歯科口腔外科	2北
12月 20日	循環器内科	耳鼻咽喉科	3中
1月 27日	呼吸器外科	形成外科	3西
2月 24日	皮膚科	放射線科	2南
3月 24日	脳神経外科	外科	3東

診療録の質的向上を目的に診療録監査に力をいれている。今年度の主な改善点は入院時記録および退院時記録の記載内容充実であった。必要項目が漏れることのないようワードパレットを作成し使用促進を図った。

全体的に充実してきたが、不十分なものもあるため、来年度は個別に指導を行う予定である。

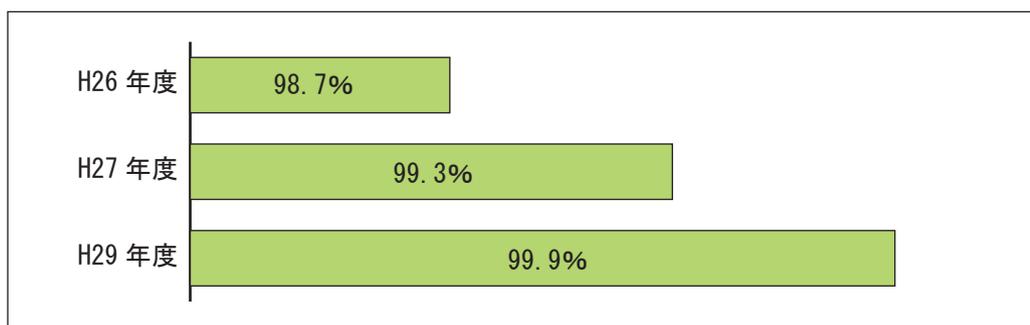
また、インフォームド・コンセントのための文書として病状経過説明同意書の使用促進を行った。

患者さまやそのご家族に説明を行う際、診療録の記載だけでなく、患者さまの手元に残るよう文書を用いて説明を行うよう勧めてきた。電子カルテから探すことが困難との意見もあがり、より探しやすいよう保存場所を工夫した。

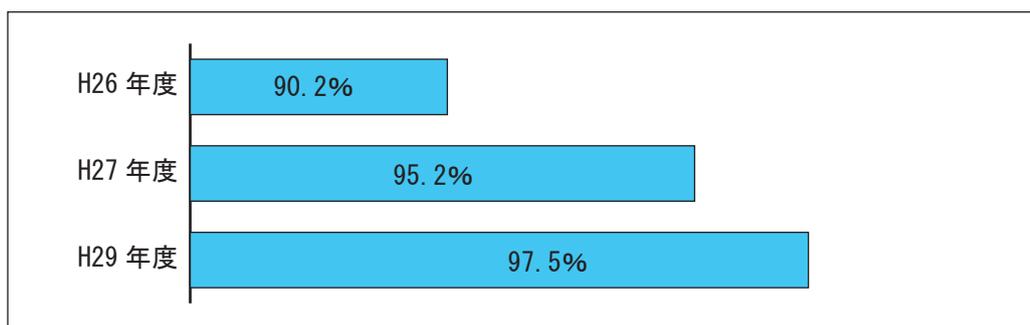
その結果、同意書の使用率が上がってきている。診療録監査を通して、単なる記録のチェックだけでなく、患者様の立場に立ち、より良い診療に繋がる記録の工夫も心がけていきたい。

【Quality Indicator】

◆退院後2週間以内のサマリー完成率



◆手術後48時間以内の手術記録完成率



サマリーおよび手術記録は診療情報管理部にて記載確認を行い、未記載のものは随時記載依頼を行っている。今年度、退院サマリー記載率は12ヵ月中7ヵ月が100%に達し、手術記録48時間以内の記載率も向上してきている。



[医療の質向上]

委員長 西澤 輝彦(報告)

救急医療部門運営委員会

当委員会は麻酔科池田部長のお世話で ICU、手術室、中央材料部、NICU 運営委員会、更に物品購入委員会と合同で月 1 回開催されています。救急部門は前月の救急車の受け入れ状況、各科のオンコールの回数やお断り例の検討を行い改善策について討議しています。また休日の当番医に際して日直医師の割り当て、看護師などの体制の確認も行っています。

平成 28 年は救急車台数 2,772 台 (27 年 2,708)、搬送人数 2,809 人 (2,762)、入院率 53.3% (49.8%)、ドクターヘリ 51 件 (24)、ドクターカー 55 件 (42)、洋上救急 0 件 (3 件)、CPA 43 件 (36) で、洋上救急以外は増加傾向を維持できました。洋上救急は米盛病院のヘリポートに海上保安庁のヘリが直接降りられることの影響です。現在は各科有志が救急隊とのホットラインを持つことで受け入れがスムーズとなっていますが、有志の負担の問題や受け入れ後の担当科の決定に苦勞するなどの問題があります。

**【目的】**

今給黎総合病院および昭和会クリニックで行われる医学研究や医療行為に対し、倫理上の対応指針を示すことを目的とする。ヒトを対象とした医学研究については「ヘルシンキ宣言」、日常の医療については「リスボン宣言」を審議上の基準とし、医学的、倫理的および社会的観点から調査検討し、審議する。また、倫理に関する職員への教育や研修等により、患者の意思の尊重と人権保護の意識高揚を図る。

【平成 28 年度 倫理審査委員会委員】

昇 卓夫、大久保 幸一、丸山 芳一、寺原 賢人、牟礼 洋、白濱 浩、高橋 真理、有村 智代、近藤 ひとみ、藤山 みどり、野口 桂一、原口 一博、前野 浩一、上唐湊 芳一、長野 芳幸（外部委員）、蓑毛 長史（外部委員）、山内 茂（外部委員）

【平成 28 年度 倫理審査小委員会委員】

昇 卓夫、丸山 芳一、寺原 賢人、牟礼 洋、米田 敏、高橋 真理、有村 智代、近藤 ひとみ、藤山 みどり、野口 桂一、前野 浩一、上唐湊 芳一、山内 茂（外部委員）

【平成 28 年度 医学研究に関する倫理審査概要】

小委員会開催回数(平成 28 年度)：15 回

開催頻度：月 1 回(第 2 金曜)申請がない月は未開催

審査件数：合計 15 件 0 件 未承認、15 件 承認

会議記録：厚生労働省「倫理審査委員会報告システム」に委員名簿及び規程とともに掲載

【平成 28 年度 委員会開催日、課題名、申請者】

H28. 4. 8(金) 申請者：呼吸器外科部長 米田 敏
『全国肺癌登録調査：2010 年肺癌手術症例に対する登録研究』

H28. 6. 10(金) 申請者：整形外科部長 松永 俊二
『びまん性特発性骨増殖症における脊椎損傷の研究』

H28. 6. 10(金) 申請者：総合内科部長 生野 博久
『高脂血症患者の血管内皮機能にオメガ-3 脂肪酸エチル投与が及ぼす影響の探索的検討』

H28. 6. 10(金) 申請者：泌尿器科部長 立和田 得志
『腎盂および上部尿管の上部尿路癌に対する腎尿管全摘術に伴うリンパ節郭清術の有効性と安全性に関する多施設共同前向き無作為化研究』

H28. 7. 8(金) 申請者：整形外科部長 松永 俊二
『圧迫性脊髄症手術前後の転倒による症状悪化に関する多施設前向き研究』

H28. 7. 8(金) 申請者：整形外科部長 松永 俊二
『脊椎後縦靱帯骨化症の手術成績に関する前向き多施設研究』

H28. 8. 12(金) 申請者：総合内科 三宅 健治
『セブン・ドリーマーズ・ラボラトリーズ(株)ナステント クラシック』

H28. 8. 12(金) 申請者：総合内科 三宅 健治
『睡眠時無呼吸診療におけるクラウド型患者データ管理システム導入に関して』

H28. 8. 12(金) 申請者：総合内科部長 生野 博久
『非弁膜症性心房細動を有する後期高齢者を対象とした前向き観察研究』
All Nippon AF In Elderly Registry
-ANAFIE Registry-

H28. 9. 9(金) 申請者：中央放射線部 川原 美咲
『MRI 撮像における POS FACTOR の基礎的検討』

H29. 1. 13(金) 申請者：外科部長 濱之上 雅博
『HER2 陽性の進行・再発胃癌を対象としたトラスツズマブ既治療例における HER2 Status に関する多施設共同観察研究』(HER2 retry Study)

H29. 1. 13(金) 申請者：小児科部長 玉田 泉
『成長ホルモン製剤による治療における QOL 比較研究』(GT-QOL)

H29. 2. 10(金) 申請者：整形外科部長 宮口 文宏
『BKP (balloon kyphoplasty) の技術認定研修施設』

H29. 3. 10(金) 申請者：循環器科部長 大場 一郎
『非弁膜症性心房細動を有する後期高齢者を対象とした前向き観察研究』

H29. 3. 10(金) 申請者：総務企画課 西郷 今日子
『ネフローゼ症候群の 2 歳男児とのかかわり』
～患児とその家族をつなぐ遊びの支援～と題した論文作成について



クリニカルパス委員会

当院は、平成17年度に電子カルテが導入され、平成25年10月から電子クリニカルパス化に取り組み現在67種類の電子パスが使用されている。

今年度は、委員会の目的を「患者状態と診療行為の目標および評価・記録を含む標準診療計画書（クリニカルパス）を開発・改訂し、標準からの逸脱を分析し医療の質向上を図る」へ変更し、今年度目標として【1. 患者パス作成促進 2. 電子パス改訂促進 3. 電子パスの普及と知識の向上】を掲げ活動を行った。患者パスの充実を急務とし、入院患者様へ分かりやすく治療計画を把握していただくために患者パスに使用するイラストやフォント、枠組みの統一を行った。医療者用パスにおいては、DPC改定による期間変更や短期滞在パスのコスト等を考慮したパスの見直しを行った他、新規パスの導入やバリエーション分析等も力を入れた。

当院はがん診療連携拠点病院としての機能を有しており、今後がんに関わる新規パスをもっと増やすよう取り組んでいきたい。

【委員会構成】

医師	2名	看護師	34名	リハビリテーション部	2名
薬剤師	2名	中央臨床検査部	1名	栄養管理部	1名
診療情報管理部	2名	医療情報管理課	2名	医事課	2名
					計 48名

【H28年度の活動内容・院内外研修参加】

平成 28 年 8 月

熊本済生会病院 クリニカルパス講座 梅北裕司

院内クリニカルパス大会

日時：平成 29 年 3 月 22 日（水） 司会：尾堂 座長：梅北

演題 1 泌尿器科 (TVM)

- ・病態生理(中目医師)
- ・新規パス導入への経緯等(重井看護師)

演題 2 耳鼻科パス (ESS)

- ・病態生理(福田医師)
- ・鼻手術パスの経緯(榮看護師)
- ・バリエーション分析(在院日数 アウトカム 観察項目)(パス企画開発)
- ・各職種報告(栄養課・薬剤部・医事課・放射線科・リハビリ・検査部)
- ・耳鼻科担当医事課(診療報酬等の比較)



医療情報システム委員会

医療情報システム委員会（通称システム委員会）は通常は月一回、木曜日に定例の会を行っています。特に新しいシステムの運用開始時には臨時の会議や実際的な運用を決めるためのWG（ワーキンググループ）を適宜行っています。単に電子カルテの運用だけではなく、病院全体のシステム化に向けて全領域からの参加があるのが大きな特徴です。

本年度の主な活動としては、外来患者呼出し番号の本稼働、インターネット端末のWindows10への移行、勤務・人事システムのバージョンアップ、研修医への代行承認機能の改修、院外処方箋の一般名処方採用、ファイルサーバ容量拡張、無線LAN入替及び端末OS入替、電子カルテパスワードの60日期限設定を実施しました。

昨年度から協議・仮稼働中でした外来患者呼出し番号の運用は、年度初めから本稼働することができ、「運用がスムーズになった」と関係職員より評価を得ることができました。

Windows10無償Updateの終了日が7月29日までとのことから、インターネット端末に対してUpdateを実施しました。このことから、多くの端末を延命することができ経費の削減が出来たものと考えています。

2013年10月の電子カルテシステム入替時より改善要望していた勤務・人事システムの入替・本稼働を8月に行い、今まで以上に電子カルテシステムと連動されたシステムとなり、業務の効率化が図れたと評価しております。また、来年度では、看護師クリニカルラダー開発に関する機能も導入始動することでスケジュールされております。

研修医の入力したカルテ記載を指導医が承認する上で、電子カルテシステムの機能である代行承認機能を活用し、承認がスムーズに行えるようベンダ様御協力の元、システム改修することができました。

平成25年度の診療報酬改定により一般名による処方箋の発行・算定が可能でしたが、電子カルテシステムの操作性からリスク発生が懸念されたため、院外処方箋への一般名処方の記載採用に足踏みしていましたが、ベンダ様対応によりシステム改修が行われ、本年度より採用・算定できるようになりました。

ファイルサーバの容量肥大化が加速的に進んでいる状況で、環境整理により対処致しました。今後も更なる容量増大が想定されることから、問題解決の手段を模索する必要があると考えています。

無線LANの装置が経年を大きく超えて稼働していたことから、本年度機器のリプレースを実施致しました。入替当初は、無線LANの切断が多発しましたが、導入ベンダ様協力の元、年度末には概ね良好な状態に落ち着くことができました。しかしながら、一部のエリアで事象が継続していることもあり、次年度への持越しもやむを得ず発生している状況となっており、早急な対応改善が要求されています。また、合わせて無線LAN接続端末のOS入替及びSSDへの換装を実施し、若干ではありますが動作改善を図り利用者の業務効率が上がったものと考えております。

電子カルテパスワードの定期的な変更をガイドラインに定められていることから、本年度改善実施することとなりました。改善の際、特に大きな問題も無く実施できたと考えております。

本年度の病院移転に関しては、基本構想の策定が主なことから、具体的なシステム構築に関する協議は無い状況ではありましたが、新病院に向けて掲げた問題に職員一丸となって達成できる様、今後医療情報システム委員会として役割を果たしていきたいと考えています。



NST(栄養サポートチーム)委員会

【目的・目標】

栄養サポートチーム(以下:NST)とは、栄養障害のある患者様に対し、生活の質の向上、原疾患の治癒促進、感染症などの合併症予防を目的とした多職種で構成されたチームです。当院 NST は主治医からの申し込みを原則としています。栄養管理を行うためには、主治医の治療との連携が必要であるという理念からです。多岐にわたる病態に応じた、適切な助言・補助ができるよう今後も努めて参ります。

【活動】

2005年に日本静脈経腸学会よりNST稼働施設認定を、2011年には栄養サポートチーム専門療法士取得に関わる実地修練施設として認定を受け、カンファレンス・回診を行っています。構成メンバーは、総合内科医師・口腔外科医師、管理栄養部、褥瘡管理課、薬剤部、中央検査部、リハビリテーション部、看護部、事務部です。毎週火曜日14時より、病棟にてカンファレンス・回診を実施し、あらゆる職種の視点から知識を出し合い患者様の栄養改善に取り組んでいます。平成23年6月から、栄養管理についてオンコール体制を開始し、食事摂取不良症例の相談や経腸栄養の選択について主治医や看護師・コメディカルからの相談を行っています。

【構成員】

院長、内科医2名、歯科医1名、看護副師長2名、看護師主任2名、看護師(病棟・外来・クリニック)34名、褥瘡管理課看護師3名、薬剤部4名、リハビリテーション部8名、臨床検査部5名、管理栄養士9名、事務部2名

【主な活動内容】

●NST対象者スクリーニング

主治医から依頼された症例
電子カルテの抽出機能よりA1b2.5g/dl以下の症例の抽出
MNA-SFを用いたスクリーニングによる低栄養症例の抽出
NST介入の必要な症例に対して主治医へ低栄養報告書を提示

●NSTカンファレンス・回診 毎週火曜日 14時00分～

参加者:医師・歯科医師・薬剤師・看護師・管理栄養士・言語聴覚士・理学療法士・作業療法士・臨床検査技師
場所:各病棟をラウンドし、カンファレンス・病棟回診を行っている
アセスメント:身体計測・臨床検査データ・栄養量などの推移を確認
ディスカッション:各アセスメントを踏まえ、栄養補充方法やルート、内容について検討
ミニ会議:NSTコアメンバー(運営委員)での検討事項の確認や伝達事項の確認
カンファレンスを基に患者の身体状況の確認 栄養投与ルートの確認と現在の問題点の把握、
リスクマネジメント、患者様やご家族への説明指導、主治医への提言

●NST会議 毎月第1水曜日 13時15分～

NST委員会からの報告、統計報告
病棟NSTからの報告や情報共有
NST専門療法士などによる学会報告や症例検討会

●施設認定等

日本静脈経腸栄養学会 NST稼働認定施設
日本静脈経腸栄養学会認定 NST専門療法士認定教育施設
日本栄養療法推進協議会認定 NST稼働施設

●学会、講演活動

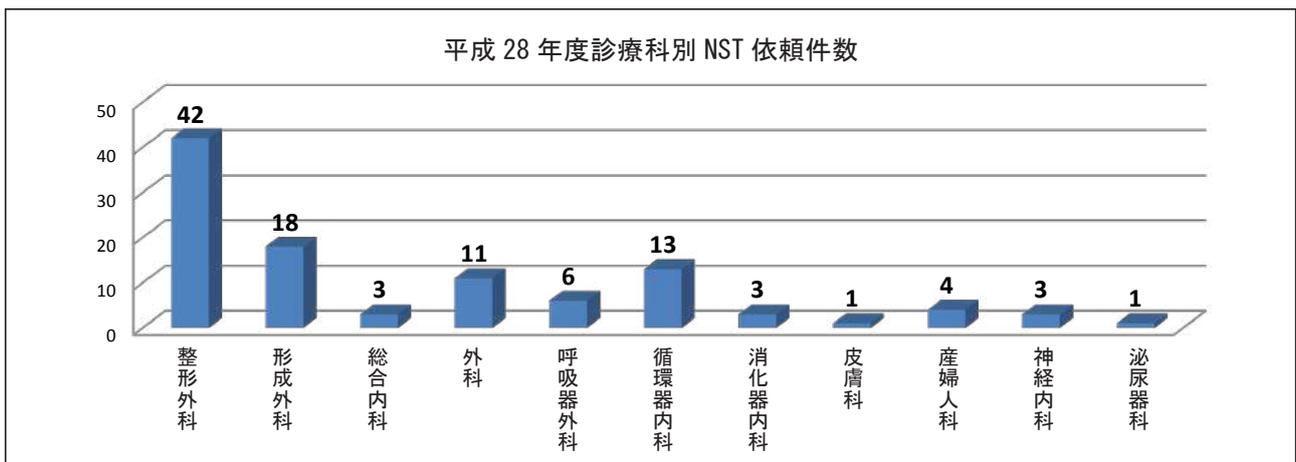
- 平成29年2月11日 鹿児島県栄養士会 会員による発表
一般演題「消化吸収に着目した経腸栄養剤の選択」 鈴木聖子
- 平成29年3月18日 鹿児島県在宅褥瘡セミナー
「褥瘡の予防と管理:栄養」 講師 鈴木聖子

●資格等

日本静脈経腸栄養学会 認定医 1名
NST専門療法士
管理栄養士 2名、薬剤師2名、看護師 1名
日本病態栄養学会認定資格
病態栄養専門師、NSTコーディネーター 4名
日本褥瘡学会認定資格
認定褥瘡管理栄養士 1名

●その他

(年間報告)
年間依頼件数105名



平成28年度給食部門の直営化にともない、4～5月はNST活動も積極的に行うことが困難でしたが、例年と比較しても大幅な変化なく年間105名のご依頼をいただきました。近年、急性期における栄養管理の重要性が認識されるようになり、入院直後のご依頼も増えつつあります。中でも整形外科からの依頼が最も多く、次いで形成外科、循環器内科、外科、呼吸器外科より依頼がありました。当院は急性期病院でありNST介入患者の約半数が転院にて終了となります。切れ目なく栄養管理を継続できるよう、転院先の病院や施設へ栄養情報提供書を送付し転院先ともコミュニケーションをとるようにしております。

また平成28年度は日本静脈経腸栄養学会、栄養療法推進協議会の施設認定更新を行いました。当院は、医師や歯科医師、コメディカルも多職種での活動に非常に協力的であり、充実した多方面からの意見でNST活動が行えております。次年度も引き続き、栄養管理の重要性を院内外に啓蒙しつつ、患者様にとって栄養管理が行えるようサポートしていく所存です。



褥瘡対策委員会

【目的】

- ・褥瘡対策に関する診療・看護計画を作成し、予防及び対策を実施する
- ・専門的知識・技術で患者・家族のQOLを高める

褥瘡対策が必要な患者数は年間4048名で、入院患者数の約50%と半数であり年々増加傾向にある。褥瘡ハイリスク対象患者数は1815名(うち70歳以上患者は1184名:65%)であり、ハイリスク項目では皮膚脆弱が約76%と最も多く次いで術中特殊体位、末梢循環器障害であった。

褥瘡推定発生率の年間平均は0.75%であったが、平成29年2月には2.47%と最高値となった。

院内褥瘡発生部位は踵が最も多く、尾骨・仙骨と続いている。又、医療機器関連圧迫創では顔面が多く、BiPAPマスクや術中体位(腹臥位)による発生が多かった。しかし、発生個所件数は、昨年は135件であったが、本年度は86件であり約50件減少した。

昨年、各種マニュアルを改定したが、平成24年に写真付き予防マニュアルを作成し5年経過し、その効果も要因の一つと考える。

褥瘡発生患者の中には、治療規制・体動制限、末梢循環器障害など全身状態悪化、栄養低下にて予防困難な症例もあった。

診療科別では、院内・院外共に整形外科・総合内科・神経内科が多かった。

褥瘡ハイリスク患者を訪問し、患者状態に合わせたケアを提供できるようスタッフや患者指導は継続して行っているが、病棟間に差があり、看護度やスタッフ間の情報共有や認識の差がある。他病棟を訪問し評価する事により、自部署のケア内容を見直す事に繋がるため、来年度より、各病棟の褥瘡委員と褥瘡管理課にて褥瘡予防ラウンドを開始予定としている。

褥瘡回診は毎週月曜日:14時より形成外科医・WOCN・褥瘡学会認定Ns・リハビリテーション部・栄養課・薬剤部と共に各病棟を訪問し、病棟Nsと褥瘡回診チームにて褥瘡・ケア内容の評価を行い、褥瘡経過記録を作成しケア統一が図れるよう行っている。

勉強会はリハビリ部・薬剤部にも講義を依頼し計7回開催し、参加人数は110~216名/回で合計986名の参加があった。

適時調査にて、褥瘡対策基準の褥瘡対策に関する診療計画書作成に当たり指摘があり、褥瘡対策チーム看護師(専従)の役割に対して看護部とも検討し、専任看護師は、主任や6割以上の勉強会に参加し自己研鑽しているスタッフと決定した。

以下の表やグラフは、病棟単位・発生部位・診療科を院内・院外でそれぞれ褥瘡と医療機器関連圧迫創に分けたデータである。

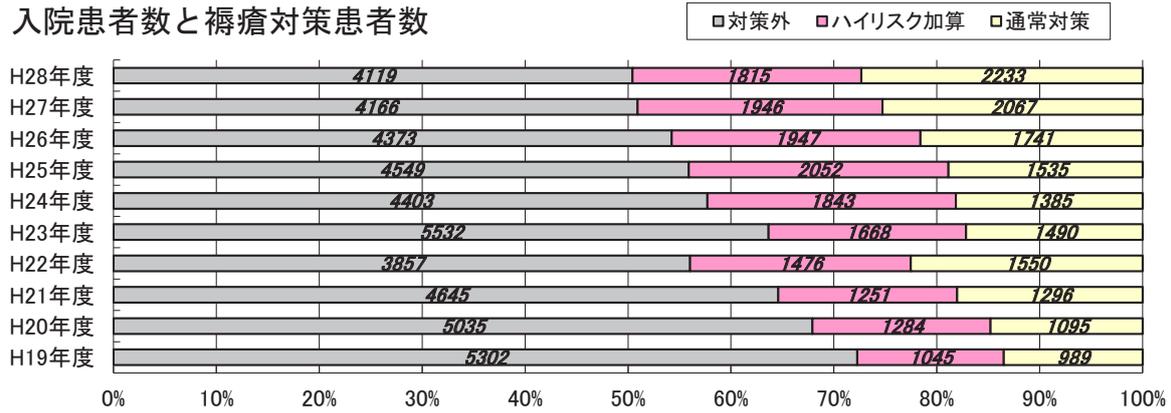
【構成員】

形成外科: 外菌Dr、褥瘡管理課(下前WOCN・逆瀬川、椎木WOCN)、看護部(上山師長、橋口師長、野田主任、伊藤主任)
外来・クリニック・各病棟・OPE室、薬剤師、管理栄養士、リハビリテーション部(PT・OT・ST)、医事課

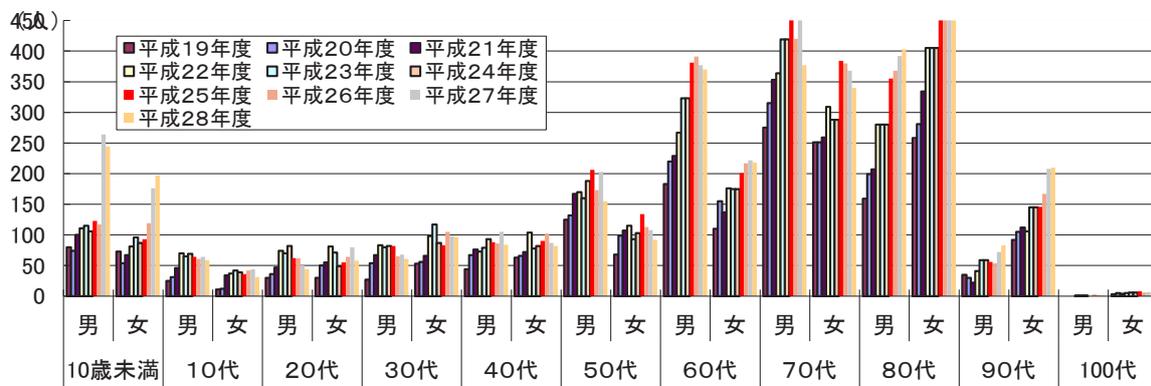
	入院患者数	要対策	ハイリスク	ショック	循環不全	鎮痛	6時間以上	特殊体位	下痢	皮膚脆弱	褥瘡
4月	661	661	154	7	46	36	16	49		120	25
5月	632	632	124	9	34	29	15	39	1	86	22
6月	697	697	164	11	44	38	14	50	2	109	23
7月	694	694	156	10	32	32	15	47	1	120	22
8月	705	705	186	10	36	37	14	47	1	142	22
9月	659	659	123	6	38	36	12	33		97	13
10月	685	685	137	11	36	32	10	38		97	15
11月	701	701	142	8	24	28	14	43		96	22
12月	677	677	163	4	40	38	13	44		132	21
1月	701	701	177	5	31	40	8	43	1	141	26
2月	640	640	128	6	27	30	13	31		104	21
3月	715	715	161	7	33	33	6	43	1	128	22
計	8167	8167	1815	94	421	409	150	507	7	1372	254
割合%				5.2	23.2	22.5	8.3	27.9	0.4	75.6	14.0

	入院患者数	要対策	ハイリスク	要対策割合%	ショック	循環不全	鎮痛	6時間以上	特殊体位	下痢	皮膚脆弱	褥瘡
NICU	194	24	169	99	1	76					169	
2西	451	155	12	37	1	7	3	1	1		9	2
2東	1219	227	149	31	13	36	17	5	15	1	137	34
3西	962	205	131	35	7	63	31		3		131	20
3中	427	140	222	85	1	7	40	8	149		107	30
3東	781	267	93	46		5	2	2	12	1	92	6
4西	1323	238	47	22	1	10	2	3	12		39	15
ICU	140	100	421		57	106	278	128	251	1	163	27
2北	557	133	196	59	7	69	5		5	4	188	55
2南	582	181	141	55	5	25	2		1		142	31
3北			1								1	
3南	597	236	224	77		15	29	2	57		187	29
4北	934	327	9	36	1	2		1	1		7	2
OPE												16
計	8167	2233	1815	50	94	421	409	150	507	7	1372	267

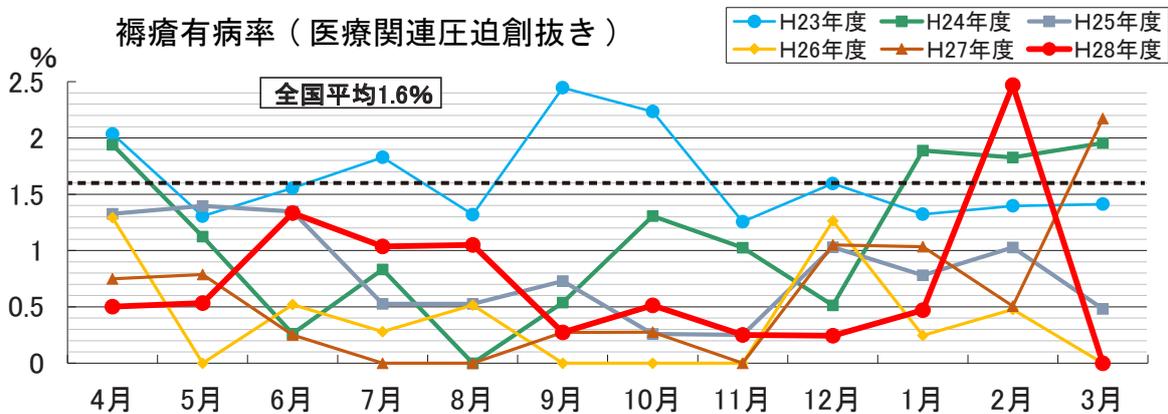
入院患者数と褥瘡対策患者数



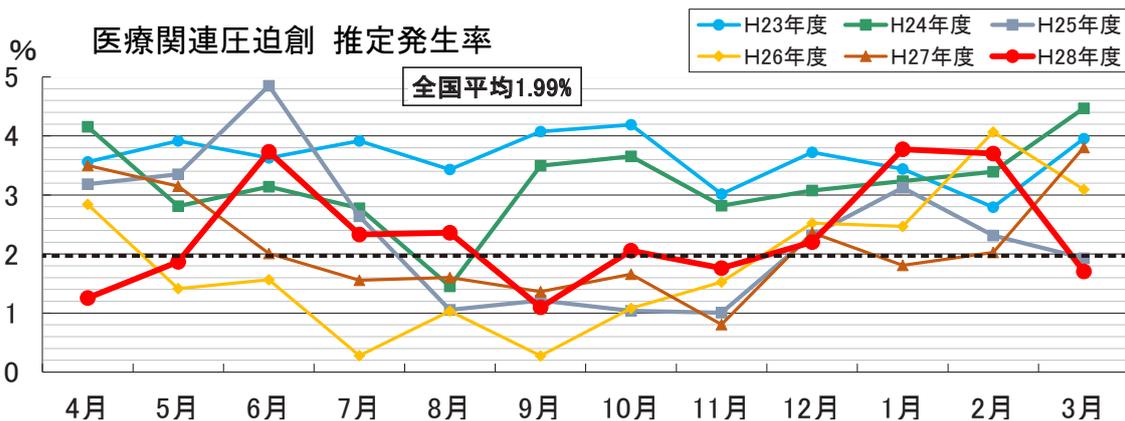
褥瘡対策患者年齢の動向 (H19~28年)

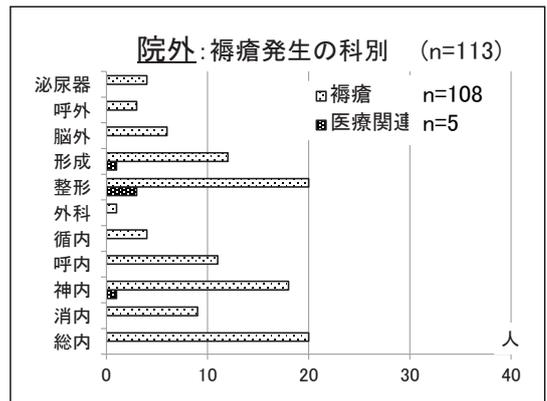
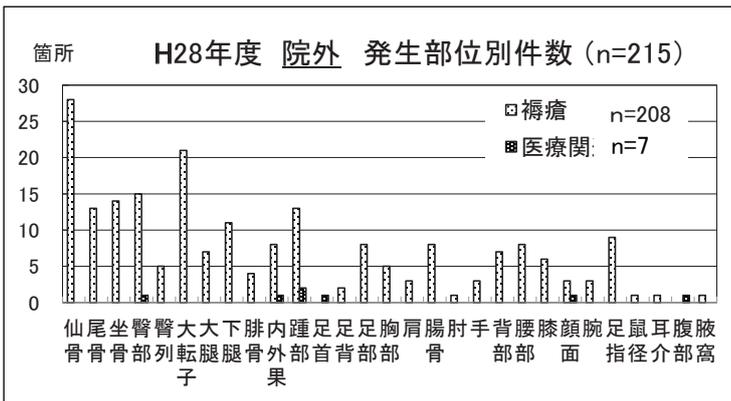
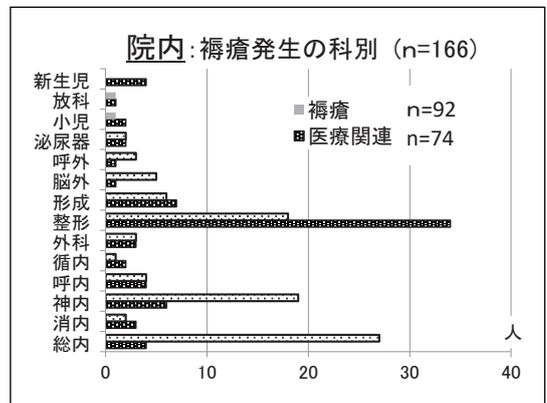
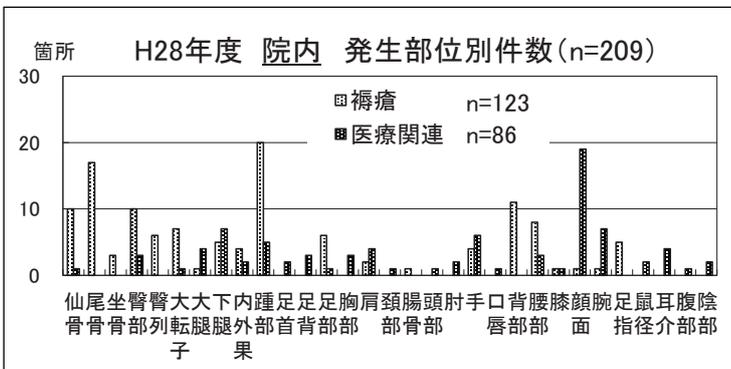
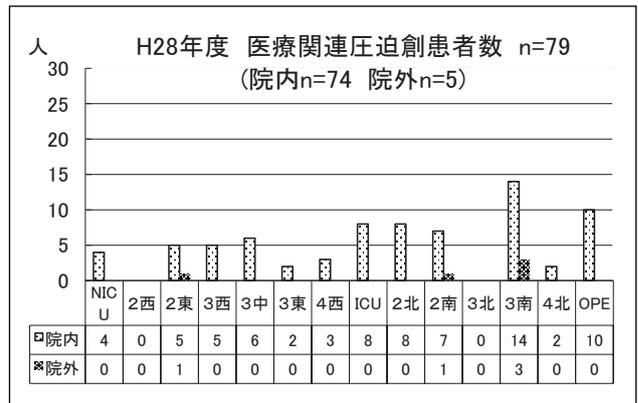
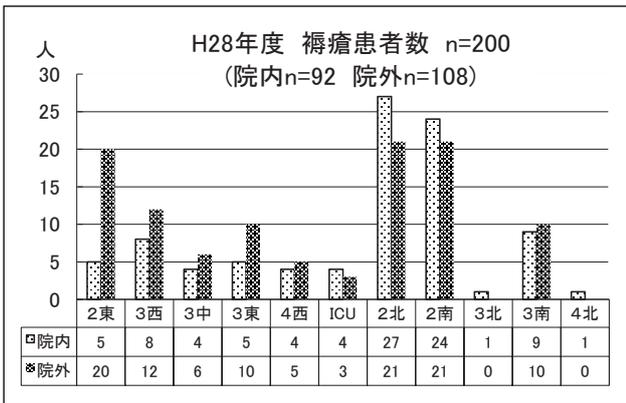
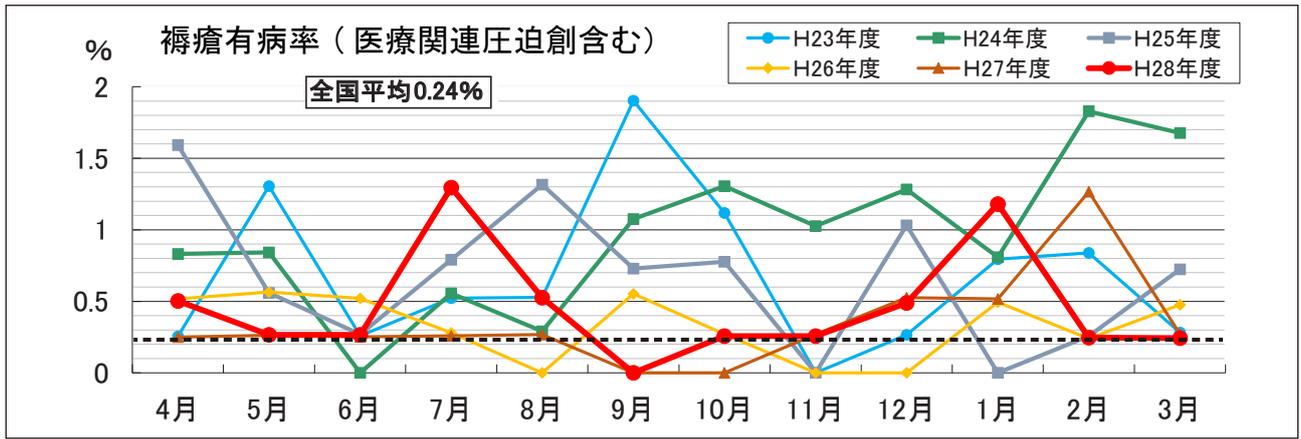


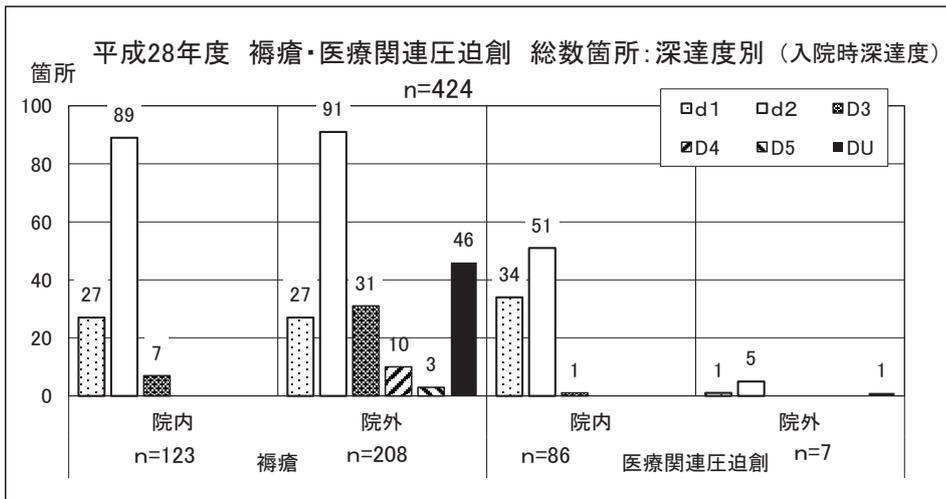
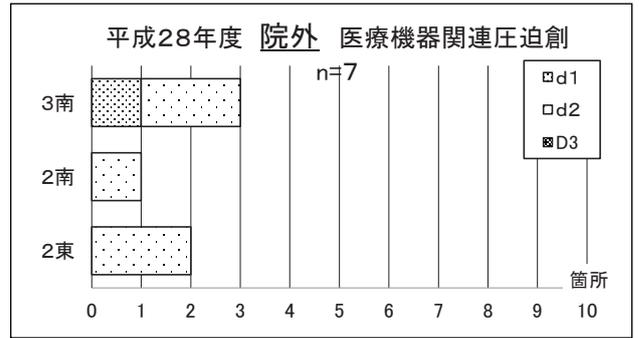
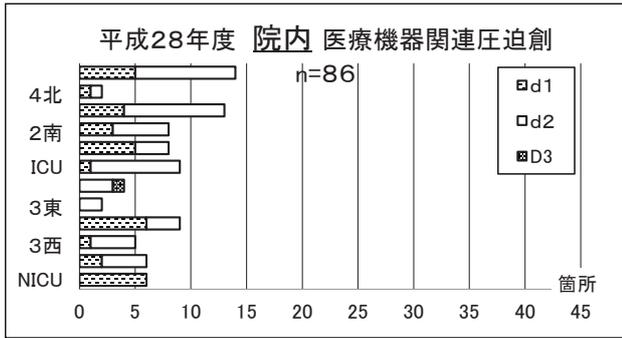
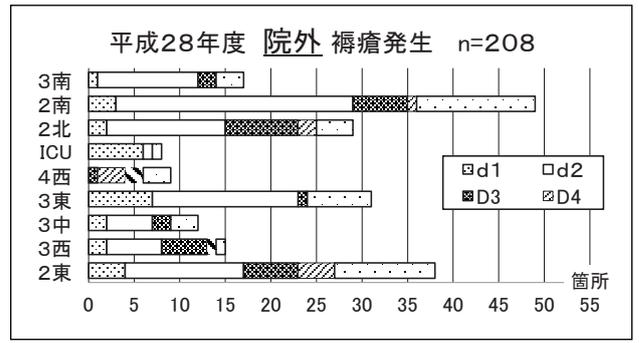
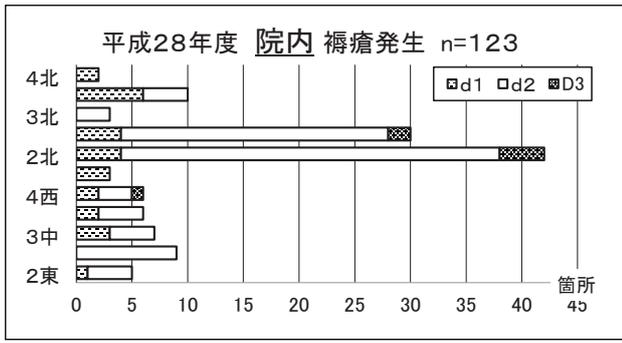
褥瘡有病率 (医療関連圧迫創抜き)



医療関連圧迫創 推定発生率

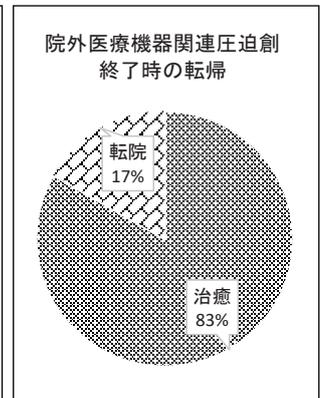
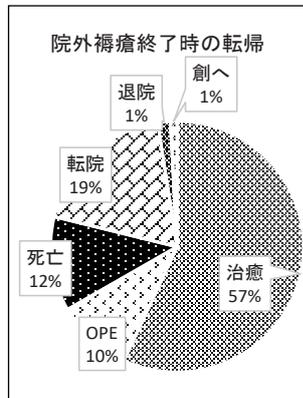
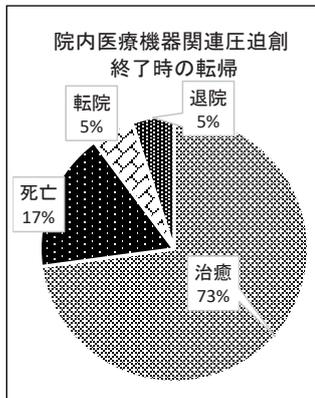
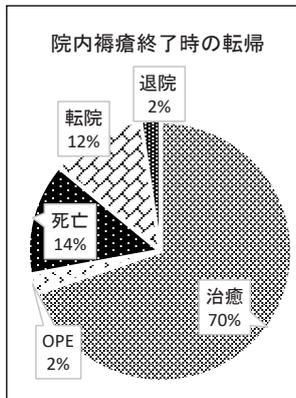


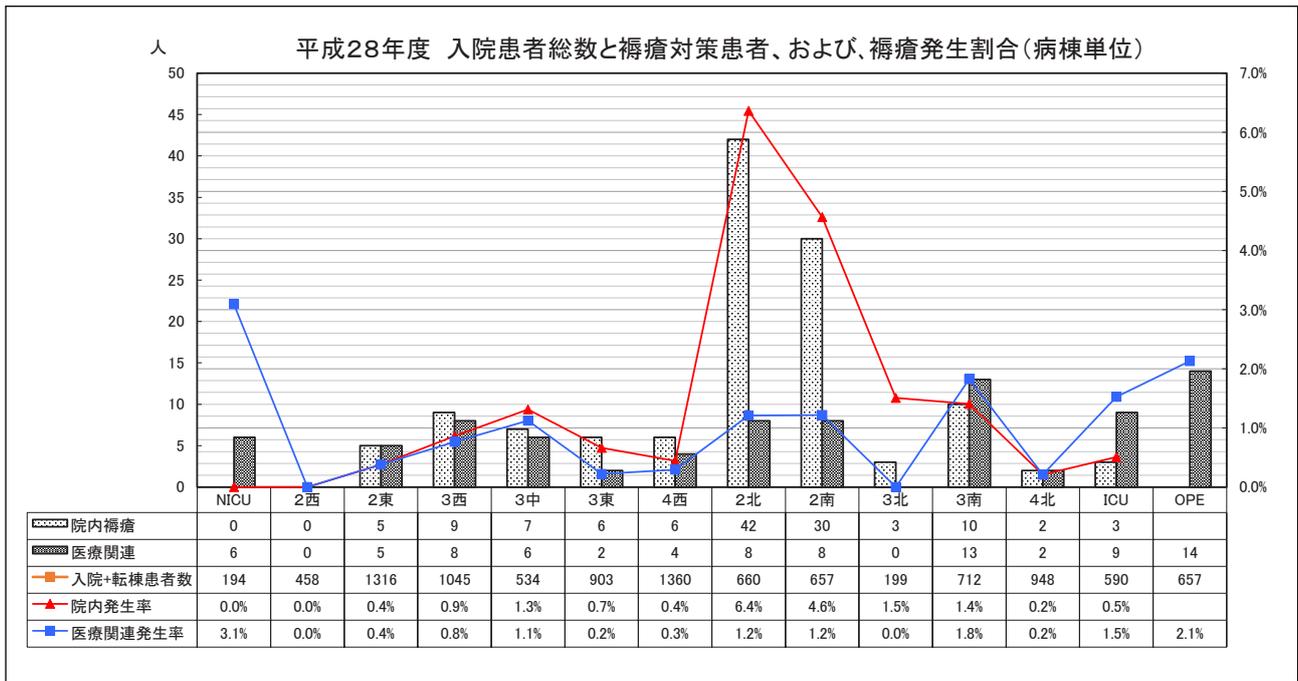




H28年度 治癒日数

	院内		院外	
	褥瘡	医療	褥瘡	医療
d1	8	6	10	
d2	9	9	9	11
D3	35	33	29	
D4			70	
D5				
DU				





[医療の質向上]

委員長 上野 京(報告)

看護記録委員会

【目 標】 看護記録を充実させることを通して、看護ケアの質の向上を図る

【目 的】

実践した看護が見える記録の充実を図り、看護記録の質向上を目指す

1. 看護記録マニュアルの定着
2. リアルタイムな記録ができる
3. 看護必要度の適正な評価と院内における評価の標準化

【開催日】 毎月第3木曜日 13:30～14:30

【構成員】 委員長 上野 京(師長)
 副委員長 仮屋 由美(主任) 永田恵里(主任)
 アバイザー 岩下邦子(副部長)・尾之上稲子(師長)・稲森優子(師長)
 各病棟の委員 1～2名

【平成28年度活動内容】

- ・H28年度の重症度、医療・看護必要度の大幅な改訂に伴い、看護必要度に関する全体研修会を数回実施した。看護必要度試験は、回数を増やして実施をした。結果は、看護必要度試験の合格率は51.9%(院内)で、評価者率は64.7%と前年度に比較し増加している。
- ・整形・眼科・耳鼻科・形成・婦人科の術後帰室時の記録を、ワードパレットを使用して作成し、全病棟に統一した。
- ・身体抑制同意書の文言等の見直しをして「安全帯使用に関する説明同意書」に変更した。
- ・看護記録監査と看護必要度監査を実施して各病棟に結果報告した。
- ・次年度は看護必要度の適正な評価の質の低下を防ぎ看護記録の質向上のため各グループでの活動の内容を検討し取り組んでいく。



看護業務委員会

【目的】看護業務の統一化並びに、看護水準の維持、向上を図る事を目的とする

【目標】看護手順(ナーシング・スキル)の周知を徹底し、安心・安全な看護を提供する

【活動内容】

1. 課題の実施 3 項目以上/月
2. ナーシング・スキルの見直し
3. 看護手順の新規見直し

【開催日時】 毎月第 3 水曜日

【構成員】 近藤看護部長 山下師長 尾之上師長 杉寄主任 日高主任 北野主任
病棟・手術室・外来・クリニック 各委員 1～2 名

【平成 28 年度活動内容】

- | | | |
|------|-------------------|--|
| 5 月 | 課題実施・手順の見直し/ | 接遇マナー・膀胱洗浄・フィジカルアセスメント・死後のケアについて |
| 6 月 | 課題実施・手順の見直し/ | 薬剤の調整・おむつ交換・陰部洗浄・採血・癌化学療法の実施・
抗がん剤の取り扱い |
| 7 月 | 課題実施 手順の見直し/ | 輸液管理・フィジカルアセスメント(一般状態)・酸素吸入法について |
| 8 月 | 課題実施 手順の見直し/ | 薬物アレルギー発生時の対応・インシュリン自己注射指導・
入院時の対応・静脈注射・寝衣交換・滅菌物の取り扱い・
経管栄養(腸瘻・胃瘻)・酸素吸入方法→RST に確認・
救急カートの点検について各病棟の現状確認について |
| 9 月 | 課題実施 手順の見直し/ 中間評価 | 口腔鼻腔吸引・経管栄養(腸瘻・胃瘻)・ネブライザー・
抗菌剤の用法と副作用の観察・輸血の管理と実際・転倒転落予防・
行動制限(身体抑制・拘束)・身体の測定(小児)・
心電図モニターの装着と管理・静脈注射について |
| 10 月 | 課題実施 手順の見直し/ | 経管栄養(経鼻胃管)・経管栄養(胃瘻・腸瘻)・
イソジン処置後の拭き取りについて |
| 11 月 | 課題実施 手順の見直し/ | 輸液管理・経鼻的胃管挿入・バイタルサインの測定(経皮的動脈血酸
素飽和度小児)・妊婦への日常生活指導・輸血の管理と実施・
ストーマ装具交換・転倒転落の予防について |
| 12 月 | 課題実施 手順の見直し/ | 経鼻的胃管挿入・経腸栄養関連・安楽の体位の保持・
死後のケアに霊安室使用時についてのマニュアルを添付・
清拭タオル(ハイポ入り)の運用について |

平成 29 年

- 1 月 最終反省 AC・ガス・ステラッド滅菌のインジゲーターの見方・期限の確認方法・くるむ・
パックの滅菌・取り扱い方法などの資料をナーシングスキルに添付
- 2 月 平成 29 年度業務委員会目標決定、次年度病棟目標設定・入力
- 3 月 次年度病棟目標設定・入力、業務委員会の運営について 委員の選出

【評価】

統一した看護を行うため、看護手順の見直しや手順の読み合わせを行い、ナーシングスキルの活用・周知を行った。見直しを行った項目を病棟でファイリングし、スタッフ教育・中途採用者教育に活用することができた。ナーシングスキルの手順と実践との違いを再確認し、手順の振り返りを行うことで安心・安全な看護を提供することができた。



看護部入退院支援調整委員会

【目的】 『患者および家族が安心・納得した退院支援調整の実践』 ～退院支援ルールの定着～

- 【目標】
- 1 G) 拡大支援カンファレンスのマニュアル化と実践
 - 2 G) 患者及び家族が不安なく退院できるよう、看護計画と連動しながら、指導内容を充実させる
 - 3 G) 地域福祉職とお互いの業務を理解し、患者のためのよりよい情報交換が出来る「友好的な関係の構築」を目指す
 - 4 G) 委員・スタッフの意識の向上を図り、患者・家族の満足度を高める退院支援調整につなげる

【構成員】 看護部長：有村 智代、 看護副部長：近藤 ひとみ

委員長：松野下 恵子、 副委員長：窪田 いずみ

師長：上ノ町 和子、水元 英子、原田 純子

主任：仮屋 由紀子、

委員：2 西：福元美保・武川美佐子 2 北：橋口恵 2 東：石橋薫 2 南：上温湯和美

NICU：永山絵梨香 3 北：深江真由美・岩元ゆかり 3 西：梅木いずみ・上野理恵子

3 南：堀之内沙樹・笠置愛子 3 東：下水流智美・大脇春香

4 北：末野百絵 3 中：日高里美・永野綾 外来：川崎陽子・窪田みどり

4 西：松元美保・徳恵梨香 クリニック：國生かおる ICU：吉留香織

MSW：原口一博・吉満実・上西章子・山崎留実

【活動内容】

昨年退院調整に関わる勉強会を実施したため、今年度は、委員が主体となってグループ活動を実施。4グループに分れ各委員が実践的に活動することを軸に、毎月の委員会で30分のグループ活動に充てた。1Gは拡大カンファレンスのマニュアル化と実践を掲げ、充実したカンファレンスをはかるため、臨床倫理4分割法を取り入れ3部署で1ヶ月実践。それをもとに、今後、全病棟へ向け臨床倫理4分割法を用いた記録形式でマニュアル化していく予定。2Gは指導用パンフレットの活用を図るため、病棟スタッフへアンケートをとり、パンフレットの内容の見直しや修正を実施。次年度は看護計画や看護オーダーに関する活動を行っていく。3Gは、退院調整時の病棟窓口となる師長・主任等を中心に介護支援専門員と「友好的な関係の構築」を目指し10月にケアカフェを開催。連携で問題となる課題として、情報提供や看護師の接遇等についての意見があり、委員から改善に向け意識し働きかけることをアプローチした。4Gは現状をデータで示すことで、委員・スタッフの知識向上と、患者家族の満足度を高める退院調整につなげることを目指し、6つのアンケートを実施。退院調整部門からは、退院支援加算1を取得後の診療報酬点数の変化をグラフ化して報告した。グループ活動を通し、委員が以前と比較すると、主体的にどのように働きかければ良いかを考え行動する機会が増えた。次年度も継続して実施していく予定。



臨床検査適正化委員会

平成 28 年度臨床検査適正化委員会は、精度管理報告、新規検査項目の実施、外注化項目の決定や中止、検査運用の変更等、臨床検査の適正化を目的、目標に年 2 回（4, 11 月）程度開催しています。

【構成員】

委員長	白濱 浩	(診療支援部長)
副委員長	佐藤 榮一	(中央臨床検査部長)
副委員長	生野 博久	(総合内科部長)
委員	岩下 邦子	(看護副部長)
	橋口 恒夫	(外来看護師長)
	濱田 敏彦	(クリニック事務長)
	御供田 貴之	(経営企画課長)
	東 貴史	(医事課長補佐)
	村中 利也	(中央臨床検査部技師長)
	山崎 泰代	(中央臨床検査部主任)
	持留 ゆりか	(中央臨床検査部：議事録担当)

【平成 28 年度活動内容】

(精度管理報告)

- 平成 28 年度日本医師会臨床検査精度管理報告
参加項目数 49 で総合評点 99.8 と良好な成績でした。
- 平成 28 年日本臨床検査技師会精度管理報告
219 項目中 216 項目が A～B 判定であり良好な成績でした。

(検査項目の変更、中止)

・院内検査

- ① TTT(チモール)と ZTT(クンケル)を院内検査から外し外注検査としました。これに伴いセット5(肝)より TTT と ZTT を外しました。理由(2018年4月1日より検査理由を付けないと保険適用外となるため)
- ② フェリチンを免疫測定器(EIA法)より生化学測定器(ラテックス凝集法)へ変更。メリットとして測定時間短縮、コスト削減、採血量減少などがあります。これに伴い基準値を共用基準値へ変更しました。フェリチン試薬の変更に伴い、測定時間・検出感度・基準値が変更になった。
測定時間20分→10分、測定機器BM9130、検出感度<4ng/ml、検体：血清、
基準値(共用基準範囲採用) 男性：13-277ng/ml、女性5-152ng/ml
- ③ 産婦人科の医師の希望を採用し、血中HCG(定量)の測定を24時間対応で院内検査に採用した。これに伴い尿中HCGも現行の半定量試薬ハイツインクロンより新法へ変更となった。
測定時間30分、測定機器：VIDAS、検体：血清・部分尿
測定法：ELFA法、基準値：血清2.7mIU/ml以下
- ④ PCT(プロカルシトニン)を半定量より定量試薬へ変更した。
測定時間：30-40分、測定機器：ルミパルス、検体：血清(採血4時間以内)、
測定方法：化学発光酵素免疫測定法(CLEIA法)
基準値：0.05ng/ml以下(敗血症鑑別診断のカットオフ値0.50 ng/ml未満、
敗血症重症度判定のカットオフ値2.00 ng/ml以上)

・外注検査

- ① 25-ヒドロキシビタミンD(CLIA法)が保険適用となり(くる病・骨軟化症診断時のみと3ヶ月に1回)電子カルテに掲載した。
- ② UGT1A1遺伝子多型解析
医師の署名入りの依頼書が不要となった。
単一遺伝子疾患の遺伝情報とは異なり、副作用が起きやすいかどうかの検査になるため通常の診療情報と同様に扱うことが可能となった。

- ③ 前立腺酸性フォスファターゼ (PAP) : 受託中止
→ 試薬販売中止および保険適用外となるため
- ④ 単位・基準値の変更 (測定機器・試薬変更のため)
(HBe抗原) 方法: CLIA→CLEIA、単位: S/CO→C. O. I
(HBe抗体) 方法: CLIA→CLEIA、単位: S/CO→C. O. I
(HBc抗体) IgG型のHBc抗体のみ測定となった
方法: CLIA→CLEIA、単位: C. O. I
HBV DNA定量 単位がLogコピー/ml→LogIU/mlへ変更
日本肝臓学会より国際単位 (LogIU/ml) に統一する方針が示されたため。
抗アクアポリン4抗体 基準値5.0未満 (U/ml)) →3.0未満 (U/ml) へ変更
・IgG2 新規実施項目 基準値: 239-838 (mg/ml) 実施料: 239点
- ⑤ 委託先の変更
トロンボテスト 医師会検査センター→鹿児島臨床検査センター
基準範囲: 80-100%

以上のことが2回の委員会で報告、決定されました。



[医療の質向上]

委員長 昇 卓夫 報告 大原 美保子

患者図書室運営委員会

【委員会目的・目標】

患者図書室の管理・運営を円滑に遂行し、より充実した利用者サービスを提供できるよう患者図書室サービスを検討し、また患者図書室としての意向を反映できるようにする。

【患者図書室目的・目標】

患者様ご自身が病気や検査・治療法について理解を深め、医療提供者の医療に関する説明の質と効率の向上を図り、協働の医療を促進する。

【構成員】

医師(病院長・運営委員長)1名、看護部1名、リハビリテーション部1名、患者サポートセンター1名、緩和医療課1名、事務局(事務局長、総務企画課)3名、総務企画課 学術情報室 2名。
上記のほか人事課ボランティア担当1名が参加。

【平成28年度の活動内容・実績】

患者図書室運営委員会の開催は2回。利用統計、蔵書点検、ボランティアスタッフの活動状況の報告や運営に関する細部について話し合いを行った。5月にはNPO法人『医療の質に関する研究会』の『わたしとあなたのための医療とは? ―患者・市民の視点から医療の質と医療情報をリデザインする』と題したシンポジウムに1名が参加した。また、広報用に「患者図書室すまいる通信」を発行した。

患者図書室『すまいる』は前述のNPO法人の支援のもと、平成25年4月19日にオープンし4年が経過した。ボランティアスタッフを中心に原則2名ずつで運営しており、28年度は22名のボランティアが活動した。28年度の延べ利用者数は2,496人、1日平均利用者数10.2人、入院患者比率53.6%、図書貸出数687冊であった。眺めのよい場所で、書架にはボランティアや職員提供の飾り物も置かれ、癒しの空間となっている。アクセスのよい場所ではないため利用者数にはバラつきがあるが、入院中はリピーターとなる患者様も見受けられ、よい場所ですねというご意見もよくいただいている。

平成29年度も引き続き、患者様への紹介や患者様同士の口コミにつながるよう、職員への認知度の向上や利用の促進を図るとともに、広く職員自身の利用をお願いしたい。



がん看護委員会

【目的】

1. 地域がん診療連携拠点病院であり、がん患者と家族がどの時期であっても安心して治療・療養できるように病院全体のケアの質の向上をはかる。
2. 院内における治療期から看取りにわたっての緩和ケアについての問題点などを議論し、緩和ケアへの関心を高め、本会で一緒に考えることによって質の向上を目指すことを目的とする。
3. 院内で実施されているがん化学療法が“確実に”“安全に”“安楽に”行われるよう支えることを看護師の役割として自覚し、実践できるよう問題の共有化をはかり、対策を講じていく。

【構成員】

委員長 村崎 まこと(乳がん看護認定看護師)

委員 青山 智子、川畑 由佳(外来) 加治屋 加代子、栗田 美代子、有村 まち子(クリニック)
 税所 克代(2西) 吉谷 茜、赤坂 美保(2東) 新地 紗矢香(NICU) 松崎 有香、大村 彩乃(3西)
 新徳 まゆみ、前鶴 貴子(3中) 前田 成美、恒吉 ひろみ(3東) 浅廣 美香(4西) 東 いずみ(ICU)
 森 美幸(OPE) 中村 詩歩(2北) 大島 可奈子(2南) 下原 桃子(3南) 金丸 真弓(4北)
 早崎 玲子、岩山 友紀(緩和ケア認定看護師) 河原 尚美(がん化学療法看護認定看護師)
 芝 こずえ(がん放射線看護認定看護師)

【平成 28 年度 活動内容】 毎月第 1 木曜日 16 時 30 分～17 時 30 分 医局 3 階

「意思決定支援」をテーマに取り組んだ。年間を通し、積極的にロールプレイやグループワークに取り組む委員が多く、基本的コミュニケーションや「NURSE」というスキルを効果的にロールプレイで使用することができていた。部署では、IC 時は同席をするよう努め、IC 後の患者の反応などを記録に残し情報共有を行ったりと意思決定支援について意識し、患者・家族と関わりを持つよう取り組んでいた。しかし、業務の多忙さに流され、IC 時の同席や専門家へのコンサルテーション依頼など、継続して行うことが難しいという意見が聞かれた。がん看護委員会としては、委員が中心となり IC 時の同席が定着し、患者・家族のおかれている状況を理解し、適切な意思決定支援を行っていくことができるよう、委員の相談やフォローを行い、各部署で今後も継続して行ってほしいと考える。

●一般目標

- ・意思決定支援の一連のプロセスを理解することができる。
- ・がん患者とその家族の置かれている状況の特徴を理解し、適切な意思決定支援を行うことができる。

●到達目標

- ・意思決定支援を継続的に必要としているがん患者を見分け、適切な意思決定支援を行うことができる。
- ・がん患者の状況に応じて、専門家(緩和医療課・認定看護師等)へコンサルテーション依頼を行い、継続的な意思決定支援を行うことができる。

月	内容(予定)	司会	書記
4月	意思決定とは(講義)	河原	早崎
5月	がん患者とのコミュニケーションの取り方(講義)	早崎	村崎
6月	診断・告知時の意思決定(講義)	村崎	芝
7月	「診断・告知時の意思決定」～ロールプレイ～(3人)	芝	河原
8月	再発・転移の意思決定(講義)	岩山	早崎
9月	「再発・転移時の意思決定」～ロールプレイ～(3人)	河原	村崎
10月	終末期の意思決定～NURSE～(講義)	早崎	芝
11月	ロールプレイ(NURSE)	岩山	芝
12月	ロールプレイ(NURSE)	芝	村崎
1月	がん患者の家族への意思決定	岩山	村崎
2月	今年度の評価・課題	河原	村崎
3月	次年度の予定	早崎	芝



【目的】 PNS を正しく理解し、定着できるよう働きかける

【活動計画】

- 1 マニュアル見直し
- 2 マインドを含めた役割研修
- 3 監査
- 4 アクションチェックにて自己の振り返りと課題抽出し課題解決する
- 5 毎月の進捗状況、問題点入力は継続

【構成員】

近藤・中村(章)・酒匂・原田・横山・永尾・伊藤・舟木・末増・柚木崎・前原・持富・竹迫・市橋・田中・里・福山・浅面・本田・徳永・野村・市野・中村・藤崎

年 月	内容
H28 4	研修企画
5	アクションチェック 31日までに実施 レベル3役割研修 主任院外研修
6	PNS監査（他者監査） アクションチェック入力6/10までに
7	レベル4 役割研修1回目 (7/21)
8	レベル4 役割研修2、4回目 (8/2、12)
9	レベル1 役割研修 (9/5) レベル4 役割研修 5、6回目 (9/9、10) レベル2 役割研修 9/22 管理者研修 9/10 (福井大 上山、村田師長講師) 外部監査 9/11 (福井大 上山、村田師長)
10	外部監査、管理者研修評価
11	アクションチェック PNS監査
12	各研修グループ評価 PNS 監査報告、アクションチェック報告
H29 1	活動評価（各病棟目標、研修毎）
2	次年度活動内容検討
3	次年度活動企画

【評価・反省】

研修企画、研修実施、監査などを行うことで委員の PNS の理解が進み、病棟の取り組みの成果が見えてきたように思われる。各月の進捗状況をもても看護部の PNS に関する理解も深まり、足並みが揃ってきた。また、今年度は福井大学から外部講師を招き管理者研修と各病棟の外部監査を実施した。管理者は知識を深め自部署の課題が明確となり学びの多い研修となった。今後 PNS を十分に活かし成果を出せるような取り組みが必要である。



医師臨床研修管理委員会

【目的・目標】

本委員会の医師臨床研修活動は、医師としての基盤形成期において、人格の涵養性、プライマリ・ケアの基本的な診療能力等を習得し、将来の地域医療を担う専門医の育成を目的とする。また、研修に専念できる環境の整備を図る。

【平成 28 年度委員(H29.3 現在)】

委員長 昇 卓夫

副委員長 / プログラム責任者 牟禮 洋

(指導医講習会修了医)

牟禮 洋、丸山 芳一、松永 俊二、濱之上 雅博、長堂 竜維、米田 敏、堀之内 兼一、玉田 泉、加藤 明彦、生野 博久、今給黎 尚幸、銚立 博文、今給黎 和幸、西山 淳、石田 育男、甲斐 太、三宅 健治、大磯 陽子、吉永 英希、大場 一郎、二木 真琴、中目 康彦、小玉 哲史、徳久 琢也、今給黎 南香、林 茂昭、高木 信介、宮口 文宏、永嶋 智成(公立種子島病院)、高橋 誉(谷山病院)、平原 一穂(鹿児島市立病院)、厚地 伸彦(中央病院)、杉本 東一(奄美病院)、井本 浩(鹿児島大学病院)

(上級医)

昇 卓夫、西澤 輝彦、池田 耕自、盛満 慎吾、小濱 浩介、川島 寿史、高橋 範雅、丸山 有子、中禮 久彦、下舞 浩二、白濱 浩、畠中 美帆、浜畑 弘記(長島町立鷹巣診療所)

(外部委員)長野 芳幸

(パラメディカル)近藤 ひとみ、高橋 真理、兒島 邦幸、村中 利也、新村 栄次、上平田 美樹、原口 一博、野口 桂一、永井 美由紀、山本 あかり

【平成 28 年度の活動内容及び実績】

平成28年度は、9名の基幹型初期臨床研修医(1年次2名、2年次7名)および6名の鹿児島大学病院協力型研修医を受け入れ、計19診療科で指導を行った。

3名の上級医が2日間にわたる指導医講習会を修了し、当院における厚労省指定の指導医は28名となった(H29.3現在)。一部の委員で研修医体制会議を計12回(毎月1回)開催した。救急症例カンファレンスは毎火曜・金曜に開催し(H29.12~毎火曜)、研修医、救急担当指導医および各科の指導医が参加した。修了判定会には27名の委員名が参加し、7名の初期研修修了が承認された。

新臨床研修制度が導入された平成16年度以降、鹿児島県における臨床研修医数の低迷が続いているが、平成29年度県内マッチ者(平成29年度からの臨床研修先として鹿児島県内を希望し、病院の受け入れ意向と合致した医学生)は121名(前年度比22名増)、そのうち実際の採用者109名(前年度比16名増)であり、3年連続で前年度を上回る良好な結果が得られた(目標採用人数は100名)。なお、当院における平成29年度採用者は募集定員の8名に対して3名であった(前年度比1名増)。今後も他医療機関と協力しながら、県内医学生や鹿児島出身の県外医学生に対するアプローチに注力し、指導体制をはじめ多方面における受け入れ体制の充実が必要と考えられる。

また、医師法第16条第1項の中で「指導医はプライマリ・ケアの指導方法等に関する講習会を受講していること」と規定されていることから、院内の研修指導に携わる医師に対して指導医講習会受講を引き続き推進していくこととする。

初期臨床研修関係事業(平成 28 年度)

日付	事業名称	当院参加者	場所	主催
H28.6.13	「平成28年度第1回鹿児島県初期臨床研修連絡協議会担当者会議」	2名	県庁	県初期臨床研修連絡協議会
H28.6.29	「平成28年度第1回鹿児島県初期臨床研修連絡協議会」	1名	県庁	県初期臨床研修連絡協議会
H28.7.8	「平成28年度第1回臨床研修病院合同説明会」	7名	鹿児島大学医学部	県初期臨床研修連絡協議会
H28.8.18	「鹿児島県臨床研修病院見学ツアー事業」(Aコース)	—	県内11病院	県初期臨床研修連絡協議会
H28.8.19	「平成28年度第2回臨床研修病院合同説明会」	5名	サンプラザ天文館	県初期臨床研修連絡協議会
H28.9.10	「第14回鹿児島県臨床研修医合同研修会」(松岡研修医が症例発表)	11名	県市町村自治会館	県初期臨床研修連絡協議会
H28.10.10	「eレジフェア2016 in 福岡」	6名	福岡国際会議場	リンクスタッフ
H28.11.4~11.6	「第134回臨床研修指導医講習会(高木部長修了)」	1名	東京都都市センターホテル	全国自治体病院協議会
H28.11.19~11.20	「第7回臨床研修指導医養成講習会」(林部長修了)	1名	鹿児島大学病院総合臨床研修センター	県初期臨床研修連絡協議会

H28. 11. 25	「平成 28 年度第 2 回鹿児島県初期臨床研修連絡協議会担当者会議」	3 名	鹿児島県文化センター(宝山ホール)	県初期臨床研修連絡協議会
H28. 12. 19	「平成 28 年度第 2 回鹿児島県初期臨床研修連絡協議会」	1 名	県庁	県初期臨床研修連絡協議会
H29. 1. 7	「第 15 回鹿児島県臨床研修医合同研修会」(宮脇研修医が発表)	8 名	県市町村自治会館	県初期臨床研修連絡協議会
H29. 2. 4～2. 5	「第 28 回指導医のための教育ワークショップ」(宮口部長修了)	1 名	薩摩グランドホテルマリメッセ	日本医師会
H29. 3. 5	「レジナビフェア 2017 in 福岡」	8 名		民間医局

(その他)・医学部医学科病院見学者 26 名を受け入れた。
(4 年生 4 名、5 年生 16 名、6 年生 6 名；鹿児島大学 5 名、県外大学 21 名〔内、鹿児島出身者 14 名〕)
・平成 30 年度プログラム(臨床研修プログラム昭和会)：平成 29 年度からの変更点なし

(研修歯科医)

鹿児島大学病院歯科医師臨床研修プログラム研修協力施設として、次の通り研修歯科医を受け入れ指導教育を行った。
平成 28 年 6 月～平成 29 年 2 月 週 1 回(毎週火曜日)、大学病院歯科医療(A)・大学病院歯科医療(B)・地域歯科医療プログラムの研修歯科医を 1 名ずつ、計 28 回



[教育研修推進]

委員長 昇 卓夫 報告 大原 美保子

図書委員会

【図書室目的】

職員の生涯研修及び医学・医療の知識の向上を図り以て高度医療・地域医療・救急医療に貢献する。

【構成員】

医師(病院長、昭和会クリニック院長)2 名、看護部 1 名、薬剤部 1 名、中央放射線部 1 名、中央臨床検査部 1 名、リハビリテーション部 1 名、栄養管理部 1 名、事務局(総務企画課 1 名、総務企画課 学術情報室 1 名)

【平成 28 年度の活動内容・実績】

28 年 4 月より文献複写申込依頼には申込書の提出が必須となった。費用の病院負担は変わらないが 28 年度は複写手配件数と費用が前年度より大幅に減少した。12 月には日本病院ライブラリー協会の機関会員となった。

29 年 3 月に図書委員会を開催。図書室の概要・各種統計を報告し、図書室業務及び委員会規程、図書室利用既定の見直しを行った。

病院図書室は、新刊の雑誌架のみを医局棟 3F カンファレンスルームに残して、25 年 4 月より本館 7F カンファレンスルームの一隅に書架を移動している。

データは一元管理しているが、スペースの関係上蔵書は殆どを各部門に排架しており、各部門からの要請で廃棄申請及び除籍処理も行っている。また、各種資料を病院ウェブサイトや電子カルテ端末で閲覧できるよう整備している。病院の移転を数年後に控え各部門保管の図書の整理を促していくとともに、今後さらにその必要性が増すであろう電子コンテンツの利用を促進していきたい。



職員教育研修委員会

【目的】

安全で質の高い医療を効率的に提供するには、職員の生涯に亙る教育研修は極めて重要である。病院の業績を上げ発展させる要素は多種あるが、究極には職員各人の能力の向上とその十分な発揮が最大の要素であり、各人の能力水準を組織的、継続的に発展させる事が重要である。

【開催日】 年1回

【構成員】

長堂竜維（委員長）、藤山みどり（看護）、田中かすみ（看護）、高橋真理（薬局）、新村栄次（中放）、村中利也（中検）、児島邦幸（リハ）、田中美帆（栄養）、植屋明代（緩和）、前野浩一（総務） 10名

【活動内容】

1. 全職員対象講演会、院内学術、各委員会主催講演会の管理・運営
2. 各部署の学会・研修会・旅費等の把握
3. 学会・研修会等の職員の要望、意見、改善等の対策

【総括】

今年度もがん診療拠点病院としての開催すべき講演会を開催できた。また今年度はおもしろい講演会が開催された。信頼関係を築くアンガーマネジメントと題して、170名の参加があった。怒りやイライラをコントロールして感情を穏やかなものに変えていく方法などを勉強した。みんなとても真剣に聞き入っていた。たまには角度を変えた講演会も開催していければと考える。

学会参加状況であるが、今年は医師253件、医師以外が402件、合計655件とであった。

前年度と比べると50件ほどは減少した。専門性の高い当院の特徴でもあるが、参加者は必ず部署内や院内のどこかでフィードバックをしてもらい、情報の共有に努めて頂きたい。

また職員のための講演会なども、今後増やせて行けたらと思う。



看護教育委員会

毎月第1木曜日 各部署の師長、教育委員にて委員会が開催される。

看護教育理念は1：社会人として、組織人として、専門職業人として自ら考え行動できる人を育てる。

2：患者中心の質の高い看護を実践できる看護師を育てる。とあり、院内研修の概要は、新人看護師をレベル1、2年目をレベル2、3年目をレベル3とし、4年目以降はレベル4とし（14項目に分担）、それ以外に中途採用者研修、看護補助者研修を担っている。

28年度は29年度と2か年継続で企画し、学習している項目もあります。

【平成 28 年度研修参加状況】

院外研修	院内研修
延べ710名／197研修	延べ3195名／122研修

また、新しく平成30年度開始予定のキャリアラダーを師長と共に企画中です。

育成したい看護師像として、当院の理念、基本方針から考え「患者の立場を尊重し、他部門と協働しながら患者のニーズに応じた看護が提供できるよう専門職業人として自己の行動に責任を持ち、自己啓発に努め、主体性のある看護を提供できる」としました。多くの要素を取り入れていますが、教育委員会として看護師をバックアップし続けていきたいと思えます。



看護部臨地実習指導者委員会

【目的】

本会は、臨地実習の意義と実習指導者としての役割が理解でき効果的な実習指導を行う。
実習指導者としての資質の向上を図る。

【目標】

- 1、実習目標が理解でき、指導案を活用してスタッフ間で統一した指導ができる。
- 2、看護師がモデルとなり学生をPNSのペアとして考え、既習学習と実習を統合させ、看護の喜びと楽しさを伝えることができる。

【構成員】

看護部長：有村 智代 看護副部長：藤山 みどり
委員長：郡山 リカ 副委員長：西 洋子
師長：山下 真理恵
委員 2西：寿島 恭子 2東：折田 千佳 NICU：岩本 成美 3西：老谷 愛
3中：渡邊 さつき 3東：水口 理沙 4西：池上 紀代子 4北：西洋子
2北：永山 栞 2南：東 清美 3北：益森 節子 3南：上野 奈美
外来：永野 のぶ子 クリニック：福里 美佐子 ICU：橋口 由希奈

【活動内容】

- 4月 第105回看護師国家試験問題内容確認・実習の振り返り
- 5月 平成27年度臨床指導者講習会受講者による伝達講習・実習の振り返り
- 6月 実習記録の取り扱いについて・同意書について検討・実習の振り返り
- 7月 患者同意の記録の統一化・実習の振り返り
- 8月 看護学生受け入れポスターの掲示活動・実習の振り返り
- 9月 実習の振り返り
- 10月 指導案を使用しての評価発表・実習の振り返り
- 11月～29年度1月～3月 実習の振り返り
各病棟で指導案を提示し、病棟ごとでの統一した指導が行えるよう計画実施
学生がPNSのペアとして実習に参加出来ている部署が少ないため、引き続き学生も
3人目のペアとして関われるよう計画していく

毎月・各学校の実習打ち合わせや反省会を実施 学校名は以下の通り

- ・久木田学園看護専門学校 鹿児島医療法人協会立看護専門学校・神村学園専修学校
- ・龍桜高等学校・鹿児島医療技術専門学校・鹿児島中央看護専門学校
- ・鹿児島看護専門学校・神村学園高等部専門課程・タラ看護専門学校

28年度 実習学生受け入れ人数 796名

**病床運営委員会****【目的】**

病院全体の病床の効率的な各科の割り当て・入退院の状況及び空床状況に合わせ、急性期のDPCの医療機関として適切かつ効率的病床の有効利用を目指す
 長期入院患者（3ヶ月以上）の把握と社会的入院患者の減少を目指す
 DPC病院でありベッドコントロールの効率化向上を目指す

【開催日時】

毎月1回 業務連絡会前 別館地下講義室

【構成員】

昇院長(委員長)・今給黎理事長・牟禮 Dr・西澤 Dr・大久保 Dr・丸山 Dr(神内)・寺原 Dr・生野 Dr
 近藤(看部)・藤山(看)・中村(看)・岩下(看)・橋口(看)・田中(病床管理部)
 野口(事)・川井田(事補)・御供田(経)・上唐湊(医事)・原口(MSW)・吉満(MSW)

【会議議題】

前月の病院全体平均在院日数及び各科の在院日数の報告と改善策
 前月の病床稼働率の報告及び改善策
 長期入院患者数（3ヶ月以上）の報告と各患者状況把握
 病床管理部からの運営改善報告・回復期病棟の運営報告
 その他、病床の有効利用や用途変更について

【総括】

平成28年度は、在院日数・医療看護必要度・病床稼働に着目した病床運営が必要となりました。
 特に必要度については診療報酬改訂で新基準の適応（医療看護必要度20%→25%以上）を目指した運営が必要となりました。
 より一層急性期医療の提供を行い、医療看護必要度の低下した患者様の早期退院転院調整が必要となり本年度当初は25%越えの運営は厳しい状態でしたが、必要度調整チーム・退院支援の充実により改善が図れました。
 また、今年度より運営も考慮し目標の入院数を740名に設定。各診療科入院患者の増加を図りました。
 在院日数の短縮・重症患者の確保・入院患者数増加・稼働率向上等いずれも目標数に到達できるよう医師・看護師・病床管理部・退院支援部門・必要度チーム・医事課等各部署連携を図り病床運営を行いました。
 当院回復期リハビリテーション病棟（33床）の運営も順調に稼働することができました。
 来年度においても、退院支援の充実を図ると共に入院患者数の増加、医療看護必要度、稼働率向上を目指した病床運営を図ることが課題です。

平成28年度（平均在院日数・稼働率・入退院数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均値
在院日数 (調整後)	16.5	16.7	15.8	16	15.5	16.2	17.3	15.7	16.2	17.9	16.9	16.8	16.5
稼働率	83.6%	79.6%	81.5%	82.7%	82.9%	82.0%	84.0%	84.6%	87.6%	85.0%	90.3%	88.7%	84.4%
入院数	661	632	697	694	705	660	685	701	677	701	640	714	680.6
退院数	691	624	692	697	688	663	662	683	767	585	682	724	679.8
医療看護必要度	23.1%	26.4%	28.9%	28.8%	29.1%	27.2%	28.9%	29.9%	30.7%	29.9%	31.0%	31.3%	28.8%



労務委員会

【目的】

働きやすい環境づくりを基本に、規程の策定や見直し、各部署からの事案の検討、検証、解決を図り、職員人事考課制度の運用と適正な人件費管理を目的とする。

【構成員】

昇卓夫(委員長)・近藤看護部長・野口事務局長・川越事務次長・堀経営企画室長・十島人事課長補佐

【主な議題】

- 4月 人事考課の進捗・人件費、正職員登用の検討、奨学金貸与の検討、看護必要度専属部署新設
- 5月 人事考課進捗の確認、奨学金規程変更検討、手当調整検討
- 6月 人事考課の決定、昇給昇格の決定、賞与支給検討、正職員登用検討
- 7月 人件費・時間外推移、昇格の決定、平成27年度総人件費増減確認
- 8月 人件費・時間外推移、ICU・NICU人員配置の確認、QC部門勤務時間変更検討、労使委員会準備
- 9月 人件費・時間外推移、パート職員人事考課検討、新卒入職者の評価、人事考課中間面談実施検討
- 10月 人件費・時間外の推移、パート人事考課の昇給検討、労務問題
- 11月 人件費・時間外の推移、パート人事考課の昇給決定、一般職員中間面談状況、人事考課表の項目変更検討、労務問題
- 12月 人件費・時間外の推移の検証、人事考課説明会日程調整、認定看護師の選出検討、労務問題
- 1月 人件費・時間外の推移の検証、人事考課進捗報告、人事異動の検討、職員定数の考え方、新卒採用状況進捗確認、労務問題
- 2月 人件費・時間外の推移の検証、職員人事考課進捗確認、新卒採用状況進捗確認、入社式日程及び担当者検討、労務問題
- 3月 人件費・時間外の推移の検証、職員人事考課進捗確認、新卒採用状況進捗確認、正職員登用検討、組織図改定の検討、労務問題

【総括】

平成28年度本委員会では引き続き「人件費の適正化」「職員のモチベーション向上」「規程の整備」を主な施策として取り組みました。

**働き続けられる職場作り (Work Life Balance) 検討委員会**

【目的】全職員が健康でやりがいを持って働き続けられる職場をつくる

【構成員】人事課：十島課長補佐、小林

看護部：岩下副部長、橋口師長、永尾主任、福重主任、渡邊、田中、福山、四村

中央放射線部：稲留、濱田

臨床工学部：外口主任

中央臨床検査部：平原

リハビリテーション部：植村主任、重水

薬剤部：財間主任、肥田

【平成 28 年度活動内容と実績】

・鹿児島県看護協会の平成 28 年度の WLB 推進ワークショップに参加

●定例の活動

- ・月 1 回(毎月第 4 火曜日 16:00～)の会議
- ・ぴたっとカエルデー(第 4 金)の実施

●今年度の活動

・健康教室の開催

メタボ教室 4 月開催

看護師とナースアシスタントの参加あり。

今後、WLB の広報誌でもその様子を紹介予定。

今後も随時開催予定。各部署でも参加を呼びかけてほしい。

腰痛教室 6 月開催

肩こり教室 10 月開催

・会議での検討項目

- ・年休について
- ・休憩時間と勤務時間について
- ・時間外削減について
- ・精勤手当について
- ・パワハラについて
- ・就労時間内の喫煙者について
- ・患者搬送について
- ・経費削減について
- ・妊婦への配慮について
- ・部署間の業務改善

【総括】

前年度に継続し、研修、業務、広報、分析の 4 つのグループで活動を開始したが、職員の異動に伴いメンバー交代もあり、グループでの活動が困難となり、年度途中より全員で取り組むこととなった。これまで同様 Life についての要望も多かったが、今年度は Work に関する問題も多く取り上げられ、関連する部署間の業務の見直しの負担軽減について提案された。また、部署間の格差についての不公平感の是正に対する意見も多く出された。

現場の声をあげられるこのような場があり、少しずつ働く環境は改善している。現在参加できていない部問や部署の参加者の募集も継続し、参加の難しい部問からも意見を吸い上げていきたい。

すぐには解決出来ないかもしれないが、まずは情報発信しなければ現場のことはわからない。是非、お互いの業務軽減のため知恵を出し合い協力していきたい。WLB 推進会議の目的を各部署の管理職が理解され、今後も誰もが意見を出しやすい会として運営していきたい。

【今後の WLB 推進委員会議の方向性について次年度の取り組み案】

- ・ハラスメントの講義
- ・複数存在する事務用品の統一と削減
- ・仕事を行いやすい環境にするためアンケート調査の実施
アンケート実施後、取り組みを決定
- ・アニバーサリー休暇の取得状況
- ・時間外の削減の経緯
- ・ピタッとかえるデーの実施状況
- ・年休取得率について
- ・ハード面の改善（別館をのものにダイヤルロック式へ変更）
- ・他部門へのストレッチャー・車椅子の講習会
- ・ママさんスタッフの会の開催
- ・搬送基準の見直し
- ・健康教室サポート
- ・各部署の業務負担軽減

病児保育室

【平成28年病児保育室業績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ利用者数	39	60	68	68	61	49	78	54	63	48	48	60	696
開設日数	25	23	26	25	26	24	25	24	25	23	23	26	295
満室お断り	8	5	13	46	11	7	27	28	22	13	6	7	193
1日平均	1.6	2.6	2.6	2.7	2.3	2	3.1	2.2	2.6	2	2.1	2.3	28.1
キャンセル数	37	44	48	94	61	38	30	3	91	48	75	61	630
新規登録数	2	3	1	0	0	0	0	1	1	2	0	3	13

多くの方のご協力のもと、9年目の運営を展開しております。年間利用者数は696人でした。子育てと仕事を両立でき、働き続けられる職場環境の提供の一つと考え、今後も病児保育室を通して貢献できたらと思います。

【参加学会】

平成28年7月9～10日 日本医療保育学会 岡山県 発表者：西郷 参加者：吉村・西郷
平成28年7月17～18日 全国病児保育研究大会 新潟県 発表者：吉村
参加者：鈴木・畠中・川邊・吉村
平成28年11月13 全国病児保育協議会 鹿児島支部会 発表者：吉村
参加者：玉田・上山・西郷・鈴木・川邊

【資格取得】

平成28年11月 一般社団法人 全国病児保育協議会認定 病児保育専門士資格取得 鈴木詩織



[病院運営]

委員長 昇 卓夫 報告 堀 雅之

労使委員会

【目的】

職員にとって働きやすい環境づくりに取り組み、労働意欲と健康の維持、向上を図る。労使協力して職場の繁栄を目指し、相互の満足、共存共栄を目的とする。

【委員会】

労使代表者が集まり、定例夏に行う。但し必要に応じて随時開催する。

平成28年度開催実績1回開催 9月7日

【活動状況】

- ・時間外労働に関する協定書・協定届の確認
- ・就業規則 第19条（休日）改定



[病院運営]

委員長 昇 卓夫 報告 前野浩一

職員駐車場互助会

【目的】

当院病院職員の車通勤者の為に、駐車場の活用を目的とする。

【会議の開催】 年1回 臨時開催もあり

【構成員】

昇卓夫(委員長)、野口桂一(事務局長)、村中利也(中検)、永山照明(中放)、中村章子(看護)、加治屋加代子(看護)、児島邦幸(リハ)、高橋真理(薬局)、田中英樹(施設)、川井田祐一郎(事代理)、前野浩一(総務) 11名

【総括】

通勤で2キロ以上の職員に対し駐車場利用を認め、病院敷地または民間駐車場に案内している。病院敷地に駐車する場合、料金は月額6,000円、民間の場合は最高2,500円を上限とし、料金に応じて補助している。非常勤医師からは料金を徴収していない。

今年は別館横の山形屋社宅跡地を購入した。駐車場不足で、患者様や来院される方々へ待ち時間の短縮を図るため、当会で運用について検討した。

運用としては、『病院関係者専用駐車場・臨時駐車場 P6』として、患者様の駐車場を利用していただいていた職員をP6に集約、満車時はP6駐車場を開放することとした。

また今回土地購入や整備がかかっており、病院敷地の料金体系が見直され、男子寮跡地以外の駐車場は、8月から月額8,000円となった。このことで駐車場の管理人も1名削減でき、人件費の負担も減った。

この土地のおかげで、周辺住民や患者様、お見舞い、付添などで来院する方々にご迷惑をお掛けすることはほぼなくなった。

今後も限りある駐車場を有効活用するよう当会で検討していく。



広報委員会

【目的】 医療の公共性や、地域に開かれた病院としての観点から、広報誌の発行、病院パンフレット、インターネットを通じての患者さまや他医療機関、地域の方々に対するの広報を目的とする。

【構成員】 委員長 西澤輝彦
中央放射線部 加治屋博一、中央検査部 永岡伸代（～12月）、森田修康（1月～）、
薬剤部 壽明伸、肥田香織、リハビリテーション部 高田奨、脇明夏、
栄養管理部 篠田佳那、相談支援センター 吉満実・山崎留実・岡本美穂、看護部（師長担当）、
診療情報管理部 畑中幸子、経営企画室 御供田貴之、総務企画課 前野浩一、
総務企画課 学術情報室 大原美保子（書記）・永井美由紀（進行）

【活動状況】

年4回 但し必要に応じて随時開催

広報委員会では広報誌、院内報の編集、発行が主な活動となっている。

広報誌 四季だより（季刊誌 年4回発行）

院内報 いまきいれ（毎月発行）

病院案内・病院業績集 昭和会誌（年報）平成28年9月発行

ホームページ・Facebook

■メディア取材対応（日付は報道・掲載日）。取材時のアテンド（世話係・付添）は主に永井が担当。

- ・2016年4月17日、18日 熊本の病院から双子の新生児を「MOJOKA1号」で搬送、受け入れ。各民放。
- ・2016年4月18日 KTSかごニュー「肩こりバイバイ 肩すっきりプログラム」今給黎尚典理事長出演。
- ・2016年4月22日 南日本新聞掲載 『竹島へ2看護師派遣』新生児専用救急車「MOJOKA 1号」
- ・2016年5月1日 南日本新聞20面 南日本子ども新聞オセモコ「時間との闘い安全に搬送」
- ・2016年10月14日 KYT かごピタ 特集「ヨーグルト」 消化器内科 吉永部長出演。
- ・2016年10月19日 KTS かごニュー 特集「ピンクリボン月間。改めて乳がんを考える」
村崎乳がん認定看護師/野口外科部長出演。
- ・2017年2月18日 リビングかごしま 鹿児島のお医者さんガイド掲載「睡眠時無呼吸症候群」

当院ではメディア取材の窓口を総務企画課に一本化することや取材対応の段取りを委員会で決定。職員に周知した。

■その他 病院案内、看護師募集、薬剤師募集案内パンフレット作成
看護部専用ホームページとパンフレットをリニューアルした（担当 永井）

経営企画室、診療情報管理部から委員が加わり、また地域連携プロジェクト会議（西澤、御供田、畑中、吉満、永井が参加）と連携をとることで、広報誌の活用による地域連携の強化と院内外広報、広報誌の内容の充実を図った。9月号より関連施設紹介の掲載を開始。広報誌を増刷し関連施設へ配布を始めた。

平成29年4月発行51号から広報誌をリニューアルするにあたり、コンセプトを以下の2つに決定。コンセプトに沿った広報誌作成に取り組みたい。

- ・意外と知られていない今給黎をもっと知ってもらう。
- ・院外とのコミュニケーションツールとして広報誌を活用し、医療機関・患者・地域・スタッフを繋ぐ

広報誌・ホームページ等からの情報提供により病院への信頼、理解、好意を得られ、患者さまの満足度も高められると思います。今後もより多くの情報を発信し、患者さま、関連施設、地域の方々とのコミュニケーションを図りたい。

研究実績

V

■ 各診療科・各部署別 研究実績

- 論文・誌上発表
- 学会発表 他

■ 院内研修会・講演会一覧

■ 院外活動報告

【診療部】平成 28 年 1 月～12 月

血液内科

【学会発表】

1. Kosuke Obama
Pomalidomide, bortezomib and dexamethasone for elderly patients with refractory multiple myeloma
第78回 日本血液学会学術集会 2016年10月14日 横浜

消化器内科

【論文・誌上発表】

1. 吉永 英希
原因不明の球麻痺にて発症し、診断に苦慮した糞線虫の一例 第55巻 第11号 鹿児島市医報 学術投稿

【学会発表】

1. 砂川 珠輝(研修医)、今給黎 和幸
成人先天性胆道拡張症に対し手術を行った一例
第107回日本消化器病学会 九州支部例会 研修医発表 2016年6月24日 佐賀
2. 今給黎 和幸
悪性胆道狭窄に対する胆道ドレナージ-最新の治療戦略-
第2回 鹿児島胆膵内視鏡症例検討会 2016年 鹿児島

【講演(院内)】

吉永 英希 薬剤起因性消化管潰瘍ゼロを目剂して

呼吸器内科

【学会発表】

1. 松岡 大介、川島 寿史、松山 緑、砂永 祐介、新村 昌弘、白濱 浩、田代 幸恵、小濱 浩介、丸山 芳一
脳神経症状で発症したATL(成人T細胞白血病)肺浸潤の1例
第76回日本呼吸器学会・日本結核病学会九州支部春季学術講演会 2016年3月19日 鹿児島市

神経内科

【論文・誌上発表】

1. 丸田 恭子、内田 裕一、延原 康幸、丸山 芳一、園田 至人
左下腿筋萎縮から発症したchronic multifocal myositisの1例 神経内科86(2) : 259-264, 2017

【学会発表】

1. 丸田 恭子、内田 裕一、延原 康幸、丸山 芳一、園田 至人
左下腿筋萎縮から発症したchronic multifocal myositisの1例
第216回 神経学会九州地方会 久留米大学医学部 2016年12月17日 久留米市

【座長】

1. 長堂竜維
第4回鹿児島末梢神経研究会 一般演題座長 城山観光ホテルロイヤルガーデン 2016年4月22日 鹿児島市
2. 丸山芳一 Alzheimer's Disease 懇談会 県医師会館 2016年8月25日 鹿児島市

【講演(院外)】

長堂竜維 電気性検査と神経疾患 日本製薬社内講演会 武田薬品鹿児島支社 2016年6月13日
丸山芳一 臨床医のための抗凝固療法勉強会 城山観光ホテル 2016年10月19日

長堂竜維 パーキンソン病の病態と治療
協和醗酵キリン社内講演会 協和醗酵キリン鹿児島営業所 2016年10月24日

【講演（院内）】

丸山芳一 Opening remarks ワーファリンからDOACSへ
静脈血栓塞栓症カンファレンス 今給黎総合病院 2016年2月8日
長堂竜維 認知症ケア（看護研修ラダー4講義） 今給黎総合病院講義室 2016年9月1日
長堂竜維 アルツハイマー型認知症（医療者向け講義） 今給黎総合病院講義室 2016年9月1日

外科

【学会発表】

1. 福久 はるひ、濱之上 雅博、野口 智弘、益満 幸一郎、牟禮 洋
胃GIST切除後発症した肝腫瘍を転移性肝癌と診断し切除した混合型肝細胞癌の1例
第71回鹿児島県臨床外科学会 2016年3月12日 鹿児島市
2. 野口 智弘、濱之上 雅博、福久 はるひ、益満 幸一郎、牟禮 洋
en blockに切除しえた腎被膜・腎血管まで浸潤した膵体部癌の1例
鹿児島市外科医会春季例会 2016年4月21日
3. 辻 紘明、濱之上 雅博、福久 はるひ、野口 智弘、益満 幸一郎、牟禮 洋
画像にて非特異的な像を示した肝血管脂肪腫の1例
鹿児島県臨床外科学会 2016年9月 鹿児島市
4. 徳永 拓也、濱之上 雅博、下之菌 将貴、高取 寛之、野口 智弘、牟禮 洋
診断に苦慮した肝に高度に浸潤した胆嚢neuroendocrine carcinomaの1例
鹿児島肝癌研究会 2016年11月12日
5. 下之菌 将貴、濱之上 雅博、高取 寛之、野口 智弘、徳永 拓也、牟禮 洋
特発性大網出血の1例 鹿児島市外科医会秋季例会 2016年11月

【講演（院外）】

濱之上雅博 当院の胃癌治療について 胃癌病診連携カンファレンス 2016年3月22日 鹿児島市

【講演（院内）】

濱之上雅博 当院の乳がん治療について 今給黎総合病院乳がん診療講演会 2016年2月5日 鹿児島市

呼吸器外科

【論文・誌上発表】

1. 今給黎 尚幸、山本 耕三、米田 敏
救命できなかったvon-Recklinghausen病に伴う血管病変の2例
鹿児島市医師会報 VOL. 56 No2 35-36, 2017
2. 山本 耕三
有癭性慢性拡張性膿胸に対する分割根治術の1例 日本呼吸器外科学会雑誌 投稿中

【学会発表】

1. 高木 博佑、今給黎 尚幸、山本 耕三、米田 敏、岩崎 昭憲
稀な発育形態を示し術前診断に苦慮した上皮型悪性胸膜中皮腫の1例
第56回日本肺癌学会 九州支部学術集会 2016年2月26-27日 北九州
2. 今給黎 尚幸、山本 耕三、米田 敏、岩崎 昭憲
悪性胸水との鑑別が困難であった結核性胸膜炎の1例
第39回日本呼吸器内視鏡学会学術集会 2016年6月23-24日 名古屋
3. 山本 耕三、今給黎 尚幸、米田 敏、岩崎 昭憲
A※B※の走行異常を認めた完全鏡視下右肺底区切除の1例
第33回日本呼吸器外科学会総会 2016年5月12-13日 京都
4. 山本 耕三、今給黎 尚幸、米田 敏、岩崎 昭憲
右中葉肺内出血を契機に発見された右肺下葉低形成の1例

第49回日本胸部外科学会九州地方会総会 2016年7月21-22日 鹿児島

5. 山本 耕三、今給黎 尚幸、米田 敏
当院におけるソフト凝固を用いた気胸手術6例の検討 第14回Spring Seminar 2016年3月24-25日 沖縄
6. 今給黎 尚幸、山本 耕三、米田 敏 完全鏡視下左S4区域切除術 南九州VATS 2016年11月19日 宮崎
7. 今給黎 尚幸、山本 耕三、米田 敏
救命できなかったvon Recklinghausen病に伴う血管病変の2例
鹿児島市外科医会 2016年11月22日 鹿児島
8. 今給黎 尚幸、山本 耕三、米田 敏、岩崎 昭憲
分子標的治療後にサルベージ手術を行った進行肺癌の1例
第57回日本肺癌学会学術集会 2016年12月19-21日 福岡

【学会および学問に関連した社会活動】

米田 敏

- 南九州VATSクラブ 2016/11月9日 講演
 肺癌治療Conference 2016年8月31日 座長
 Scientific Exchange Meeting in 南九州 201年11月25日 パネリスト

整形外科

【論文・誌上発表】

1. Kimura A, Seichi A, Takeshita K, Inoue H, Kato T, Yoshii T, Furuya T, Koda M, Takeuchi K, Matsunaga S, Seki S, Ishikawa Y, Imagama S, Yamazaki M, Mori K, Kawasaki Y, Fujita K, Endo K, Sato K, Okawa A.
Fall-related deterioration of subjective symptoms in patients with cervical myelopathy. Spine 2016 July 19 PMID 27438386

【学会発表】

1. 岡田 英次朗、岩波 明生、渡辺 慶、檜山 明彦、中川 幸洋、竹内 一裕、松永 俊二、圓尾 圭史、坂井 顕一郎、吉井 俊貴、小林 祥、大場 哲郎、和田 簡一郎、大谷 隼一、大川 淳、松本 守雄
びまん性特発性骨増殖症に伴った脊椎損傷-厚生労働科研究脊柱靱帯骨化症-多施設研究
第45回日本脊椎脊髄病学会 2016年4月14日 幕張
2. 松永 俊二
シンポジウム 頰椎症性脊髄症の疫学について 第89回日本整形外科学会学術集会 2016年5月13日 横浜
3. 堀川 良治、高木 信介、有島 善也
ロッキングプレートを用いて一期的に手術を行った手指病的骨折の一例
第37回九州手外科研究会 電気ビル共創館みらいホール 2016年2月6日 福岡市
4. 宮口 文宏、川畑 直也、松永 俊二
胸腰椎疾患に対する手術方法の変遷 第86回西日本脊椎研究会 2016年11月12日 福岡
5. 宮口 文宏、川畑 直也、松永 俊二
胸腰椎破裂骨折に対する可能な限りの1椎間固定術
第19回日本低侵襲脊椎外科学会 2016年11月24日 東京

【座長】

- 松永俊二 主題10：脊椎手術の長期成績（術後20年以上）5回日本脊椎脊髄病学会 幕張メッセ
2016年4月16日 幕張
- 松永俊二 Outcome 17th annual meeting of Cervical Spine Research Society Asia Pacific section
Seoul Korea 2016年4月22日
- 松永俊二 頰胸椎 第89回日本整形外科学会学術集会 パシフィコ横浜 2016年5月12日 横浜市

形成外科

【論文・誌上発表】

- 堀川 良治、高木 信介
血管柄付き骨移植においてLocking Compression Plateを用いた内固定の工夫
日本マイクロサージャリー学会誌 Vol. 29 No. 1 Page8-13

【学会発表】

1. 佐々木 彩乃、高木 信介、春山 勝紀、外菌 寿典、藍 嵐、門松 香一
 右上肢リンパ浮腫を合併した鎖骨部放射線潰瘍に対してリンパ節付き遊離皮弁とリンパ管細静脈吻合(LVA)による同時再建を行った1例
 第19回九州昭和大学同門会学術集会 2016年2月27日 福岡
2. 藍 嵐、高木 信介、春山 勝紀、外菌 寿典、佐々木 彩乃、門松 香一
 In situ preparation (ISP) 法により切除縁が確保できた左鼠径部悪性軟部腫瘍の1例
 第19回九州昭和大学同門会学術集会 2016年2月27日 福岡
3. 佐々木 彩乃、高木 信介、春山 勝紀、外菌 寿典
 慢性化した脊椎術後髄液漏の治療経験
 第100回九州沖縄形成外科学会 2016年3月12日 太宰府市
4. 高木 信介、今井 茂樹、春山 勝紀、外菌 寿典、佐々木 彩乃、鉾立 博文
 動静脈奇形に対する治療戦略 -BAST (Balloon Assisted Sclero-Therapy) -
 第59回日本形成外科学会総会学術集会 2016年4月13-15日 福岡市
5. 春山 勝紀、高木 信介、外菌 寿典、佐々木 彩乃、門松 香一
 合指(趾)に対する指(趾)間形成の工夫
 第59回日本形成外科学会総会学術集会 2016年4月13-15日 福岡市
6. 佐々木 彩乃、高木 信介、春山 勝紀、外菌 寿典、門松 香一
 耳介軟骨移植による麻痺性下眼瞼外反症手術
 第59回日本形成外科学会総会学術集会 2016年4月13-15日 福岡市
7. 高木 信介、春山 勝紀、外菌 寿典、佐々木 彩乃、堀川 良治
 上肢再建に対する治療戦略 -有茎皮弁vs遊離皮弁-
 第59回日本手外科学会学術集会 2017年4月27-28日 名古屋
8. 春山 勝紀、高木 信介、青木 恵美、松下 茂人、田代 幸恵、野元 三治
 高齢者の巨大色素細胞性母斑から発生した悪性黒色腫の1例
 第32回日本皮膚悪性腫瘍学会 2017年5月27-28日 鹿児島市
9. 青木 恵美、松下 茂人、野元 三治、田代 幸恵、高木 信介、春山 勝紀、米良 健太郎
 母斑細胞のリンパ管・リンパ節浸潤を認めた3例-悪性黒色腫リンパ節転移との鑑別をどうするか?-
 第39回九州マイクロサージャリー研究会 2016年6月4日 北九州市
10. 高木 信介
 右上肢リンパ浮腫を合併した右鎖骨部放射線潰瘍に対してリンパ節付き遊離皮弁およびリンパ管細静脈吻合を行った1例
 第39回九州マイクロサージャリー研究会 2016年6月4日 北九州市
11. 高木 信介、春山 勝紀、外菌 寿典、佐藤 翼、堀川 良治
 糖尿病に合併した両膝Charcot関節症の1例
 第101回九州沖縄形成外科学会 2016年7月9日 福岡市
12. 春山 勝紀、佐々木 彩乃、外菌 寿典、高木 信介
 整容面に配慮した尿管管遺残症の手術
 第8回日本創傷外科学会 2016年7月21-22日 東京
13. 高木 信介
 当院における上肢再建に対する治療戦略 -有茎皮弁vs遊離皮弁-
 第34回昭和大学形成外科同門会学術集会
14. 春山 勝紀、高木 信介、青木 恵美、松下 茂人、田代 幸恵、野元 三治
 高齢者の巨大色素細胞性母斑から発生した悪性黒色腫の1例
 第102回九州沖縄形成外科学会 2016年10月15日 鹿児島

15. 外菌 寿典、高木 信介、春山 勝紀、佐藤 翼
当院における偽関節治療における、骨膜移植の新たな固定法の工夫
第102回九州沖縄形成外科学会 2016年10月15日 鹿児島
16. 高木 信介、春山 勝紀、外菌 寿典、佐藤 翼、嘉島 信忠、門松 香一
眼窩ブローアウト骨折 その先へ
第34回日本頭蓋顎顔面外科学会 2016年11月11日 東京
17. 高木 信介、春山 勝紀、外菌 寿典、佐藤 翼、堀川 良治、佐々木 彩乃
われわれの行なっている指尖部切断指再接着術
第43回日本マイクロサージャリー学会 2016年11月17-18日 広島
18. 高木 信介、春山 勝紀、外菌 寿典、佐藤 翼、堀川 良治、門松 香一
われわれの行なっている四肢感染性・非感染性偽関節治療
第43回日本マイクロサージャリー学会 2016年11月17-18日 広島
19. 鶴田 和也*、高木 信介、堀川 良治 (ポスター)
右前腕フォルクマン拘縮発症後に高度の機能不全を呈した1例
第28回日本ハンドセラピー学会学術集会 2016年4月28日 広島
*リハビリテーション部

【講演 (院外)】

- 高木信介 大塚製薬
高木信介 第2回鹿児島眼形成研究会 特別講演

新生児内科

【論文・誌上发表】

1. 丸山 有子
胎児発育不全-最近の話題 Fetal&Neonatal Medicine Vol.8 No.2 巻頭座談会
2. 徳久 琢也
NO吸入法 周産期医学 Vol.46増刊号/2016 p.1051-1054
3. 徳久 琢也
搬送方法 2015CoSTRに基づいた新生児低体温療法実践マニュアル 岩田欧介編 東京医学社 p.37
4. 徳久琢也
産科的モニタリングの解釈
2015CoSTRに基づいた新生児低体温療法実践マニュアル 岩田欧介編 東京医学社 p.138

【学会発表】

1. 徳久 琢也
酸素性虚血性脳症(HIE)に対する脳低体温療法(BHT)施行中のMicrodialysis法を用いた脳組織代謝と神経学的予後の検討
第52回日本周産期・新生児医学階学術集会 2016年7月16日-18日 富山

【講演 (院外)】

- 丸山有子 周産期と感染症 第6回 生長会 産婦人科レビューコース 2016年2月

小児科

【論文・誌上发表】

1. 鉾之原 昌
児童虐待の防止と早期発見に協力を (その1.2.3.4) 鹿児島県医師会報 2016年3~6月号

【学会発表】

1. 永留 祐佳、溝田 美智代、中崎 奈穂、関 祐子、柿本 令奈、玉田 泉、大坪 喜代子、森田 智、上野 さやか、河野 嘉文
幼児期に発症したバセドウ病の3例 第50回日本小児内分泌学会学術集会 2016年11月16-20日 東京

2. 関 祐子、玉田 泉、永留 祐佳、柿本 令奈、精松 貴成、上野 さやか、森田 智、大坪 喜代子、溝田美智代
 ヨードが投与されたバセドウ病母体から出生した3例
 第50回日本小児内分泌学会学術集会 2016年11月16-20日 東京

【講演（院外）】

銚之原 昌 鹿児島県新規採用養護教諭研修会 県教育委員会 県教育センター 2016年10月27日

放射線診断科・放射線治療科

【学会発表】

1. 仮屋 圭佑、中禮 久彦、銚立 博文、大久保 幸一、野口 智弘、濱之上 雅博、田代 幸恵、白濱 浩、吉浦 敬
 放射線治療及び化学療法が奏功した腹膜播種合併進行膵癌の長期生存例
 第182回日本医学放射線学会九州地方会 2016年2月20日 福岡
2. 銚立 博文、篠原 哲也、中禮 久彦、大久保 幸一、高木 信介、吉浦 敬
 当院における静脈奇形に対する硬化療法の検討 第39回九州IVR研究会 平成28年12月10日 福岡
3. 銚立 博文、篠原 哲也、中禮 久彦、大久保 幸一、吉浦 敬、齋藤 博哉
 骨盤部感染lymphoceleに対しCT下ドレナージを施行した4例
 第39回九州IVR研究会 2016年12月10日 福岡

【講演（院内）】

銚立博文 肺癌の放射線診断 ～基本的CT画像とCT下生検～
 今給黎総合病院 肺癌カンファレンス 2016年8月31日

緩和医療科

【主催】

がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会 2016年10月22-23日 ホテル福丸 鹿児島市

【講演（院外）】

小玉 哲史 市民公開講座「がん患者さんとの接し方」 今給黎総合病院講義室 2016年10月6日

病理診断科

【学会発表】

1. 有村 郷司、新村 泰子、白濱 浩
 遺伝子解析装置i-densy IS-5320導入後に経験したEGFR遺伝子変異検査判定困難症例の検討
 日本臨床検査自動化学会第48回大会 パシフィコ横浜 2016年9月23日 横浜市
2. 新村 泰子、有村 郷司、白濱浩
 i-densy IS-5320による骨軟部腫瘍組織を用いたSYT-SSX融合遺伝子検査の自動化の検討
 日本臨床検査自動化学会第48回大会 パシフィコ横浜 2016年9月23日 横浜市

歯科口腔外科

【学会発表】

1. 吉田 雅司、吉田 礼子
 下顎の偏位は、水泳自由形の直進性に影響するか？：予備的研究
 第27回日本スポーツ歯科医学会総会・学術総会 2016年6月11-12日 名古屋
2. 吉田 雅司、古賀 喬充、山形 圭一郎
 いびきを主訴に来院した小下顎症患者に対するオトガイ形成術の呼吸と睡眠に関する検討
 第26回日本顎変形症学会総会・学術総会 2016年6月24-25日 東京
3. 吉田 雅司
 下顎の偏位は、水泳自由形の直進性に影響するか？
 日本直立歯科医学研究大会 2016年10月22-23日 大阪市

4. 吉田 雅司
鹿児島県における睡眠外来の現状と歯科・歯科口腔外科の役割
第15回日本睡眠歯科医学会総会・学術総会 2016年11月12-13日 東京都
5. 吉田 雅司、土持 賢一、古賀 喬充、湯田 晃大
当科で経験した上顎骨のMRONJ（薬剤関連骨壊死）の3例
第61回日本口腔外科学会総会・学術総会 2016年11月25日～27日 千葉市

【講演(院外)】

- 吉田雅司 スポーツ歯学の現状とこれから 長崎大学歯学部講義 2016年6月14日 長崎市
 吉田雅司 矯正歯科専門医とcollaborationする歯科口腔外科の臨床
 顎顔面外科矯正特別講演会 in KYOTO 2016年9月25日 京都市
 土持賢一 練馬での訪問診療 適塾勉強会 2016年11月5日 鹿児島市
 吉田雅司 17. スポーツ外傷とスポーツ障害(3) : 顎骨・軟組織の外科対応
 日本体育協会スポーツデンティスト講義 11月19日 東京都
 吉田雅司 スポーツ歯学の現状とこれから 平成28年度始良歯科医学会 2016年12月3日 霧島市

救急科

【座長】

- 西山淳
 平成27年度第4回薩摩地域救急業務高度化協議会作業部会 2016年3月18日
 平成28年度第1回薩摩地域救急業務高度化協議会作業部会 2016年7月1日
 平成28年度第2回薩摩地域救急業務高度化協議会作業部会 2016年9月27日
 平成28年度第3回薩摩地域救急業務高度化協議会作業部会 2016年12月16日

【各部門】平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月

看護部

【論文・誌上発表】

1. 橋口 恒夫 Emergency Care 4. 腹痛 2016年8月号

【学会・院外研究会発表】

1. 四元 麻由子、立和名 聖子
感染ベストプラクティスを活用した点眼手順の導入
日本感染管理ベストプラクティスSaizen研究会 第11回セミナー 2016年5月28日 大阪
2. 川邊 なぎさ(共著者)、畠中 愛(共著者)
保育士と看護師の協働で生じた問題への取り組み ～「今日の記録」の改良を試みて～
第26回全国病児保育研究大会 2016年7月17～18日 新潟
3. 原田 純子(NICU)
地域でのNICU同窓会「出張もじょかくらぶ」～ハイリスク児フォローアップにおけるアウトリーチ活動
第2報～ 第26回日本新生児看護学会学術集会 2016年12月2-3日 大阪

【座長・他】

- 東美津子 第10回SSみやざき特別講演会 2016年6月18日
 藤山みどり 平成28年度第50回鹿児島県保健看護研究学会 2017年1月20日

【講演(院外)】

- 宮菌瑞帆 九州クリティカルケア研究会 2016年8月27日
 河原尚美 第2回がん化学療法看護セミナー パネリスト 2016年9月3日
 福里 美佐子 九州小児外来セミナー 2016年10月22日
 村崎まこと 久木田看護専門学校学園祭講演 2016年10月29日
 本田里美 平成28年度新人助産師合同研修会 2017年2月4日
 有村こずえ 大隅地域周産期医療看護関係者研修会 2017年2月16日
 原田純子 第42回公益財団法人全国助産師教育協議会研修会 2017年3月4日
 原田純子 平成28年度宮崎県産婦人科病医院従事者研修会第21回ひむかセミナー 2017年3月5日

薬剤部

【学会・院外研究会発表】

1. 前島一友
がん薬物療法認定薬剤師を目指すには
第185回鹿児島県病院薬剤師会研修会・第26回がん薬物療法対策講習会 2016年7月9日 鹿児島市

中央放射線部

【学会・院外研究会発表】

1. 川原美咲 POSファクターについて 第6回がごんまGyro 2016年6月11日 鹿児島市
2. 池田真一 磁気共鳴専門技術者への道 第6回がごんまGyro 2016年6月11日 鹿児島市
3. 稲留久恵 当院のRI画像を中心とした他院画像取り込みについて
鹿児島核医学技術検討会 2016年6月25日
4. 中村圭太 各施設の可変媒体の運用紹介 第12回鹿児島医療情報システム研究会 2016年7月2日
5. 浮田啓一郎 磁石入りを除去したにもかかわらず発生したアーチファクトの対処法
第32回日本放射線技師学術大会 2016年9月16日
6. 川原美咲 POSファクターの基礎的検討 九州医放射線療技術学術大会 2017年1月5日

【座長】

- 飯伏順一 鹿児島核医学技術検討会 2016年6月25日

【ディスカッション等 司会・演者】

- | | | | |
|------|---------------|--------------|-------------|
| 新村栄次 | CT装置の最新情報の提供 | 第35回鹿児島CT研究会 | 2016年5月18日 |
| 新村栄次 | 市立病院での線量測定実習 | 第36回鹿児島CT研究会 | 2016年8月27日 |
| 小谷祐樹 | 当院の手術支援画像について | 第37回鹿児島CT研究会 | 2016年11月16日 |
| 新村栄次 | 覚えよう気管支体操 | 第38回鹿児島CT研究会 | 2017年2月15日 |
| 稲留久恵 | 肺がんCT認定技師について | 第38回鹿児島CT研究会 | 2017年2月15日 |

【講演】

- 浮田啓一郎 私流、MRI撮影の流儀 九州国立病院機構第2回MRIセミナー 2016年6月18日
- 浮田啓一郎 MRI 検査はここまで進化した
診療放射線技師会春季学術大会シンポジウム 2016年6月19日
- 浮田啓一郎 私のプライベートな追加撮影（8つの鉄則） 九州MRI Gyroミーティング 2016年7月31日

中央臨床検査部

【学会・院外研究会発表】

1. 播磨佐江子、今堀小百合、村中利也
Clostridium difficile検査の新たな運用について
第13回 鹿児島県医学検査学会 2017年2月18～19日 鹿児島市
2. 久永洋一郎、原園真由美、西田智佳、村中利也
胃液中に見られた糞線虫の一症例
第13回 鹿児島県医学検査学会 2017年2月18～19日 鹿児島市
3. 牧之段李奈、新村泰子、村中利也
当院における化学物質リスクアセスメントの取り組み
(共同演者) 第13回 鹿児島県医学検査学会 2017年2月18～19日 鹿児島市
4. 持留ゆりか、宝代聡美、岩崎明日香、今堀貴之
産後、因子指定血を大量に輸血した1症例 第13回鹿児島県医学検査学会 2017年2月18～19日 鹿児島市
5. 持留ゆりか、今堀貴之
当院の緊急輸血について 輸血シンポジウム2016 2016年12月17日 鹿児島市
6. 今堀貴之、持留ゆりか
当院での輸血検査異常反応情報の共有について
輸血シンポジウム2016 2nd 2017年3月4日 鹿児島市

【座長】

村中利也	第24回鹿児島ICTネットワーク学術講演会	2016年4月
西田智佳	第1回臨床一般部門研修会	2016年6月
村中利也	第26回南九州臨床微生物研究会	2016年10月
村中利也	第2回臨床微生物検査部門研修会	2016年12月
今堀貴之	第2回輸血細胞治療部門研修会	2016年12月
西田智佳	臨床一般部門・九州卒後教育セミナー	2017年1月
持留ゆりか	第13回鹿児島県医学検査学会	2017年2月
今堀貴之	第3回輸血細胞治療部門研修会	2017年3月

QCセンター 褥瘡管理課

【講演（院外）】

下前百合香	装具選択のポイント	ダンサックストーマケア セミナー	2016年10月11日	鹿児島
椎木真美子	ノバライフ1フィットの症例報告	ダンサックストーマケア セミナー	2016年10月11日	鹿児島

QCセンター 感染管理課

【学会発表】

1. 四元麻由子、立和名聖子
感染ベストプラクティスを活用した点眼手順の導入
日本感染管理ベストプラクティスSaizen研究会第11回セミナー 2016年5月28日（再掲）
2. 立和名聖子（共同研究）
熊本地震後早期に避難所で開始した症候性サーベイランス
第32回日本環境感染学会 2016年2月24-25日 神戸
3. 立和名聖子（共同研究）
平成28年熊本地震に伴う宇土地区避難所感染性胃腸炎対策支援活動
第32回日本環境感染学会 2016年2月24-25日 神戸

事務局 総務企画課 病児保育室

【学会発表】

1. 西郷 今日子、吉村 加奈子
当院小児科病棟における採血プレパレーションへの取り組み
～保育士と看護師の協働についての工夫・改善～
第20回日本医療保育学会 2016年7月9～10日 岡山
2. 吉村 加奈子、鈴木 詩織、畠中愛、川邊 なぎさ
保育士と看護師の協働で生じた問題への取り組み ～「今日の記録」の改良を試みて～
2016年7月17～18日 第26回全国病児保育研究大会 新潟
3. 吉村 加奈子、玉田 泉、上山 真紀、西郷 今日子、鈴木 詩織、川邊 なぎさ
保育士と看護師の協働で生じた問題への取り組み ～「今日の記録」の改良を試みて～
2016年11月13日 全国病児保育協議会 鹿児島支部会 鹿児島

院内研修会・講演会一覧

平成 28 年度講義室にて開催された研修会・講演会一覧

月 日	演 題	講 師	参加者数
4月21日	アドバンス・ケア・プランニング ～その人らしい意思決定支援のために～	鹿児島大学病院 緩和ケアセンター がん看護専門看護師 落合 美智子	77名 外部7名
7月13日	職員教育講演会 熱中症 ～鹿児島を襲う熱波の恐怖～	当院 救急科 部長 西山 淳	76名
7月25日	院内感染研修会 手指衛生の重要性、感染予防と病院環境整備	(株) エスアールエル 管理本部 本社統括部 営業サポートチーム 管理薬剤師 大畑 節子	7/25～9/16 6回開催 計865名
8月24日	第3回定期多施設合同カンファレンス 逝去に際しての対応に苦慮した事例 ～安心して最後を迎えるために医療者は どのような支援を行うべきか～	鹿児島医療センター、県立薩南病院、相良病院 鹿児島大学病院、鹿児島厚生連病院、南風病院 今給黎総合病院 7病院	36名 外部25名
8月27日	鹿児島県内 皮膚・排泄ケア認定看護師勉強会 WOCに係わる平成28年度診療報酬改定について	スリーエムジャパン(株) ヘルスカンパニー 医療用製品事業部 マネージャー 高水 勝	26名 外部20名
8月31日	肺癌治療カンファレンス 肺癌の放射線診断～基本的CT画像とCT下生検～ EGFR陽性肺癌に対する precise medicine	総合司会 当院 外科部長 濱之上 雅博 当院 放射線科診断科 部長 針立 博文 久留米大学 呼吸器・神経・膠原病内科部門 講師 東 公一	95名 外部13名
9月1日	認知症講演会 アルツハイマー型認知症について	当院 神経内科 部長 長堂 竜維	76名 外部1名
9月2日	第1回救急隊・今給黎総合病院 合同カンファレンス 低血糖 グルドバ(t-PA)使用症例 胸部外傷 アナフラキシーショック プレホスピタルケアセミナー	座長 呼吸器外科 部長 米田 敏 救急外来 看護師長 橋口 恒夫 救急科 研修医 今村 研介 呼吸器外科 科長 今給黎 尚幸 救急科 部長 西山 淳 脳神経外科 科長 松邨 宏之	142名 救急隊108名
10月6日	市民公開講座 がん患者さんとの接し方～意思決定支援を含めて～	当院 緩和医療科 部長 小玉 哲史	102名 外部29名
10月17日	鹿児島外傷セミナー 四肢外傷治療 ー最近のトピックス	琉球大学大学院医学研究科医学専攻 整形外科講座 教授 金谷 文則	78名 外部37名
10月26日	がん免疫療法診療連携カンファレンス ニボルマブ適正使用における薬剤師の取り組み 進行非小細胞肺癌治療におけるニボルマブの実践	九州大学病院 薬剤部 がん専門薬剤師 秦 晃二郎 九州大学病院 呼吸器科 診療准教授 岡本 勇	118名 外部20名
11月5日	医療安全研修会 5Sと医療現場への応用 ～テルモ株式会社 富士宮工場の5S活動～	テルモ株式会社富士宮工場 管理部TIM推進室 室長 吉良 憲輔	11/5～1/25 6回開催 計669名 外部4名
11月16日	WLB委員会・労働安全衛生委員会共催 信頼関係を築くアンガーマネジメント	AEメディカル鹿児島支社長 田之頭 智子	165名 外部4名
11月30日	放射線安全管理研修会	(株) 千代田テクノル 線量計測事業部 線量計測技術課 狩野 好延	50名
12月13日	感染対策研修会 麻疹、風疹、ムンプスの感染防止対策	鹿児島大学病院 感染制御部門 副部門長 准教授 徳田 浩一	12/13～12/29 5回開催 計857名 外部5名
12月19日	抗血栓療法勉強会 高齢者心房細動における抗凝固療法 抗血栓療法のトータルマネジメント	当院 循環器内科 科長 志岐 健三郎 鹿児島市立病院 循環器内科 部長 濱崎 秀一	75名

1月27日	地域支援病院・がん連携拠点病院事業講演会 メディボリスにおける陽子線治療について	メディボリス国際陽子線治療センター センター長代理 荻野 尚	48名 外部8名
2月8日	静脈血栓塞栓症カンファレンス 整形外科術前後のDVTの診断と一次予防 静脈血栓塞栓症のトータルケア ー予防から診断・治療までー	当院整形外科 医師 岡田 拓巳 岡山医療センター 循環器内科 下川原 裕人	71名 外部5名
2月17日	医療安全研修会 ワークで学ぼう みんなのSBAR ～報告・連絡のためのコミュニケーションスキル～	東京海上日動メディカルサービス株式会社 メディカルリスクマネジメント室 玉利 英子	2/17～3/31 7回開催

院内外活動報告

熊本震災支援活動

4月14日に熊本地方を中心に震度7の地震が発生。多数の負傷者と甚大な被害がでました。当院も要請を受け、JMATの派遣と赤ちゃん救急車MOJOKA 1号が熊本へ出動しました。

【JMAT 派遣】



4月23日から3日間、鹿児島県医師会の要請を受けJMAT (Japan Medical Association Team: 日本医師会災害医療チーム) として、熊本市において医療支援活動を行いました。熊本市西区役所内に設置された災害対策本部に入り、そこで我々に与えられたミッションにより、担当避難所における医療相談室の設置と診療、避難所内巡回診療、アセスメント活動などを行いました。

【赤ちゃん救急車 MOJOKA1 号出動】



熊本市の病院より支援要請を受け、4月17日午前8時、赤ちゃん救急車MOJOKA 1号と搬送車が出動しました。救急車には保育器2台、搬送車には産褥セット、滅菌ガウン、防災シート、水、食糧などの支援物資を乗せ、新生児内科 医師、NICU病棟 看護師、臨床工学技士、事務職員の7名で熊本市へ出発。14時30分頃に双子の赤ちゃんを当院へ搬送しました。また、品胎の転院依頼があり、鹿児島県ドクターヘリにて熊本より搬送となりました。当院NICUでは、双胎1組、品胎1組の計5人の新生児を受け入れました。経過は良好で5人とも自宅退院されました。

広報誌「四季だより」平成28年6月号より

竹島へき地診療所へ看護師を派遣

県へき地医療拠点病院である当院は、平成23年から看護師の離島派遣に取り組んでいます。

今回、三島村にある4診療所の中で、竹島へき地診療所では常駐する看護師が4月から不在という状況がありました。そこで、三島村からの依頼で4月19日～4月27日の期間、竹島診療所へ看護師2名を派遣しました。

2016年4月22日南日本新聞 (転載許可済)

常駐不在に今給黎病院協力

竹島へ2看護師派遣

4月から常駐看護師が不在になった三島村竹島へは、鹿児島市の今給黎総合病院が派遣した看護師2人が、19日の船で出発した。ほかの病院にも協力を仰いでいるが、5月中旬以降のめどはついていない。三島村は、常駐看護師を募集している。

三島村では、竹島、硫黄島、黒島、大里、片泊地区に入らず看護師が常駐している。看護師は、島民の健康管理だけでなく医師の指示を仰いだり、一部医療行為も担当する。三島村によれば、4月まで、2人は一島の方々の少しでも後立ちたいと話した。三島村の田中博民生涯長は「医師が常勤していない三島村で、看護師の役割はとも大きくありがたい」と感謝。村による6月15日までは、短期派遣の看護師が見つかっていないが、その後は見つかるだろうと話した。田中課長は「後任探しを急ぎたい」と話した。

三島村役場 099-(2)22-3141 (高野 亨)

三島村には出発する給黎総合病院の看護師2人

三島村では、竹島、硫黄島、黒島、大里、片泊地区に入らず看護師が常駐している。看護師は、島民の健康管理だけでなく医師の指示を仰いだり、一部医療行為も担当する。三島村によれば、4月まで、2人は一島の方々の少しでも後立ちたいと話した。三島村の田中博民生涯長は「医師が常勤していない三島村で、看護師の役割はとも大きくありがたい」と感謝。村による6月15日までは、短期派遣の看護師が見つかっていないが、その後は見つかるだろうと話した。田中課長は「後任探しを急ぎたい」と話した。

三島村役場 099-(2)22-3141 (高野 亨)

月定竹島へ赴任する予定だった看護師がけなくなり、後任探しに間に合わなかった。現在は、黒島に入っている看護師のうち1人を派遣するつもりで、大山根夫村長が、今給黎総合病院に派遣を依頼。島での経験がある看護師だけではなく医師の指示を仰いだり、一部医療行為も担当する。三島村によれば、4月まで、2人は一島の方々の少しでも後立ちたいと話した。三島村の田中博民生涯長は「医師が常勤していない三島村で、看護師の役割はとも大きくありがたい」と感謝。村による6月15日までは、短期派遣の看護師が見つかっていないが、その後は見つかるだろうと話した。田中課長は「後任探しを急ぎたい」と話した。

第1回 つながる想い in かがしま ～がんとともに生きる～

鹿児島で「鹿児島の今、治療と向き合っているがん患者さんのために それを支えるご家族のために 旅立ったがん患者さんを偲び 今、元気な皆さんのために」をコンセプトに、平成28年5月14日(土)第1回つながる想い in かがしま～がんとともに生きる～のイベントが開催されました。

がん患者さんとそれを支えるご家族や県内の医療者が参加する催しです。今給黎総合病院も総勢29名で参加してきました。

市立病院多目的ホールでの開会式を皮切りに、講演会やがん患者さんたちやご家族が自由にお話する“つながるサロン”が行われ、私たち緩和医療課の3人も相談員として協力。その後は隣接する上荒田の杜公園へと場所を移してライブやトークショーが行われました。途中パラパラと降り出した雨を心配しましたが、キャンドルバックに火が灯る頃にははっきり止んで、心地よい風が吹く中2時間のウォークがスタート。

仕事帰りや友人の結婚式帰りに来てくださった先生、薬剤師、リハビリスタッフ、看護師、事務の方などなど、多くのスタッフと共に今給黎総合病院の幟を掲げ、緑の法被で歩きました。参加していただいた皆様、有難うございました。

また、当院からも実行委員として放射線技師や看護師、ボランティアで居宅支援事業のケアマネージャー、お子さんが子供実行委員として・等で協力し、イベントの成功を支えました。

キャンドルバック購入にご協力いただいた皆様も本当に有難うございました。キャンドルバックに書かれた言葉を読みながら、込められた想いを感じながら、楽しく歩き終えることが出来ました。

きっとこれから先もたくさんの想いがつながり、鹿児島のがん患者さんやご家族を支えるイベントとして開催されていくでしょう。今給黎総合病院もお揃いの緑の法被を身に付けて参加し、協力していきたいと思っています。



広報誌「四季だより」平成28年6月号より

友好的な関係を目指して 『ケアカフェ』を開催

看護部入退院委員会では、2015年より退院支援ルールに基づいて退院調整看護師・MSWが中心となり、病棟師長も加え地域福祉職と連携を図っています。2016年4月の診療報酬改定で退院支援加算1を申請し、10月に取得し更なる連携強化が求められました。

そこで、病棟窓口となる師長・主任と地域医療福祉職の方々と顔合わせや話をする機会を増やし『友好的な関係の構築』を目指すため、親睦を兼ねた情報交換会を開催しました。

今回は、地域医療福祉職14施設21名と当院の看護部入退院支援委員・看護管理職・メディカルソーシャルワーカー36名でのケアカフェ実施となりました。



広報誌「四季だより」平成28年12月号より

昭和会クリニック VI

■ 現状・医療設備概要・業績

- (1) 標榜科目
- (2) 病床数 無床
- (3) 医療設備概要
- (4) 科別外来患者数
- (5) 外来患者市町村別分布図

昭和会クリニックの現況

(1) 標榜科目(15診療科)

内科、糖尿病内科、神経内科、呼吸器内科、小児科、整形外科
 形成外科、脳神経外科、皮膚科、新生児内科、
 気管食道・耳鼻いんこう科、放射線科、
 歯科、歯科口腔外科、病理診断科

(2) 病床数 無床

(3) 敷地面積 1128.02 m² 建築面積 787.73 m²

(4) 放射線部門 医療設備概要

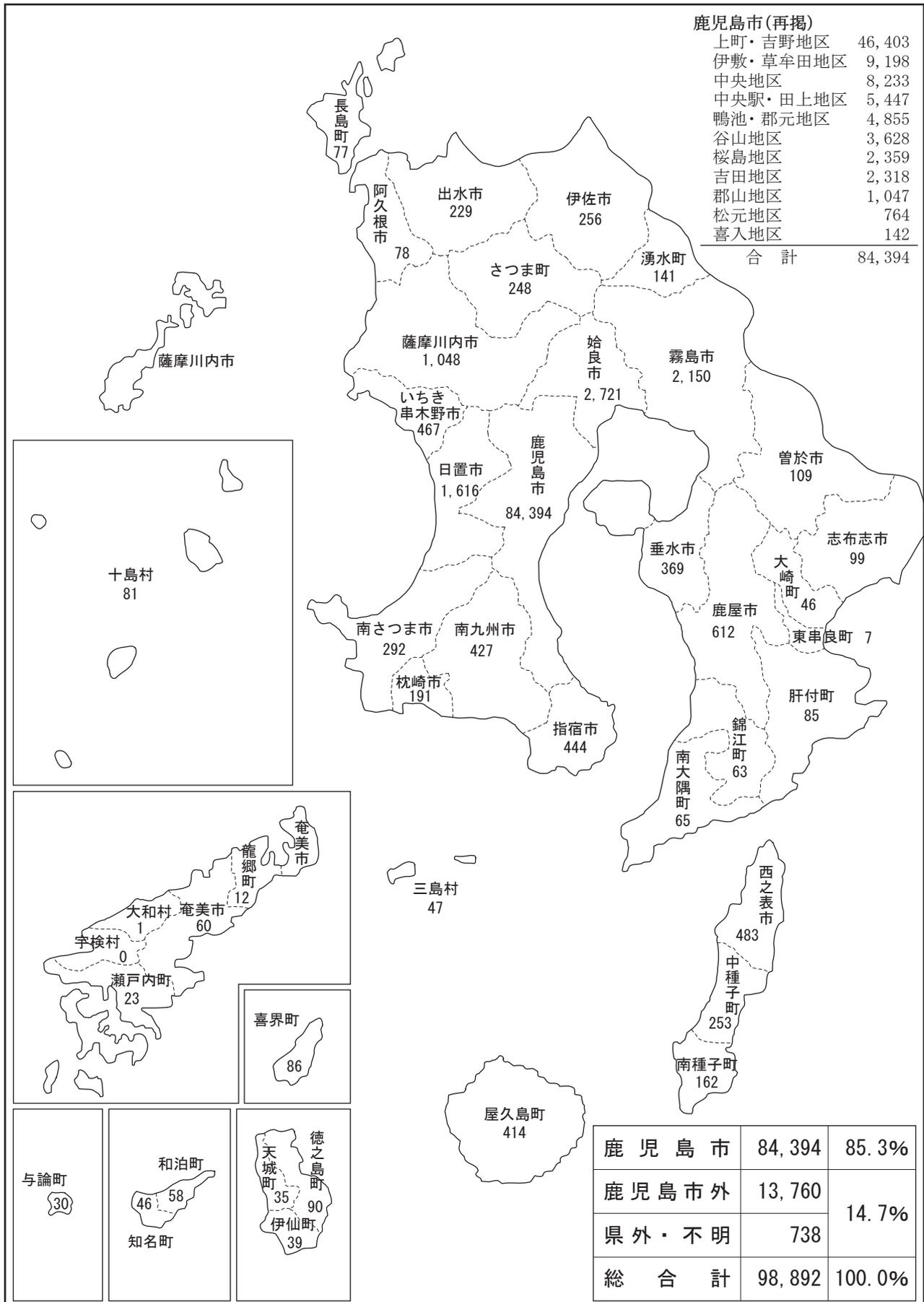
検査室名(撮影室番号)等		メーカー	機 種 名	台数
1	一般撮影室(10)	島津 キャノン 近畿レントゲン	(1)UD-150B-40(RADIOTEX)	1
			(2)CXDI-50G(臥位用X線デジタルカメラ)	1
			(3)KR8100(パノラマ装置)	1
2	一般撮影室(9)	島津 キャノン	(1)UD-150B-40(RADIOTEX)	1
			(2)CXDI-50G(立位用X線デジタルカメラ)	1
			(3)CM-100(超音波骨密度測定)	1
3	X線CT(MDCT)室(8)	フィリップス	ブリリアンス Brilliance16(16列MDCT)	1
5	骨密度測定室	ホロジック	Discovery Wi	1
6	MRI室	フィリップス	インテラ アチーバ ノバ Intera Achieva Nova(1.5テスラ)	1
受付・ 操作室	C R レーザーイメージャー	ケアストリーム	(1)CR850 (2)ドライビュー8900	1 1
	画像処理	テクマトリックス 富士	画像ネットワークシステム(PACSクラウド化・検像システム) VINCENT(3Dワークステーション)	1式 1式
口腔外科	デンタル室	朝日レントゲン	サテライト MX-60N	1

(5) H28年度 科別外来患者数 (複数診療科受診を各々1とした場合) ・ 1日平均:患者数÷平日・土曜日数(祝日除く) ・ 在宅医療含む

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計	1月平均	1日平均	初診率(%)
総合内科	797	706	672	669	715	664	741	1,097	972	980	796	818	9,627	802	35.7	38.5
糖尿病内科	116	98	122	104	100	111	115	92	110	118	98	134	1,318	110	4.9	0.8
呼吸器内科	419	371	408	390	425	399	368	403	418	330	386	411	4,728	394	17.5	14.3
神経内科	830	866	843	839	897	836	865	849	845	808	770	868	10,116	843	37.5	10.9
整形外科	2,343	2,264	2,434	2,317	2,541	2,307	2,490	2,266	2,389	2,192	2,178	2,475	28,196	2,350	104.4	14.5
形成外科	465	484	612	564	616	538	603	604	656	607	535	677	6,961	580	25.8	20.2
脳神経外科	262	284	271	250	288	246	275	265	274	253	247	296	3,211	268	11.9	8.8
新生児内科	147	80	97	115	117	117	107	106	120	121	112	120	1,359	113	5.0	1.4
小児科	804	847	943	1,086	999	816	1,019	1,048	1,080	902	849	867	11,260	938	41.7	36.2
気管食道・耳鼻いんこう科	446	451	477	465	522	454	449	477	471	439	444	500	5,595	466	20.7	29.3
皮膚科	723	830	904	942	938	859	804	781	817	691	677	796	9,762	814	36.2	22.0
放射線科	6	5	12	14	5	10	11	15	10	6	7	11	112	9	0.4	90.2
歯科	220	194	247	229	238	194	204	219	243	202	216	260	2,666	222	9.9	8.9
歯科口腔外科	319	333	312	344	387	395	308	312	345	283	291	352	3,981	332	14.7	28.4
合計	7,897	7,813	8,354	8,328	8,788	7,946	8,359	8,534	8,750	7,932	7,606	8,585	98,892	8,241	-	20.8
1日平均	351	372	348	370	366	361	372	388	380	378	354	358	-	-	366.3	-
救急車患者数(再掲)	3	1	1	2	2	0	3	2	1	2	0	1	18	-	-	-

初診	1,681	1,702	1,753	1,794	1,848	1,635	1,714	1,776	1,779	1,650	1,576	1,709	20,617	1,718	69.9	-
再診	6,216	6,111	6,601	6,534	6,940	6,311	6,645	6,758	6,971	6,282	6,030	6,876	78,275	6,523	265.3	-
初診率(%)	21.3	21.8	21.0	21.5	21.0	20.6	20.5	20.8	20.3	20.8	20.7	19.9	20.8	-	-	-

(6) 平成28年度 外来患者市町村別分布図(複数診療科受診を各々1とした場合)



公益財団法人昭和会
昭 和 会 誌 (第22号)

発行日 平成29年10月

発 行 公益財団法人昭和会

今給黎総合病院

〒892-8502 鹿児島市下竜尾町4番16号

電 話 099-226-2211(代表)

FAX 099-222-7906

URL <http://imakiire.jp>

E-mail info@imakiire.or.jp

公益財団法人昭和会

昭和会クリニック

〒892-0852 鹿児島市下竜尾町2番6号

電 話 099-226-2212(代表)

FAX 099-226-3366

URL <http://imakiire.jp>

E-mail info@imakiire.or.jp

1. がん医療対策関連について

地域がん診療連携拠点病院活動報告

1) 厚生労働省局長通知による「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催方針」に則り、地域のがん診療に携わる医師を対象に、当院主催により次の通り「公開緩和ケア研修会」を開催した。

(日 時) 10月22日(土) 14:00～19:00
10月23日(日) 9:00～19:00
(場 所) ホテル福丸
(参加者) 15名
(講師・スタッフ) 27名

2) がん・緩和ケア研修会

4月21日 「アドバンス・ケア・プランニング」
鹿児島大学病院 緩和ケアセンター 看護師 落合美智子 77名参加

3) がんに関する講演会・研修会への参加

4月27日 緩和ケア合同カンファレンス(鹿児島医療センター) 2名参加
5月14日 第1回つながる思い in かごしま
患者サロンファシリテーター・がん相談協力 3名参加
7月18日 がん看護研究大会 2名参加
7月27日 緩和ケア合同カンファレンス(相良病院) 1名参加
7月29日 臨床心理士事例検討会(鹿児島医療センター) 1名参加
9月10日 がん看護に関わる認定看護師フォローアップ研修 1名参加
9月16日 緩和ケアに関する地域連携会議(相良病院) 1名参加
9月24日 25日 臨床瞑想法マインドフルネス(聖路加病院) 1名参加
11月5日 がん医療を語ろうサロン(がんサポートかごしま) 1名参加
11月13日 がん看護せん妄ケアコース研修(国立がん研究センター) 1名参加
11月22日 緩和ケア学術講演会 コミュニケーション(鹿児島大学病院) 2名参加
11月26日 倫理研修 終末期医療と意思決定支援(鹿児島県看護協会) 2名参加
12月10日 緩和ケアチーム研修 2名参加
12月24日 診療瞑想法 初級後半(聖路加病院) 1名参加
1月21日 がん医療を語ろうサロン(がんサポートかごしま) 1名参加
3月9日 看護連携会議(鹿児島市立病院) 1名参加
3月18日 がん相談人研究会 1名参加

4) 「ほっとサロン今給黎」

がん患者とその家族を対象に、病気や心の悩み、体験などを気軽に語り合い、思いを共有する場として「がんサポートかごしま」と共同で「ほっとサロン今給黎」を院内開催してサポートした。

(毎月第3水曜日開催、無料)

全 136 名参加



5) 患者図書「すまいる」

患者図書室「すまいる」は協働の医療を目的として、PO 法人「医療の質に関する研究会」の患者図書室プロジェクトの支援のもと、平成 25 年 4 月に開設し 4 年が経過した。

落ち着いた雰囲気の中で本を読む環境が整っており、分かりやすい医療の本を中心に約 790 冊を所蔵している。利用サービスは、図書の閲覧・貸出し、インターネットの利用、パンフレット・チラシの提供、映像の視聴である。

利用時間は月曜から金曜の 10 時から 12 時、13 時から 16 時である(土・日・祝日を除く)。

原則 2 名ずつのボランティアスタッフで運営しており、28 年度は 22 名のボランティアが活動した。

28 年度の延べ利用者数は 2,496 人、1 日平均利用者数 10.2 人、入院患者比率 53.6%、図書貸出数 687 冊であった。入院中は繰り返し患者図書室を利用される患者さまも少なくない。29 年度も引き続き患者さまの利用のみならず、広く職員の利用も促進したいと考えている。



6) 講師派遣

5月28日・29日	薩南病院 がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会 精神症状 講師	医師1名派遣
7月3日	南九州病院 緩和ケア研修会	
7月10日	南九州病院 がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会 コミュニケーション 講師	医師1名派遣
8月21日	済生会川内病院 がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会 コミュニケーション 講師	医師1名派遣
9月17日・18日	鹿屋医療センター がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会 コミュニケーション 講師	医師1名派遣
11月19日・20日	南風病院 がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会 講師	医師1名派遣
2月11日・12日	鹿児島県立大島病院 がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会 講師	医師1名派遣
3月4日	鹿児島大学病院 がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会 コミュニケーション 講師	医師1名派遣

7) 院内がん登録集計

【院内がん登録集計(2015年1月1日～2015年12月31日)】

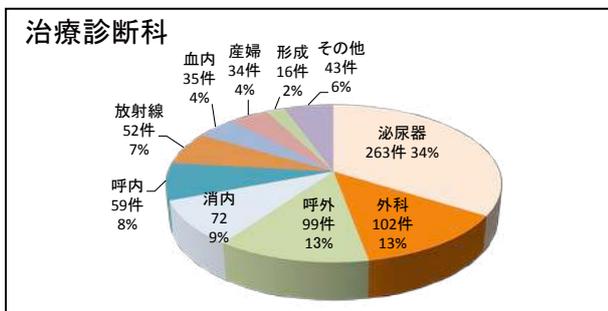
※がん登録の対象となる症例：上記期間中に診断および治療の対象となった症例

★1腫瘍1登録★ 重複がんの場合は原発の数をそれぞれ登録

①治療診断科

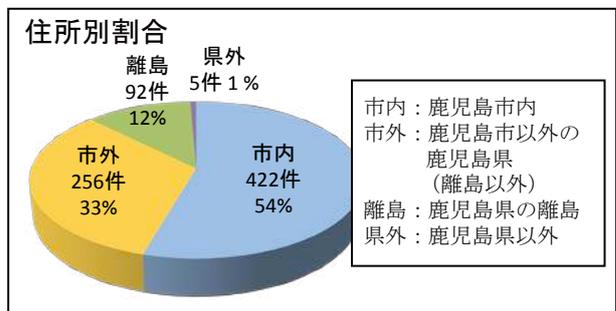
診断のみで終了した場合：診断を行った診療科
治療を行った場合：初回治療を行った診療科
どちらも行った場合は、治療をした診療科を1として扱います。

(例) 消化器内科にて診断、外科にて治療 ⇒外科でカウント



②住所別割合

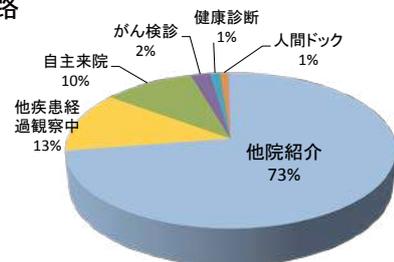
患者様の居住されている地域別分類です。
市外では多い順に、日置市 37、霧島市 35、鹿屋市 24、指宿市 22、離島では、種子島が 50、屋久島が 29 の順となっています。



③来院経路

がんの診断・治療のため当院を受診した経路別分類です。

来院経路



④ 症例区分

診断治療の決定：
当院でがんの診断を行い、治療方針を決定した症例

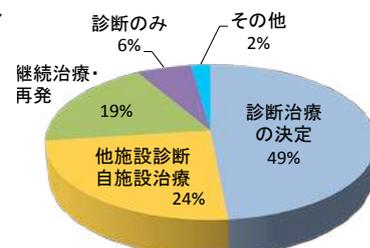
施設診断自施設治療：
がんの診断は他施設で行われ、初回治療を当院で行った症例

継続治療・再発：
他施設にて初回治療後、当院にて継続治療を行った症例。もしくは、他施設にて治療後、再発し、当院にて治療を行った症例

診断のみの症例：
当院でがんの診断を行ったが、治療は他施設で行ったもしくは治療を選択しなかった症例

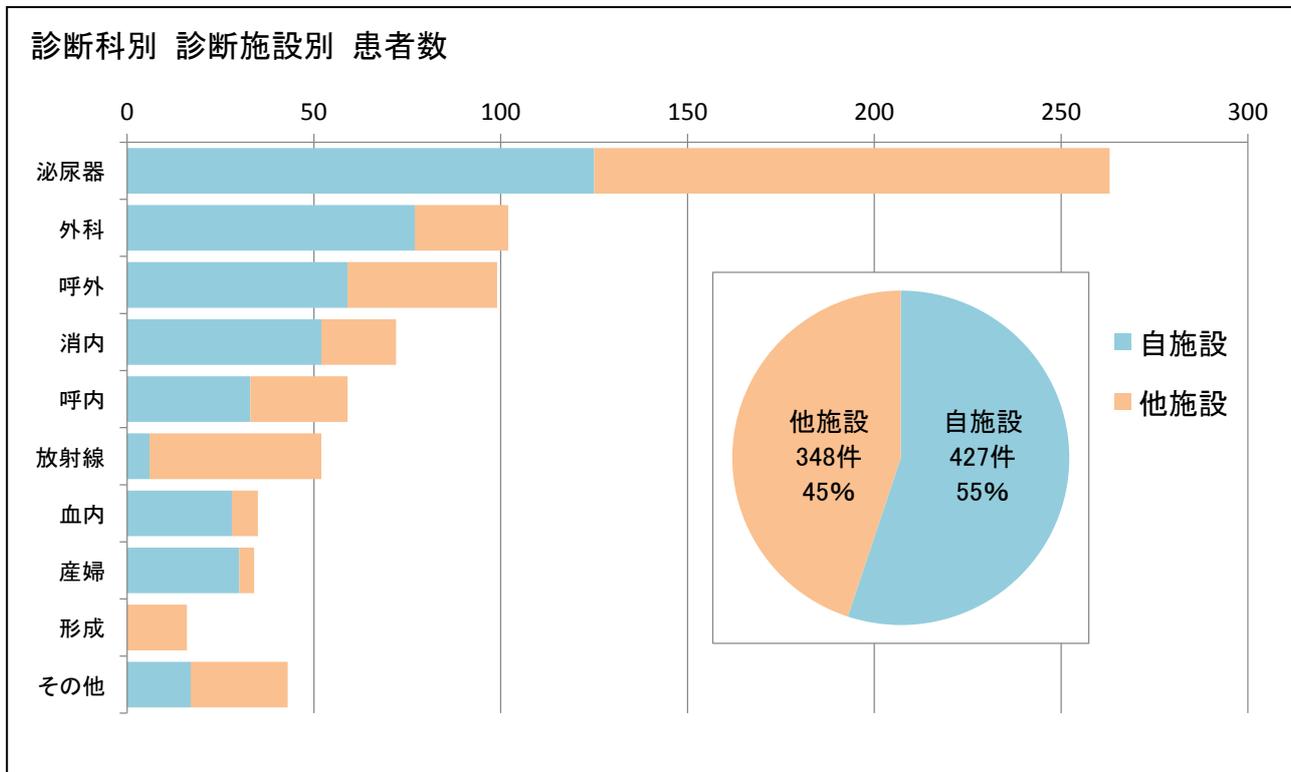
その他：セカンドオピニオン症例

症例区分



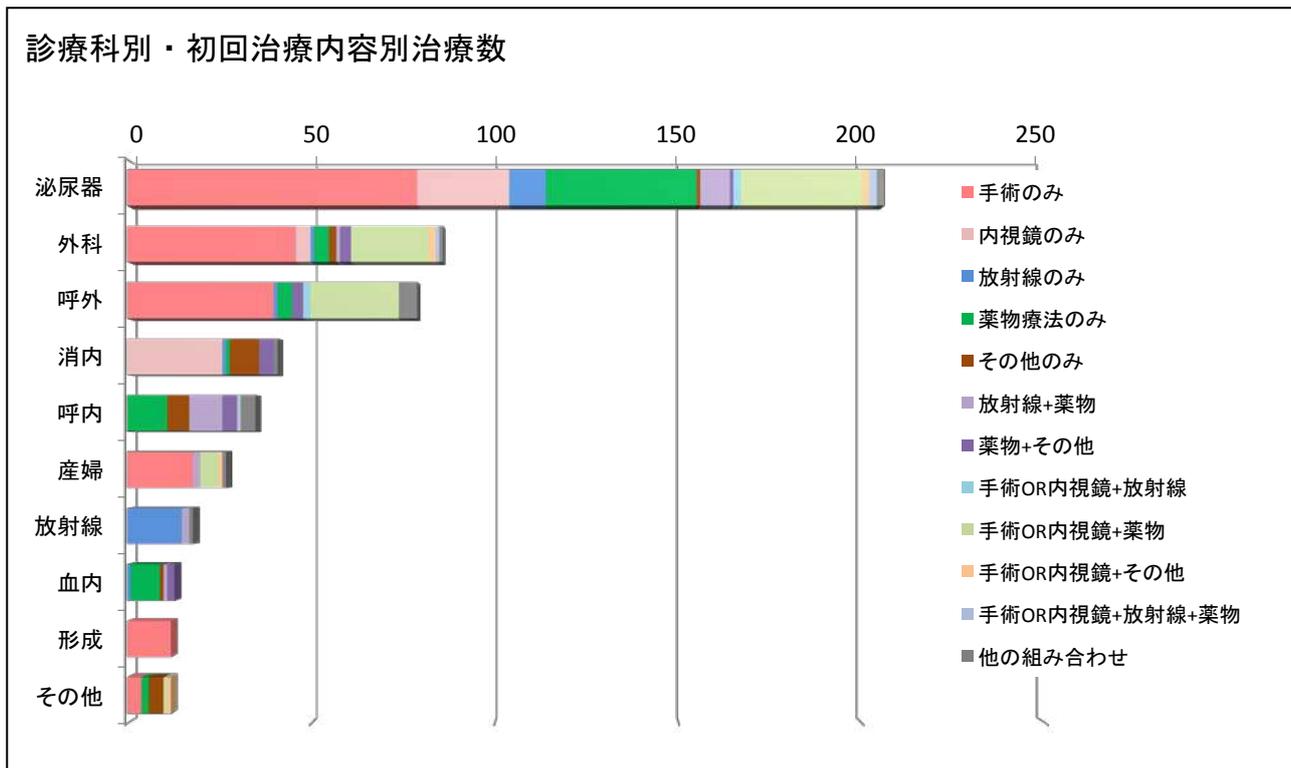
⑤ 診療科別・診断施設別患者数

がん患者様の診断がどこで行われたかを診療科別で示しています。



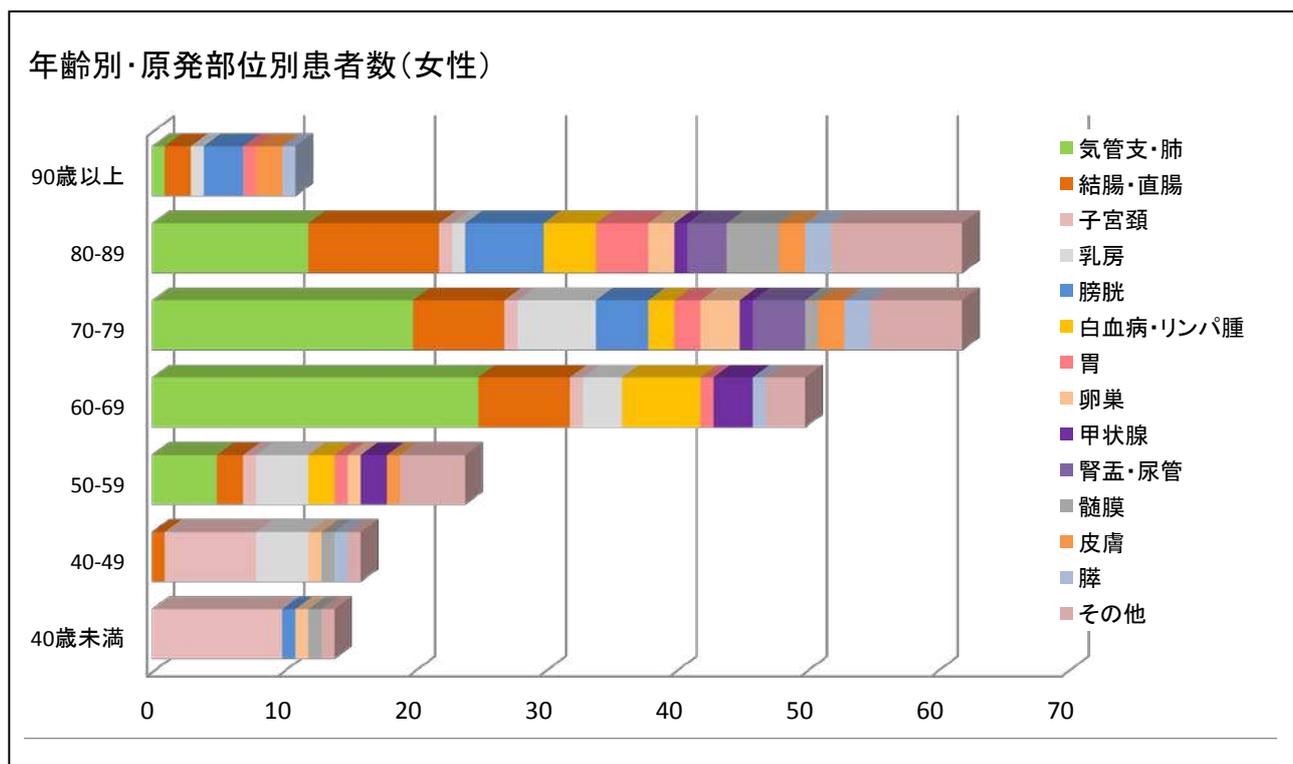
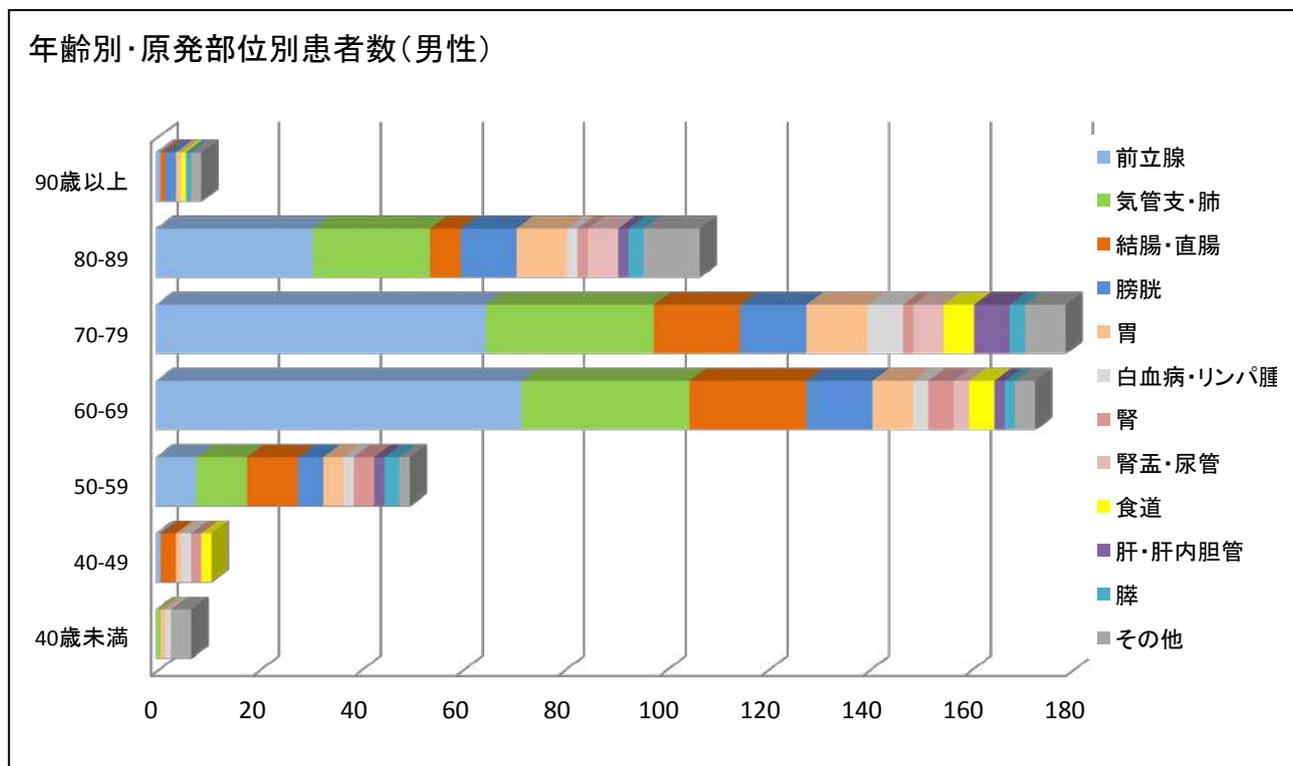
⑥ 診療科別・初回治療内容別治療数

初回治療として選択された治療内容を診療科別で示しています



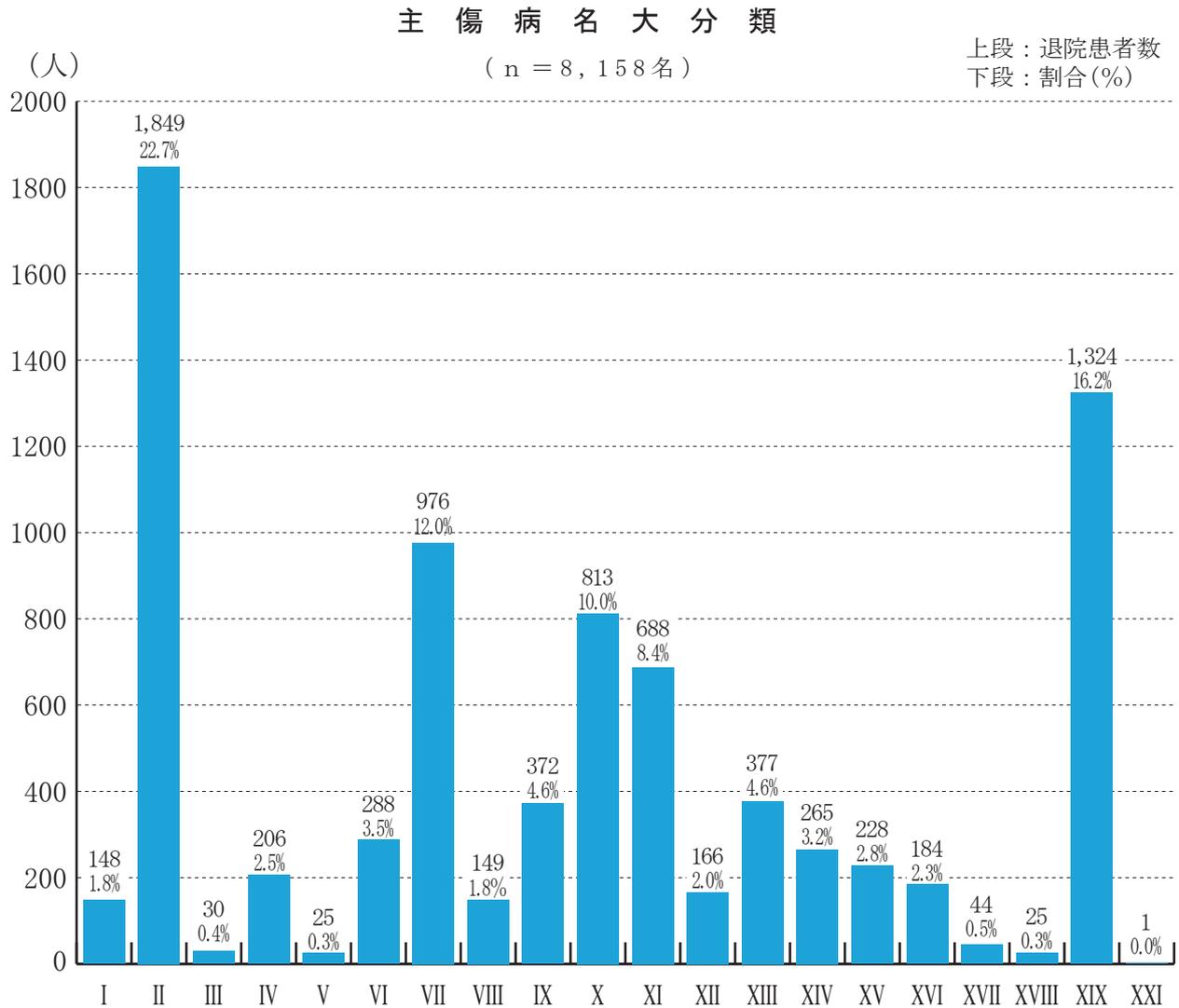
⑦性別・年齢階層別・原発部位別 患者数

どの年代でどのようながんが多いかをグラフ化しています。



8)施設基準に基づく主傷病名大分類

平成28年度 退院患者 I C D 大分類



- | | |
|--------------------------|---------------------------------------|
| I 感染症及び寄生虫症 | XII 皮膚及び皮下組織の疾患 |
| II 新生物 | XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患 |
| III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害 | XIV 腎尿路生殖器系の疾患 |
| IV 内分泌、栄養及び代謝疾患 | XV 妊娠、分娩及び産褥 |
| V 精神及び行動の障害 | XVI 周産期に発生した病態 |
| VI 神経系の疾患 | XVII 先天奇形、変形及び染色体異常 |
| VII 眼及び付属器の疾患 | XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの |
| VIII 耳及び乳様突起の疾患 | XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響 |
| IX 循環器系の疾患 | XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用 |
| X 呼吸器系の疾患 | |
| XI 消化器系の疾患 | |

平成28年度 ICD大分類・診療科別・性別・退院患者数

ICD大分類	男女合計	総数	総内	神内	呼内	消内	循内	糖	小	外科	呼外	皮	整	形	脳	泌	産	新生児	婦	眼	耳	放	麻	口腔	緩和
総数	8,158	男 4,327 女 3,831	165 184	240 240	277 157	365 223	58 63	12 11	147 123	289 189	230 128	41 33	582 641	273 208	157 139	492 103	0 219	102 85	0 227	517 523	251 169	44 22	4 0	59 136	22 8
I 感染症及び寄生虫症	148	男 82 女 66	9 10	10 5	19 15	15 10	1 -	- -	8 8	7 5	1 1	8 6	- -	- -	- -	2 -	- -	- -	- -	2 5	- -	- -	- -	1 1	- -
II 新生物	1,849	男 1,137 女 712	27 41	4 4	174 87	160 85	- 3	- -	1 -	131 102	142 71	5 2	10 5	48 52	4 4	363 47	- -	- -	- 176	- -	3 2	43 21	- -	- -	22 8
III 血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	30	男 14 女 16	6 8	3 -	2 -	2 1	1 -	- -	- -	- -	- 1	- 3	- -	- -	- -	- -	- -	- 1	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	206	男 125 女 81	7 9	15 16	1 -	1 1	2 10	18 15	1 1	3 2	- 1	2 1	2 1	1 1	1 1	- -	- -	- -	- -	62 22	- -	- -	- -	- -	- -
V 精神及び行動の障害	25	男 13 女 12	4 -	3 7	- -	2 -	1 -	- -	- -	1 1	2 3	- -	- -	- -	- 1	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
VI 神経系の疾患	288	男 162 女 126	15 4	112 93	- -	1 2	2 1	1 -	- 2	1 1	2 1	- -	8 11	4 1	10 9	1 -	- -	1 -	- -	4 -	- 1	- -	- -	- -	- -
VII 眼及び付属器の疾患	976	男 457 女 519	- -	- 1	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	6 24	- -	- -	- -	- -	- -	451 494	- -	- -	- -	- -	- -
VIII 耳及び乳様突起の疾患	149	男 62 女 87	1 2	5 20	- 1	- -	- -	- -	- -	- 1	- 1	- -	1 -	2 1	3 6	- -	- -	- -	- -	- -	50 55	- -	- -	- -	- -
IX 循環器系の疾患	372	男 194 女 178	6 13	55 46	2 1	6 2	37 39	- -	1 -	2 2	2 1	- 1	3 2	2 1	75 69	- 1	- -	1 -	- -	- -	- -	1 -	1 -	- -	- -
X 呼吸器系の疾患	813	男 485 女 328	57 52	13 11	68 44	7 7	7 8	1 -	105 93	1 -	45 15	- -	3 -	- -	- 1	- -	- -	- -	- 1	- -	177 95	- -	- -	1 1	- -
XI 消化器系の疾患	688	男 362 女 326	6 1	- 4	- 1	163 107	- 4	- 1	2 -	131 63	- 3	- -	1 -	1 4	1 -	1 2	- 1	- -	- -	- -	3 5	- -	- -	53 130	- -
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	166	男 84 女 82	6 3	2 -	1 1	- -	- -	- -	- 2	1 -	- 1	27 19	5 4	39 50	- -	1 -	- -	- -	- -	2 1	- 1	- -	- -	- -	- -
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	377	男 195 女 182	9 9	6 20	3 2	2 4	- 1	- -	1 -	- -	- 1	- -	158 128	13 16	1 -	2 -	- -	- -	- -	- -	- -	1 -	- -	- -	- -
XIV 腎尿路生殖器系の疾患	265	男 135 女 130	7 23	4 3	2 3	- 2	2 -	- 1	6 5	4 3	- -	- 1	- 1	1 -	108 50	- 1	- -	- -	- 37	- -	- -	- -	- -	- -	- -
XV 妊娠、分娩及び産褥	228	男 - 女 228	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- 216	- -	- 12	- -	- -	- -	- -	- -	- -
XVI 周産期に発生した病態	184	男 100 女 84	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	100 84	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	44	男 24 女 20	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	3 2	19 14	- 1	- 1	- -	- 1	- -	- -	2 1	- -	- -	- -	- -
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	25	男 16 女 9	1 2	3 1	1 1	- -	1 -	- -	2 2	- -	1 -	- -	- -	1 1	- -	- -	- -	- -	- -	- -	6 1	- -	- -	- -	- -
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	1,324	男 680 女 644	4 7	5 9	4 1	6 4	4 2	- -	3 -	9 8	32 24	1 1	388 487	135 42	61 46	14 2	- -	- -	- -	4 6	2 3	- -	3 -	5 2	- -
XX 健康状態に影響を及ぼす要因 および保健サービスの利用	1	男 - 女 1	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- 1	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -

9) 当院で実施しているがん検診実績

【乳がん検診】

- ◇検診項目：視触診及びマンモグラフィー検査
- ◇当院の乳がん検診対象の方
 - ・鹿児島市「いきいき受診券・乳がん検診」対象の方
 - ・下記の市町村による「無料クーポン券」事業へも参加しております。(鹿児島市・霧島市・垂水市)

受診件数

／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計／名
平成26年度	10	5	12	15	11	10	9	14	9	14	39	6	154
平成27年度	3	7	13	13	8	11	19	18	7	8	10	10	127
平成28年度	9	3	11	19	14	17	13	6	9	3	14	12	130

【子宮がん検診】

- ◇検診項目：頸部、体部検査(細胞診)※体部検査は、医師の判断により実施
- ◇当院の子宮がん検診対象の方
 - ・鹿児島市「いきいき受診券・子宮がん検診」対象の方
 - ・下記の市町村による「無料クーポン券」事業へも参加しております。(鹿児島市・霧島市・垂水市)

受診件数

／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計／名
平成26年度	11	2	13	27	12	20	16	20	14	11	22	6	174
平成27年度	9	7	19	17	4	13	18	9	11	7	15	8	137
平成28年度	14	10	15	20	7	16	12	6	17	8	8	11	144

【低線量CT肺がん検診】

- ◇当院は鹿児島県「低線量CT肺がん検診事業」へ参加しております。
- ◇当院の低線量CT肺がん検診対象の方
 - ・鹿児島県在住、50歳以上の方
 - ※肺がん治療中または肺がん疑いで経過観察中、肺がん術後の方は対象外です。

診受診件数

／月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計／名
平成26年度	5	8	2	6	5	4	2	7	9	9	57
平成27年度	10	5	0	8	7	6	5	7	7	7	62
平成28年度	13	22	9	12	14	2	4	2	3	5	86

【大腸がん検診】

- ◇検査項目：便の潜血反応検査
- ◇当院の大腸がん検診対象の方
 - ・鹿児島市「いきいき受診券・大腸がん検診」対象の方
 - ・40歳以上の方

受診件数

／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計／名
平成26年度	5	6	6	8	8	7	5	7	4	7	5	3	71
平成27年度	2	4	12	7	3	3	5	2	7	3	7	4	59
平成28年度	1	3	5	3	4	2	2	3	3	2	0	3	31

【前立腺がん検診】

- ◇検査項目：PSA(特異抗原)検査(血液検査)
- ◇当院の前立腺がん検診対象の方
 - ・鹿児島市「いきいき受診券・前立腺がん検診」対象の方
 - ・50歳、55歳、60歳、70歳になる男性

前立腺がん検診

／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計／名
平成26年度	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4
平成27年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
平成28年度	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2

2. 脳卒中 記載事項なし

3. 急性心筋梗塞 該当事項なし

4. 糖尿病

8月27日・28日 第47回鹿児島小児糖尿病サマーキャンプ

小児科医師1名・看護師3名管理栄養士1名派遣

11月15日 第9回糖尿病医療連携体制講習会

栄養管理士7名参加

1型糖尿妙家族会「さくらんぼの会昭和会支部」 指導医(年2回定例会)

小児科医師1名派遣

5. 精神疾患 該当事項なし

6. 救急医療

1) 洋上救急出動簿 平成28年度は出動要請なし

2) 離島緊急医療活動一覧

	搬送日	市町村名	症 状
1	4月22日	奄美市	左寛骨臼骨折
2	5月4日	徳之島町	切迫早産
3	8月9日	奄美市	左手指不全切断
4	8月26日	徳之島町	切迫早産
5	8月26日	西之表市	頰椎症性脊髄症
6	8月31日	屋久島町	腹腔内出血
7	10月29日	十島村	レビー小体型認知症
8	11月5日	屋久島町	外傷性腹腔内出血
9	11月6日	奄美市	外傷性第4・5頰椎破裂骨折
10	11月30日	西之表市	頰髄損傷
11	12月6日	南種子町	多発頭部外傷、多発骨折
12	12月16日	奄美市	骨盤骨折
13	12月19日	西之表市	転移性骨腫瘍
14	1月18日	徳之島町	切迫早産
15	2月23日	屋久島町	第1頰椎破裂骨折
16	3月7日	屋久島町	肝細胞癌
17	3月25日	西之表市	急性汎発性腹膜炎

3) 鹿児島市医師会休日当番医輪番担当及び夜間急病センターの全夜間輪番オンコール担当を次の様に担当し、診療活動を行った。

【休日当番医輪番】

5月3日	整形外科	5月4日	産婦人科
7月10日	内科・外科	7月24日	眼科
8月14日	皮膚科・泌尿器科	9月11日	内科・外科・産婦人科
10月2日	皮膚科・泌尿器科	12月18日	内科・外科・産婦人科・眼科
1月8日	整形外科	2月12日	皮膚科・泌尿器科
3月19日	内科・外科・産婦人科		

【全夜間輪番在宅医】

・オンコール

眼科	延15日	皮膚科	延10日	泌尿器科	延10日
整形外科	延7日	産婦人科	延12日		

・バックアップ

整形外科 延41日

4) 鹿児島市高規格救急車指示病院としての活動

※救急救命処置に対する医師の具体的な指示状況 28件

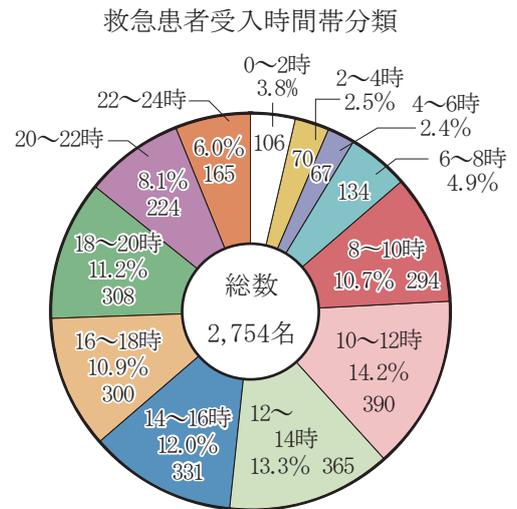
	日付	救急隊	年齢	性別	指示医師	指示要請		日付	救急隊	年齢	性別	指示医師	指示要請
1	4月12日	郡山	51	女	内村	あり	15	9月21日	吉野	73	男	中禮	あり
2	4月15日	吉野	82	男	佐藤	あり	16	10月12日	吉野	58	男	水流	あり
3	4月24日	吉野	66	男	松邨	あり	17	11月8日	吉野	65	女	立和田	あり
4	5月11日	西本署	64	男	益満	あり	18	11月16日	上町	58	女	今給黎	あり
5	5月18日	西本署	90	男	西山	あり	19	1月1日	吉野	88	女	徳永	あり
6	5月24日	桜島東	65	男	堀川	あり	20	1月15日	上町	81	男	佐藤	あり
7	5月30日	吉野	34	男	米澤	あり	21	1月25日	上町	81	女	野口	あり
8	6月26日	吉野	80	女	水流	あり	22	1月26日	伊敷	80	男	砂永	あり
9	6月28日	吉野	80	男	立和田	あり	23	2月4日	吉野	87	男	篠原	あり
10	7月5日	吉野	71	女	水流	あり	24	2月5日	上町	80	女	立和田	あり
11	7月7日	吉野	87	男	外菌	あり	25	2月10日	上町	30	男	和田	あり
12	7月24日	西本署	90	男	志岐	あり	26	3月5日	吉野	77	男	黒島	あり
13	8月19日	西本署	62	女	佐藤	あり	27	3月9日	桜島西	66	男	松岡	あり
14	8月28日	吉田	83	男	川畑	あり	28	3月30日	上町	82	女	岡田	あり

5) 年度別救急車受入台数(患者数)

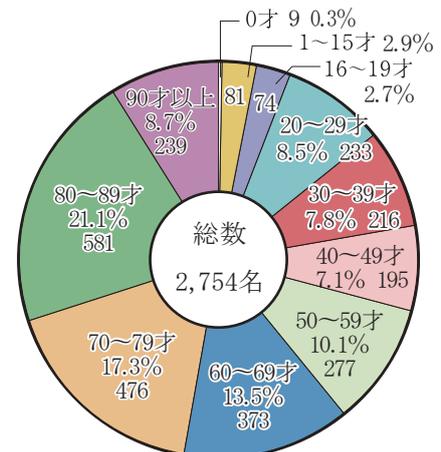
	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
4月	220 (221)	214 (220)	199 (202)	221 (224)	219 (223)
5月	219 (221)	228 (235)	213 (217)	219 (226)	205 (211)
6月	194 (195)	208 (213)	206 (209)	210 (215)	206 (206)
7月	218 (223)	247 (251)	225 (229)	209 (215)	208 (212)
8月	251 (256)	249 (253)	212 (216)	259 (264)	251 (253)
9月	217 (222)	197 (201)	224 (226)	205 (213)	224 (226)
10月	238 (242)	230 (233)	202 (205)	248 (252)	211 (211)
11月	245 (249)	224 (226)	222 (224)	213 (215)	235 (237)
12月	224 (225)	218 (223)	227 (232)	249 (253)	291 (293)
1月	214 (219)	201 (208)	244 (243)	243 (248)	259 (259)
2月	209 (210)	212 (221)	204 (209)	228 (232)	208 (209)
3月	214 (215)	209 (217)	227 (230)	251 (257)	214 (214)
合計	2,663 (2,698)	2,637 (2,701)	2,605 (2,642)	2,755 (2,814)	2,731 (2,754)
月平均	221.9 (224.8)	219.8 (225.1)	217.1 (220.2)	229.6 (234.5)	227.7 (229.5)
日平均	7.3 (7.4)	7.2 (7.4)	7.1 (7.2)	7.5 (7.7)	7.5 (7.5)
高規格救急車指示(再掲)	17	18	21	14	28

6) 平成28年度

救急患者受入時間帯・年齢別分類



救急患者年齢別分類



- 7) 県消防、防災ヘリコプターの積極的活用に係る医師搭乗システム移動病院として輪番を担当した。
- 4月2日・2日
 7月15日・16日・17日・18日・19日
 9月14日・16日・17日・18日・19日・20日
 1月24日・25日・27日・28日・29日・30日
 3月28日・29日・31日

7. 災害時における医療

1) 災害救護訓練等への参加

9月9日	多数傷病者事故対応訓練における電話連絡訓練	事務部	参加
9月9日	多数傷病者事故対応訓練実技	看護部	2名参加
11月11日	自衛消防隊消火競技会		1名参加
1月28日	原子力防災・避難施設調整システム活用訓練(電話訓練)		参加
1月28日	鹿児島県原子力防災訓練	中央放射線部	1名参加
3月11日	洋上救急完熟訓練		参加

2) 災害支援活動

【地震関連患者受入】

入院：8名(うち新生児5名)
 外来：4名



4月17日	熊本地震災害支援		看護師2名派遣
4月23日～25日	熊本地震災害支援	JMAT	医師1名・看護師2名・事務2名派遣
4月27日～29日	熊本地震災害支援	JMAT(感染対策)	看護師2名派遣
5月11日～14日	熊本災害支援	看護協会	看護師1名派遣
5月20日～23日	熊本地震災害支援	看護協会	看護師1名派遣
5月29日～6月2日	熊本地震災害支援	看護協会	看護師1名派遣
6月1日	南日本新聞社を通じて義援金	107,915円を贈る	

8. へき地医療

1) 離島看護師スキルアップ事業の一環として、診療所へ代替看護師の派遣を行った

①4月19日/5月14日～22日/21日～29日

竹島へき地診療所 看護師6名派遣

②7月4日～10日 十島村 6診療所へ

口之島/中之島/平島

悪石島/小宝島/諏訪瀬島 看護師12名派遣

③11月14日～15日 三島村 4診療所へ

竹島/硫黄島/黒島 看護師6名派遣

2) 歯科医区住民の歯科医療確保のため、歯科巡回診療者事業に歯科医師を派遣した

3月3日～6日 歯科巡回診療車事業 口永良部島 医師1名派遣

3) 鹿児島県立病院局より代診医派遣依頼によりへき地医療支援を行った

6月4日・5日・10日・13日・14日/7月26日・30日
 長島町国民健康保険鷹巣診療所 医師5名派遣

9. 周産期医療

NICU 受入	(鹿児島市立病院)	81 件
	(その他の病院)	20 件

- 11月23日 鹿児島県委託事業 小児在宅療養支援事業
第11回地域での出張もじょかくらぶ(NICU同窓会)日置地区
(日置市中央公民館)児17名・家族32名・地域関係者8名参加
医師1名・看護師6名・作業療法士1名・理学療法士1名派遣
- 1月29日 鹿児島県委託事業 小児在宅療養支援事業
第12回地域での出張もじょかくらぶ(NICU同窓会)鹿児島地区
(サンロイヤルホテル)児17名・家族32名・地域関係者15名参加
医師2名・看護師6名・作業療法士1名・理学療法士1名派遣

10. 小児(救急)医療

1) 平成28年度小児科救急車一覧表

月日	救急隊	年齢	性別	症状	担当医師	入院・外来
4月30日	霧島市	9	女	1型糖尿病性ケトアシドーシス	堀之内	入院
6月3日	吉野	14	男	熱性痙攣	玉田	入院
6月20日	桜島西	13	男	胸痛	堀之内	外来
7月7日	西本署	13	男	熱性痙攣	玉田	外来
7月30日	郡元	11	女	熱中症	上野	外来
8月5日	甲南	12	男	1型糖尿病低血糖発作	玉田	外来
10月14日	垂水市	16	男	溶連菌感染症、熱性痙攣	堀之内	入院
10月20日	西本署	11	男	熱性痙攣	上野	外来
1月11日	桜島東	15	女	てんかんの疑い	宮脇	入院
3月15日	日置市	12	女	けいれん重積	堀之内	外来

2) 学校検診関係・会議・研修会等への参加、講師派遣

- 4月26日 坂元中学校学校歯科検診実施 歯科医3名・歯科衛生士3名派遣
- 5月16日 鹿児島市子ども子育て会議 委員として育児支援活動 小児科医1名派遣
- 5月18日 鹿児島県小児科医会 監査 小児科医1名派遣
- 9月8日 南日本子ども健康セミナー「市民の育児支援のために育児相談」
鹿児島県小児保健協会・山形屋主催 小児科医1名派遣
- 9月25日 小児歯科研究会 ハイラックス友の会 歯科医1名派遣
- 1月26日 平成28年度先天性代謝異常等検査連絡協議会 委員 小児科医1名派遣
- 2月2日 西之表市学校保健研究会 歯科医1名派遣
- 2月7日 鹿児島市医師会学校医会幼稚園保育部会研修会 講演 小児科医1名派遣
- 3月12日 小児在宅医療推進事業モデル報告会 新生児内科医1名派遣
- 鹿児島子ども虐待問題研究会 会長(年6回) 小児科医1名派遣
- 鹿児島県膠原病研究会 顧問(年2回) 小児科医1名派遣
- ターナー症候群家族会「MIRAIの会」(年2回定例会) 小児科医1名参加
- 鹿児島市医師会学校腎臓病検診 委員、3次検診受入 小児科
- 鹿児島市医師会学校糖尿病検診 精査症例受入れ 小児科
- 鹿児島市医師会小児生活習慣病予防検診 精査症例受入れ 小児科
- 新生児マスククリーニング クレチン症・副腎皮質過形成症疑い精査症例受入れ 小児科

1.1. 地域医療支援病院活動報告

医師・看護師・保健師・栄養士・検査技師による、地域の医療従事者・地域住民の方を対象に、健康増進への普及を図った。

月日	演題	講師	参加者数
4月21日	アドバンス・ケア・プランニング～その人らしい意思決定支援のために～	鹿児島大学病院 緩和ケアセンター がん看護専門看護師 落合美智子	77名 外部7名
6月11日	かごんま Gyro ミーティング	—	外部40名
7月13日	職員教育講演会 「熱中症～鹿児島を襲う熱波の恐怖～」	救急科 部長 西山淳	76名
7月25日/8月16日・29日/9月2日・5日・16日	院内感染研修会 「手指衛生の重要性、感染予防と病院環境整備」	(株) エスアールエル管理本部 本社統括部 営業サポートチーム 管理薬剤師 大畑節子	全865名
8月24日	第3回定期多施設合同カンファレンス 「逝去に際しての対応に苦慮した事例～安心して最期を迎えるために医療者はどのような支援を行うべきか～」	鹿児島医療センター、県立薩南病院、相良病院、鹿児島大学病院、鹿児島厚生連病院、南風病院、今給黎総合病院	36名 外部25名
8月27日	鹿児島県内 皮膚・排泄認定看護師勉強会 「WOCに係わる平成28年度診療報酬改定について」	スリーエムジャパン (株) ヘルスカンパニー 医療用製品事業部 マネージャー 高水勝	26名 外部20名
8月31日	肺癌治療カンファレンス 「肺癌の放射線診断～基本的CT画像とCT下生検～」 「EGFR陽性肺癌に対するprecise medicine」	司会 副院長 濱之上雅博 放射線診断科 部長 銚立博文 久留米大学 呼吸器・神経・膠原病内科部門 講師 東公一	95名 外部13名
9月1日	認知症講演会 「アルツハイマー型認知症について」	神経内科 部長 長堂竜維	76名 外部1名
9月2日	第1回救急隊・今給黎総合病院 合同カンファレンス 低血糖 グルドバ (t-PA) 使用症例 胸部外傷 アナフラキシーショック プレホスピタルケアセミナー	座長 呼吸器外科 部長 米田敏 救急外来看護 師長 橋口恒夫 救急科研修医 今村研介 呼吸器外科 科長 今給黎尚幸 救急科 部長 西山淳 脳神経外科 科長 松邨宏之	142名 救急隊108名
10月6日	市民公開講座 「がん患者さんとの接し方～意思決定支援を含めて～」	緩和医療科 部長 小玉哲史	102名 外部29名
10月17日	鹿児島外傷セミナー 「四肢外傷治療～最近のトピックス～」	琉球大学大学院医学研究科医学専攻 整形外科講座 教授 金谷文則	78名 外部37名
10月26日	がん免疫療法診療連携カンファレンス 「ニボルマブ適正使用における薬剤師の取り組み」 「進行非小細胞肺癌治療におけるニボルマブの実践」	九州大学病院 薬剤部 がん専門薬剤師 秦晃二郎 九州大学病院 呼吸器科 診療准教授 岡本勇	118名 外部20名
11月5日 1月13日・17日・18日・20日・25日	医療安全研修会 「5Sと医療現場への応用～テルモ株式会社 富士宮工場の5S活動～」	テルモ株式会社富士宮工場 管理部 TIM 推進室 室長 吉良憲輔	全669名

11月16日	WLB 委員会・労働安全衛生委員会共催 「信頼関係を築くアンガーマネジメント」	AE メディカル鹿児島支社長 田之頭智子	165名 外部4名
11月19日	鹿児島診療情報管理研究会セミナー	東北大学大学院医学系研究科 医療管理学分野 藤森研司	9名 外部72名
11月30日	放射線安全管理研修会	(株)千代田テクノル 線量計測事業 部 線量計測技術課 狩野好延	50名
12月13日・16 日・20日・28 日・29日	感染対策研修会 「麻疹、風疹、ムンプスの感染防 止対策」	鹿児島大学病院 感染抑制部門 副部門長 准教授 徳田浩一	全857名 外部5名
12月19日	抗血栓療法勉強会 「高齢者心房細動における抗凝 固療法」 「抗血栓療法のトータルマネジ メント」	循環器内科科長 志岐健三郎 鹿児島市立病院 循環器内科 下川 原裕人	71名 外部5名
1月27日	地域支援病院・がん連携拠点病院事業 講演会「メディポリスにおける陽子線 治療について」	メディポリス国際陽子線治療センタ ー センター長代理 萩野尚	48名 外部8名
2月4日	鹿児島診療情報管理研究会 A・北薩 ブロック会 意見交換会	—	6名 外部24名
2月8日	静脈血栓塞栓症カンファレンス 「整形外科術前後のDVTの診断 と一次予防」 「静脈血栓塞栓症のトータルケ アー予防から診断・治療まで」	整形外科 岡田拓巳 岡玉医療センター 循環器内科 下 川原裕人	71名 外部5名
2月17日3月 10日・17日23 日・29日・31 日	医療安全研修会 「ワークで学ぼう みんなの SBAR～報告・連絡のための コミュニケーションスキル～」	東京海上日動メディカルサービス株 式会社 メディカルマネジメント室 玉利英子	全804名

1.2. 平成28年度クオリティインディケーター(入院・救急・手術・紹介に関する指標)

H28	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H29.1月	2月	3月	合計	平均
平均在院日数(日)	7対1入院基本料条件 → 18日以内 (3ヶ月平均)													
調整後	16.5	16.7	15.8	16.0	15.5	16.2	17.3	15.7	16.2	17.9	16.9	16.8		16.5
未調整	16.7	17.7	15.8	16.6	16.6	16.7	17.4	16.5	16.9	18.4	17.2	17.2		17.0
3ヶ月平均	16.4	16.2	16.3	16.1	15.8	15.9	16.3	16.4	16.4	16.6	17.0	17.2		16.4
入院・退院患者(人) / 病床稼働率(%)														
入院患者数(人)	661	632	697	694	705	660	685	701	677	701	640	714	8,167	681
退院患者数(人)	691	624	692	697	688	663	662	683	767	585	682	724	8,158	680
稼働率(%)	83.6	79.6	81.5	82.7	82.9	82.0	84.0	84.6	87.6	85.0	90.3	88.7		84.1
医療・看護必要度(%)	7対1入院基本料条件 → 25%以上 (H28.4月より)													
重症患者割合(～H28.3月)	16.9	21.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		19.3
重症患者割合(H28.4月～)	23.1	26.4	28.9	28.8	29.1	27.2	28.9	29.9	30.7	29.9	31.0	31.3		28.8
在宅復帰率(%)	7対1入院基本料条件 → 80%以上 (H28.4月より)、75%以上 (H28.3月まで)													
自宅等復帰割合	93.2	90.5	90.9	92.3	89.3	92.1	91.9	93.1	91.9	90.6	92.7	91.2		91.6
救急科(受入)実績	() 内は入院数													
救急車台数(台)	219	205	206	208	251	224	211	235	291	259	208	214	2,731	228
搬送者数(人)	223	211	206	212	253	226	211	237	293	259	209	214	2,754	230
入院	114	105	112	116	142	124	111	119	165	154	121	129	1,512	126
外来	104	106	94	96	111	102	101	118	128	105	88	85	1,238	103
入院率	51.1%	49.8%	54.4%	54.7%	56.1%	54.9%	52.6%	50.2%	56.3%	59.5%	57.9%	60.3%		54.8%
ドクターヘリ搬送(件)	4	1	1	3	9	5	6	13	5	2	2	4	55	5
ドクターカー搬送(件)	7	2	8	5	6	2	6	2	7	1	3	8	57	5
洋上救急件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
紹介患者	44 (43)	32 (30)	36 (36)	26 (25)	41 (40)	43 (41)	44 (44)	44 (42)	59 (54)	55 (53)	31 (30)	29 (26)	484 (464)	40 (39)
交通事故患者	34 (14)	34 (8)	25 (9)	40 (23)	37 (14)	39 (10)	34 (14)	36 (11)	51 (13)	25 (10)	31 (12)	26 (11)	412 (149)	34 (12)
外傷患者	56 (24)	53 (30)	52 (27)	43 (22)	52 (26)	58 (27)	69 (26)	78 (41)	85 (53)	77 (46)	60 (33)	72 (37)	755 (392)	63 (33)
急病患者	86 (35)	92 (37)	93 (40)	103 (46)	123 (62)	86 (46)	65 (27)	79 (25)	98 (45)	102 (45)	87 (46)	87 (55)	1,101 (509)	92 (42)
CPA (心肺停止) 件数	5	7	3	4	3	4	4	1	1	5	4	5	46	4
t-PA (超急性期脳卒中) 件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
手術件数(件)	343	301	394	335	347	330	364	388	378	339	355	383	4,257	355
手術件数	※地域医療支援病院計算式に準ずる(紹介率50%、逆紹介率70%が当院の基準)													
初診・紹介・逆紹介患者数/紹介・逆紹介率														
初診患者数(人)	663	753	726	877	846	766	857	722	895	864	711	804	9,484	790
紹介患者数(人)	261	286	316	305	314	314	321	299	302	279	248	289	3,534	295
逆紹介患者数(人)	461	433	511	510	537	478	464	498	533	418	439	574	5,856	488
紹介率	69.6%	72.2%	65.6%	61.9%	69.0%	78.1%	64.8%	72.9%	77.8%	67.2%	63.9%	64.5%		68.7%
逆紹介率	122.9%	109.3%	106.0%	103.4%	118.0%	118.9%	93.7%	121.5%	137.4%	100.7%	113.1%	128.1%		113.8%

今給黎総合病院における施設基準に基づく手術実施件数等について

※手術の施設基準に基づき、平成 28 年(2016 年)の 1 年間に実施した手術名、手術件数

手術区分	手術名	手術件数
区分 1	頭蓋内腫瘍摘出手術等	12 件
区分 1	黄斑下手術等	112 件
区分 1	鼓室形成手術等	6 件
区分 1	肺悪性腫瘍手術等	83 件
区分 2	靭帯断裂形成手術等	6 件
区分 2	水頭症手術等	27 件
区分 2	鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等	0 件
区分 2	尿道形成手術等	3 件
区分 2	角膜移植術	0 件
区分 2	肝切除術等	16 件
区分 2	子宮付属器悪性腫瘍手術等	4 件
区分 3	上顎骨形成術等	17 件
区分 3	上顎骨悪性腫瘍手術等	0 件
区分 3	バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)	0 件
区分 3	母指化手術等	9 件
区分 3	内反足手術等	0 件
区分 3	食道切除再建術等	1 件
区分 4	胸腔鏡下及び腹腔鏡下手術等	227 件
その他の区分	人工関節置換術	42 件
その他の区分	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	5 件

入院患者に関する年度別実績

※計算方法・・・地域医療支援病院による

	H26 年度	H27 年度	H28 年度
平均在院日数(日)	17.2	16.0	16.4
病床利用率(%)	82.9	81.6	84.1

年度別手術症例数

	H26 年度	H27 年度	H28 年度
手術症例数(件)	4,472	4,197	4,257

年度別紹介率

	H26 年度(地域支援)	H27 年度(地域支援)	H28 年度(地域支援)
紹介率(%)	62.4	67.6	68.7

年度別逆紹介率

	H26 年度(地域支援)	H27 年度(地域支援)	H28 年度(地域支援)
逆紹介率(%)	97.6	116.8	113.8

13. 初期臨床研修病院実績

初期(卒後)臨床研修病院として、次の通り研修医を受け入れ、指導教育を行った。

- 基幹型研修医 ・ H28年4月～H29年3月 9名
(救急科、消化器内科、神経内科、循環器内科、呼吸器内科、外科、呼吸器外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、産婦人科、麻酔科、小児科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、在宅診療科)
- 協力型研修医 ・ H28年4月～5月 1名 (整形外科)
 ・ H28年4月～6月 1名 (外科、総合内科)
 ・ H28年4月～10月 2名 (麻酔科、産婦人科、呼吸器内科、放射線科、皮膚科、消化器内科、外科、)
 ・ H28年11月～H29年1月 1名 (救急科、麻酔科)
 ・ H29年1月～3月 1名 (呼吸器内科、神経内科、小児科)

初期臨床研修関連事業

日付	事業名称	参加者	会場	主催
6/13	「平成28年度第1回鹿児島県初期臨床研修連絡協議会担当者会議」	2名	県庁	県初期臨床研修連絡協議会
6/29	「平成28年度第1回鹿児島県初期臨床研修連絡協議会」	1名	県庁	県初期臨床研修連絡協議会
7/8	「平成28年度第1回臨床研修病院合同説明会」	7名	鹿児島大学医学部	県初期臨床研修連絡協議会
8/18	「鹿児島県臨床研修病院見学ツアー事業(Aコース)」	—	県内11病院	県初期臨床研修連絡協議会
8/19	「平成28年度第2回臨床研修病院合同説明会」	5名	サンプラザ天文館	県初期臨床研修連絡協議会
9/10	「第14回鹿児島県臨床研修医合同研修会」(松岡研修医が症例発表)	11名	県市町村自治会館	県初期臨床研修連絡協議会
10/10	「eレジフェア2016 in 福岡」	6名	福岡国際会議場	リンクスタッフ
11/4～6	「第134回臨床研修指導医講習会」(高木部長修了)	1名	東京都都市センターホテル	全国自治体病院協議会
11/19・20	「第7回臨床研修指導医養成講習会」(林部長修了)	1名	鹿児島大学病院総合臨床研修センター	県初期臨床研修連絡協議会
11/25	「平成28年度第2回鹿児島県初期臨床研修連絡協議会担当者会議」	3名	宝山ホール	県初期臨床研修連絡協議会
12/19	「平成28年度第2回鹿児島県初期臨床研修連絡協議会」	1名	県庁	県初期臨床研修連絡協議会
1/7	「第15回鹿児島県臨床研修医合同研修会」(宮脇研修医が発表)	8名	県市町村自治会館	県初期臨床研修連絡協議会
2/4・5	「第28回指導医のための教育ワークショップ」(宮口部長修了)	1名	晴海グランドホテル	日本医師会
3/5	「レジナビフェア2017 in 福岡」	8名	マリンメッセ	民間医局

(その他)

平成30年度プログラム(臨床研修プログラム昭和会)：平成29年度からの変更点なし

(研修歯科医)

鹿児島大学病院歯科医師臨床研修プログラム研修協力施設として、次の通り研修歯科医を受け入れ、指導教育を行った。

- 平成28年6月～平成29年2月 週1回(毎週火曜日)
- 大学病院歯科医療(A)・大学病院歯科医療(B)・地域歯科医療プログラムの研修歯科医を1名ずつ、計28回

(医学部医学科病院見学者)

次の通り、医学部医学科4～6年 病院見学者26名（鹿児島大学5名、県外大学21名 [内、鹿児島出身者14名]）を受け入れた。

5月2日	東北大学医学部医学科6年生	1名	12月27日	久留米大学医学部医学科5年生	1名
5月12日	鹿児島大学医学部医学科6年生	1名	2月7日	旭川医科大学医学部医学科5年生	1名
6月15日	鹿児島大学医学部医学科6年生	1名	3月6日～10日	福岡大学医学部医学科4年生	1名
6月28日	香川大学医学部医学科6年生	1名	3月8日	山形大学医学部医学科5年生	2名
7月4日	産業医科大学医学部医学科6年生	1名	3月10日	岩手医科大学医学部医学科5年生	1名
7月5日	鹿児島大学医学部医学科6年生	1名	3月17日	香川大学医学部医学科5年生	1名
8月8日	鹿児島大学医学部医学科5年生	1名	3月21日	宮崎大学医学部医学科5年生	1名
8月9日～10日	福岡大学医学部医学科5年生	1名	3月22日	久留米大学医学部医学科4年生	1名
8月12日	福岡大学医学部医学科5年生	1名	3月22日	産業医科大学医学部医学科5年生	2名
8月17日	鹿児島大学医学部医学科5年生	1名	3月22日	産業医科大学医学部医学科4年生	1名
12月12日	岐阜大学医学部医学科5年生	1名	3月29日	金沢医科大学医学部医学科5年生	1名
12月27日	産業医科大学医学部医学科5年生	1名	3月29日～30日	長崎大学医学部医学科4年生	1名

1 4. 各学校より実習病院の指定を受け、次の通り実習生を受け入れ、医学、看護、理学・作業・言語聴覚療法、放射線、事務等に関する実習指導を行った。

【医師】

鹿児島大学医学部医学科 6 年臨床医学学外実習		
外科	4 月 28 日～5 月 30 日	1 名
鹿児島大学医学部医学科 6 年臨床医学学外実習		
外科	4 月 28 日～5 月 30 日	1 名
鹿児島大学医学部医学科 5 年学外臨床実習(ポリクリ)		
耳鼻咽喉科	毎週火曜日	各 1～2 名
鹿児島大学医学部医学科 5 年学外臨床実習(ポリクリ)		
外科	毎週水曜日・隔週金曜日	各 1～2 名
鹿児島大学医学部医学科 5 年学外臨床実習(ポリクリ)		
整形外科	隔週水曜日	各 1～2 名
鹿児島大学医学部医学科 5 年学外臨床実習(ポリクリ)		
呼吸器外科	不定期	各 1 名
鹿児島大学医学部医学科 4 年シャドウイング		
呼吸器内科	4 月 22 日 / 5 月 27 日 / 6 月 10 日 / 7 月 8 日	(各 1 名の 4 名)
鹿児島大学医学部医学科 4 年シャドウイング		
神経内科	4 月 22 日 / 6 月 17 日・24 日 / 7 月 8 日・22 日	(各 1 名の 5 名)
鹿児島大学医学部医学科 4 年シャドウイング		
呼吸器外科	4 月 8 日・22 日 / 6 月 24 日 / 7 月 8 日・29 日	(各 1 名の 5 名)
鹿児島大学医学部医学科 3 年生シャドウイング		
呼吸器内科	10 月 21 日 / 11 月 4 日・8 日	(各 1 名の 3 名)
鹿児島大学医学部医学科 3 年生シャドウイング		
呼吸器外科	10 月 7 日 / 11 月 4 日・18 日 / 12 月 2 日	(各 1 名の 4 名)
鹿児島大学医学部医学科 3 年生シャドウイング		
脳神経外科	10 月 21 日 / 11 月 18 日 / 12 月 2 日	(各 1 名の 3 名)
鹿児島大学医学部医学科 3 年生シャドウイング		
神経内科	10 月 7 日 / 11 月 4 日・18 日 / 12 月 2 日	(各 1 名の 4 名)

【看護部】

久木田学園看護専門学校	1 年生 39 名・2 年生 84 名・3 年生	200 名
神村専修学校	1 年生 40 名・2 年生 16 名・3 年生	65 名
神村学園高等部	1 年生 42 名・2 年生	99 名

医療法人協会立看護専門学校	1年生5名・2年生5名・3年生	6名
鹿児島看護専門学校	1年生19名・2年生	36名
鹿児島医療技術専門学校	1年生5名・3年生	13名
鹿児島中央看護専門学校(通信)	2年生	40名
タラ看護専門学校	2年生	29名
龍桜高等学校専門課程	2年生	53名

【リハビリテーション部】

4月11日～6月18日	神村学園専修学校 臨床実習(理学療法学)	1名
5月11日～7月1日	熊本保健科学大学 長期実習Ⅱ(作業療法学)	1名
5月9日～7月2日	九州看護保健福祉大学臨床実習ⅢA(理学療法学)	1名
5月11日～7月9日	沖縄リハビリテーション福祉学院 長期臨床実習(作業療法学)	1名
5月9日～7月15日	鹿児島医療技術専門学校 臨床実習Ⅳ(理学療法学)	2名
5月9日～7月16日	鹿児島医療福祉専門学校 長期臨床実習(理学療法学)	2名
6月13日～8月6日	神村学園専修学校 臨床実習(作業療法学)	1名
7月9日～9月16日	鹿児島大学 第4学年臨床実習(理学療法学)	1名
7月25日～7月30日	鹿児島医療福祉専門学校 臨床検査測定実習(理学療法学)	1名
8月22日～9月9日	福岡リハビリテーション専門学校 評価実習(理学療法学)	1名
11月28日～12月17日	九州看護福祉大学 臨床実習ⅠB(理学療法学)	1名
1月10日～2月4日	帝京大学 福岡医療技術学部 臨床実習Ⅱ	1名
1月10日～3月2日	福岡リハビリテーション専門学校 長期実習(理学療法学)	1名
1月23日～1月27日	鹿児島医療技術専門学校 臨床見学実習(作業療法学)	2名
1月23日～2月27日	鹿児島医療技術専門学校 臨床見学実習(理学療法学)	1名
1月30日～2月3日	鹿児島医療技術専門学校 臨床見学実習(作業療法学)	2名
2月20日～2月24日	鹿児島医療技術専門学校 臨床見学実習(理学療法学)	1名

【中央放射線部】

6月6日～7月29日	鹿児島医療技術専門学校診療放射線学科4年	2名
9月5日～30日	鹿児島医療技術専門学校診療放射線学科4年	2名
10月3日～28日	鹿児島医療技術専門学校診療放射線学科3年	2名

【病理部】

3月14日	熊本保健科学大学 医学検査学科3年	3名
-------	-------------------	----

【薬剤部】

5月9日～7月22日	九州保健福祉大学薬学部5年 長期実務実習	2名
9月5日～11月18日	九州保健福祉大学薬学部5年 長期実務実習	2名

【栄養管理部】

8月17日～30日	鹿児島県立短期大学生活科学科食物栄養専攻 臨地・校外実習(病院給食実習)	1名
-----------	---	----

【在宅医療部】

4月11日～9月15日	久木田学園看護専門学校3年	9名
7月25日～8月25日	鹿児島中央看護専門学校2年課程(通信制)看護科	24名
	神村学園高等部看護学科専門課程5年生	20名

【事務部】

	鹿児島キャリアデザイン専門学校	2名
5月12日	吉田南中学校3年 職場体験	1名
8月22日～26日	鹿児島情報ビジネス専門学校医療秘書科2年 病院実習	1名
11月10日	東高校3年 インターシップ研修	2名
2月3日	明桜館高等学校商業科2年 インターシップ研修	1名

2月14日・15日	KCS 鹿児島情報専門学校 職場体験	1名
2月16日	樟南高等学校 職場体験	2名
3月14日・15日	吹上高等技術専門学校 職場体験	4名

15. 視察・研修・見学（社会人の個人、団体、および学生）の受入

【看護部】

5月10日～12日	吉田中学校 職場体験（外来・クリニック）	1名
5月24日	タラ看護専門学校 実習指導教員研修	1名
5月24日	鹿児島大学病院NICU 見学	
	平成28年度鹿児島医療人育成プラン地域施設見学研修	1名
6月7日	神村学園専修学校 看護教員研修	3名
7月29日	神村学園高等部看護学科専門課程 看護教員研修	3名
8月12日	鹿児島医療技術専門学校 看護教員研修	1名
11月2日	看護協会 第3回鹿児島地区再就業支援セミナー 見学	2名
11月7日～10日	鹿児島医療技術専門学校 看護教員教育実習	1名
11月8日～11日	鹿児島県立鹿児島東高校 職場体験（外来・病棟）	4名
12月22日	鹿児島大学病院NICU	
	平成28年度鹿児島医療人育成プラン地域施設見学研修	1名
2月14日～16日	樟南高校 職場体験（外来・クリニック）	4名
2月23日・24日／3月16日	鹿児島県医師会 病児保育施設訪問	
3月7日・23日	医療法人 青仁会 池田病院 施設見学（電子カルテ）	13名

【中央放射線部】

9月3日～31日	児玉整形外科 MRI実習（クリニックMRI室）	2名
9月6日	相良病院 MRI実習（クリニックMRI室）	1名
11月9日	東高校インターシップ研修（中央放射線部）	4名
3月1日	茨木県立医療保健大学保健医療学部3年 施設見学	1名

【中央臨床検査部】

3月14日～17日	熊本保健科学大学医学検査学科	3名
-----------	----------------	----

【薬剤部】

4月1日	大阪薬科大学6年生	1名
4月6日	福岡大学6年生	1名
4月12日	長崎国際大学6年生	2名
4月23日	福岡大学6年生	1名
5月2日	福岡大学6年生	1名
6月16日	武庫川女子大学6年生	1名
8月3日	鹿児島県立松陽高校3年生	1名
8月5日	鹿児島純心女子高校3年生	1名
8月5日	志学館高校2年生	2名
12月22日	近畿大学5年生	1名
3月10日	熊本大学5年生	1名
3月15日	福岡大学5年生	4名
3月23日	福岡大学5年生	2名

【栄養管理部】

9月12日～19日	児童養護施設 大村報徳学園 職場体験	1名
11月10日	鹿児島県立東高校	
12月8日・9日・15日・16日	授産施設ワークステージつばさ 職場体験（洗浄業務）	4名
2月16日	鹿児島私立樟南高校 職場体験	4名

3月7日 医療法人 青仁会池田病院 電子カルテシステム見学 1名

【事務部】

1月10日 松原徳洲会病院・宇治徳洲会病院 電子カルテ歯科システム見学 4名
3月7日 医療法人青仁会 池田病院 電子カルテシステム見学 9名
3月23日 医療法人青仁会 池田病院 電子カルテシステム見学 5名

【消防・救命士】

10月17日～24日／12月12日～19日／2月13日～2月20日
救急救命士病院実習 鹿児島市消防局 各1名
4月25日～5月13日 救急救命士従業前病院実習 鹿児島市消防局 2名
6月9日・10日 鹿児島県消防学校 病院実習 2名
9月5日～10月7日 公務員ビジネス専門学校 病院実習 4名
1月23日～2月3日 (一財)救急振興財団 救急救命九州研修所 病院実習 2名

16. 文化活動・スポーツ事業活動・ボランティア活動

【医師】

11月19日 公認スポーツデンティスト養成講習会 1名派遣
3月5日 鹿児島マラソン2016 救護班 1名派遣

【看護部】

4月10日 おごじょプロジェクト「2016 LOVE」子宮の日啓発活動 2名派遣
9月3日 平成28年度「まちの保健室」 1名派遣
9月17日 平成28年度第70回県民体育大会 応援要請 1名派遣
9月24日 出会い・ふれあい企業対抗運動会 10名派遣
11月11日 全九州総合バスケットボール選手権大会 役員・審判員 1名派遣
1月29日 鹿児島マラソン2017 ボランティア 1名派遣
3月5日 鹿児島マラソン2017 救護班 5名派遣

【リハビリテーション部】

10月2日～4日 国民体育大会 なぎなた 監督 1名派遣

【中央放射線部】

5月14日 つながる想いinかごしま 1名派遣
10月3日 鹿児島市役所ピンクリボンツリー設置 1名派遣
10月23日 ピンクリボンinかごしま 2名派遣
NTRT全国X線撮影技術読影研究会 ボランティアスタッフ委嘱 3名派遣

【栄養管理部】

5月14日 つながる想いinかごしま～がんとともに生きる～ 1名参加
10月23日 第33回市民健康まつり 2名派遣

【病理部】

4月10日 子宮の日キャンペーン 実行委員長・委員 2名派遣

【事務部】

9月17日・18日 鹿児島県体育大会 選手派遣 1名派遣

17. 医学・看護学校等の学業教諭として、大学・高校・専門学校等へ講師を定期的に派遣した。

【医師】

鹿児島歯科学院専門学校 歯科技工士科 非常勤講師	歯科 鎌田ユミ子
鹿児島大学医学部3年生「内分泌系構造と機能」合計4回	神経内科 長堂竜維
鹿児島中央看護中央専門学校 講師	新生児内科 丸山有子
鹿児島大学小児科 非常勤講師	小児科 玉田泉
4月～9月 鹿児島大学医学部 非常勤講師委嘱	呼吸器内科 川島寿史
5月20日・30日／1月20日・30日 鹿児島県消防学校 講師	救急科 西山淳
4月26日 タラ看護専門学校	新生児内科 丸山有子

久木田学園看護専門学校 非常勤講師一覧表

	授業科目	時間数	講師氏名
病態学Ⅰ	骨格系・筋系	15	松永俊二
病態学Ⅱ	呼吸器系	20	川島寿史
	血液・造血器系	10	小濱浩介
病態学Ⅲ	消化器系	10	吉永英希
	腎泌尿器系	10	米澤智一
	女性生殖器系	10	加藤明彦
	内分泌系・免疫系	8	生野博久
病態学Ⅳ	脳神経系	10	長堂竜維
	眼系	7	高橋範雅
	耳鼻咽喉系	8	昇卓夫
	皮膚系	5	島中美帆
小児疾病論		30	堀之内兼一
周産期及び新生児の生理と異常		30	加藤明彦
保健医療論		15	昇卓夫

【看護部】

久木田学園看護専門学校 講師	橋口恒夫・芝こずえ・河原尚美・近藤ひとみ・立石桂子
4月26日 タラ看護専門学校 講師	NICU病棟 古川秀子
12月1日・15日 龍桜高等学校看護学科専門課程 講師	3階西病棟 河原尚美
3月15日 鹿児島中央看護専門学校3年課程看護科 講師	NICU病棟 古川秀子

【中央放射線部】

1月18日・25日／2月1日 鹿児島医療技術専門学校 診療画像技術学（MRI検査講師） 浮田啓一郎

【中央放射線部】

1月18日 鹿児島キャリアデザイン専門学校 「DPCについて」講師 畑中幸子

18. 主な公的会議・研修会への参加、講師派遣

【医師】

鹿児島生協病院 研修管理委員会 外部委員	1名派遣
鹿児島市学校腎臓検診会議(年5回)	1名参加
6月7日 鹿児島大学 手術指導 講師	1名派遣
6月10日・13日 救急隊員症例検討会	1名派遣
6月13日 日本製薬社内講演会「電機製検査と神経疾患」講演	1名派遣
10月24日 協和発酵キリン社内講演会「パーキンソン病の病態と治療」講演	1名派遣
10月27日 鹿児島県新規採用養護教諭研修会 講演	1名派遣
11月10日・29日／12月13日・27日／1月10日・24日／2月2日・7日・21日／3月7日・14日	
鹿児島大学病院 整形外科手術指導 講師	1名派遣
1月6日 鹿児島大学病院 形成外科手術指導 講師	1名派遣
1月26日 薩摩地域救急業務高度化協議会	1名派遣
2月7日 鹿児島市医師会幼稚園・保育園部会研修会	1名派遣
2月15日 第37回鹿児島CT研究会 「肺癌の放射線診断～基本的CT画像とCT下生検～」講演	1名派遣
2月18日・19日 産婦人科レビュー・コース 講師	1名派遣
3月3日 南九州地区洋上救急支援協議会連絡調整会	1名派遣
3月11日 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 歯科医師臨床研修管理委員会	1名参加
10月6日 鹿児島大学病院 形成外科手術指導講師	2名派遣

【看護部】

5月31日 鹿児島医療センター附属鹿児島看護学校 講師会議	1名派遣
6月・9月・12月・3月(年4回)	
鹿児島県ドクターヘリ運航調整委員会事後検証部会	各2名参加
6月18日 第10回SSみやざき特別講演会 司会	1名派遣
10月29日 久木田看護専門学校 学園祭 講演	1名派遣
11月18日 鹿児島大学病院 NICU NICU退院支援 講演	1名派遣
11月19日 災害支援ナースのフォローアップ研修会 講師	1名派遣
1月30日 鹿児島厚生連病院 講師	1名派遣
2月16日 大隅地域周産期医療看護関係者研究会	1名参加
3月4日 第42回公益財団法人全国助産師教育協議会研修会 講師	1名派遣

【中央放射線部】

6月18日 九州国立病院機構 第2回MRIセミナー MRI検査講師	1名派遣
6月19日 鹿児島県診療放射線技師会春季学術大会シンポジウム MRI検査講師	1名派遣
7月31日 九州MRI Gyroミーティング MRI検査講師	1名派遣
8月31日 第22回乳がん検診研修会	4名参加
10月14日 低線量CT肺がん検診研修会	4名参加
3月14日 H28年度乳がん検診研修会	4名参加
3月17日 第3回乳がん検診従事者研修会	4名参加

【リハビリテーション部】

8月3日 出水総合医療センター 院内研修会 講師	1名派遣
9月25日 鹿児島大学病院 院内研修会 講師	1名派遣

【医療安全管理課】

5月21日 鹿児島県看護協会 平成28年度通常総会 書記	1名派遣
6月11日 鹿児島県看護協会 平成28年度鹿児島地区集会 医療安全情報ネットワーク委員	1名派遣
6月17日／11月25日／2月24日 鹿児島県鹿児島地区評議員会	1名派遣
7月19日 済生会鹿児島病院全職員対象医療安全研修会 講師	1名派遣
7月28日／10月27日／12月22日 鹿児島地区医療安全情報ネットワーク会議	1名派遣

8月27日／1月28日	鹿児島県医療安全情報ネットワーク会議	1名派遣
2月10日	鹿児島県看護協会医療安全研修会 鹿児島地区医療安全管理担当者 医療安全推進に向けた取り組みの実際 「計画停電による電気設備点検への対応」発表	1名派遣

【感染管理課】

5月13日／7月15日／11月11日	日本感染管理ベストプラクティス Saizen 研究会 アドバイザー	1名派遣
7月30日	鹿児島県看護協会鹿児島地区研修「感染対策」講師	
6月15日	社会福祉法人 厚生会 介護老人福祉施設睦園 園内研修 講師	1名派遣
8月19日	鹿児島市感染症講演会	1名参加
12月16日	第36回九州ブロックエイズ拠点病院研修	1名参加
2月16日	鹿児島県医師会医療関連感染対策研修会	1名参加

【褥瘡管理課】

5月27日	社会福祉法人 厚生会 介護老人福祉施設 睦園 「褥瘡に関する基礎知識と予防対策」	3名派遣
7月16日	ダンサック ストーマケアセミナー 「装具選択のポイント」「ノバライフ1フィットの症例報告」講師	2名派遣
12月17日	オストメイトと家族のつどい 公開講座 「ストーマケアの基本倫理と実践」 実技指導	1名派遣

【臨床工学部】

12月5日	九州保健福祉大学 講師	1名派遣
2月19日	熊本赤十字病院 講師	1名派遣

【薬剤部】

4月20日／7月20日／10月19日／1月18日	薬薬連携会議	4名参加
5月18日／8月17日／11月16日／2月22日	がん化学療法薬薬連携研修会	15名参加

【栄養管理部】

9月6日・7日・29日	平成28年度給食施設従事者研修会	4名参加
10月22日	鹿児島県栄養士会自主勉協会	2名参加
11月18日	鹿児島NSTセミナー	4名参加
11月27日	第10回県民公開講座～高血圧予防と食生活～	2名派遣
1月15日	平成28年度在宅歯科医療人材育成事業 摂食・嚥下食支援研修会 「摂食嚥下障害の基本・有病高齢者の歯科治療と食支援」	1名派遣
2月11日	平成28年度公益社団法人鹿児島県栄養士会第4回研修会	4名派遣
3月18日	鹿児島県在宅褥瘡セミナー 講師	1名派遣

【事務部】

6月3日	鹿児島県介護支援専門員協議会 日置支部総会・研修会 講師	1名参加
6月23日	第1回鹿児島県院内がん登録研修会	4名参加
6月23日	第1回鹿児島診療情報管理研究会セミナー	4名参加
7月30日	鹿児島県がん診療連携拠点病院事業 第1回四部門合同研修会	1名派遣
7月30日	第2回鹿児島県院内がん登録研修会	1名参加
8月10日	南九州地区洋上救急支援協議会	1名派遣
8月20日	鹿児島県院内がん登録部会	1名派遣
10月14日	がん相談員研修会 鹿児島大学病院	1名派遣
11月18日	鹿児島診療情報管理研究会セミナー	4名参加
11月26日～27日	第3回鹿児島県院内がん登録研修会	2名参加
12月27日	第4回鹿児島県院内がん登録研修会	2名参加
2月25日～26日	第5回鹿児島県院内がん登録研修会	1名参加

3月11日	鹿児島県がん診療連携拠点病院事業	第2回四部門合同研修会	4名参加
3月11日	第6回鹿児島県院内がん登録研修会		4名参加
3月11日	エマルゴ研修会		1名参加
	へき地医療支援機構運営委員会		2名派遣

19. 入院患者不在者投票

4月17日	鹿児島市議会議員選挙	25名実施
7月10日	第24回衆議院議員通常選挙及び鹿児島県知事選挙	26名実施
11月27日	鹿児島市長選挙	14名実施

20. その他の活動報告

4月1日～翌年3月31日

鹿児島大学臨床教授委託

昇卓夫・松永俊二・西澤輝彦・白濱浩・濱之上雅博・米田敏・田代幸恵・長堂竜維

鹿児島大学臨床准教授委託 川島寿史

6月27日	鹿児島県赤十字血液センター献血	37名
10月19日	産科退院患者による「おぎゃー献金」を日母おぎゃー献金基金へ献金	19,301円
11月29日	鹿児島県赤十字血液センター献血	16名
12月22日	NHK 歳末たすけあい募金	85,616円募金

21. 表彰

11月3日	瑞宝中綬章受章	病理診断科 佐藤榮一
12月10日	第64回鹿児島県発明くふう展 鹿児島県知事賞	集中治療室

